

医療介護総合確保促進法に基づく 広島県計画

**令和6年1月
広島県**

1. 計画の基本的事項

(1) 計画の基本的な考え方

急速に高齢化が進む中、2025年（令和7年）には、いわゆる「団塊の世代」が全て75歳以上となる超高齢社会を迎える。こうした中で、県民一人ひとりが、医療や介護が必要な状態となっても、できる限り住み慣れた地域で安心して生活を継続し、その地域で人生の最期を迎えることができる環境を整備することは喫緊の課題である。

こうした中、医療ニーズの増加に対応して、患者の病状に応じて適切な医療を将来にわたって持続的に受けられるようにするためには、医療機能の分化及び連携を進めていく必要があるが、患者の視点に立てば、急性期の医療から在宅医療・介護での一連のサービスが適切に確保され、さらに、救急医療や居宅等で容体が急変した場合の緊急患者の受入れ等の適切な医療提供体制が確保される等、ニーズに合った医療・介護サービスが地域で適切に提供されるようにする必要がある。こういった体制整備は、地域包括ケアシステムの構築にとっても不可欠である。

このように、「効率的かつ質の高い医療体制の構築」と「地域包括ケアシステムの構築」は、地域において医療及び介護を総合的に確保していくために「車の両輪」として進めていく必要がある。

また、医療及び介護は対人サービスであり、医療及び介護の提供体制の整備には、質の高い人材を継続的に確保していくことが不可欠であり、人材の育成、就業の促進、勤務環境の改善等、質の高い人材の確保に関する取組を進めることが重要である。

さらに、急速に少子高齢化が進む中、医療及び介護の提供体制を支えるためには、限りある医療・介護資源を効率的かつ効果的に活用していく必要があり、そのためには病床の機能の分化及び連携並びに医療と介護の連携を進めていくことが重要である。

令和5年度においては、平成28年3月に策定した「広島県地域医療構想」を踏まえ、同構想の基本理念である「身近な地域で質の高い医療・介護サービスを受け、住み慣れた地域で暮らし続けることができる広島県の実現」に取り組むこととしている。

そのため、2025年（令和7年）を見据え、医療と介護で連携し、地域における医療・介護サービスの提供体制改革を推進するため、「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」（平成元年法第64号）第4条第1項の規定に基づき、広島県計画を策定する。

(2) 都道府県医療介護総合確保区域の設定

広島県における医療介護総合確保区域については、広島（広島市、安芸高田市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸太田町、北広島町）、広島西（大竹市、廿日市市）、呉（呉市、江田島市）、広島中央（竹原市、東広島市、大崎上島町）、尾三（三原市、尾道市、世羅町）、福山・府中（福山市、府中市、神石高原町）、備北（三次市、庄原市）の7地域とする。

☒ 2次医療圏及び老人福祉圏域と同じ

☐ 2次医療圏及び老人福祉圏域と異なる

（異なる理由：

）

(3) 計画の目標の設定等**■広島県全体****1. 目標**

広島県においては、それぞれの医療介護総合確保区域において、限りある医療・介護資源を効果的に活用して、急性期医療から在宅医療・介護まで一連のサービスが適切に提供されるよう、効率的かつ質の高い医療提供体制と地域包括ケア体制の構築を図り、高齢者が地域において、安心して生活できるよう以下を目標に設定する。

**① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標、
地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更にに関する目標**

限られた医療・介護資源を活用した地域にふさわしいバランスのとれた医療・介護提供体制を構築するには、医療機能別の需要に応じた病床数を確保する必要があることから、「広島県地域医療構想」を踏まえ、病床機能の転換等医療機関の自主的な取組を促進する。

また、患者の状態に合わせた在宅医療への移行を円滑に進めるため、ICTを活用した地域医療情報ネットワークの構築を図る。

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R4)	目標値 (R7)
高度急性期	4,464 床	2,989 床
急性期	10,875 床	9,118 床
回復期	6,342 床	9,747 床
慢性期	7,738 床	6,760 床以上

② 居宅等における医療の提供に関する目標

在宅医療に取り組む医師を確保することにより、地域包括ケアシステムを強化する。

【定量的な目標値】

- ・地域包括ケアシステムが構築されている日常生活圏域数
R1 : 125 圏域→R2 : 125 圏域

③ 介護施設等の整備に関する目標

介護施設等の整備を支援することで、高齢者ができる限り住み慣れた地域で安心して生活できる基盤づくりを推進する。

令和5年度においては、第8期介護保険事業支援計画等に位置付けている地域密着型サービス施設等の整備を行う。

【定量的な目標値】

- ・地域密着型サービス延利用者数 H29 : 19,848 人→R5 : 23,702 人

④ 医療従事者の確保に関する目標

公益財団法人広島県地域保健医療推進機構を中心に、大学、医師会、県、市町等が一体となって医療従事者の確保を推進する。

【定量的な目標値】

- ・ 県内医療施設従事医師数（人口 10 万人対） H30 : 258.6 人→R4 : 264.6 人以上
- ・ 過疎地域の医療施設従事医師数（人口 10 万人対）
H30 : 195.1 人→R4 : 206.1 人以上
- ・ 県内小児科医師数（小児人口 10 万人対）
H30 : 101.2 人→ 全国平均値（参考値 : 108.6 人（H30））まで増加
- ・ 県内地域医療に携わる女性医師数 H30 : 1,460 人→R2 : 1,601 人（現時点未確定）
- ・ 手当支給施設の産科・産婦人科医師数 H30 : 278 人→現状値を維持
- ・ 分娩 1000 件当たりの分娩取扱医療機関勤務産婦人科医師数
H30 : 14.24 人→現状値を維持
- ・ 医療施設従事看護職員数 H30 : 43,634 人→R5 : 45,276 人
- ・ 救急搬送人員に占める軽症患者の割合（18 歳未満）
H30 : 67.8%→R4 : 67.4%以下

⑤ 介護従事者の確保に関する目標

令和 7 年には、4,512 人の介護職員の受給ギャップが生じると推計されており、必要となる介護職員の不足を解消するため、介護・看護従事者及び介護支援専門員等のスキルアップを図ることにより、介護従事者等のモチベーションを向上させるなど、人材の育成・定着を促進する。

【定量的な目標値】

- ・ 介護職員の離職者のうち 3 年未満職員の割合 H28 : 64.6%→R5 : 56.0%以下
- ・ ~~認知症入院患者の入院後 1 年時点の退院率 H26 : 67.9%→R2 : 71.3%~~

⑥ 勤務医の労働時間短縮に向けた体制の整備に関する目標

令和 6 年 4 月からの医師に対する時間外労働の上限規制の適用開始までの間に、地域での医療提供体制を確保しつつ、医師の労働時間短縮を推進する。

【目標値】

- ・ 事業実施医療機関の月の時間外・休日労働時間が 80 時間超の医師数の対前年度比減少

2. 計画期間

令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日

■広島

1. 目標

広島区域では、在宅医療提供体制の整備や在宅医療に関する人材育成が課題となっていることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標、
地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R4)	目標値 (R7)
高度急性期	2,612 床	1,585 床
急性期	4,399 床	4,242 床
回復期	2,603 床	4,506 床
慢性期	2,654 床	2,730 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・整備助成
 - 認知症グループホーム 整備数1か所 (H27 加速化分)
 - 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 整備数1か所 (H27 加速化分)
 - 看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数3か所 (H27 加速化分)
- ・開設準備
 - 開設、増床、再開 (改築) 時必要経費 整備数14か所 (H27 加速化分)
 - 大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数23か所 (H27 加速化分・R5 積立分)
- ・定期借地権設定のための一時金の支援 整備数1か所 (H27 加速化分)
- ・共生型サービス事業所整備 整備数2か所 (R5 積立分)
- ・看取り環境整備 整備数1か所 (R5 積立分)
- ・簡易陰圧装置設置 整備数6か所 (R5 積立分)
- ・ゾーニング環境整備 整備数1か所 (R5 積立分)
- ・多床室の個室化 整備数1か所 (H29 積立分)
- ・介護職員の宿舍整備 整備数1か所 (H27 加速化分)

2. 計画期間

令和5年4月1日～令和6年3月31日

■広島西

1. 目標

広島西区域では、「地域包括支援センター」やケアマネジャーを中心とした介護・福祉関係者と一体となった支援を行い、退院から日常の療養・急変時の対応が包括的・継続的に行われ、患者が望む場所での看取りができる体制整備が課題となっていることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標、
地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和 7 年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R4)	目標値 (R7)
高度急性期	270 床	156 床
急性期	509 床	410 床
回復期	185 床	515 床
慢性期	972 床	478 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・整備助成
定期巡回・随時対応型訪問介護看護 整備数 1 か所 (H27 加速化分)
- ・開設準備
開設, 増床, 再開 (改築) 時必要経費 整備数 1 か所 (R 5 積立分)
大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT 導入支援 整備数 3 か所 (H27 加速化分)
- ・簡易陰圧装置設置 整備数 3 か所 (R 5 積立分)
- ・ゾーニング環境整備 整備数 1 か所 (R 5 積立分)

2. 計画期間

令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日

■呉

1. 目標

呉区域では, 救急医療をはじめとした医療提供体制の維持・確保や, 病院等における看護師等の医療従事者の確保に苦慮していることから, この課題を解決するため、以下を目標とする。

- ① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標,
地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和 7 年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R4)	目標値 (R7)
高度急性期	312 床	287 床
急性期	1,358 床	858 床
回復期	616 床	894 床
慢性期	866 床	751 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・整備助成

認知症グループホーム	整備数1か所（H27 加速化分）
・ 開設準備	
開設、増床、再開（改築）時必要経費	整備数1か所（R 5 積立分）
介護老人保健施設等への転換整備	整備数1か所（H29 積立分）
大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援	整備数4か所（H27 加速化分）
・ 簡易陰圧装置設置	整備数3か所（R 5 積立分）
・ ゴーニング環境整備	整備数3か所（R 5 積立分）
・ 介護職員の宿舎整備	整備数1か所（H27 加速化分）

2. 計画期間

令和5年4月1日～令和6年3月31日

■広島中央

1. 目標

広島中央区域では、医療を必要とする高齢者の大幅な増加が見込まれる中、急性期治療後、在宅に必要な医療が受けられるよう、医療・介護を担う人材の育成や、在宅医療連携の仕組みづくりの整備が必要であるという課題が存在していることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標、地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値（R4）	目標値（R7）
高度急性期	238 床	122 床
急性期	666 床	672 床
回復期	553 床	678 床
慢性期	867 床	669 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 整備助成
 - 地域密着型特別養護老人ホーム 整備数1か所（H27 加速化分）
 - 併設ショートステイ 整備数1か所（H27 加速化分）
 - 認知症グループホーム 整備数1か所（H27 加速化分）
 - 小規模多機能型居宅介護支援事業所 整備数1か所（H27 加速化分）
- ・ 開設準備
 - 開設、増床、再開（改築）時必要経費 整備数4か所（H27 加速化分）
 - 大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数8か所（H27 加速化分）
 - 介護予防拠点における防災意識啓発の取組支援 整備数50か所（H29 積立分）
- ・ 定期借地権設定のための一時金の支援 整備数1か所（H27 加速化分）
- ・ 看取り環境整備 整備数1か所（R 5 積立分）

- ・簡易陰圧装置設置 整備数1か所（R4積立分）
- ・ゾーニング環境整備 整備数1か所（R5積立分）
- ・介護職員の宿舎整備 整備数1か所（H27加速化分）

2. 計画期間

令和5年4月1日～令和6年3月31日

■尾三

1. 目標

尾三区域では、救急医療をはじめとした医療提供体制を充実させるとともに、在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院、在宅療養支援歯科診療所で、必要に応じて他の病院、診療所、薬局、訪問看護ステーション等と連携を図り、24時間の往診、訪問看護等を提供する体制を引き続き確保するため、以下を目標とする。

- ① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標、
地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値（R4）	目標値（R7）
高度急性期	353床	242床
急性期	1,200床	905床
回復期	848床	991床
慢性期	790床	726床以上

- ③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・開設準備
介護医療院への転換整備 整備数1か所（H27加速化分）
大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数3か所（H27加速化分）
- ・ユニット化改修
介護療養型医療施設の介護老人保健施設等への転換整備 整備数1か所
（H28・29・30積立分）
共生型サービス事業所整備 整備数1か所（R5積立分）
- ・簡易陰圧装置設置 整備数2か所（R5積立分）
- ・ゾーニング環境整備 整備数1か所（R5積立分）
- ・介護職員の宿舎整備 整備数1か所（H27加速化分）

2. 計画期間

令和5年4月1日～令和6年3月31日

■福山・府中

1. 目標

福山・府中区域では、診療所の訪問診療及び往診について、人口 10 万人当たりの実施件数が少なく、全国及び広島県平均と大きく隔たりがあるなど、在宅医療の充実が課題となっており、また、看護師の確保も課題となっていることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標、
地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和 7 年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R4)	目標値 (R7)
高度急性期	645 床	524 床
急性期	2,160 床	1,691 床
回復期	1,322 床	1,840 床
慢性期	883 床	976 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・整備助成
 - 地域密着型特養 整備数 3 か所 (H27 加速化分)
 - 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 整備数 1 か所 (H27 加速化分)
- ・開設準備
 - 開設、増床、再開 (改築) 時必要経費 整備数 6 か所 (H27 加速化分)
 - 大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT 導入支援 整備数 3 か所 (H27 加速化分)
- ・ユニット化改修
 - 介護医療院転換 整備数 1 か所 (H29 積立分)
 - 看取り環境整備 整備数 1 か所 (R 5 積立分)
- ・簡易陰圧装置設置 整備数 5 か所 (R 5 積立分)
- ・ゾーニング環境整備 整備数 6 か所 (R 5 積立分)
- ・多床室の個室化 整備数 2 か所 (H29 積立分、R 5 積立分)
- ・介護職員の宿舎整備 整備数 2 か所 (H27 加速化分)

④ 医療従事者の確保に関する目標

【定量的な目標値】

- ・福山・府中圏域の小児科医師数 (小児人口 10 万人対) H28 : 68.8 人 → R4 : 95.6 人

2. 計画期間

令和 5 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日

■備北

1. 目標

備北区域では、高齢化率が県内において最も高く、今後も医療を必要とする高齢者の増加が見込まれる中で、在宅医療提供体制の確立が求められていることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標、
地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R4)	目標値 (R7)
高度急性期	34 床	73 床
急性期	583 床	340 床
回復期	215 床	323 床
慢性期	706 床	430 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・開設準備
大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数7か所 (H27 加速化分)
- ・簡易陰圧装置設置 整備数1か所 (R5 積立分)
- ・ゾーニング環境整備 整備数1か所 (R5 積立分)
- ・介護職員の宿舎整備 整備数1か所 (H27 加速化分)

2. 計画期間

令和5年4月1日～令和6年3月31日

(注) 目標の設定に当たっては、医療計画、介護保険事業支援計画等を踏まえ、アウトプット・アウトカムに着目したできる限り定量的な視点による目標設定を行うこと。

(4) 目標の達成状況

別紙1「事後評価」のとおり。

2. 事業の評価方法

(1) 関係者からの意見聴取の方法

令和 3 年 9 月 29 日	広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
令和 3 年 11 月 30 日	広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
令和 4 年 1 月 31 日	広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
令和 4 年 10 月 20 日	広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
令和 4 年 11 月 30 日	広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
令和 5 年 1 月 30 日	広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
令和 6 年 1 月 30 日	広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取中

(2) 事後評価の方法

計画の事後評価に当たっては、広島県医療介護総合確保推進委員会等の意見を聴きながら評価を行い、必要に応じて見直しなどを行うなどにより、計画を推進していきます。
--

令和5年度地域医療介護総合確保基金(医療分)個別事業調書

<事業区分I-1用>

(1) 事業の内容等

事業の区分	I-1 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業				標準事業例	5															
事業名	No	1	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 1,445,514千円																
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域																				
事業の実施主体	病院及び有床診療所																				
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日																				
背景にある医療・介護ニーズ	地域医療構想の実現に向けて、医療機関における病床機能分化の自主的な取組を推進する必要がある。																				
	アウトカム指標	<p>・令和5年度事業に係る補助金活用を予定する医療機関の病床機能ごとの病床数(合計)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>病床機能報告 (R4.7.1時点)</th><th>整備計画 (R5)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高度急性期</td><td>141床</td><td>232床</td></tr> <tr> <td>急性期</td><td>678床</td><td>1,312床</td></tr> <tr> <td>回復期</td><td>148床</td><td>545床</td></tr> <tr> <td>慢性期</td><td>54床</td><td>152床</td></tr> </tbody> </table> <p><参考></p> <ul style="list-style-type: none"> ・回復期病床8,254床(令和5年度末) ・令和5年度に基金を活用して不足している回復期病床への転換を推進するとともに、その他の医療機能(高度急性期・急性期・慢性期)の事業縮小を進める。 ・複数年に渡る事業を含む。 					区分	病床機能報告 (R4.7.1時点)	整備計画 (R5)	高度急性期	141床	232床	急性期	678床	1,312床	回復期	148床	545床	慢性期	54床	152床
区分	病床機能報告 (R4.7.1時点)	整備計画 (R5)																			
高度急性期	141床	232床																			
急性期	678床	1,312床																			
回復期	148床	545床																			
慢性期	54床	152床																			
事業の内容	<p>・回復期病床への転換に係る施設・設備整備や、医療機能の事業縮小、複数の医療機関間の連携による病床再編事業に対して補助を行う。(令和5年度事業は過年度積立金を取り崩して実施)</p> <p>・各圏域の医療需要にもとづく具体的な医療機能の分化・連携に取り組む医療機関に対し、総合的な支援を行うとともに、再編等に伴う経営的な視点での助言を行う。</p> <p>・全国トップレベルの高度医療機能や、専門人材の育成機能などを有する新たな拠点の整備に向けて、広島都市圏を中心とした関係医療機関との医療機能の分化・連携に向けた協議を行うなど、基本構想の実現に向けた取組を実施する。(令和5年度事業は過年度積立金を取り崩して実施)</p> <p>・地域医療構想の実現に向けた議論の加速化や、県内の医療資源の適正な配置を検討していくため、医療・介護・保健情報を活用した分析を実施する。</p>																				

アウトプット指標	対象医療機関数 13 施設						
アウトカムとアウトプットの関連	病床機能の再編整備を支援することにより，限られた医療資源の効率的な活用と適切な医療サービスの提供を図ることができる。						
地域医療構想の関係性及びスケジュール（注 1）							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 （A＋B＋C）		（千円） 2,926 (1,445,514)	基金充当額 （国費） における 公民の別 （注 2）	公	（千円） 1,950
		基金	国（A）	（千円） 1,950		民	（千円） うち受託事業等 （再掲）（注 3） （千円）
			都道府県 （B）	（千円） 976			
			計（A＋B）	（千円） 2,926			
			その他（C）	（千円） 1,442,588			
		備考（注 4）		その他（C）は過年度充当額 1,411,850 千円＋その他 30,738 千円			

（注 1）区分 I-1 の標準業例 5 「病床の機能分化・連携推進のための基盤整備」かつ医療機関支援に係るソフト事業の場合のみ記載すること。

（注 2）事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

（注 3）施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額（国費）における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注 4）備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分		I-1 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業				標準事業例	1
事業名		No	2	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 95,911 千円	
		ひろしま医療情報ネットワーク整備事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域		県内全区域					
事業の実施主体		一般社団法人 広島県医師会					
事業の期間		令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ		地域医療構想に基づいた病床機能の分化・連携を進めるとともに、在宅医療への移行を円滑に進める必要がある。					
	アウトカム指標	ICTを活用した医療情報ネットワークの構築 R4年度：開示病院 41 機関 ⇒ R5年度：開示病院 46 機関					
事業の内容		HMネット参加医療機関の初期整備を実施する。					
アウトプット指標		HMネット参加医療機関数 〔令和5年度〕開示病院 46 機関 参照医療機関 443 機関					
アウトカムとアウトプットの関連		参加医療機関数を増加させることにより、医療情報ネットワークの構築・拡大が進み、更なる医療情報の連携が図られることで、HMネットは病床機能の分化と連携を推進するための有用なツールとなる。					
地域医療構想の関係性及びスケジュール(注1)							
事業に要する費用の額		金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注2)	(千円)
		基金	国(A)	(千円)		民	(千円)
			都道府県(B)	(千円)			39,514
			計(A+B)	(千円)			19,757
			その他(C)	36,640(千円)			うち受託事業等 (再掲)(注3) (千円) 39,514
備考(注4)		その他(C)は過年度充当額					

(注1) 区分I-1の標準事業例5「病床の機能分化・連携推進のための基盤整備」かつ医療機関支援に係るソフト事業の場合のみ記載すること。

(注2) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注3) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注4) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

令和 5 年度地域医療介護総合確保基金(医療分) 個別事業調書

<事業区分 I-2 用>

(1) 事業の内容等

事業の区分	I-2 地域医療構想の達成に向けた病床数又は病床の機能の変更に関する事業				標準事業例	
事業名	No	3	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 102,372 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	広島, 尾三					
事業の実施主体	広島県内の医療機関					
事業の期間	令和 5 年 4 月 1 日 ~ 令和 6 年 3 月 31 日					
背景にある医療・介護ニーズ	中長期的な人口減少・高齢化の進行を見据えつつ、今般の新型コロナウイルス感染症への対応により顕在化した地域医療の課題への対応を含め、地域の実情に応じた質の高い効率的な医療提供体制の構築が必要					
	アウトカム指標	令和 5 年度基金を活用して再編を行う医療機関及び病床機能毎の病床数(許可病床数) 急性期病床 ▲53 床 慢性期病床 ▲11 床				
事業の内容	医療機関が、地域の関係者間の合意の上、地域医療構想に即した病床機能再編の実施に伴い、減少する病床数に応じた給付金を支給する。					
アウトプット指標	対象となる医療機関数 2 医療機関					
アウトカムとアウトプットの関連	地域医療構想調整会議等の合意を踏まえ自主的に病床数を減少する医療機関に対し財政支援することにより、地域医療構想の実現に向けた取組の促進を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B)	(千円) 102,372	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注 1)	公	(千円)
		基金 国 (A)	(千円) 102,372		民	(千円) 102,372
		その他 (B)	(千円)			
備考 (注 2)						

(注 1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注 2) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

令和 5 年度地域医療介護総合確保基金 (医療分) 個別事業調書

<事業区分Ⅱ、Ⅳ、Ⅵ用>

(1) 事業の内容等

事業の区分		Ⅱ 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	7
事業名		No	4	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 17,008 千円	
		ひろしまDMステーション発・遠隔デリバリー医療事業					
事業の対象となる医療 介護総合確保区域		全区域					
事業の実施主体		広島大学					
事業の期間		令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ		県内の中山間地域など、糖尿病診療拠点・中核病院が存在しない地域（以下「不在地域」という。）においては、糖尿病専門医や糖尿病療養指導のための医療スタッフがおらず、地域医療連携やチーム医療体制を構築することが困難な場合がある。このような不在地域への「人」の派遣や「人に代わる手段・ツール」の導入により、糖尿病診療を補完し療養指導を向上させ、県全域の糖尿病医療を均一化して糖尿病の重症化や合併症の発症を予防する必要がある。					
	アウトカム 指標	・新規人工透析患者数（人口10万人） 広島県 41.1（H27）⇒37.0（R3）⇒35.6（R5） ・糖尿病による死亡率 広島県 全国 15 位（H29）⇒14 位以内（R3）⇒10 位以内（R5）					
事業の内容		<p>(1) 遠隔医療</p> <p>R 元年度に構築した ICT を活用した遠隔介入システムの操作性・汎用性を高め、より多くの医療機関に参加してもらえよう、システムの改良を行う。さらに、患者のスマホからのデータに加え、新たな IoT としてウェアラブル端末を導入し、患者のスマホ以外にも様々な身体情報を獲得する選択肢を増やす。</p> <p>AI 構築のためのデータ集積を継続し、将来的には AI が患者個別に最適な生活習慣改善プログラムを作成することを目指す。</p> <p>(2) デリバリー医療</p> <p>糖尿病医療過疎地域に多い高齢の糖尿病患者に食事療法や運動療法を提供するため、ひろしま DM ステーションの医療スタッフに加え、広島県栄養士会から管理栄養士を、広島県理学療法士会から理学療法士を派遣する仕組みを構築し、デリバリー医療の拡充を行う。</p>					
アウトプット指標		・IoT や ICT を活用した遠隔医療による医療連携への参加 令和4年度：6施設以上 患者 30 名 令和5年度：6施設以上 患者 30 名以上 ・患者個別の生活習慣改善プログラムを作成可能な AI の開発					

(様式 3 : 広島県)

アウトカムとアウトプットの関連	不在地域への「ひろしまDMステーション」による遠隔医療，デリバリー医療を通じて，県全域の糖尿病医療レベルの補完・向上につながり，糖尿病の重症化や合併症の発症を予防することができる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A + B + C)		(千円) 17,008	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円) 11,338
		基金	国 (A)	(千円) 11,338		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円) 5,670			うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
			計 (A + B)	(千円) 17,008			
			その他 (C)				
		備考 (注3)					

(注 1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注 2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額（国費）における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注 3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	Ⅱ 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	8	
事業名	No	5	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 7,605 千円		
	心不全患者包括ケアネットワーク連携支援事業						
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域						
事業の実施主体	広島大学病院心不全センター，地域心臓いきいきセンター（安佐市民病院，広島総合病院，中国労災病院，東広島医療センター，尾道総合病院，福山市民病院，三次地区医療センター）						
事業の期間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日						
背景にある医療・介護ニ ーズ	在宅支援体制に，新たに回復期を担う病院を加え，急性期病院から在宅支援施設まで有機的かつ効率的に連携できる体制を構築することで，増加が見込まれる心不全患者が退院後も安心して在宅療養を行える環境を整備し，生活の質を向上させる。						
	アウトカム 指標	<ul style="list-style-type: none"> ・虚血性心疾患退院患者平均在院日数 6.0 日 (H26)→5.8 日 (R5) ・在宅等生活の場に復帰した患者の割合 95.5% (H26)→96.6% (R5) 					
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各圏域の地域心臓いきいきセンター（急性期病院）と回復期を担う病院との連携体制の構築 ・在宅支援施設に対するフォローアップ支援の実施（症例検討会や研修会の実施） 						
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・回復期を担う連携病院数 0 施設 (R3) → 16 施設（2 施設×8 圏域）(R4) → 24 施設（3 施設×8 圏域）(R5) ・心臓リハビリテーション指導士の認定者数 準備 (R3) → 8 名（1 名×8 圏域）(R4) → 16 名（2 名×8 圏域）(R5) ・心不全療養指導士の認定者数 準備 (R3) → 24 名（3 名×8 圏域）(R4) → 32 名（4 名×8 圏域）(R5) 						
アウトカムとアウトプ ットの関連	急性期と回復期の病院，さらに在宅医療までの連携体制を構築するとともに，在宅生活を支える医療・介護の各専門職が心不全の専門的知見をもって患者の在宅支援を行うことで，患者が退院しても在宅等の生活の場で療養継続できる環境を確保する。						
事業に要する費用の額	金 額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 7,605	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円) 5,070
		基 金	国 (A)	(千円) 5,070		民	(千円) うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
			都道府県 (B)	(千円) 2,535			
			計 (A+B)	(千円) 7,605			
		その他 (C)		(千円) 15,210			

備考（注 3）	
---------	--

（注 1）事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

（注 2）施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額（国費）における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注 3）備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	Ⅱ 在宅医療・介護サービスの充実のために必要な事業				標準事業例	19
事業名	No	6	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 8,292 千円	
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	かわもと歯科・こども歯科クリニック 他 14 歯科医療機関					
事業の期間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日					
背景にある医療・介護ニ ーズ	高齢化の進展に伴い、在宅で療養生活を送る高齢者が増加し、在宅医療のニーズも増加が見込まれているため、在宅歯科診療等の専門的な機能を有した歯科医療機関を増加させる必要がある。					
	アウトカム 指標	訪問口腔衛生指導を実施している診療所・病院数 298 施設（令和元年度）→370 施設（令和5年度）				
事業の内容	在宅療養者への口腔ケア及び在宅介護者への歯科口腔保健指導に必要な歯科医療機器等の設備整備に対して補助する。					
アウトプット指標	整備歯科医療機関数 15 施設					
アウトカムとアウトプ ットの関連	在宅療養者への口腔ケア及び在宅介護者への歯科口腔保健指導を実施する歯科医療機関を補助することで、在宅における口腔ケア等の実施件数の増加及び質の向上を図り、訪問口腔衛生指導等を実施する歯科医療機関数の増加に繋げる。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 8,292	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
	基金	国 (A)	(千円) 5,148		民	(千円) 5,148
		都道府県 (B)	(千円) 2,574			
		計 (A+B)	(千円) 7,722			うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
		その他 (C)	(千円) 570			
備考 (注3)						

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額（国費）における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	Ⅱ 在宅医療・介護サービスの充実のために必要な事業				標準事業例	33
事業名	No	7	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 125 千円	
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	一般社団法人広島県歯科医師会					
事業の期間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日					
背景にある医療・介護ニ ーズ	<p>高齢化に伴い、介護予防等のための口腔ケアや在宅歯科医療における口腔ケアの需要が増加する中で、歯科衛生士の役割は今後ますます大きくなると考えられる。</p> <p>一方、訪問歯科診療の実施には、一歯科診療所に歯科衛生士が複数配置されることが望ましいと言われているが、中山間地域などにおいては、平均1.5人未満と少ない市町が多くある。</p> <p>こうした地域では、訪問口腔ケアや訪問口腔衛生指導等の実施が困難となっている。</p>					
	アウトカム 指標	訪問口腔衛生指導を実施している診療所・病院数 298 施設（令和元年度）→370 施設（令和5年度）				
事業の内容	修学支援金を歯科衛生士養成校の学生に貸与し、返済を免除する代わりに、一定期間は就業歯科衛生士が不足している市町の歯科診療所に勤務する条件を課すことで、中山間地域等における就業歯科衛生士を確保し、訪問歯科診療などの歯科医療提供の充実を図る。					
アウトプット指標	中山間地域への就業数 のべ7名					
アウトカムとアウトプ ットの関連	中山間地域等における就業歯科衛生士を確保することで、当該地域において訪問口腔ケアや訪問口腔衛生指導を実施する歯科医療機関数の増加に繋げる。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 125	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
	基金	国 (A)	(千円) 83		民	(千円) 83
		都道府県 (B)	(千円) 42			
		計 (A+B)	(千円) 125			うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
		その他 (C)	(千円) 0			
備考 (注3)						

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額（国費）における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	Ⅱ 在宅医療・介護サービスの充実のために必要な事業				標準事業例	7
事業名	No	8	新規事業／継続事業	新規	【総事業費 (計画期間の総額)】 24,000 千円	
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	一般社団法人 広島県医師会					
事業の期間	令和 5 年 4 月 1 日 ～ 令和 6 年 3 月 31 日					
背景にある医療・介護ニ ーズ	地域包括ケアシステムの構築や、在宅医療体制の充実、かかりつけ医の普及等を円滑に進めるためには、医療機関間や多職種での効率的な情報連携を促進する必要がある。					
	アウトカム 指標	I C Tを活用した医療情報ネットワークの構築 R4 年度：参加医療機関数 469・介護機関数 297 機関 ⇒ R5 年度：参加医療機関数 489 機関・介護機関数 320 機関				
事業の内容	地域包括ケアシステムの構築や、地域における在宅医療体制の充実、かかりつけ医の普及を図るため、医師・多職種間の連携を円滑に進めるアプリ及びアプリに連携した地域医療情報ネットワークを活用した地域の医療・介護関係者間の情報連携を推進する取組を支援する。					
アウトプット指標	HMネット参加医療・介護機関数 〔令和 5 年度〕 参加照医療機関 489 機関 参加照介護機関 320 機関					
アウトカムとアウトプ ットの関連	参加医療・介護機関数を増加させることにより、医療情報ネットワークの構築・拡大が進み、更なる医療情報の連携さらには、医療と介護の連携が図られることで、HMネットは在宅医療・介護サービスの充実やかかりつけ医と介護サービスの連携を推進するための有用なツールとなる。					
事業に要する費用の額	金 額	総事業費 (A + B + C)	(千円) 24,000	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注 1)	公	(千円)
		国 (A)	(千円) 16,000			
	基 金	都道府県 (B)	(千円) 8,000		民	(千円) 16,000
		計 (A + B)	(千円) 24,000			うち受託事業等 (再掲) (注 2)
		その他 (C)	(千円)			(千円) 16,000
備考 (注 3)						

(注 1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注 2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額 (国費) における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注 3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	25	
事業名	No	9	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 117,795 千円		
	地域医療支援センター運営事業						
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域						
事業の実施主体	広島県						
事業の期間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日						
背景にある医療・介護ニ ーズ	県内では、若手医師の減少、医師の地域・診療科偏在、医療需要増加による医師不足が懸念されており、地域医療体制の維持を図るために人材育成や医師確保対策、医師の配置調整を行う必要がある。						
	アウトカム 指標	医師確保計画と連動しており、R5年度の計画改定後に確定します。また、当該指標は隔年の統計調査を基にしており、調査未実施年があるため、次の代替的指標を設定します。 【代替的指標】ふるさとドクターネット広島登録者数 (R1) 2,907 人⇒ (R5) 3,137 人					
事業の内容	○医師確保や地域医療の支援に係る事業を行う ①地域医療に携わる医師の確保 臨床研修病院の支援、地域枠医学生等を対象とした「地域医療セミナー」開催、県外医師・女性医師・ベテラン医師の就業支援、奨学金貸与医師・自治医大卒医師の配置調整 等 ②地域医療の環境整備 若手医師の研修研鑽支援 等 ③情報収集・情報発信 「ふるさとドクターネット広島」による県内外医師への情報発信 等 ④その他人件費、事務費等						
アウトプット指標	・医師の派遣・斡旋 県内外からの就業斡旋数：5人以上 ・地域枠卒業医師のキャリア形成プログラム参加割合：9割以上 ・初期臨床研修医確保（マッチング）数：181人						
アウトカムとアウトプ ットの関連	県内の医療施設従事医師数が増加する最大の要因は、県内で新たに医師として業務を始める初期臨床研修医の増加数であるため、この指標を選択した。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A + B + C)		(千円) 117,795	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)	(千円) 57,208		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円) 28,604			57,208
			計 (A + B)	(千円) 85,812			うち受託事業等 (再掲) (注2)

(様式 3 : 広島県)

		その他 (C)	(千円) 31,983			(千円) 57,208
備考 (注 3)						

(注 1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注 2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額 (国費) における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注 3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	28
事業名	No	10	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 73,835 千円	
	産科医等確保支援事業					
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	土谷総合病院 他					
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日					
背景にある医療・介護 ニーズ	過酷な勤務環境にある産科・産婦人科医師等が減少している現状に鑑み、産科医療機関が支給している分娩手当や、後期臨床研修医に支給する手当に対し助成することで、地域でお産を支える産科医等の処遇を改善し、将来の産科医療を担う医師の育成・確保を図るとともに、地域の周産期を支援する。					
	アウトカム 指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手当支給施設の産科・産婦人科医師数 370 人 (R3) → 現状値を維持 ・ 分娩 1000 件当たりの分娩取扱医療機関勤務産婦人科医師数 (※) 19.99 人 (R3) → 現状値を維持 ※支給分娩取扱医療機関勤務産婦人科医師数 手当支給者数 370 人／支給分娩取扱件数 18,513 件 (R3) 分娩取扱医療機関勤務産婦人科医師数についての正確なデータがないため、 H30 支給対象医療機関の実績をもとに作成している。 				
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周産期母子医療センターや民間の分娩取扱期間の産科医・助産師に対して、分娩手当の一部を補助 ・ 臨床研修終了後の専門的な研修において、産科を選択する医師に対し、後期臨床研修医手当を支給する医療機関に手当の一部を補助 ・ 診療報酬の対象となる NICU の新生児担当医に新生児医療手当を支給する医療機関に対し、手当の一部を補助 					
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手当支給者数 370 人 (R3) → 現状値を維持 ・ 手当支給施設数 45 施設 (R2) → 42 施設 (R4) 					
アウトカムとアウトプットの関連	産科医等に対する分娩手当等を補助することにより、産科医等の処遇改善を図り、地域の周産期医療体制の維持につなげる。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 73,835	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円) 15,761
	基金	国 (A)	(千円) 49,223		民	(千円) 33,462 うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
		都道府県 (B)	(千円) 24,612			
		計 (A+B)	(千円) 73,835			
	その他 (C)	(千円)				
備考 (注3)						

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	32
事業名	No	11	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】	
	女性医師等就労環境整備事業				50,871 千円	
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	医療機関					
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日					
背景にある医療・介護ニ ーズ	女性医師の復職支援や離職防止策を強化することにより、将来的な医師不足の解消を図ることができる。					
	アウトカム 指標	(R2) 1,601 人 (R4) 未確定→R5 目標 1,601 人以上				
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・女性医師等短時間正規雇用導入支援事業 女性医師等の離職防止・復職支援のため、短時間正規雇用制度を医療機関が導入し、短時間正規雇用の勤務形態により女性医師等を雇用。 ・ベビーシッター等活用支援事業 ベビーシッターやファミリーサポートセンター等を活用した女性医師等に対し、その経費の一部を助成（保育所除く）する。 ・宿直等代替職員活用支援事業 育児・介護中の女性医師等の宿直・休日勤務を免除し、当該医師の代わりに非常勤勤務医師を宿直勤務させる。 ・復職研修支援事業 育児のために離職し、再就業に不安を抱える女性医師等を対象として、指導医のもとで復職研修受入を行う。 ・保育サポーターバンク事業 女性医師等の育児による離職防止のため、急な呼び出し時の預かり等医師特有のニーズに対応可能な保育サポーターを確保し、派遣する。 					
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・女性医師短時間正規雇用導入支援事業：申請医療機関数 26 機関 ・宿直代替職員活用支援事業：申請医療機関数 23 機関 ・保育サポーターバンク事業：1 機関 					
アウトカムとアウトプ ットの関連	女性医師等の離職防止及び短時間正規雇用を促進することで、女性医師等の安定的確保につなげる。					
事業に要する費用の額	金 額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 50,871	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円) 33,914
	基 金	国 (A)	(千円) 33,914		民	(千円)
		都道府県 (B)	(千円) 16,957			
		計 (A+B)	(千円) 50,871			
		その他 (C)	(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)

備考（注 3）	
---------	--

（注 1）事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

（注 2）施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額（国費）における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注 3）備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	52
事業名	No	12	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 177,851 千円	
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	医療機関					
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日					
背景にある医療・介護ニ ーズ	休日・夜間の病院への軽症小児患者が集中すること等から、小児科医等の負担が増大しており、適切な小児救急医療体制の確保を図ることが困難な状況がある。					
	アウトカム 指標	小児死亡率（小児人口千人対） 現状値（H29-R3の5年間平均）0.19 [全国：0.19] → 全国平均値以下（直近5年間平均）				
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休日・夜間の当番日に小児科医が当直し、受入体制を確保することに対する補助 ・ 24時間体制で小児救急患者を受け入れる医療機関に補助 					
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小児救急医療支援事業：補助者数3市の維持 ・ 小児救急医療拠点病院運営事業：4機関の維持 					
アウトカムとアウトプ ットの関連	小児二次救急医療体制を確保することにより、小児科医師等の負担軽減を図り、小児科医師の確保を図る。					
事業に要する費用の額	金 額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 177,851	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円) 118,567
		国 (A)	(千円) 118,567			
	基 金	都道府県 (B)	(千円) 59,284		民	(千円)
		計 (A+B)	(千円) 177,851			うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
		その他 (C)	(千円)			
備考 (注3)						

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額（国費）における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	53
事業名	No	13	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 48,868 千円	
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	広島県					
事業の期間	令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日					
背景にある医療・介護ニ ーズ	救急搬送人員に占める軽症患者の割合（18 歳未満）が多く、小児科医の負担が増しており、適切な小児救急医療体制の確保を図る必要がある。					
	アウトカム 指標	救急搬送人員に占める軽症患者の割合（18 歳未満） 65.2%（R2）→ 65.2%以下（R5 見込み）				
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小児救急電話相談協議会の運営及び環境整備 ・小児救急電話相談事業の委託，システム保守 					
アウトプット指標	小児救急医療電話相談件数 21,000 件（R 5 見込）					
アウトカムとアウトプ ットの関連	休日・夜間の小児患者に関する電話相談窓口を設置し、適切に対応することによって、病院への軽症小児患者の集中を回避し、小児科医等の負担軽減と重症小児患者への救急医療の確保を図る。					
事業に要する費用の額	金 額	総事業費 (A + B + C)	(千円) 48,868	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注 1)	公	(千円) 23,427
		国 (A)	(千円) 23,427			
	基 金	都道府県 (B)	(千円) 11,713		民	(千円) 23,427
		計 (A + B)	(千円) 35,140			うち受託事業等 (再掲) (注 2)
		その他 (C)	(千円) 13,728			(千円) 23,427
備考 (注 3)						

(注 1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注 2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額（国費）における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注 3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分		Ⅳ 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	25	
事業名		No	14	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 312,000 千円		
		広島県医師育成奨学金貸付金						
事業の対象となる医療 介護総合確保区域		全区域						
事業の実施主体		広島県						
事業の期間		令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日						
背景にある医療・介護ニ ーズ		県内では、若手医師の減少、医師の地域・診療科偏在、医療需要増加による医師不足が懸念されており、地域医療体制の維持を図るために人材育成を行う必要がある。						
		アウトカム 指標	医師確保計画と連動しており、R5 年度の計画改定後に確定します。また、当該指標は隔年の統計調査を基にしており、調査未実施年があるため、次の代替的指標を設定します。 【代替的指標】ふるさとドクターネット広島登録者数 (R1) 2,907 人⇒(R5) 3,137 人					
事業の内容		医学部学生等に奨学金を貸与し、返済を免じる代わりに、一定期間以上を医師が不足する過疎地域（又は特定診療科）に勤務する条件を課すことで、地域医療に従事する医師を確保し、地域偏在等の解消を図る。						
アウトプット指標		・ 初期臨床研修医確保（マッチング）数：181 人 ・ 地域枠卒業医師のキャリア形成プログラムの策定数及び履行率：27 診療科（要件履行に係る任意猶予期間の者を除いた履行率：100%） ・ 貸与学生数（地域枠：114 名、一般募集：15 名）						
アウトカムとアウトプ ットの関連		本事業の効果は県内医療施設従事医師数の増加に直結するため、この指標をアウトカム指標とした。ただし、この指標は隔年の調査であり、また調査結果の公表に時間がかかるため、事業年度中の新規医師数の増加を測る指標として、当該年度中に判明する初期臨床研修医確保数（マッチング数）及び地域枠卒業医師の県内プログラムの策定・履行率をアウトプット指標として選択した。						
事業に要する費用の額		金額	総事業費 (A + B + C)		(千円) 312,000	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注 1)	公	(千円)
			基金	国 (A)	(千円) 136,000		民	(千円) 136,000
				都道府県 (B)	(千円) 68,000			うち受託事業等 (再掲) (注 2)
				計 (A + B)	(千円) 204,000			
				その他 (C)				(千円) 108,000

備考（注 3）	
---------	--

（注 1）事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

（注 2）施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額（国費）における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注 3）備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	26
事業名	No	15	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 40,000 千円	
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	広島大学					
事業の期間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日					
背景にある医療・介護ニ ーズ	地域医療構想に基づく病床機能の分化・連携を進めるための地域の受け皿として、居宅等で必要な医療が受けられる環境構築や、高齢化や過疎化の進展等による在宅医療ニーズの高まりに対応するため、地域における医療提供・連携体制の確保と、それを担う人材育成を進めていく必要がある。					
	アウトカム 指標	医師確保計画と連動しており、R5年度の計画改定後に確定します。また、当該指標は隔年の統計調査を基にしており、調査未実施年があるため、次の代替的指標を設定します。 【代替的指標】ふるさとドクターネット広島登録者数 (R1) 2,907人⇒(R5) 3,137人				
事業の内容	住み慣れた地域での在宅生活が維持され、必要な医療が受けられる体制構築と人材育成を推進するため、広島大学医学部に寄附講座を設置し、医療過疎地において特に求められる「総合医」の知識・技能を学ぶ機会を提供し、在宅医療等の医療ニーズに対応する医師の育成と資質向上・定着促進を図るとともに、診療応援を通じた在宅医療を担う医療機関への支援の実施や、患者家族を支える関係機関のネットワーク化を図る。					
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修医確保数（マッチング数：181人） ・広島大学医学部地域医療システム学講座の開講（R5.4～R6.3） 					
アウトカムとアウトプ ットの関連	本事業の効果は県内医療施設従事医師数の増加に直結するため、この指標をアウトカム指標とした。ただし、この指標は隔年の調査であり、また調査結果の公表に時間がかかるため、事業年度中の新規医師数の増加を測る指標として、当該年度中に判明する初期臨床研修医確保数（マッチング数）をアウトプット指標として選択した。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 40,000	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円) 26,667
	基金	国(A)	(千円) 26,667		民	(千円)
		都道府県 (B)	(千円) 13,333			
		計(A+B)	(千円) 40,000			
		その他(C)	(千円)			うち受託事業等 (再掲)(注2) (千円)

備考（注 3）	
---------	--

（注 1）事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

（注 2）施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額（国費）における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注 3）備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	26
事業名	No	16	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 10,405 千円	
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	<ul style="list-style-type: none"> ・地方独立行政法人広島市立病院機構（安佐市民病院） ・地域医療連携推進法人備北メディカルネットワーク（三次中央病院 外） ・福山市（福山市民病院） ・JA 尾道総合病院 					
事業の期間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日					
背景にある医療・介護ニ ーズ	医師が都市部に集中する地域偏在を解消し、過疎地域においても安心して必要な医療が受けられる医療提供体制の確保が必要。					
	アウトカム 指標	医師確保計画と連動しており、R5年度の計画改定後に確定します。また、当該指標は隔年の統計調査を基にしており、調査未実施年があるため、次の代替的指標を設定します。 【代替的指標】 ふるさとドクターネット広島登録者数 (R1) 2,907 人⇒ (R5) 3,137 人				
事業の内容	中核的なへき地医療拠点病院等を中心とした広域的ネットワークを形成し、過疎地域において勤務する医師への研鑽支援等による定着促進や医療提供体制の確保を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・医師の研修研鑽支援（研修機会提供、診療相談、代診医等派遣調整 等） ・支援環境・体制の整備（関係者会議の開催 等） 					
アウトプット指標	研鑽支援等への参加及び協力医師数（延数）900人以上					
アウトカムとアウトプ ットの関連	地域の医療従事者の参加・協力の下で、若手医師会等が研鑽・活躍できる環境や仕組みづくりを通じて、過疎地域で従事する医師の確保・定着を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A + B + C)	(千円) 10,405	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円) 4,323
		国 (A)	(千円) 6,936			
	基金	都道府県 (B)	(千円) 3,469		民	(千円) 2,613※
		計 (A + B)	(千円) 10,405			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)	(千円)			(千円)
備考 (注3)	※6,936 千円を按分					

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額（国費）における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(様式 3 : 広島県)

(注 3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	26
事業名	No	17	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 10,000 千円	
	県東部小児二次救急医療体制確保事業					
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	尾三、福山・府中					
事業の実施主体	岡山大学					
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日					
背景にある医療・介護ニ ーズ	小児科医師不足により県東部地域の小児二次救急医療提供体制の維持が困難となる恐れがあることから、寄付講座を設置することにより、地域的偏在の解消を図り、小児二次救急医療提供体制の確保を図る必要がある。					
	アウトカム 指標	医師確保計画と連動しており、R5年度の計画改定後に確定します。また、当該指標は隔年の統計調査を基にしており、調査未実施年があるため、次の代替的指標を設定します。 【代替的指標】ふるさとドクターネット広島登録者数 (R1) 2,907人⇒(R5) 3,137人				
事業の内容	小児科医師不足による県東部地域の小児二次救急医療提供体制の維持を図るため、岡山大学医学部に寄付講座を設置し、講座の教員が、拠点となる医療機関において地域医療研究を行いながら、診療現場に参画することで、小児二次救急医療提供体制を確保する。					
アウトプット指標	岡山大学医学部寄附講座の設置 (R5.4～R6.3)					
アウトカムとアウトプ ットの関連	寄付講座を設置し、福山・府中圏域の診療現場への参画や、医師養成を図ることにより、県東部地域での小児科勤務医師の確保を図る。					
事業に要する費用の額	金 額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 10,000	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円) 6,667
		国 (A)	(千円) 6,667			
	基 金	都道府県 (B)	(千円) 3,333		民	(千円)
		計 (A+B)	(千円) 10,000			うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
		その他 (C)	(千円)			
備考 (注3)						

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(様式 3 : 広島県)

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	
事業名	No	18	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 4,741 千円	
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	広島県					
事業の期間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日					
背景にある医療・介護ニ ーズ	高齢者の増加が見込まれる中、幅広い領域の疾患を総合的に診ることができ、患者が地域で生活するために必要な医療を提供することのできる総合診療医の確保が必要					
アウトカム 指標	総合診療専門研修プログラム 専攻医師数 5名 (令和5年度)					
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・若手医師等との意見交換会及び県内研修プログラム等を紹介するセミナーの開催 ・県内指導体制の充実に向けた指導医同士の意見交換会の開催や研修プログラム実施医療機関の指導環境の充実に向けた支援 					
アウトプット指標	・セミナー参加者数 50名					
アウトカムとアウトプ ットの関連	総合診療医の確保・育成が喫緊の課題となっているため、若手医師等へセミナーを開催することで、総合診療医に興味を持たせることやキャリアイメージを持たせ、また指導医の育成のための意見交換会等を行い、より効果的な総合診療医の確保につなげる。					
事業に要する費用の額	金 額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 4,741	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円) 3,160
	基 金	国 (A)	(千円) 3,160		民	(千円)
		都道府県 (B)	(千円) 1,581			
		計 (A+B)	(千円) 4,741			うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
		その他 (C)	(千円)			
備考 (注3)						

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	36
事業名	No	19	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 16,058 千円	
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	広島県					
事業の期間	令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日					
背景にある医療・介護ニ ーズ	患者ニーズの多様化やチーム医療の推進、在宅医療への転換、新興感染症 の発生に伴い、高度な専門知識と技術を持った看護師が必要とされている。					
	アウトカム 指標	・ 特定行為研修修了者 (R4) 75 人→ (R5) 100 人 ・ 認定看護師数 (R4) 590 人→ (R5) R4 より増加する。				
事業の内容	看護職員の資質向上を図るため、県内の病院等に対して、特定行為研修受 講及び認定看護師教育機関への派遣に対する支援を行うとともに、特定行 為研修制度の普及を促進する。また、専門家のいない中小病院や福祉施設 に対し、感染管理認定看護師等を派遣し、感染症対応力向上のための研修 を実施する。					
アウトプット指標	・ 特定行為研修機関・認定看護師教育機関派遣支援事業 受講料助成 28 人、代替職員人件費助成 8 人 ・ 感染症対応力向上事業 7 圏域での研修会の実施					
アウトカムとアウトプ ットの関連	県内の病院等における認定看護師数及び特定行為研修を受講した看護師 数が増加することにより、これらの看護師が中心となって地域の指導的役 割を担い、質の高い看護を提供することが可能となる。 感染症対策の観点からも、専門的な看護師の活動の場を提供することで、 地域での感染症対応力の向上を図ることが可能となる。					
事業に要する費用の額	金 額	総事業費 (A + B + C)	(千円) 16,058	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注 1)	公	(千円) 363
		国 (A)	(千円) 10,705			
	基 金	都道府県 (B)	(千円) 5,353		民	(千円) 10,342
		計 (A + B)	(千円) 16,058			うち受託事業等 (再掲) (注 2)
		その他 (C)	(千円)			(千円) 1,703
備考 (注 3)						

(注 1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注 2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額 (国費) における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注 3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分		IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	41
事業名		No	20	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 58,601 千円	
		ナースセンター事業					
事業の対象となる医療 介護総合確保区域		全区域					
事業の実施主体		広島県					
事業の期間		令和5年4月1日～令和6年3月31日					
背景にある医療・介護ニ ーズ		今後増加が見込まれる医療ニーズに対応するには、潜在看護職員の再就業を促進する必要がある。					
	アウトカム 指標	ナースセンターにおける再就業者数 843 人／(R5) (※広島県ナースセンター「無料職業紹介事業」実績)					
事業の内容		<p>① 離職者支援事業</p> <p>届出制度に伴う情報把握や支援体制の強化のための事業</p> <ul style="list-style-type: none">・ナースセンターサテライト福山の運営・県内市町へのナースセンター相談員による出張就業相談・再就業セミナー・就業相談会・早期離職者に対するカフェの開催・ナースセンター情報管理システムによる個別カルテの管理及び届出者への研修等情報提供 <p>② 復職支援事業</p> <ul style="list-style-type: none">・看護技術に関する事前研修の実施・病院及び訪問看護 ST での実践研修の実施・シミュレーター技術研修・中小医療機関における再就業定着促進の支援 <p>③ 看護職員確保対策調査事業</p> <ul style="list-style-type: none">・看護職員の働く職場環境に関する実態調査・看護職員離職者実態調査 <p>④ 無料職業紹介相談事業 (※財源：その他 (C) 16,022 千円、県一般財源のみ)</p>					
アウトプット指標		<p>① 県ナースセンター無料職業紹介再就業者数：843 人</p> <ul style="list-style-type: none">・市町への出張就業相談及びセミナー（広島市 3 会場 4 回，他市町は希望により各 1 会場 1～2 回）・早期離職者対象カフェ（カフェ：8 回実施，ミニカフェ：20 回）・就業相談会（広島市会場，福山市会場）・情報管理システムへの情報の蓄積 <p>②・事前研修 3 回開催，テーマ別研修</p>					
アウトカムとアウトプ ットの関連		届出制度に基づき、カフェや出張相談等により、離職者とナースセンターがつながりを持ち、適切な時期に再就業を促すことができる。また、復職支援事業により、長期離職者等の再就業への不安を軽減し、再就業の促進と、就業後の定着を図ることができる。さらに、サテライト利用者が、相談支援の結果、再就業することができることにより、県内看護職員の確保につながる。					

(様式 3 : 広島県)

事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A + B + C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注 1)	公	(千円)
		基金	国 (A)	(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)			(千円)
			計 (A + B)	(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注 2)
			その他 (C)	(千円)			(千円)
				58,601			28,386
				28,386			
				14,193			28,386
				42,579			
				16,022			28,386
備考 (注 3)							

(注 1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注 2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額 (国費) における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注 3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	39	
事業名	No	21	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 267,352 千円		
	看護師等養成所運営費補助金						
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域						
事業の実施主体	広島県						
事業の期間	令和 5 年 4 月 1 日 ～ 令和 6 年 3 月 31 日						
背景にある医療・介護ニ ーズ	医療・介護需要の増加が見込まれる中、看護教育の充実を図ることにより、 看護職員を安定的に確保していく必要がある。						
	アウトカム 指標	・医療施設従事看護職員数 (R4) 44,085 人→(R5) 46,124 人 ・離職率 (R5) 9.4%					
事業の内容	看護教育の充実を図るため、看護師等養成所に対し運営費を補助する。						
アウトプット指標	看護師等養成所運営費の補助 (県内 15 課程)						
アウトカムとアウトプ ットの関連	看護師等養成所の運営費を補助し、看護教育の充実を図ることにより、看 護職員の安定的な確保につなげる。						
事業に要する費用の額	金 額	総事業費 (A + B + C)		(千円) 267,352	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注 1)	公	(千円) 29,179
		基 金	国 (A)	(千円) 158,045		民	(千円) 128,866
			都道府県 (B)	(千円) 79,022			うち受託事業等 (再掲) (注 2) (千円)
			計 (A + B)	(千円) 237,067			
		その他 (C)		(千円) 30,285			
備考 (注 3)							

(注 1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注 2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額 (国費) における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注 3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分		Ⅳ 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	38	
事業名		No	22	新規事業／継続事業	継続	【総事業費		
		看護職員キャリア支援事業				(計画期間の総額)】 53,616 千円		
事業の対象となる医療 介護総合確保区域		全区域						
事業の実施主体		広島県, 医療機関						
事業の期間		令和5年4月1日～令和6年3月31日						
背景にある医療・介護ニ ーズ		新人看護職員は、養成所で学んだ知識と臨床の場で求められる高い実践能力とのギャップによりリアリティショックの問題に悩みがちであり、適切なフォローがなされないと、知識や技術の問題を抱えたまま早期離職につながりやすい。 新人期以降も含めた看護職員の看護教育とキャリア形成を総合的に促進し、看護の質の向上と早期離職防止を図る必要がある。						
	アウトカム 指標	・医療施設従事看護職員数 (R4) 44,085 人→ (R5) 46,124 人 ・離職率 (R5) 9.4%						
事業の内容		① 新人看護職員研修及び他施設からの受入研修実施病院への補助 ② 教育指導者研修の実施 (対象：研修責任者, 教育担当者, 実地指導者) ③ 集合研修の実施 (対象：小規模病院の新人及び採用2～3年目の看護職員) ④ 看護職員キャリア支援ワーキンググループの開催						
アウトプット指標		① 新人看護職員研修及び他施設からの受入研修実施病院への補助 (80 施設) ② 教育指導者研修の実施 (研修責任者 1 回：50 人, 教育担当者 2 回：90 人, 実地指導者 2 回：90 人, シミュレーター指導者育成 2 回：20 人実施) ③ 集合研修の実施 (新人ナース研修 14 回:410 人・フォローアップ 5 回：220 人 新人助産師研修 6 回：120 人) ※研修は最大キャパを記載, 9 割以上目標 ④ 看護職員キャリア支援ワーキンググループの開催 (年 1 回)						
アウトカムとアウトプ ットの関連		新人研修体制を拡充することで, 新人看護職員の実践能力が向上し, 早期離職を防止するため, 医療施設従事看護職員数の確保につなげる。						
事業に要する費用の額		金 額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 53,616	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円) 138
		基 金	国 (A)		(千円) 35,744		民	(千円) 35,606
			都道府県 (B)		(千円) 17,872			うち受託事業等 (再掲) (注2)
			計 (A+B)		(千円) 53,616			
		その他 (C)		(千円)	(千円) 5,228			
備考 (注3)								

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額 (国費) における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分		IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	50		
事業名		No	23	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 136,691 千円			
		院内保育所支援事業							
事業の対象となる医療 介護総合確保区域		全区域							
事業の実施主体		広島県							
事業の期間		令和5年4月1日～令和6年3月31日							
背景にある医療・介護ニ ーズ		医療・介護需要の増加が見込まれる中、看護職員を安定的に確保していく必要がある。							
	アウトカム 指標	・医療施設従事看護職員数 (R4) 44,085 人→(R5) 46,124 人 ・離職率 (R5) 9.4%							
事業の内容		看護職員の離職防止及び潜在看護職員の再就業促進のため、院内保育所の運営費及び新築等の費用を補助する。							
アウトプット指標		院内保育所運営費補助 44 施設							
アウトカムとアウトプ ットの関連		院内保育所の運営費及び施設整備費を補助し、看護職員等の離職防止及び再就業を促進することで、看護職員の安定的確保につなげる。							
事業に要する費用の額		金 額	総事業費 (A + B + C)		(千円) 136,691	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)	
			基 金	国 (A)				(千円) 80,843	(千円) 80,843
				都道府県 (B)				(千円) 40,421	
				計 (A + B)				(千円) 121,264	
			その他 (C)		(千円) 15,427			うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)	
備考 (注3)									

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	40
事業名	No	24	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 13,362 千円	
	看護学校教育環境整備事業					
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	広島県					
事業の期間	令和 5 年 4 月 1 日 ～ 令和 6 年 3 月 31 日					
背景にある医療・介護ニ ーズ	医療・介護需要の増加が見込まれる中、社会人向け看護学校入学説明会を開催し、地域の医療を担う看護職員を新たに確保していく必要がある。また、福山市は県境に位置し、他県に就業する者が比較的多いことから、就職セミナーの開催等により、看護職員を安定的に確保していく必要がある。					
	アウトカム 指標	・医療施設従事看護職員数 (R4) 44,085 人→(R5) 46,124 人 ・離職率 (R5) 9.4%				
事業の内容	社会人向け入学説明会、看護学生向け就職セミナー					
アウトプット指標	入学説明会開催 (2 回)、就職セミナー開催 (1 回)					
アウトカムとアウトプ ットの関連	入学説明会、就職セミナーの開催により、看護職員の安定的確保につなげる。					
事業に要する費用の額	金 額	総事業費 (A + B + C)	(千円) 13,362	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注 1)	公	(千円) 1,369
		国 (A)	(千円) 8,908			
	基 金	都道府県 (B)	(千円) 4,454		民	(千円) 7,539
		計 (A + B)	(千円) 13,362			うち受託事業等 (再掲) (注 2)
		その他 (C)	(千円)			(千円)
備考 (注 3)						

(注 1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注 2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額 (国費) における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注 3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	49	
事業名	No	25	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 9,062 千円		
	医療勤務環境改善支援センター事業						
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域						
事業の実施主体	広島県						
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日						
背景にある医療・介護ニ ーズ	労務管理面のみならず、ワーク・ライフ・バランスなどの幅広い視点を視野に入れた医療機関の勤務環境の改善は、医療の質の向上、医療従事者の離職防止・定着など経営安定化の観点からも喫緊の課題となっている。						
	アウトカム 指標	・医療施設従事看護職員数 (R4) 44,085 人→(R5) 46,124 人 ・離職率 (R5) 9.4% ・ふるさとドクターネット広島登録者数 (R5) 3,137 人					
事業の内容	・センターの運営 講習会の案内、医業経営アドバイザーの派遣調整、勤務環境改善事例の提供及び関係機関とのハブ機能 ・セミナーの開催 勤務環境改善に係る取組事例の講演、計画づくり演習等 ・医業経営アドバイザーの派遣 勤務環境改善事例や計画策定済病院の取組状況の紹介、補助金・診療報酬加算など、計画策定のアドバイス ・上記の取組を通じた医師の働き方改革の推進支援						
アウトプット指標	・セミナー参加医療機関数(累計) 450 医療機関 ・訪問支援医療機関数(累計) 55 医療機関						
アウトカムとアウトプ ットの関連	医療機関における医師の働き方改革の推進を軸として勤務環境の改善を促し、医療従事者の離職防止や定着促進、医療安全の確保等を図る。						
事業に要する費用の額	金 額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 9,062	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基 金	国(A)	(千円) 5,877		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円) 2,939			5,877
			計(A+B)	(千円) 8,816			うち受託事業等 (再掲)(注2)
		その他(C)		(千円) 246		(千円) 5,877	
備考(注3)							

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(様式 3 : 広島県)

- (注 2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。
- (注 3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	46
事業名	No	26	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 4,522 千円	
	看護師勤務環境改善・宿舎整備事業					
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域					
事業の実施主体	広島県					
事業の期間	令和 5 年 4 月 1 日 ～ 令和 6 年 3 月 31 日					
背景にある医療・介護ニ ーズ	医療・介護需要の増加が見込まれる中、看護職員が働きやすい勤務環境を 整え離職防止を図る必要がある。					
	アウトカム 指標	・医療施設従事看護職員数 (R4) 44,085 人→(R5) 46,124 人 ・離職率 (R5) 9.4%				
事業の内容	看護職員の離職防止のため、看護職員が働きやすい合理的な病棟づくりな ど勤務環境改善整備費用を補助する。					
アウトプット指標	看護師勤務環境改善施設整備費の補助 (県内 1 医療施設)					
アウトカムとアウトプ ットの関連	看護師勤務環境改善施設整備費を補助し、看護職員の離職防止を促進する ことで、看護職員の安定的確保につなげる。					
事業に要する費用の額	金 額	総事業費 (A + B + C)	(千円) 4,522	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注 1)	公	(千円)
		国 (A)	(千円) 3,015			
	基 金	都道府県 (B)	(千円) 1,507		民	(千円) 3,015
		計 (A + B)	(千円) 4,522			うち受託事業等 (再掲) (注 2)
		その他 (C)	(千円)			(千円)
備考 (注 3)						

(注 1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注 2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額 (国費) における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注 3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	VI 勤務医の労働時間短縮に向けた体制の整備に関する事業				標準事業例	56
事業名	No	27	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 145,236 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	広島, 尾三, 福山・府中, 備北					
事業の実施主体	広島県					
事業の期間	令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日					
背景にある医療・介護ニーズ	令和 6 年 4 月からの医師に対する時間外労働の上限規制適用開始に向け、医師の労働時間短縮を進める必要がある。					
アウトカム指標	本事業の対象医療機関のうち、時間外労働時間年間 960 時間超の医師の在籍する医療機関数の減少（特例水準指定医療機関を除く） R3.4.1 4 件 → R6.4.1 0 件					
事業の内容	医師の労働時間短縮に向け効果的な取組を総合的に実施するために必要な費用を支援する。					
アウトプット指標	事業を利用した医療機関の累計数 R3.5 機関 → R5.13 機関					
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	件数	2	3	4	4	0
	累計数	2	5	9	13	13
アウトカムとアウトプットの関連	地域医療において特別な役割があり、かつ過酷な勤務環境となっている医療機関を対象とし、勤務医の労働時間短縮に向けた総合的な取組に要する経費を支援することで、勤務医の労働時間を短縮し、勤務医の働き方改革の推進を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A + B + C)	(千円) 145,236	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注 1)	公	(千円)
	基金	国 (A)	(千円) 96,824			
		都道府県 (B)	(千円) 48,412		民	(千円) 96,824
		計 (A + B)	(千円) 145,236			うち受託事業等 (再掲) (注 2)
		その他 (C)	(千円)			(千円)
備考 (注 3)						

(注 1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注 2) 施設等の整備事業については、設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額（国費）における公民の別としては、「公」に計上するものとする。また、事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注 3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

3. 計画に基づき実施する事業

(事業区分 3 : 介護施設等の整備に関する事業)

(1) 事業の内容等

都道府県

事業の区分	3. 介護施設等の整備に関する事業	
事業名	【No.1（介護分）】 介護施設等整備事業	【総事業費】 3,033,040 千円 (内：R5 新規分 365,217 千円)
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	民間事業者	
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日	
事業の目標	介護施設等の整備を支援することで、高齢者ができる限り住み慣れた地域で安心して生活できる基盤づくりを推進する。 令和5年度においては、第8期介護保険支援計画等に位置付けている地域密着型サービス施設等の整備を行う。	
	アウトカム指標： 地域密着型サービス整備量 R5：23,702 人	
事業の内容	①地域密着型サービス施設等の整備に対する助成を行う。	
	整備予定施設等	
	地域密着型特別養護老人ホーム	4 か所
	併設ショートステイ	1 か所
	認知症高齢者グループホーム	3 か所
	小規模多機能型居宅介護事業所	1 か所
	看護小規模多機能型居宅介護事業所	4 か所
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3 か所
	②介護施設等の開設・設置に必要な準備経費に対して支援を行う。	
	整備予定施設等	
	特別養護老人ホーム	120 床
	地域密着型特別養護老人ホーム	96 床
	併設ショートステイ	29 床
	認知症高齢者グループホーム	117 床
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所	8 か所
小規模多機能型居宅介護事業所	9 床	
看護小規模多機能型居宅介護事業所	33 床	

	介護医療院へ転換（開設準備経費）	83 床
	大規模修繕に併せて行う介護ロボット・ICT導入	51 か所
	介護予防拠点における防災意識啓発の取組	50 か所
	定期借地権設定のための一時金支援事業	2 か所
	③既存の特別養護老人ホーム等のユニット化改修	
	整備予定施設等	
	介護療養型医療施設の介護老人保健施設等への転換整備	2 か所
	介護施設等の看取り環境の整備	3 か所
	共生型サービス事業所の整備	3 か所
	④新型コロナウイルス感染拡大防止対策に対する支援	
	整備予定施設等	
	簡易陰圧装置設置経費・換気設備設置経費	21 か所 139 台
	ゾーニング環境等の整備	13 か所
	多床室の個室化に要する改修	3 か所
	⑤介護職員の宿舎施設整備に対する支援	
	整備予定施設等	
	宿舎整備	7 か所
アウトプット 指標	<p>地域包括ケアシステムの構築に向けて、第8期介護保険支援計画等において予定している地域密着型サービス施設等の整備を行う。</p> <p>【サービス事業量】</p> <p>○地域密着型サービス等整備等助成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型特別養護老人ホーム 96 人 ・認知症高齢者グループホーム 3 か所 ・小規模多機能型居宅介護事業所 1 か所 ・看護小規模多機能型居宅介護事業所 4 か所 ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護 3 か所 <p>○施設開設準備経費等支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホーム 120 人 ・地域密着型特別養護老人ホーム 96 人 ・認知症高齢者グループホーム 117 人 ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所 8 か所 ・小規模多機能型居宅介護事業所 9 人 ・看護小規模多機能型居宅介護事業所 33 人 ・介護医療院へ転換 83 床 ・大規模修繕に併せて行う介護ロボット・ICT導入 51 か所 ・介護予防拠点における防災意識啓発の取組 50 か所 <p>○既存の特別養護老人ホーム等のユニット化改修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護医療院へ転換整備（改修） 83 床 ・介護施設等における看取り環境整備 3 か所 ・共生型サービス事業所の整備 3 か所 <p>○新型コロナウイルス感染拡大防止対策支援事業</p>	

	・簡易陰圧装置設置経費・換気設備設置経費 21 か所 139 台 ・ゾーニング環境等の整備 13 か所 ・多床室の個室化に要する改修 154 人 ○介護職員の宿舎施設整備に対する支援 ・宿舎整備 7 か所							
アウトカムとアウトプットの関連	地域間のバランスや地域の実情を踏まえた施設サービスの計画的な整備を進めるとともに、住み慣れた地域において在宅での生活が継続できるよう、地域密着型サービスや居宅サービスを充実する。							
事業に要する費用の額	事業内容		総事業費 (A+B+C) (注1)	基金		その他 (C) (注2)		
				国 (A) 2/3	都道府県 (B) 1/3			
	①地域密着型サービス等整備助成事業		(千円) 821,930 (0)	(千円) 547,686 (0)	(千円) 273,844 (0)	(千円) 0 (0)		
	②施設開設準備経費等支援事業		(千円) 1,630,101 (96,857)	(千円) 1,086,734 (64,571)	(千円) 543,367 (32,286)	(千円) 0 (0)		
	③既存の特養等のユニット化改修等支援事業		(千円) 83,620 (9,775)	(千円) 55,746 (6,516)	(千円) 27,874 (3,259)	(千円) 0 (0)		
	④新型コロナウイルス感染拡大防止対策支援事業		(千円) 350,482 (258,585)	(千円) 233,654 (172,390)	(千円) 116,828 (86,195)	(千円) 0 (0)		
	⑤介護職員の宿舎施設整備事業		(千円) 146,907 (0)	(千円) 97,938 (0)	(千円) 48,969 (0)	(千円) 0 (0)		
	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 3,033,040 (365,217)		公	(千円) 0	
		基金	国 (A)		(千円) 2,022,026 (243,478)		基金充当額 (国費)における公民の別 (注3) (注4)	民 うち受託事業等 (再掲) (千円) 3,033,040 (365,217)
			都道府県 (B)		(千円) 1,011,014 (121,739)			
			計 (A+B)		(千円) 3,033,040 (365,217)			
			その他 (C)		(千円) 0 (0)			
備考 (注5) 「事業に要する費用の額」欄 欄中上段は「過年度積立を含む総額」を、下段「()」は内数で、「令和5年度新規積立額」を表す。								

(注1) 事業者が未定等のため、総事業費が不明の場合は、記載を要しない。

(注2) 事業者が未定で、事業者負担額が不明の場合は、記載を要しない。

(注3) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

- (注4) 指定管理者制度の活用など設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。
- (注5) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

3. 計画に基づき実施する事業

(事業区分5：介護従事者の確保に関する事業)

(1) 事業の内容等

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業					
	(大項目) 参入促進					
	(中項目) 地域における介護のしごと魅力発信					
	(小項目) 地域における介護のしごと魅力発信事業					
事業名	【No. 1 (介護分)】 福祉・介護職のイメージ改善・理解促進事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 13,138 千円	
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域					
事業の実施主体	社会福祉法人広島県社会福祉協議会 一般社団法人広島県介護福祉士会					
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	福祉・介護の職場は、体力的にも精神的にもきつい、給与水準が低いなどのマイナスイメージがあり、敬遠されがちである。県内事業所等の就業環境改善や人材確保の取組等により、介護職員の離職率は減少傾向にあるが、他産業と比べると依然として高い水準となっている。					
	アウトカム指標： 3年未満の介護職員の離職率 56%以下 (R5)					
事業の内容	福祉・介護イベントの開催 啓発活動 (ポスター募集) ・県内の小・中・高校生を対象に「介護の日」ポスターを募集 理解促進事業 (学校訪問・出前講座) ・県内の小・中・高校等を訪問し、出前講座を実施					
アウトプット指標	福祉・介護イベントの開催 (開催回数1回) ポスター募集 (応募校数27校) 学校訪問による理解促進 出前講座 (小中89校、高校28校)					
アウトカムとアウトプットの 関連	福祉・介護職の本来のイメージを伝えることにより、人材の確保・育成・定着を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における	公 (千円)
		(A+B+C)		13,138		
		基金	国 (A)	(千円)		

				8,759	公民の別 (注1)	民	
			都道府県 (B)	(千円) 4,379			(千円) 8,759
			計(A+B)	(千円) 13,138			うち受託事業等 (再掲)(注2)
			その他(C)	(千円)			(千円) 8,759
		備考(注3)					

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(注4) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イやロなども記載すること。)

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
	(大項目) 基本整備 (中項目) 基盤整備 (小項目) 介護人材確保対策連携強化事業 (協議会設置等)	
事業名	【No. 2 (介護分)】 福祉・介護人材のマッチング・基盤整備事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 8,907 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	【広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会】 ・社会福祉法人広島県社会福祉協議会 ・日本福祉用具供給協会中国支部広島県ブロック ・広島県介護福祉士養成施設協会	
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日	
背景にある医療・介護ニーズ	○令和5年度には 2,877 人の介護職員の受給ギャップが生じると推計されており、必要となる介護職員の不足を着実に解消していく必要がある。 ○県域での協議・連携組織として「広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会」を設置し、人材確保・育成・定着に向けた取組を推進している。 ○市町域での人材確保・育成は、個々の施設・事業所による求人や広報啓発の取組が大半で、地域の関係団体による協議や連携の組織的な取組は進んでいない。	
	アウトカム指標： ・介護職員の離職者のうち3年未満職員の割合 56%以下 (R5)	
事業の内容	○「広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会」を構成する関係機関・団体との連携により2部会(職場改善・資質向上部会、人材マッチング・イメージ改善・理解促進部会)を開催し、福祉・介護分野の安定的な確保・育成・定着に係る事業を展開する。 ○各地域の実情に応じた細やかな福祉・介護人材の確保・育成・定着につなげるよう市町域での協議会・連携組織の支援を行う。 ○介護ロボット・ICTの専門的な知識を有する有識者から助言を受け、福祉・介護人材の確保・育成・定着につなげる。	
アウトプット指標	・協議会 (年2回)、部会 (年2回) ・市町域での協議会・連携組織の支援 (地域会議3回、全体会議1回)	

	・介護ロボット・ICTの専門有識者の助言等（年 2 回）						
アウトカムとアウトプットの関連	協議会及び部会を行うことで、県内の主要な 25 関係団体と協同し、介護人材確保施策に係る各事業の方向付けや取組方法を議論することにより効果的な事業実施につなげ、全市町に福祉・介護人材確保に係る連携組織を設置することで、福祉・介護人材の確保・育成・定着を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 8,907	基金充当額 (国費)における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)	(千円) 3,933		民	(千円) 3,933 うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円) 3,933
			都道府県 (B)	(千円) 1,966			
			計 (A+B)	(千円) 5,899			
		その他 (C)		(千円) 3,008			
備考 (注3)		その他 (C) は過年度充当額 356 千円+その他 2,652 千円					

(注１) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注２) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注３) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業					
	(大項目) 参入促進 (中項目) 地域のマッチング機能強化 (小項目) 多様な人材層（若者・女性・高齢者）に応じたマッチング機能強化事業 イ 多様な人材層（若者・女性・高齢者）に応じたマッチング機能強化事業					
事業名	【No. 2（介護分）】 福祉・介護人材のマッチング・基盤整備事業				【総事業費 （計画期間の総額）】 16,575 千円	
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域					
事業の実施主体	【広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会】 ・公益財団法人介護労働安定センター広島支部 ・社会福祉法人広島県社会福祉協議会 ・医療福祉人材協会					
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	○令和5年度には 2,877 人の介護職員の受給ギャップが生じると推計されており、必要となる介護職員の不足を着実に解消していく必要がある。 ○「技能実習制度」や「特定技能制度」等を活用し外国人介護人材を登用しようとする事業者が増加傾向にある。					
	アウトカム指標： ・介護職員の離職者のうち3年未満職員の割合 56%以下（R5）					
事業の内容	○介護職場復帰を希望する介護福祉士の再就職支援 かつて介護職場を経験していた介護福祉士の掘り起しを行うとともに、再就職を促進させるためのセミナーを開催する。 ○県内の外国人介護従事者及び指導者に対し、資質向上のための研修を実施する。 ○外国人介護人材の受入制度や、ノウハウを共有するセミナーの開催。					
アウトプット指標	・介護職場復帰を希望する介護福祉士の再就職支援 1回(30人) ・外国人介護職員・指導者合同資質向上研修（3地域） ・外国人材確保・定着支援セミナー（2地域）					
アウトカムとアウトプットの関連	介護福祉士の再就職の促進や新たな人材を確保マッチングすることにより、福祉・介護人材の確保・育成・定着を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 （A＋B＋C）	（千円） 16,575	基金充当 額	公	（千円）

		基金	国（Ａ）	（千円） 11,050	（国費） における 公民の別 （注１）	民	（千円） 11,050
			都道府県 （Ｂ）	（千円） 5,525			うち受託事業等 （再掲）（注２）
			計（Ａ＋ Ｂ）	（千円） 16,575			
		その他（Ｃ）	（千円）	（千円） 11,050			
備考（注３）							

（注１）事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

（注２）事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注３）備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 参入促進 (中項目) 地域のマッチング機能強化 (小項目) 多様な人材層（若者・女性・高齢者）に応じたマッチング機能強化事業 ハ 介護助手等普及推進事業								
事業名	【No. 2（介護分）】 福祉・介護人材のマッチング・基盤整備事業				【総事業費 （計画期間の総額）】 6,857 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域								
事業の実施主体	【広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会】 ・社会福祉法人広島県社会福祉協議会								
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	○令和5年度には 2,877 人の介護職員の受給ギャップが生じると推計されており、必要となる介護職員の不足を着実に解消していく必要がある。								
	アウトカム指標： ・介護職員の離職者のうち3年未満職員の割合 56%以下（R5）								
事業の内容	○社会福祉人材センターに「介護助手等普及推進員」を配置し、介護助手等希望者の掘り起こしを行うとともに、介護事業所への介護助手等の導入の働きかけを行う。 ○介護の周辺業務を担う介護助手等の人材を確保するため、職場体験及び入門研修を実施し、介護施設等とマッチングを行う。								
アウトプット指標	・入門研修受講者数 100 人								
アウトカムとアウトプットの関連	介護の周辺業務を担う介護助手の導入を促進することにより、福祉・介護人材の確保・育成・定着を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 （A＋B＋C）		（千円） 6,857	基金充当額 （国費） における 公民の別 （注1）	公	（千円）		
		基金	国（A）	（千円） 4,571			民	（千円） 4,571	
			都道府県（B）	（千円） 2,286				うち受託事業等 （再掲）（注2）	（千円） 4,571
			計（A＋B）	（千円） 6,857					
		その他（C）		（千円）			（千円） 4,571		
備考（注3）									

(注 1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注 2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注 3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業	
事業名	【No. 3 (介護分)】 福祉・介護人材の資質向上支援事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 24,516 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	一般社団法人広島県介護福祉士会、一般社団法人広島県シルバーサービス振興会、広島県訪問介護事業所連絡協議会、福山市	
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日	
背景にある医療・介護ニーズ	県内の介護事業所には無資格従事者が存在し、現場で指導を受けながら業務に従事しているが、知識や技術が身につけていないことへの不安や、職員による指導が異なる等により、就労意欲の低下や早期離職につながりやすい。 介護職員の離職率は、事業所が小規模となるほど高い傾向にあり、介護技術等の習得支援が重要である。	
	アウトカム指標： 3年未満の介護職員の離職率 56%以下 (R5)	
事業の内容	○県標準マニュアルによる介護技術向上研修 施設・事業所における介護技術の均一化とレベルアップを図るため、新任職員、指導的職員を対象に事業所・施設内で実施 ○認知症高齢者の虐待防止研修及び相談会 小規模事業所の職員を対象に、認知症高齢者の虐待防止研修及び相談会を実施 ○介護職員研修新任基礎研修（小規模事業所） 実務経験3年以内の新任介護職員を対象とした基礎研修（全3回）を県内複数地域で実施 ○介護職員中堅職員等研修 小規模事業所の中堅職員を対象としたミドルマネジメントのための研修（全4回）を県内複数地域で実施 ○新任訪問介護員養成研修 小規模事業所の新任訪問介護員養成研修を実施 ○小規模事業所介護人材育成研修（介護職員技能等向上支援） 小規模事業所の個別課題に応じて、講師を派遣し、小規模事業所の研修実施を支援	
アウトプット指標	県標準マニュアルによる介護技術向上研修（20事業所） 認知症高齢者虐待防止研修及び相談会（参加者300人）	

	小規模事業所 介護職員研修（新任基礎・中堅） （新任基礎 県内 6 会場、中堅 県内 4 会場） 新任訪問介護員養成研修（参加者 120 人） 小規模事業所介護人材育成研修（出前講座：回数 200 回） 小規模事業所介護人材育成研修（介護職員技能等向上支援） （福山市内 50 施設・事業所）						
アウトカムとアウトプットの関連	専門的な介護技術研修等を行うことにより、介護従事者のモチベーションアップと資質向上を図り、介護人材の定着につなげる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 24,516	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		基金	国 (A)	(千円) 16,344		民	(千円) 16,344 うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円) 16,344
			都道府県 (B)	(千円) 8,172			
			計 (A+B)	(千円) 24,516			
		その他 (C)		(千円)			
備考 (注3)							

（注 1）事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

（注 2）事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注 3）備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

（注 4）事業区分の小項目については全て記載すること。（イやロなども記載すること。）

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業						
事業名	【No. 4 (介護分)】 喀痰吸引等特定行為の実施体制強化事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 1,518 千円		
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域						
事業の実施主体	広島県老人福祉施設連盟 公益財団法人広島市老人福祉施設連盟						
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	喀痰吸引等特定行為は、看護職員の配置が困難な施設や職員不在の時間帯にやむを得ず行われている実態があった。現在、特定行為研修を実施できる登録研修機関は約50機関で、多くの機関で自施設の介護職員に対する研修を実施している。 介護職員の離職率が高い傾向は続いており、県内全域で研修を実施できる体制強化を継続し、特定行為を行える介護職員等の充実・確保を図る必要がある。						
	アウトカム指標： 3年未満の介護職員の離職率56%以下 (R5)						
事業の内容	喀痰吸引等研修等を実施 ・指導看護師研修支援 実地研修の指導者養成のため医療的ケア教員講習会を実施 ・指導看護師フォローアップ研修 指導看護師に対する資質向上研修を実施						
アウトプット指標	○指導看護師研修支援事業 (受講者15人) ○指導看護師フォローアップ研修 (受講者50人)						
アウトカムとアウトプットの 関連	指導看護師を育成し、特定行為を適切に行うことができる介護職員等を養成し、介護人材の資質向上と育成・定着を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 1,518	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国(A)	(千円) 1,012		民	(千円) 1,012 うち受託事業等 (再掲)(注2)
			都道府県 (B)	(千円) 506			
			計(A+B)	(千円) 1,518			

		その他 (c)	(千円)			(千円) 1,012
備考 (注3)						

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(注4) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イやロなども記載すること。)

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業					
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修 支援事業 ハ 介護支援専門員資質向上事業					
事業名	【No. 5 (介護分)】 ケアマネジメント機能強化事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 21,800 千円	
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域					
事業の実施主体	広島県, 一般社団法人広島県介護支援専門員協会					
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者の状況に応じた適切なケアマネジメントを提供するため、 地域包括ケアを担う専門職として介護支援専門員の育成と、資質 向上を図る。					
	アウトカム指標：医療や介護が必要になっても、安心して暮らし 続けられると思う者の割合：R元年 55.6%→R7年 69%					
事業の内容	○法定研修を担う、講師・ファシリテーター及び実習指導者を養成する。 ○施設特有の課題解決に向けた研修を開催。 ○有識者・研修実施機関・県で構成する研修向上委員会を設置し、 法定研修や法定外研修の評価・分析を行う。 ○地域ブロック単位での多職種連携を促進するため、関係機関に よる事例検討会を開催する。 ○多職種の先進事例を学ぶシンポジウムを開催する。					
アウトプット指標	○新規指導者・ファシリテーター養成研修 1回 ○講師・ファシリテーターフォローアップ研修 1回 ○実習指導者養成研修 2回 ○地域共生社会における介護支援専門員資質向上研修 6回 ○研修向上委員会 3回 ワーキング 12回 ○地域ブロック単位での事例検討会 29ブロック×3回 ○先進事例を学ぶシンポジウムの開催 1回					
アウトカムとアウトプットの 関連	介護支援専門員の質が向上することにより、自立支援を目指した 適正なケアプランが提供でき、高齢者の重症化防止を図る。					
事業に要する費用の額	金 額	総事業費		(千円)	基金充当 額	公 (千円)
		(A+B+C)		21,800		
		基金	国(A)	(千円)	(国費)	

				14, 533	における 公民の別 (注 1)	民	
			都道府県 (B)	(千円) 7, 267			(千円) 14, 533
			計 (A + B)	(千円) 21, 800			うち受託事業等 (再掲) (注 2)
			その他 (C)				(千円)
						(千円) 14, 533	
備考 (注 3)							

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 資質向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 地域包括ケアシステム構築に資する人材育成・資質向上事業						
事業名	【No. 6 (介護分)】 薬剤師の在宅チーム医療連携事業					【総事業費 (計画期間の総額)】 4,540 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域						
事業の実施主体	公益社団法人広島県薬剤師会						
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	増加する在宅医療のニーズに対応するため、在宅医療に参画し、多職種連携ができる薬剤師を増やすことで、薬剤師による在宅医療の量と質の向上を図る。						
	アウトカム指標：在宅医療の質の向上のための多職種連携研修を修了した薬剤師90名（R5年度）						
事業の内容	○多職種連携推進の課題調査 薬局と介護職等との連携に関する課題の調査・検討 ○多職種連携チーム研修 地域の薬局と介護職等を対象とした研修						
アウトプット指標	課題調査の実施、研修開催						
アウトカムとアウトプットの関連	地域の薬局と介護職等の連携ができる薬剤師を増やすことで、在宅医療サービスの充実を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 4,540	基金充当額 (国費)における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		基金	国(A)	(千円) 3,027			民
			都道府県(B)	(千円) 1,513		うち受託事業等 (再掲)(注2) (千円)	
			計(A+B)	(千円) 4,540			
		その他(C)	(千円)				
備考(注3)							

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注 3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 地域包括ケアシステム構築・推進に資する人材育成・資質向上事業	
事業名	【No. 7 (介護分)】 在宅歯科医療推進のための歯科医師・歯科衛生士の資質向上事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 13,109 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	一般社団法人広島県歯科医師会 一般社団法人広島県歯科衛生士会 国立大学法人広島大学	
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日	
背景にある医療・介護ニーズ	在宅の認知症高齢者や重度障害者が増加しているため、在宅歯科医療体制を確保する必要がある	
	アウトカム指標： 在宅療養支援歯科診療所 241 施設 (R4) ⇒ 346 施設 (R5)	
事業の内容	地域包括ケアシステムの構築に向け、住み慣れた地域に必要な医療・介護サービスが受けられるよう、在宅歯科医療提供体制等の更なる充実を目指し、それらを担うことのできる専門性を持った歯科医師・歯科衛生士を養成する。 ○認知症患者等の歯科保健医療サービス提供困難者に対応できるスペシャルニーズ歯科診療医等を養成するための研修を実施 ○要介護者等の口腔機能向上のため、口腔ケアや食支援を行うことができる歯科医師等を養成するための研修を実施 ○訪問歯科診療に対応できる歯科衛生士を確保・育成するための研修プログラムの検討を実施 ○在宅及び施設における口腔健康管理実践者養成プログラムの構築及び展開を実施	
アウトプット指標	○スペシャルニーズ歯科診療医等養成講座 (全8回) ○歯科保健医療サービス提供困難者相談医養成研修会 (全4回) ○口腔健康管理実践者養成プログラム (全2回)	
アウトカムとアウトプットの関連	認知症高齢者等への在宅歯科医療の提供に必要な専門性を持った歯科医師・歯科衛生士を養成することで、在宅療養支援歯科診療所の増加に繋げる。	

事業に要する費用の額	金 額	総事業費 (A + B + C)		(千円) 13, 109	基金充当 額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		基金	国 (A)	(千円) 8, 739		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円) 4, 370			8, 739
			計 (A + B)	(千円) 13, 109			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)		(千円)	
備考 (注3)							

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(注4) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イやロなども記載すること。)

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業					
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 認知症ケアに関わる心材の育成のための研修事業等 (小項目) 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業					
事業名	【No. 8 (介護分)】 認知症医療・介護研修事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 23,671 千円	
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域					
事業の実施主体	広島県, 広島市					
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる 「共生社会」の実現を図る。					
	アウトカム指標：医療や介護が必要になっても，安心して暮らし 続けられると思う者の割合 現状値 R2年度 55.6%→R4年度 50.2% (R5年度目標値 64%)					
事業の内容	○医療従事者対象 ① 認知症サポート医フォローアップ研修 ② 病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修 ③ かかりつけ医認知症対応力向上研修 ④ 歯科医師認知症対応力向上研修 ⑤ 薬剤師認知症対応力向上研修 ⑥ 看護師認知症対応力向上研修 ⑦ 病院勤務以外の看護師等認知症対応力向上研修 ○介護従事者対象 ① 認知症介護指導者養成研修 ② 広島県認知症介護アドバイザー養成課程 ③ 認知症介護指導者フォローアップ研修 ④ 認知症介護基礎研修 ⑤ 認知症対応型サービス事業管理者研修 ⑥ 小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 ⑦ 認知症対応型サービス事業開設者研修 ○市町対象 ① 認知症初期集中支援チーム員研修 ② 認知症地域支援推進員研修					
アウトプット指標	認知症介護基礎研修修了者数 (累計) 現状 (目標設定時 (R元年度末)) : 1,741 人→R5年度 : 3,100 人					
アウトカムとアウトプットの 関連	認知症に対して適切に対応できる医療・介護関係者の育成及び質 の向上等により，医療や介護が必要になっても，安心して暮らし 続けられると思う者の割合の増加を図る。					
事業に要する費用の額	金	総事業費	(千円)	基金充当	公	(千円)

	額	(A+B+C)		23,671	額 (国費) における 公民の別 (注1)	民	0
		基金	国 (A)	(千円) 14,584			(千円) 14,584
			都道府県 (B)	(千円) 7,292			
			計 (A + B)	(千円) 21,876			
		その他 (C)		(千円) 1,795			うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円) 14,584
備考 (注3)							

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 認知症ケアに関わる心材の育成のための研修事業等 (小項目) チームオレンジコーディネーター研修等事業						
事業名	【No. 8 (介護分)】 認知症医療・介護研修事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 814 千円		
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域						
事業の実施主体	広島県						
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる 「共生社会」の実現を図る。						
	アウトカム指標：医療や介護が必要になっても、安心して暮らし 続けられると思う者の割合 現状値 R2年度 55.6%→R4年度 50.2% (R5年度目標値 64%)						
事業の内容	チームオレンジの整備・活動を推進するために市町が配置する コーディネーターやチームメンバー等に対して、必要な知識 や技術を習得させるための研修を実施する。						
アウトプット指標	チームオレンジ設置市町数 現状 (目標設定時 (R3年度末))：3→R5年度：23 (全市町)						
アウトカムとアウトプットの 関連	チームオレンジによる声掛けや意見交換などにより認知症にな っても、地域のとのつながりが保たれ、認知症の人とその家族が 地域で孤立しない関係づくりが県内全域で構築する。						
事業に要する費用の額	金 額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 814	基金充当 額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円) 0
		基金	国 (A)	(千円) 543		民	(千円) 543 うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円) 543
			都道府県 (B)	(千円) 271			
			計 (A + B)	(千円) 814			
		その他 (C)		(千円)			
備考 (注3)							

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注 3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域における認知症施策の底上げ・充実のための重点支援事業 (小項目) 地域における認知症施策の底上げ・充実のための重点支援事業	
事業名	【No. 9 (介護分)】 認知症地域連携促進事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 857 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	広島県, 広島県医師会	
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日	
背景にある医療・介護ニーズ	認知症状に応じた適切な医療・介護サービスの提供や, 症状の変化等への早期対応につなげる地域支援体制(認知症地域連携パス)の構築等を進めるため, 医療・介護関係機関が患者情報を共有する連携ツール(ひろしまオレンジパスポート)の県内普及を図る。	
	アウトカム指標: 医療や介護が必要になっても, 安心して暮らし続けられると思う者の割合 現状値 R2年度 55.6%→R4年度 50.2% (R5年度目標値 64%)	
事業の内容	認知症施策推進大綱の「3. 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援(1) 早期発見・早期対応、医療体制の整備」に掲げる, 医療機関, 関係施設等で適切な治療やリハビリテーションが実施されるとともに, 医療機関や介護施設等での対応が固定化されないよう取組む瞬間型の仕組みの構築を推進するため, 市町, 医療・介護関係団体の理解と協力を得ながら, 認知症地域連携パスの計画的な利用地域拡大及び運用円滑化を図る。 ○連携ツールの導入・利用拡大 ・導入説明会・研修会, 関係者会議等 ・利用環境の改善(連携パスシステムの改修等) ○連携ツールの普及・啓発 ・利用促進, 周知活動の実施	
アウトプット指標	オレンジパスポートの発行医療機関数 現状(目標設定時(R元年度末)): 37 機関→R5年度: 42 機関	
アウトカムとアウトプットの関連	オレンジパスポートの発行医療機関数を拡大し, 医療・介護関係機関が連携ツールを活用することにより, 地域における医療介護連携を進め, 循環型の仕組みを構築し, 医療や介護が必要になっ	

でも、安心して暮らし続けられると思う者の割合の増加を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 857	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 (千円) 109
		基金	国(A)	(千円) 571		
			都道府県 (B)	(千円) 286		民 (千円) 462
			計(A+B)	(千円) 857		うち受託事業等 (再掲)(注2) 462(千円)
		その他(C)		(千円) -		
備考(注3)						

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 権利擁護人材育成事業 (小項目) ロ 介護相談員育成に係る研修支援事業						
事業名	【No.10 (介護分)】 広島県地域包括ケアシステム強化推進事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 1,067 千円		
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域						
事業の実施主体	広島市、廿日市市						
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	高齢化の進展等により、医療、介護、予防、住まい、生活支援などのサービスを包括的に提供する地域包括システムを更に強化していくことが求められる。						
	アウトカム指標：医療や介護が必要になっても、安心して暮らし続けられると思う者の割合 現状値 R2年度 55.6%→R4年度 50.2% (R5年度目標値 64%)						
事業の内容	公益団体（介護相談・地域づくり連絡会（NPO 地域ケア政策ネットワーク※））が実施する研修費用（旅費・受講料等）を助成する。						
アウトプット指標	研修会の開催						
アウトカムとアウトプットの 関連	本事業の取組により、介護相談員の増加・資質向上が図られるとともに、PDCA を回すためのアウトカム指標に基づく自己評価等に取り組むことにより、地域におけるネットワーク等の構築がされ、地域包括ケアシステムが強化されることにより、県民の地域包括ケアに関する安心感の向上を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 1,067	基金充当 額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円) 711	
		基金	国 (A)	(千円) 711		民	(千円) うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
			都道府県 (B)	(千円) 356			
			計 (A+B)	(千円) 1,067			
		その他 (C)		(千円)			
備考 (注3)							

- (注 1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。
- (注 2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。
- (注 3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。
- (注 4) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イやロなども記載すること。)

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 地域包括ケアシステム構築に資する人材育成・資質向上事業	
事業名	【No.10 (介護分)】 広島県地域包括ケアシステム強化推進事業	【総事業費 (計画期間の総額) 99,525 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	広島県、広島県地域包括ケア推進センター	
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢化の進展等により、医療、介護、予防、住まい、生活支援などのサービスを包括的に提供する地域包括システムを更に強化していくことが求められる。	
	アウトカム指標：医療や介護が必要になっても、安心して暮らし続けられると思う者の割合 現状値R3年度51.1%→R4年度50.2% (R5年度目標値64%)	
事業の内容	①介護予防の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・通いの場の立上げ支援 ※ 市町、地域包括支援センター等へアドバイザーを派遣し、通いの場の立ち上げ支援を行うことによりセンター職員の資質向上を図る。 ・市町、地域包括支援センターが実施する交流フォーラムの支援 ・地域リハビリ連携促進（専門職派遣、リハ職研修、広域支援センター等研修） ※ 市町、地域包括支援センターを支援する専門職の養成を行うことでセンター職員の資質向上を図る。 ・介護予防普及展開事業（専門職派遣、研修） ※ 市町、地域包括支援センターが実施する自立支援型ケアマネジメントについて、専門職派遣、研修等の支援を行うことで資質向上を図る。 ②生活支援体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー派遣 ・コーディネーター養成・育成・ワーキング会議 ・情報交換会の開催 	

	<p>③自立支援型ケアマネジメントの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援多職種ネットワーク推進会議の開催 ※ 地域包括支援センター職員及び多職種の資質向上に向けた研修教材の企画検討及び作成 <p>④医療介護連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ACP普及促進（専門職を対象とした研修） ・在宅医療多職種ノウハウ連携研修 ・医療機関等の医療機能に関する調査 <p>⑤地域包括ケアシステムの質向上を図るための分析調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民の地域包括ケアに係る安心感調査・市町支援・不安解消施策の実施 ※ 市町、地域包括支援センターの持っている課題の分析及び地域診断による助言等の支援 <p>⑥専門相談、普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア推進に関する相談・認知症介護相談・高齢者虐待相談・弁護士等派遣・高齢者虐待防止研修 ※ 市町、地域包括支援センターからの個別事案等の相談、弁護士等専門職の派遣、研修の実施することで資質向上を図る。 <p>⑦移動支援勉強会（市町職員、地域包括支援センター職員等）</p> <p>⑧介護サービス基盤安定化に向けた市町支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町、地域包括支援センターへのアドバイザー派遣・市町セミナー・意見交換会 ※ 介護需要や労働力の縮小に対する喫緊の課題を抱えている市町に対して、基盤安定化に向けた分析、検討の支援を行い、その支援事例を用いて市町、地域包括支援センター職員に対しセミナーを実施 					
アウトプット指標	研修会等の開催、専門職の派遣等					
アウトカムとアウトプットの関連	<p>本事業の取組により、地域包括支援センター職員等の資質向上が図られるとともに、PDCAを回すためのアウトカム指標に基づく自己評価等に取り組むことにより、地域におけるネットワーク等の構築がされ、地域包括ケアシステムが強化されることにより、県民の地域包括ケアに関する安心感の向上を図る。</p>					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 99,525	基金充当額 (国費) における	公	(千円) 66,003
		基金	国(A)	(千円) 66,003		
			都道府県 (B)	(千円) 33,002	公民の別 (注1)	(千円)

			計（A＋ B）	（千円） 99,005			うち受託事業等 （再掲）（注２） （千円）
		その他（C）		（千円） 520			
備考（注３）							

（注１）事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

（注２）事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

（注３）備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 地域包括ケアシステム構築に資する人材育成・資質向上事業	
事業名	【No. 11 (介護分)】 要介護高齢者の在宅リハビリ支援事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 6,691 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	広島県慢性期医療協会	
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>○本県の健康寿命は、男性が全国19位(72.71年)、女性が同43位(74.59年)と低位であることから、県の健康・医療・介護に関する基本的な計画の総括目標を「健康寿命の延伸」とし、健康寿命と一定の相関関係が認められる「要支援1・2, 要介護1の認定を受けた高齢者割合の低減」を注視目標としており、県の健康増進計画である「健康ひろしま21」では、これまでの生活習慣病対策を継続しつつ、重点的取組の一つとして介護予防の推進を図っていくこととしている。</p> <p>要介護高齢者の在宅リハビリについては、家族が患者のリハビリや栄養改善を支援するノウハウが乏しく、患者及び家族から「マニュアルがほしい」との希望があり、また、リハビリの施行時間に比例してADL(日常生活動作)の改善は大きくなる傾向にあるが、介護保険による訪問リハビリは回数と時間の制限があるため、家族等の身近な人間により、リハビリを継続的に実施することが求められている。</p> <p>このため、「健康寿命の延伸」に向けて、「要支援1・2, 要介護1の認定を受けた高齢者割合の低減」を図ることを目的に、リハビリ職・管理栄養士等の指導下において、家族が高齢者に適切にリハビリや栄養改善を支援する体制の構築を行う。</p>	
事業の内容	<p>在宅における家族リハビリの実現に向けたシステムを構築するため、令和3年度に作成した、要介護高齢者の基本動作、生活動作、口腔・栄養ケアに関して、家族がリハビリを実践するためのスマートフォンアプリケーションを活用して、実際の専門職による指導とアプリを活用した指導をミックスさせ、より効率的な形での指導を検討する。上記については、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等による多職種リハビリテーションチームにより検討を行い、アプリケーションの見直し、改善を行う。</p> <p>●家族による在宅リハビリ支援(ワーキンググループ)</p> <p>●普及啓発、電子媒体改修</p> <p>●家族リハビリ調査</p>	
アウトプット指標	○アプリの見直し、改善	

アウトカムとアウトプットの関連	医師，理学療法士，作業療法士，言語聴覚士等による多職種リハビリテーションチームにより，家族がリハビリや栄養改善を支援できる体制を構築することにより，高齢者の要介護状態等の軽減や悪化の防止・介護給付費の抑制とともに，「要支援 1・2，要介護 1 の認定を受けた高齢者割合の低減」を図ることができる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費)における 公民の別 (注 1)	公	(千円)	
		(A + B + C)		6,691				
		基金	国 (A)	(千円)				
			都道府県 (B)	(千円)			民	(千円)
			計 (A + B)	(千円)				うち受託事業等 (再掲) (注 2)
		その他 (C)	(千円)				(千円)	
備考 (注 3)								

(注 1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注 2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注 3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(注 4) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イやロなども記載すること。)

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 地域包括ケアシステム構築に資する人材育成・資質向上事業	
事業名	【No.12 (介護分)】 訪問看護の機能強化事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 9,937 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	広島県看護協会, 広島県訪問看護ステーション協議会	
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる訪問看護体制を構築する必要がある。	
	アウトカム指標：訪問看護サービスの空白地域数 0/125 日常生活圏域	
事業の内容	○訪問看護サービスの質の向上を図るため、訪問看護の機能強化事業検討委員会を開催するほか、訪問看護師の養成研修・専門研修、看護師相互交流派遣研修、訪問看護出向事業を実施する。 ○訪問看護人材の不足解消を図るため、プラチナナース（定年退職前後の看護職）を対象に訪問看護に対する就業意欲を高める研修会を開催する。また、新卒等訪問看護師の離職防止のため、指導者育成研修を実施する。 ○訪問看護空白地域の供給体制を確保するため、訪問看護提供体制に係る専門部会を開催する。 ○訪問看護サービスの技術面・経営面でのスキルアップを図るため、管理者向けマネジメント強化研修のほか、専門・認定看護師による相談会を開催する。	
アウトプット指標	○訪問看護師の養成研修・専門研修 44 人 ○看護師相互交流派遣研修 20 人 ○プラチナナース研修 20 人 ○中核病院等から訪問看護ステーションへの出向 2 人 ○訪問看護指導者育成研修 30 人 ○管理者向けマネジメント強化研修 7 回 ○専門・認定看護師による相談会 10 回 ○圏域課題の解決に向けた看護技術研修 10 回	
アウトカムとアウトプットの関連	日常生活圏域内に訪問看護ステーションなどの訪問看護事業所がない場合であっても、圏域外の訪問看護事業所が安定的で継続	

	的な訪問看護サービスの提供を行うために、訪問看護の機能強化に取り組み、空白地域への供給確保を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A + B + C)		(千円) 9,937	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		基金	国 (A)	(千円) 6,625		民	(千円) 6,625 うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
			都道府県 (B)	(千円) 3,312			
			計 (A + B)	(千円) 9,937			
		その他 (C)		(千円)			
備考 (注3)							

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業					
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 権利擁護人材育成事業					
事業名	【No.13 (介護分)】 権利擁護人材の担い手養成・確保事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 25,520 千円	
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域					
事業の実施主体	広島県社会福祉協議会、広島市、福山市、三次市					
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	急速な高齢化、核家族化等の社会状況の変化によって、高齢者の独居世帯が増加している。そのような状況下で認知症高齢者等の権利擁護に寄与する市民後見人のニーズが増加すると見込まれる。					
	アウトカム指標：医療や介護が必要になっても、安心して暮らし続けられると思う者の割合 現状値 R2年度 55.6%→R4年度 50.2% (R5年度目標値 64%)					
事業の内容	○成年後見制度利用促進事業 《広島県社会福祉協議会》 ・生活支援員のスキルアップ研修の実施 (2回) ・課題解決のための関係連絡会議の実施 (3回) ・法人後見未実施の市町社協への訪問協議等 (3回) ○市民後見人養成事業 《広島市・福山市・三次市》 ・市民後見人養成研修の実施 ・養成研修修了者のフォローアップ研修 ・成年後見制度及び市民後見人に関する普及啓発講演会					
アウトプット指標	○生活支援員養成研修のスキルアップ研修受講者数 (400人) ○市民後見人候補者の養成数 (57人)					
アウトカムとアウトプットの 関連	市民後見人の養成により、認知所高齢者等が在宅で安心して生活が送れるようにサポート体制を整え、医療や介護が必要になっても、安心して暮らし続けられると思う者の割合の向上を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額	公 (千円)
		(A+B+C)		25,520		
		基金	国 (A)	(千円)	(国費)	
				17,013	における	

			都道府県 (B)	(千円) 8,507	公民の別 (注1)	民	(千円) 17,013
			計(A+B) (B)	(千円) 25,520			うち受託事業等 (再掲)(注2)
		その他(C)		(千円) 0			(千円) 17,013
備考(注3)							

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(注4) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イやロなども記載すること。)

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野の拡大」、 (小項目) 地域における介護のしごと魅力発信事業	
事業名	【No.14 (介護分)】 看護教員・指導者育成事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 4,844 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	広島県	
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日	
背景にある医療・介護ニーズ	今後増加が見込まれる医療ニーズに対応するには、質の高い看護職員の養成を維持していくことが必要である。	
	アウトカム指標：医療施設従事看護職員数の増加 (R4) 44,085 人 ⇒ (R5) 46,124 人	
事業の内容	<p>病院以外の訪問看護ステーション、老人保健施設、保健所等においても実習指導者を養成するなど、医療と介護の双方に携われるスキルを持った人材の確保・養成を図る。</p> <p>○専任教員・実習指導者継続研修 県内看護教員の養成能力の向上や実習指導者の指導力向上を目的とした研修会を実施する。更に、演習中心の研修を加え、教育実践力の向上を図る。</p> <p>○実習指導者養成講習会の開催 看護学生の実習受入病院の指導者に必要な知識・技術を修得させる。</p> <p>○特定分野実習指導者講習会の開催 看護基礎教育における施設等での臨地実習の指導者に必要な知識・技術を修得させる。</p>	
アウトプット指標	<p>○専任教員・実習指導者継続研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新任教員研修 (20 名程度)、中堅教員研修 (40 名程度) 各 2 回 ・トピックス研修 2 回 (70 名程度) <p>○実習指導者養成講習会 1 回 (20 名程度)</p> <p>○特定分野実習指導者講習会 1 回 (20 名程度)</p> <p>※研修は最大キャパを記載, 9 割以上目標</p>	
アウトカムとアウトプットの 関連	看護教員・指導者の養成の充実と質の向上を図ることで、質の高い看護職員の養成と確保を図る。	

事業に要する費用の額	金 額	総事業費 (A + B + C)		(千円) 4,844	基金充当 額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円) 36
		基金	国 (A)	(千円) 3,229		民	(千円) 3,193 うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円) 3,193
			都道府県 (B)	(千円) 1,615			
			計 (A + B)	(千円) 4,844			
		その他 (C)		(千円)			
備考 (注3)							

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 介護施設等に対する防災リーダー養成等の支援事業						
事業名	【No.15 (介護分)】 介護施設等に対する防災リーダー養成等の支援事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 2,035 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全域						
事業の実施主体	広島県, 一般社団法人福祉防災コミュニティ協会 (予定)						
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	介護施設等は, 自力避難が困難な方が多く利用されていることから, 利用者の安全を確保するため, 災害に備えた十分な対策を講じる必要がある。また, 令和3年度より, BCP策定が義務付けられている。(3年の経過措置)						
	アウトカム指標: 対象とした施設の研修実施数及びBCP策定数						
事業の内容	・各種防災関係計画との連携, 初動を含めた防災対策及び防災リーダー養成を目的にBCP策定研修を行う。						
アウトプット指標	・今年度は有料老人ホームや未策定の施設などを対象に実施する。						
アウトカムとアウトプットの関連	研修により, 各種防災関係計画との連携, 初動を含めた防災対策及び要配慮者の継続的介護体制等, 施設における災害に備えた対策の推進を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 2,035	基金充当額 (国費)における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		基金	国(A)	(千円) 1,357		民	(千円)
			都道府県(B)	(千円) 678			1,357
			計(A+B)	(千円) 2,035			うち受託事業等 (再掲)(注2)
		その他(C)		(千円) 0			(千円) 1,357
備考(注3)							

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注 3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(注 4) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イやロなども記載すること。)

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業					
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 勤務環境改善支援、 (小項目) 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業					
事業名	【No.16 (介護分)】 ワークライフバランス推進事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 5,496 千円	
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域					
事業の実施主体	広島県					
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	今後増加が見込まれる医療・介護ニーズに対応するには、看護職員の離職防止・定着を図る必要がある。					
	アウトカム指標：医療施設従事看護職員数の増加 (R4) 44,085 人 ⇒ (R5) 46,124 人					
事業の内容	○相談対応，アドバイザー派遣において，医療と介護の連携や地域包括ケアシステム構築の取組を加えることで内容をより充実させ，医療と介護の双方に携われるスキルを持った人材の確保・養成を図る。 ○看護管理者等に対する相談・研修を実施し，看護職員が職場と生活の調和（ワークライフバランス）を実現させ，健康で働き続けられる職場づくりを支援する。 ・就業に関する相談窓口の設置 ・アドバイザー派遣 ・研修会の実施					
アウトプット指標	○ナースセンター相談窓口（常設） ○産業カウンセラー相談 2回／月（広島） 1回／月（福山） ○希望のある看護管理者へのアドバイザーからの具体的方法伝達 4施設					
アウトカムとアウトプットの 関連	就業に関する相談や施設に対するアドバイザー派遣，研修会の実施により，健康で働き続けられる職場づくりを支援し，離職防止・定着を進め，看護職員数の維持・確保を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 5,496	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民 うち受託事業等
		基金	国 (A)	(千円) 3,664		
			都道府県 (B)	(千円) 1,832		
			計 (A+	(千円)		

			B)				(再掲) (注 2)
		その他 (C)		(千円) 5,496			(千円) 3,664
備考 (注 3)							

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(注4) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イやロなども記載すること。)

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
	(大項目) 基本整備 (中項目) 基盤整備 (小項目) 人材育成等に取り組む事業所の認証評価制度実施事業	
事業名	【No. 17 (介護分)】 福祉・介護の職場改善事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 9,904 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	【広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会】 ・社会福祉法人広島県社会福祉協議会	
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>○県内事業所等の就業環境改善や人材確保策に係る取組などにより、採用率は上昇傾向にあるが、離職率については、全産業計と比べて高い水準となっており、依然として、離職率の高い職種というイメージが固定している。</p> <p>○職員に対する仕事の満足度調査では、約半数の職員が、「仕事の内容・やりがい」に満足と答えているが、技能形成やキャリアアップに関する項目の満足度は低い。</p> <p>また、働く上での悩みや不満等に関しては、人手不足、賃金などの回答が多い。</p> <p>○福祉介護職場は全国の学生・社会人を対象とした調査によると「体力的にきつい」(34.5%),「精神的にきつい」(27.3%),「給与水準が低い」(39.0%)などのマイナスイメージが他産業に比べ全体的に高く、敬遠されている。選ばれる職場となるよう就業環境の改善を行うと同時に就職者への「見える化」に取り組むことが必要である。</p> <p>○令和3年度介護労働実態調査によると、介護従事者は、「人手が足りない」(51.8%),「有給休暇が取りにくい」(26.3%)など労働条件について働く上での悩み、不安、不満をかかえている。</p>	
	アウトカム指標： ・介護職員の離職者のうち3年未満職員の割合56%以下(R5)	
事業の内容	○優良事業所の認証 優良法人の認証制度(2段階)を設け、制度のPRを行うことにより、「見える化」をさらに図る。	
アウトプット指標	○優良事業所の認証及びコンサルティングの実施 ・認証 343 法人(累計) ・コンサル 38 法人	
アウトカムとアウトプット	施設・事業所の就業環境を改善し、「見える化」することによ	

の関連	り人材の確保・育成・定着を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A + B + C)		(千円) 9,904	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)
		基金	国 (A)	(千円) 6,603		
			都道府県 (B)	(千円) 3,301		(千円) 6,603
			計 (A + B)	(千円) 9,904		うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)		(千円) 6,603
備考 (注3)						

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業					
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 勤務環境改善支援 (小項目) 管理職等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業 イ 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業					
事業名	【No. 17 (介護分)】 福祉・介護の職場改善事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 1,848 千円	
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域					
事業の実施主体	【広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会】 ・社会福祉法人広島県社会福祉協議会					
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	○県内事業所等の就業環境改善や人材確保策に係る取組などにより、採用率は上昇傾向にあるが、離職率については、全産業計と比べて高い水準となっており、依然として、離職率の高い職種というイメージが固定している。					
	○職員に対する仕事の満足度調査では、約半数の職員が、「仕事の内容・やりがい」に満足と答えているが、技能形成やキャリアアップに関する項目の満足度は低い。 また、働く上での悩みや不満等に関しては、人手不足、賃金などの回答が多い。					
	○令和3年度介護労働実態調査によると、介護従事者は、「人手が足りない」(51.8%)、「有給休暇が取りにくい」(26.3%)など労働条件について働く上での悩み、不安、不満をかかえている。					
	アウトカム指標： ・介護職員の離職者のうち3年未満職員の割合56%以下(R5)					
事業の内容	○人材マネジメントスキル向上 労務管理等の人材マネジメントスキル向上を目的とした研修を開催					
アウトプット指標	○人材マネジメントスキル向上研修 6回(300人)					
アウトカムとアウトプットの関連	管理者等に対して労働法規等の理解を促進し、施設・事業所の就業環境を改善することにより人材の確保・育成・定着を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当	公 (千円)
		(A+B+C)		1,848	額	
		基金	国(A)	(千円)	(国費)	
				1,232	における	

			都道府県 (B)	(千円) 616	公民の別 (注1)	民	(千円) 1,232
			計(A+B)	(千円) 1,848			うち受託事業等 (再掲)(注2)
		その他(C)		(千円)			(千円) 1,232
備考(注3)							

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護分野への就職に向けた支援金貸付 (小項目) 福祉系高校修学資金貸付事業						
事業名	【No. 18 (介護分)】 福祉系高校修学資金貸付事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 8,260 千円		
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域						
事業の実施主体	広島県社会福祉協議会						
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	令和5年度には、2,877人の介護職員の需給ギャップが生じると推計されており、安定的に介護職員を確保するためには、学生の介護分野への参入を促していくことが重要である。						
	アウトカム指標： 3年未満の介護職員の離職率56%以下 (R5)						
事業の内容	福祉系高校の学生に対する修学資金の貸付						
アウトプット指標	福祉系高校修学資金貸付人数 30人						
アウトカムとアウトプットの 関連	返還免除金付きの貸付を行うことにより、介護人材の確保及び定着を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 8,260	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)	(千円) 5,507		民	(千円) 5,507
			都道府県 (B)	(千円) 2,753			
			計 (A+B)	(千円) 8,260			
		その他 (C)		(千円)			
備考 (注3)							

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(注4) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イやロなども記載すること。)

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護分野への就職に向けた支援金貸付 (小項目) 介護分野就職支援金貸付事業						
事業名	【No. 18 (介護分)】 介護分野就職支援金貸付事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 18,860 千円		
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域						
事業の実施主体	広島県社会福祉協議会						
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	令和5年度には、2,877人の介護職員の需給ギャップが生じると推計されており、安定的に介護職員を確保するためには、他業種からの転職者等に対し、介護分野への参入を促していくことが重要である。						
	アウトカム指標： 3年未満の介護職員の離職率56%以下 (R5)						
事業の内容	他業種で働いていた者等が介護職として就職する際の必要経費に係る支援金の貸付						
アウトプット指標	介護分野就職支援金 80人						
アウトカムとアウトプットの関連	返還免除金付きの貸付を行うことにより、介護人材の確保及び定着を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 18,860	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		基金	国(A)	(千円) 12,573		民	(千円) 12,573
			都道府県 (B)	(千円) 6,287			うち受託事業等 (再掲)(注2)
			計(A+B)	(千円) 18,860			
		その他(C)		(千円)			(千円) 12,573
備考(注3)							

(注1) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注2) 事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注3) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

(注4) 事業区分の小項目については全て記載すること。(イやロなども記載すること。)

令和 4 年度広島県計画に関する 事後評価

**令和 5 年 1 2 月
広島県**

1. 事後評価のプロセス

(1) 「事後評価の方法」の実行の有無

事後評価の実施にあたって、都道府県計画に記載した「事後評価の方法」に記載した事項について、記載どおりの手続きを行ったかどうかを記載。

☒ 行った

(実施状況)

・令和5年12月28日 広島県医療介護総合確保推進委員会から意見聴取中

☐ 行わなかった

(行わなかった場合、その理由)

(2) 審議会等で指摘された主な内容

事後評価の方法に記載した審議会等の意見を聞いた際に指摘された主な内容を記載するとともに、内容の末尾に審議会等名とその開催日時を記載すること。なお、主な内容については、審議会等の議事概要の添付も可とする。

審議会等で指摘された主な内容

2. 目標の達成状況

令和4年度広島県計画に規定する目標を再掲し、令和4年度終了時における目標の達成状況について記載。

■広島県全体

1. 目標

広島県においては、それぞれの医療介護総合確保区域において、限りある医療・介護資源を効果的に活用して、急性期医療から在宅医療・介護まで一連のサービスが適切に提供されるよう、効率的かつ質の高い医療提供体制と地域包括ケア体制の構築を図り、高齢者が地域において、安心して生活できるよう以下を目標に設定する。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標、 地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

限られた医療・介護資源を活用した地域にふさわしいバランスのとれた医療・介護提供体制を構築するには、医療機能別の需要に応じた病床数を確保する必要があることから、「広島県地域医療構想」を踏まえ、病床機能の転換等医療機関の自主的な取組を促進する。

また、患者の状態に合わせた在宅医療への移行を円滑に進めるため、ICTを活用した地域医療情報ネットワークの構築を図る。

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R3)	目標値 (R7)
高度急性期	3,953 床	2,989 床
急性期	11,945 床	9,118 床
回復期	6,121 床	9,747 床
慢性期	8,361 床	6,760 床以上

② 居宅等における医療の提供に関する目標

在宅医療に取り組む医師を確保することにより、地域包括ケアシステムを強化する。

【定量的な目標値】

- ・地域包括ケアシステムが構築されている日常生活圏域数
R1：125 圏域→R4：125 圏域

③ 介護施設等の整備に関する目標

介護施設等の整備を支援することで、高齢者ができる限り住み慣れた地域で安心して生活できる基盤づくりを推進する。

令和4年度においては、第8期介護保険事業支援計画等に位置付けている地域密着型サービス施設等の整備を行う。

【定量的な目標値】

- ・地域密着型サービス延利用者数 H29：19,848 人→R3：23,735 人

④ 医療従事者の確保に関する目標

公益財団法人広島県地域保健医療推進機構を中心に、大学、医師会、県、市町等が一体となって医療従事者の確保を推進する。

【定量的な目標値】

- ・ 県内医療施設従事医師数（人口 10 万人対） H30：258.6 人→R4：264.6 人以上
- ・ 過疎地域の医療施設従事医師数（人口 10 万人対）
H30：195.1 人→R4：206.1 人以上
- ・ 県内小児科医師数（小児人口 10 万人対）
H30：101.2 人→全国平均値（参考値：108.6 人（H30））まで増加
- ・ 県内地域医療に携わる女性医師数 H30：1,460 人→R4：1,537 人以上
- ・ 手当支給施設の産科・産婦人科医師数 H30：278 人→現状値を維持
- ・ 分娩 1000 件当たりの分娩取扱医療機関勤務産婦人科医師数
H30：14.24 人→現状値を維持
- ・ 医療施設従事看護職員数 H30：43,634 人→R5：45,276 人
- ・ 救急搬送人員に占める軽症患者の割合（18 歳未満）
H30：67.8%→R4：67.4%以下

⑤ 介護従事者の確保に関する目標

令和 7 年には、4,512 人の介護職員の受給ギャップが生じると推計されており、必要となる介護職員の不足を解消するため、介護・看護従事者及び介護支援専門員等のスキルアップを図ることにより、介護従事者等のモチベーションを向上させるなど、人材の育成・定着を促進する。

【定量的な目標値】

- ・ 介護職員の離職者のうち 3 年未満職員の割合 H28：64.6%→R4：59.0%以下
- ・ 認知症入院患者の入院後 1 年時点の退院率 H26：67.9%→R2：71.3%

⑥ 勤務医の労働時間短縮に向けた体制の整備に関する目標

令和 6 年 4 月からの医師に対する時間外労働の上限規制の適用開始までの間に、地域での医療提供体制を確保しつつ、医師の労働時間短縮を推進する。

【目標値】

- ・ 事業実施医療機関の月の時間外・休日労働時間が 80 時間超の医師数の対前年度比減少

2. 計画期間

令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□広島県全体（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

- ① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

区分	現状値 (R4)	目標値 (R7)
高度急性期	4,464 床	2,989 床
急性期	10,875 床	9,118 床
回復期	6,342 床	9,747 床
慢性期	7,738 床	6,760 床以上

- ・ HMネット（ひろしまメディカルネットワーク）について、
情報開示施設が41施設
情報閲覧施設が697施設
全体で738施設の加入となった。（令和4年度末時点）

② 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・ 全ての日常生活圏域（125圏域）で構築されている地域包括ケア体制について、
質の向上が図られた。
地域包括ケアシステムが構築されている日常生活圏域数
R4：125圏域／125圏域（100%）

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・ 地域密着型サービス延利用者数 R4：18,611人（目標：22,420人）

④ 医療従事者の確保に関する目標

- ・ 県内医療施設従事医師数（人口10万人対）R4：未公表※（目標：264.6人以上）
- ・ 過疎地域の医療施設従事医師数（人口10万人対）R4：未公表※（目標：206.1人以上）
- ・ 県内小児科医師数（小児人口10万人対）R4：未公表
※ R4医師数についてR5年12月現在国未公表のため検証不可
R5年度中に公表予定
- ・ 手当支給施設の産科・産婦人科医師数 R4：406人（目標：H30の278人現状値維持）
- ・ 分娩1000件当たりの分娩取扱医療機関勤務産婦人科医師数 R4：21.77人（目標：H30の14.24人現状値維持）
- ・ 医療施設従事看護職員数 R4暫定値：44,944人（目標：R5 45,276人）
- ・ 救急搬送人員に占める軽症患者の割合（18歳未満）R4：未公表（目標：67.4%以下）
※ 救急搬送人員に占める軽症患者の割合（18歳未満）についてR5年12月
R6年度中に公表予定

⑤ 介護従事者の確保に関する目標

- ・ 介護職員の離職者のうち3年未満職員の割合 R4：57.1%（目標：59.0%以下）

⑥ 勤務医の労働時間短縮に向けた体制の整備に関する目標

- ・ 事業実施医療機関における月の時間外・休日労働時間が80時間超の医師数対前年比減少
R4：3人（R3：4人 ▲1人）
※各医療機関において、最も多かった月における人数を合算

2) 見解

「広島県地域医療構想」を踏まえ、引き続き、患者の状態に合わせた在宅医療への移行を円滑に進めるため、ICTを活用した地域医療情報ネットワークの構築を図るとともに、住み慣れた地域での生活が継続できるよう、地域密着型サービスを中心とした介護施設等の整備や、医療・介護人材の確保・育成・定着を促進する。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■広島（目標と計画期間）

1. 目標

広島区域では、在宅医療提供体制の整備や在宅医療に関する人材育成が課題となっていることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

- ① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標、
地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R3)	目標値 (R7)
高度急性期	2,316 床	1,585 床
急性期	5,070 床	4,242 床
回復期	2,386 床	4,506 床
慢性期	3,226 床	2,730 床以上

- ③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・認知症グループホーム 整備数 1 か所 (H27 加速化分)
- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護 整備数 2 か所 (H27 加速化分)
- ・特別養護老人ホーム (改築 185 床) 整備数 3 か所 (H29 積立分)
- ・特別養護老人ホーム併設ショートステイ用居室 (10 床) 整備数 1 か所 (H29 積立分)
- ・介護医療院への転換整備 (72 床) 整備数 1 か所 (R 3 積立分)
- ・大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数 12 か所 (H27 加速化分)
- ・看取り環境整備 整備数 3 か所 (R 2 積立分)
- ・共生型サービス事業所整備 整備数 1 か所 (R 3 積立分)
- ・多床室の個室化改修 整備数 1 か所 (R 3 積立分)
- ・簡易陰圧装置設置 整備数 2 か所 (R 2 積立分)
- ・ゾーニング環境整備 整備数 5 か所 (R 2 積立分)
- ・介護職員の宿舍整備 整備数 2 か所 (H27 加速化分)

2. 計画期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

□広島（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R4)	目標値 (R7)
高度急性期	2,612 床	1,585 床
急性期	4,399 床	4,242 床
回復期	2,603 床	4,506 床
慢性期	2,654 床	2,730 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

指標	目標	R4 達成	達成率
小規模多機能型居宅介護事業所 整備数(H27 加速化分)	1	2	200.0%
定期巡回・随時対応型訪問介護看護 整備数(H27 加速化分)	1	1	100.0%
看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数(H27 加速化分)	1	1	100.0%
介護老人保健施設(大規模改修) 整備数(H27 加速化分)	1	1	100.0%
開設, 増床, 再開(改築)時必要経費 整備数(H27 加速化分, H29 積立分)	10	12	120.0%
介護医療院への転換整備 整備数(H28 積立分)	2	2	100.0%
大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数(R4積立分)	10	10	100.0%
共生型サービス事業所整備 整備数(R4積立分)	1	1	100.0%
簡易陰圧装置設置 整備数(R4積立分)	3	3	100.0%
ゾーニング環境整備 整備数(R4積立分)	3	3	100.0%
多床室の個室化 整備数(R4積立分)	1	1	100.0%
介護職員の宿舎整備 整備数(R4積立分)	1	1	100.0%

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■広島西（目標と計画期間）

1. 目標

広島西区域では、「地域包括支援センター」やケアマネジャーを中心とした介護・福祉関係者と一体となった支援を行い、退院から日常の療養・急変時の対応が包括的・継続的に行われ、患者が望む場所での看取りができる体制整備が課題となっていることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

- ① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標,
地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R3)	目標値 (R7)
高度急性期	16 床	156 床
急性期	763 床	410 床
回復期	235 床	515 床
慢性期	1,029 床	478 床以上

- ③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・認知症グループホーム 整備数 1 か所 (H28 積立分)
- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数 2 か所 (H28 積立分)
- ・介護医療院への転換整備 (102 床) 整備数 2 か所 (R 2・R 3 積立分)

2. 計画期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

□広島西 (達成状況)

【継続中】

1) 目標の達成状況

- ① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

区分	現状値 (R4)	目標値 (R7)
高度急性期	270 床	156 床
急性期	509 床	410 床
回復期	185 床	515 床
慢性期	972 床	478 床以上

- ③ 介護施設等の整備に関する目標

指標	目標	R4 達成	達成率
看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数(H27 加速化分)	1	1	100.0%
認知症グループホーム 整備数(H27 加速化分)	1	1	100.0%
開設, 増床, 再開(改築)時必要経費 整備数(H29 積立分)	2	2	100.0%
大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数(H29 積立分)	1	1	100.0%
簡易陰圧装置設置 整備数(R4積立分)	1	1	100.0%
ゾーニング環境整備 整備数(H29 積立分)	1	1	100.0%

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■ 呉（目標と計画期間）

1. 目標

呉区域では、救急医療をはじめとした医療提供体制の維持・確保や、病院等における看護師等の医療従事者の確保に苦慮していることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

- ① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標、
地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R3)	目標値 (R7)
高度急性期	306 床	287 床
急性期	1,428 床	858 床
回復期	591 床	894 床
慢性期	866 床	751 床以上

- ③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・簡易陰圧装置設置 整備数3か所 (R2積立分)

2. 計画期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

□ 呉（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

- ① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

区分	現状値 (R4)	目標値 (R7)
高度急性期	312 床	287 床
急性期	1,358 床	858 床
回復期	616 床	894 床
慢性期	866 床	751 床以上

- ③ 介護施設等の整備に関する目標

指標	目標	R4 達成	達成率
看取り環境整備 整備数(R4積立分)	1	1	100.0%
簡易陰圧装置設置 整備数(R4積立分)	6	6	100.0%

ゾーニング環境整備 整備数(R4積立分)	1	1	100.0%
----------------------	---	---	--------

2) 見解
病院等における看護師等の医療従事者の確保が一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況
☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■広島中央（目標と計画期間）

1. 目標
 広島中央区域では、医療を必要とする高齢者の大幅な増加が見込まれる中、急性期治療後、在宅で必要な医療が受けられるよう、医療・介護を担う人材の育成や、在宅医療連携の仕組みづくりの整備が必要であるという課題が存在していることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標、
 地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標
【定量的な目標値】
 ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R3)	目標値 (R7)
高度急性期	14 床	122 床
急性期	951 床	672 床
回復期	563 床	678 床
慢性期	867 床	669 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標
【定量的な目標値】
 ・認知症グループホーム 整備数2か所 (H27 加速分・H28 積立分)
 ・看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数2か所 (H27 加速分・H28 積立分)
 ・介護医療院への転換整備 (31 床) 整備数1か所 (R 3 積立分)
 ・介護予防拠点における防災意識啓発の取組支援 整備数30か所 (R 2 積立分)
 ・大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数1か所 (H27 加速化分)
 ・簡易陰圧装置設置 整備数3か所 (R 2 積立分)
 ・介護職員の宿舎整備 整備数3か所 (H27 加速化分)

2. 計画期間
 令和4年4月1日～令和5年3月31日

□広島中央（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況
 ① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

区分	現状値 (R4)	目標値 (R7)
高度急性期	238 床	122 床
急性期	666 床	672 床
回復期	553 床	678 床
慢性期	867 床	669 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

指標	目標	R4 達成	達成率
認知症グループホーム 整備数(H27 加速化分)	3	3	100.0%
看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数(H27 加速化分)	1	1	100.0%
軽費老人ホーム(大規模改修) 整備数(H27 加速化分)	1	1	100.0%
開設, 増床, 再開(改築)時必要経費 整備数(H29 積立分)	4	4	100.0%
介護予防拠点における防災意識啓発の取組支援 整備数 (H29 積立分)	126	43	34.1%
簡易陰圧装置設置 整備数(R4積立分)	5	5	100.0%

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■尾三（目標と計画期間）

1. 目標

尾三区域では、救急医療をはじめとした医療提供体制を充実させるとともに、在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院、在宅療養支援歯科診療所で、必要に応じて他の病院、診療所、薬局、訪問看護ステーション等と連携を図り、24時間の往診、訪問看護等を提供する体制を引き続き確保するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標、地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R3)	目標値 (R7)
高度急性期	353 床	242 床
急性期	1,358 床	905 床
回復期	655 床	991 床
慢性期	790 床	726 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・小規模多機能型居宅介護事業所 整備数 1 か所 (H27 加速化分)
- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数 1 か所 (H27 加速化分)
- ・特別養護老人ホーム (改築 78 床) 整備数 1 か所 (H29 積立分)
- ・特別養護老人ホーム併設ショートステイ用居室 (8 床) 整備数 1 か所 (H29 積立分)
- ・介護医療院への転換整備 (39 床) 整備数 1 か所 (H30 積立分)
- ・大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数 2 か所 (H27 加速化分)

2. 計画期間

令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□尾三 (達成状況)

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

区分	現状値 (R4)	目標値 (R7)
高度急性期	353 床	242 床
急性期	1,200 床	905 床
回復期	848 床	991 床
慢性期	790 床	726 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

指標	目標	R4 達成	達成率
開設, 増床, 再開(改築)時必要経費整備数(H28 積立分)	2	2	100.0%
介護医療院への転換整備数(H29 積立分)	1	1	100.0%
大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数(H28 積立分)	2	2	100.0%
簡易陰圧装置設置 整備数(R4積立分)	4	4	100.0%

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和 4 年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和 4 年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■福山・府中 (目標と計画期間)

1. 目標

福山・府中区域では、診療所の訪問診療及び往診について、人口 10 万人当たりの実施件数が少なく、全国及び広島県平均と大きく隔たりがあるなど、在宅医療の充実が課題となっており、また、看護師の確保も課題となっていることから、これらの課題を解

決するため、以下を目標とする。

- ① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標、
地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R3)	目標値 (R7)
高度急性期	645 床	524 床
急性期	2,155 床	1,691 床
回復期	1,301 床	1,840 床
慢性期	1,076 床	976 床以上

- ③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護 整備数1か所 (H27 加速化分)
- ・介護医療院への転換整備 (103 床) 整備数2か所 (R2・R3 積立分)
- ・大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数3か所 (H27 加速化分)
- ・既存の特養等のユニット化改修 整備数1か所 (H28 積立分)
- ・プライバシー改修 整備数1か所 (R3 積立分)
- ・看取り環境整備 整備数1か所 (R2 積立分)
- ・簡易陰圧装置設置 整備数2か所 (R2 積立分)
- ・介護職員の宿舎整備 整備数1か所 (R2 積立分)

- ④ 医療従事者の確保に関する目標

【定量的な目標値】

- ・福山・府中圏域の小児科医師数 (小児人口10万人対) H28: 68.8人→R4: 95.6人

2. 計画期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

□福山・府中 (達成状況)

【継続中】

1) 目標の達成状況

- ① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

区分	現状値 (R4)	目標値 (R7)
高度急性期	645 床	524 床
急性期	2,160 床	1,691 床
回復期	1,322 床	1,840 床
慢性期	883 床	976 床以上

- ③ 介護施設等の整備に関する目標

指標	目標	R4 達成	達成率
看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数(H27 加速化分)	1	0	0.0%
地域密着型特養 整備数(H27 加速化分)	2	2	100.0%

認知症グループホーム 整備数(H27 加速化分)	4	4	100.0%
開設, 増床, 再開(改築)時必要経費 整備数(H27 積立分, H27 加速化分, H28 積立分, H29 積立分)	8	8	100.0%
介護医療院への転換整備 整備数(H28 積立分)	1	1	100.0%
大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数(H28 積立分, H29 積立分, R4積立分)	23	23	100.0%
ユニット化改修 整備数(H29 積立分)	1	1	100.0%
介護医療院転換 整備数(H29 積立分)	1	1	100.0%
看取り環境整備 整備数 (H28 積立分)	1	1	100.0%
ゾーニング環境整備 整備数(R4積立分)	5	5	100.0%

④ 医療従事者の確保に関する目標

- ・福山・府中圏域の小児科医師数

※ R4医師数についてR5年12月現在国未公表のため検証不可
R5年度中に公表予定

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■備北（目標と計画期間）

1. 目標

備北区域では、高齢化率が県内において最も高く、今後も医療を必要とする高齢者の増加が見込まれる中で、在宅医療提供体制の確立が求められていることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

- ① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標,
地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要な医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R3)	目標値 (R7)
高度急性期	34 床	73 床
急性期	600 床	340 床
回復期	198 床	323 床
慢性期	706 床	430 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・小規模多機能型居宅介護事業所 整備数1か所 (H27 加速化分)
- ・特別養護老人ホーム(改築60床) 整備数1か所 (H29 積立分)
- ・大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数2か所 (H27 加速化分)

2. 計画期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

□備北（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

区分	現状値 (R4)	目標値 (R7)
高度急性期	34 床	73 床
急性期	583 床	340 床
回復期	215 床	323 床
慢性期	706 床	430 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

指標	目標	R4 達成	達成率
開設, 増床, 再開(改築)時必要経費 整備数(H29 積立分)	1	1	100.0%
大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数(H28 積立分, H29 積立分)	9	9	100.0%
簡易陰圧装置設置 整備数(R4積立分)	1	1	100.0%
多床室の個室化 整備数(H29 積立分)	1	1	100.0%

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

3-1. 事業の実施状況（医療分）

令和4年度広島県計画に規定した事業（医療分）について、令和4年度終了時における事業の実施状況を記載。

事業の区分	I-1 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業																
事業名	【No.1（医療分）】 病床機能分化・連携促進基盤整備事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 104,712 千円															
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域																
事業の実施主体	病院及び有床診療所																
事業の期間	令和4年4月1日～令和7年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了																
背景にある医療・介護 ニーズ	<p>地域医療構想の実現に向けて、医療機関における病床機能分化の自主的な取組を推進する必要がある。</p> <p>アウトカム指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年に必要となる医療機能ごとの病床数（暫定推計値） <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>現状値 (R3)</th><th>必要病床数 (R7)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高度急性期</td><td>3,953 床</td><td>2,989 床</td></tr> <tr> <td>急性期</td><td>11,945 床</td><td>9,118 床</td></tr> <tr> <td>回復期</td><td>6,121 床</td><td>9,747 床</td></tr> <tr> <td>慢性期</td><td>8,361 床</td><td>6,760 床以上</td></tr> </tbody> </table> <p><参考></p> <ul style="list-style-type: none"> 回復期病床 7,472 床（令和4年度末） 令和3年度に基金を活用して不足している回復期病床への転換を推進するとともに、その他の医療機能（高度急性期・急性期・慢性期）の事業縮小を進める。 		区分	現状値 (R3)	必要病床数 (R7)	高度急性期	3,953 床	2,989 床	急性期	11,945 床	9,118 床	回復期	6,121 床	9,747 床	慢性期	8,361 床	6,760 床以上
区分	現状値 (R3)	必要病床数 (R7)															
高度急性期	3,953 床	2,989 床															
急性期	11,945 床	9,118 床															
回復期	6,121 床	9,747 床															
慢性期	8,361 床	6,760 床以上															
事業の内容（当初計画）	<ul style="list-style-type: none"> 回復期病床への転換に係る施設・設備整備や、医療機能の事業縮小、複数の医療機関間の連携による病床再編事業に対して補助を行う。（令和4年度事業は過年度積立金を取り崩して実施） 各圏域の医療需要にもとづく具体的な医療機能の分化・連携に取り組む医療機関に対し、総合的な支援を行うとともに、再編等に伴う経営的な視点での助言を行う。 全国トップレベルの高度医療機能や、専門人材の育成機能などを有する新たな拠点の整備に向けて、広島都市圏を中心とした関係医療機関との医療機能の分化・連携に向けた協議を行うなど、ビジョンの実現に向けた取組を実施する。（令和4年度事業は一部過年度積立金を取り崩して実施） 地域医療構想の実現に向けた議論の加速化や、県内の医療資源の適正な配置を検討していくため、医療・介護・保健情報を活用した分析を実施する。 																
アウトプット指標(当初 の目標値)	対象医療機関数 9施設																

アウトプット指標（達成値）	対象医療機関数　５施設		
事業の有効性・効率性	事業終了後１年以内のアウトカム指標： ・令和７年に必要となる医療機能ごとの病床数（暫定推計値） 観察できなかった 観察できた → 指標：		
	区分	令和３年度 病床機能報告数	令和４年度 病床機能報告数
	高度急性期	3,953 床	4,464 床
	急性期	11,945 床	10,875 床
	回復期	6,121 床	6,342 床
	慢性期	8,361 床	7,738 床
	（１）事業の有効性 病床の機能分化・連携を促進するため、不足が見込まれる「回復期病床」への転換等に際して必要となる施設・設備整備費に対して補助を行うことにより、医療機関における病床転換の取組を支援することができた。		
（２）事業の効率性 補助金を活用する医療機関においては、地域医療構想調整会議での協議を経て実施することとしており、地域の実情に応じた効率的な事業の実施に取り組んでいる。			
その他	令和４年度：104,503 千円		

事業の区分	I-1 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業	
事業名	【No.2（医療分）】 ひろしま医療情報ネットワーク整備事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 32,317 千円
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	県内全区域	
事業の実施主体	一般社団法人 広島県医師会	
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護 ニーズ	地域医療構想に基づいた病床機能の分化・連携を進めるとともに、在宅医療への移行を円滑に進める必要がある。	
	I C Tを活用した医療情報ネットワークの構築 R3 年度：開示病院 40 機関 ⇒ R4 年度：開示病院 52 機関	
事業の内容（当初計画）	HMネット参加医療機関の初期整備費用等を補助する。	
アウトプット指標（当初 の目標値）	HMネット参加医療機関数 〔令和4年度〕開示病院 52 機関 参照医療機関 446 機関	
アウトプット指標（達成 値）	ひろしま医療情報ネットワーク（HMネット）参加施設数の増加 ・情報開示施設：40 施設（R3）→ 52 施設（R4）	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標： I C Tを活用した医療情報ネットワークの構築（開示病院・参照医療機関数） 観察できなかった 観察できた → ・情報開示施設：40 施設（R3）→ 41 施設（R4）：1 施設増 ・情報閲覧施設：755 施設（R3）→ 738 施設（R4）：17 施設減	
	<p>（1）事業の有効性</p> <p>HMネットに参加する際に必要な初期整備と、県医師会の専任スタッフによる初期設定サポートにより、医療機関がシステムを導入しやすい環境を整備し、I C Tを活用した医療情報連携ネットワークの構築に効果を上げている。</p> <p>また、電子お薬手帳の機能追加により、薬局を含めた連携が進んでいる。</p> <p>（2）事業の効率性</p> <p>運営主体の県医師会と県とが協働してネットワーク構築に取り組み、単純な数の増加だけでなく、地域の面的な連携や自治体の医療介護連携等への活用など、地域モデルの構築とその横展開を進め、効率的な周知・啓発を図っている。</p>	
その他	令和4年度：17,187 千円	

事業の区分	I-2 地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業	
事業名	【No. 3-1（医療分）】 単独支援給付金支給事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 119,244 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	広島，尾三	
事業の実施主体	広島県内の医療機関	
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	中長期的な人口減少・高齢化の進行を見据えつつ、今般の新型コロナウイルス感染症への対応により顕在化した地域医療の課題への対応を含め、地域の実情に応じた質の高い効率的な医療提供体制の構築が必要	
	アウトカム指標： 令和4年度基金を活用して再編を行う医療機関及び病床機能毎の病床数（許可病床数） 医療機関数 2医療機関→1医療機関 急性期病床 54床→0床	
事業の内容（当初計画）	医療機関が、地域の関係者間の合意の上、地域医療構想に即した病床機能再編の実施に伴い、減少する病床数に応じた給付金を支給する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	対象となる医療機関数 2医療機関	
アウトプット指標（達成値）	・対象となる医療機関数 2医療機関	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標： ・圏域で過剰とされている医療機能の病床の削減 観察できなかった 観察できた 対象医療機関（2医療機関）の急性期病床が54床から0床へ減少	
	（1）事業の有効性 圏域で過剰とされている急性期病床を削減する医療機関に対し、給付金を支給することで、医療機関における病床削減の取組を支援することができた。 （2）事業の効率性 補助金を活用する医療機関においては、地域医療構想調整会議での協議を経て実施することとしており、地域の実情に応じた効率的な事業の実施に取り組んでいる。	
その他	令和4年度：97,884 千円	

事業の区分	I-2 地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業	
事業名	【No. 3-2（医療分）】 統合支援給付金支給事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 78,660 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	尾三	
事業の実施主体	広島県の医療機関	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 □継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	中長期的な人口減少・高齢化の進行を見据えつつ、今般の新型コロナウイルス感染症への対応により顕在化した地域医療の課題への対応を含め、地域の実情に応じた質の高い効率的な医療提供体制の構築が必要	
	アウトカム指標： 令和4年度基金を活用して再編を行う医療機関及び病床機能毎の病床数（許可病床数） <div>医療機関数 2医療機関→1医療機関</div> <div>急性期病床 137床→102床</div> <div>回復期病床 48床→ 48床</div> <div>慢性期病床 50床→ 50床</div>	
事業の内容（当初計画）	複数の医療機関が、地域の関係者間の合意の上、地域医療構想に即した病床機能再編を実施し統合する場合、当該統合に参加する医療機関に対し、減少する病床数に応じた給付金を支給する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	対象となる医療機関数 2医療機関	
アウトプット指標（達成値）	対象となる医療機関数 2医療機関	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標： ・統合に伴う圏域で過剰な医療機能の病床の削減 <div>観察できた</div> <div>観察できなかった</div> <div>2医療機関の統合に伴い、急性期病床が137床から102床へ減少</div>	
	<div>（1）事業の有効性</div> <div>圏域で過剰とされている急性期病床を削減する医療機関に対し、給付金を支給することで、医療機関における病床削減の取組を支援することができた。</div> <div>（2）事業の効率性</div> <div>補助金を活用する医療機関においては、地域医療構想調整会議での協議を経て実施することとしており、地域の実情に応じた効率的な事業の実施に取り組んでいる。</div>	
その他	令和4年度：78,660 千円	

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【No. 4（医療分）】 ひろしまDMステーション構築事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 15,440 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	広島大学	
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>県内の中山間地域など、糖尿病診療拠点・中核病院が存在しない地域（以下「不在地域」という。）においては、糖尿病専門医や糖尿病療養指導のための医療スタッフがおらず、地域医療連携やチーム医療体制を構築することが困難な場合がある。このような不在地域への「人」の派遣や「人に代わる手段・ツール」の導入により、糖尿病診療を補完し療養指導を向上させ、県全域の糖尿病医療を均一化して糖尿病の重症化や合併症の発症を予防する必要がある。</p> <p>・新規人工透析患者数（人口10万人） 広島県 41.1（H27）⇒37.0（R3）⇒35.6（R5）</p> <p>・糖尿病による死亡率 広島県 全国15位（H29）⇒14位以内（R3）⇒10位以内（R5）</p>	
事業の内容（当初計画）	<p>不在地域において、IoTにより収集した詳細な患者情報を、かかりつけ医（非専門医）と広島大学内の「ひろしまDMステーション」との間で共有するための、ICTを活用した医療情報ネットワークシステムを構築する。</p> <p>その上で「ひろしまDMステーション」の専属医療スタッフから個々の患者に対して、生活習慣改善（管理栄養士による食事療法・理学療法士による運動療法）のための電話指導を実施する（遠隔医療）。また、不在地域のかかりつけ医に対して専属医療スタッフを定期的に派遣し、現地の医療スタッフへの具体的な療養指導方法の助言や協議を行う（デリバリー医療）。</p> <p>蓄積した患者情報と生活習慣介入の指導内容を「ひろしまDMステーション」において人口知能（AI）に学習させ、将来的に、AIが作成した患者個別の生活習慣改善プログラムを不在地域のかかりつけ医や医療スタッフへフィードバックすることによって、地域における“自給自足”・完結型の糖尿病医療体制を確立することを目指す。</p>	
アウトプット指標（当初の目標値）	<p>・IoTやICTを活用した遠隔医療による医療連携への参加 令和4年度：6施設以上 患者30名 令和5年度：6施設以上 患者30名以上</p> <p>・患者個別の生活習慣改善プログラムを作成可能なAIの開発</p>	
アウトプット指標（達成値）	<p>・令和4年度 遠隔医療・デリバリー医療の対象施設： 6施設（糖尿病患者数38名）</p> <p>・患者個別の生活習慣改善プログラムを作成可能なAIの開発：開発中。</p>	

事業の有効性・効率性	<p>事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：</p> <p>①新規人工透析患者数</p> <p>②糖尿病による死亡率</p> <p>観察できなかった</p> <p>観察できた</p> <p>①新規人工透析患者数（人口 10 万人）</p> <p>令和 3 年度：33.8</p> <p>②糖尿病による死亡率</p> <p>令和 4 年度：14.1（全国 22 位）</p> <p>（1）事業の有効性</p> <p>糖尿病医療過疎地域の 5 市町の 5 医療機関へ専属医療スタッフが定期的な訪問と電話による遠隔指導を試験的に実施。IoT や ICT を活用した医療情報ネットワークシステムを用い、生活習慣の遠隔指導を試験的に導入し、6 か月間の介入を実施。その結果を踏まえ、システムを改訂中であり、令和 4 年度以降に遠隔指導を実施する地域や医療機関を拡大する予定。令和 4 年度の実績において、新規人工透析患者数は目標を達成しているが、糖尿病による死亡率は目標を達成できておらず、原因としては、糖尿病総患者数の増加や高齢化が考えられ、本事業における遠隔医療・デリバリー医療の拡充により、高齢の糖尿病患者への生活習慣改善のための指導を充実させ、令和 5 年度までの目標達成を目指す。</p> <p>（2）事業の効率性</p> <p>令和 4 年度の実施内容は、患者個別の生活習慣改善プログラムを作成可能な AI の開発に資するものであり、効率的な事業展開が行われている。</p>
その他	令和 4 年度：15,440 千円

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【No. 5 (医療分)】 心不全患者包括ケアネットワーク連携支援事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 5,506 千円
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	広島大学病院心不全センター, 地域心臓いきいきセンター (安佐市民病院, 広島総合病院, 中国労災病院, 東広島医療センター, 尾道総合病院, 福山市民病院, 三次地区医療センター)	
事業の期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護 ニーズ	在宅支援体制に、新たに回復期を担う病院を加え、急性期病院から在宅支援施設まで有機的かつ効率的に連携できる体制を構築することで、増加が見込まれる心不全患者が退院後も安心して在宅療養を行える環境を整備し、生活の質を向上させる。	
	アウトカム指標： ・虚血性心疾患退院患者平均在院日数 6.0 日 (H26)→5.8 日 (R5) ・在宅等生活の場に復帰した患者の割合 95.5% (H26)→96.6% (R5)	
事業の内容 (当初計画)	・各圏域の地域心臓いきいきセンター (急性期病院) と回復期を担う病院との連携体制の構築 ・在宅支援施設に対するフォローアップ支援の実施 (症例検討会や研修会の実施)	
アウトプット指標 (当初の目標値)	・回復期を担う連携病院数 0 施設 (R3) → 16 施設 (2 施設×8 圏域) (R4) → 24 施設 (3 施設×8 圏域) (R5) ・心臓リハビリテーション指導士の認定者数 準備 (R3) → 8 名 (1 名×8 圏域) (R4) → 16 名 (2 名×8 圏域) (R5) ・心不全療養指導士の認定者数 準備 (R3) → 24 名 (3 名×8 圏域) (R4) → 32 名 (4 名×8 圏域) (R5)	
アウトプット指標 (達成値)	・回復期を担う連携病院数 28 施設 (R4) ・心臓リハビリテーション指導士の認定者数 152 名 (R4) ・心不全療養指導士の認定者数 117 名 (R4)	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： <u>観察できなかった</u> (理由) R4 年度は調査実施年ではないため。 (代替指標) 心不全死亡率の全国順位 (達成状況) R3 年度調査では全国順位 35 位に対し、R4 年度調査では 33 位と上昇しており、事業に一定程度効果があったものと見られる。 観察できた	

	<p>（１）事業の有効性</p> <p>在宅支援体制に新たに回復期を担う連携病院を加えることにより、今後増加が見込まれる心不全患者の急性期病院から在宅支援施設まで有機的かつ効率的に連携できる体制の整備に繋がっている。</p> <p>在宅支援施設に対するフォローアップ支援（症例検討会や研修会の実施）により、急性期病院～在宅支援施設の連携強化、支援内容の質の向上に繋がっている。</p> <p>直近年度の数値（R2）において、虚血性心疾患退院患者平均在院日数、在宅等生活の場に復帰した患者の割合は前回数値より低下していることから、事業の継続により、令和５年度までの目標達成を目指す。</p> <p>（２）事業の効率性</p> <p>事業実施は、広島大学病院心不全センターを中心に、各圏域の地域心臓いきいきセンターとともに心不全患者の在宅支援体制整備に取り組んでおり、効率的かつ効果的な事業展開が行われている。</p>
その他	令和４年度：5,506 千円

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【No. 6 (医療分)】 在宅歯科診療設備整備事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 2,365 千円
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	ささき歯科クリニック 他 11 歯科医療機関	
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護 ニーズ	高齢化の進展に伴い、在宅で療養生活を送る高齢者が増加し、在宅医療のニーズも増加が見込まれているため、在宅歯科診療等の専門的な機能を有した歯科医療機関を増加させる必要がある。	
	アウトカム指標： 訪問口腔衛生指導を実施している診療所・病院数 298 施設（令和元年度）→370 施設（令和5年度）	
事業の内容（当初計画）	在宅療養者への口腔ケア及び在宅介護者への歯科口腔保健指導に必要な歯科医療機器等の設備整備に対して補助する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	整備歯科医療機関数 12 施設	
アウトプット指標（達成値）	整備歯科医療機関数 12 施設	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標： <u>観察できた</u> 訪問口腔衛生指導を実施している診療所・病院数 255 施設（令和4年度）	
	<p>（1）事業の有効性 在宅歯科医療に必要な設備に対する補助を行うことで、今後増加が見込まれる在宅医療のニーズに対応可能な歯科医療機関の整備に繋がっている。</p> <p>（2）事業の効率性 事業実施は、県歯科医師会など関係団体の緊密な連携・協力の下で、効率的かつ効果的な事業展開が行われている。</p>	
その他	令和4年度：2,365 千円	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 7 (医療分)】 地域医療支援センター運営事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 74,084 千円
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	広島県	
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護 ニーズ	<p>県内では、若手医師の減少、医師の地域・診療科偏在、医療需要増加による医師不足が懸念されており、地域医療体制の維持を図るために人材育成や医師確保対策、医師の配置調整を行う必要がある。</p> <p>アウトカム指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内医療施設従事医師数（人口10万人対） 258.6人（H30）→ 264.6人以上（R4） ・ 過疎地域の医療施設従事医師数（人口10万人対） 195.1人（H30）→ 206.1人以上（R4） <p>※厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計（隔年実施）」による</p>	
事業の内容（当初計画）	<p>○医師確保や地域医療の支援に係る事業を行う</p> <p>①地域医療に携わる医師の確保 臨床研修病院の支援、地域卒医学生等を対象とした「地域医療セミナー」開催、県外医師・女性医師・ベテラン医師の就業支援、奨学金貸与医師・自治医大卒医師の配置調整 等</p> <p>②地域医療の環境整備 若手医師の研修研鑽支援 等</p> <p>③情報収集・情報発信 「ふるさとドクターネット広島」による県内外医師への情報発信 等</p> <p>④その他人件費、事務費等</p>	
アウトプット指標（当初の目標値）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師の派遣・斡旋 県内外からの就業斡旋数：5人以上 ・ 地域卒卒業医師のキャリア形成プログラム参加割合：9割以上 ・ 初期臨床研修医確保（マッチング）数：181人 	
アウトプット指標（達成値）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師派遣数・あっせん数 県内外からのあっせん数 10人 ・ 地域卒卒業医師数に対するキャリア形成プログラム参加医師数の割合 参加医師数の割合 100%（19/19人・初期臨床研修修了者） ・ 初期臨床研修医確保数 マッチング数 169人 	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標：</p> <p>①県内医療施設従事医師数（人口10万人対）</p> <p>②過疎地域の医療施設従事医師数（人口10万人対）</p> <p>観察できなかった</p> <p>観察できた → 指標：</p> <p>① 258.6人（H30）→ 267.6人（R2）</p> <p>② 195.1人（H30）→ 200.0人（R2）</p> <p>①、②共に増加がみられた。</p> <p>（理由）R4年度は調査実施年ではないため</p> <p>（代替的指標）ふるさとドクターネット広島登録者数</p>	

	<p>2,907人（R元）→2,993人（R4）</p> <p>（達成状況）登録者数は増加し、内訳では特に医師数が増加しており、本県の医療情報に関心がある医師等の獲得につながっている。</p>
	<p>（１）事業の有効性</p> <p>県内の医療提供体制の維持増進を図るための若手医師の確保を進める大きな役割を果たすとともに、就業の紹介・斡旋、県外からの誘致、地域医療の環境整備などの取組を展開し、県内医師の確保につながっている。</p> <p>アウトプット指標の初期臨床研修医のマッチング数が目標未達であった原因としては、広島大学病院のマッチ率が低水準となっており、大学病院は専門的かつ高度な症例が多く、幅広い診療能力を身につける場として選ばれにくくなっていることが推察される。</p> <p>大学病院においても、他病院と同様に基礎的な診療能力を習得できると、また県内連携病院でも幅広い研修が可能であることについて、ふるさとドクターネットを活用し、情報発信していく。</p> <p>アウトカム指標の目標値に順調に近づいており、過疎地域と都市部等との医師の地域偏在は、数値上でも改善の方向で確実に前進している。今後、地域卒卒業医師が増加していくことも踏まえて、引き続き、県内就業者の確保・定着に向けて取組を進める。</p> <p>（２）事業の効率性</p> <p>事業実施は、県、市町、広島大学、関係団体により構成する公益団体（公広島県地域保健医療推進機構）であり、関係団体の緊密な連携・協力の下で、効率的かつ効果的な事業展開が行われている。</p>
その他	令和4年度：74,084千円

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 8（医療分）】 産科医等確保支援事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 72,996 千円
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	土谷総合病院 他	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護 ニーズ	<p>過酷な勤務環境にある産科・産婦人科医師等が減少している現状に鑑み、産科医療機関が支給している分娩手当や、後期臨床研修医に支給する手当に対し助成することで、地域でお産を支える産科医等の処遇を改善し、将来の産科医療を担う医師の育成・確保を図るとともに、地域の周産期を支援する。</p> <p>アウトカム指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手当支給施設の産科・産婦人科医師数 406 人（R4）→ 昨年より増 ・ 分娩 1000 件当たりの分娩取扱医療機関勤務産婦人科医師数（※） 21.77 人（R4）→ 昨年より増 <p>※支給分娩取扱医療機関勤務産婦人科医師数 手当支給者数 406 人／支給分娩取扱件数 18,648 件（R4） 分娩取扱医療機関勤務産婦人科医師数についての正確なデータがないため、 H30 支給対象医療機関の実績をもとに作成している。</p>	
事業の内容（当初計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周産期母子医療センターや民間の分娩取扱期間の産科医・助産師に対して、分娩手当の一部を補助 ・ 臨床研修終了後の専門的な研修において、産科を選択する医師に対し、後期臨床研修医手当を支給する医療機関に手当の一部を補助 ・ 診療報酬の対象となる NICU の新生児担当医に新生児医療手当を支給する医療機関に対し、手当の一部を補助 	
アウトプット指標（当初の目標値）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手当支給者数 370 人（R3）→ 現状値を維持 ・ 手当支給施設数 45 施設 → 42 施設（R3） 	
アウトプット指標（達成値）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手当支給者数 370 人（R3）→ 406 人（R4） ・ 手当支給施設数 42 施設（R3）→ 42 施設（R4） 	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：</p> <p>① 手当支給施設の産科・産婦人科医師数 ② 分娩 1000 件当たりの分娩取扱医療機関勤務産婦人科医師数 観察できなかった <u>観察できた</u> → 指標：</p> <p>① 370 人（R3）→ 406 人（R4） ② 19.99 人（R3）→ 21.77 人（R4）</p> <p>（1）事業の有効性 分娩取扱医療施設が減少し、手当支給施設数は減少しているが、手当支給者数は増加しており、過酷な環境で働く産科医・助産師が働き続けるための一定の効果がみられる。また後期臨床研修医手当の補助及び新生児医療手当の一部補助を行っており地域の周産期医療を支援している。</p> <p>（2）事業の効率性 県からの照会に対し、申請をした病院に対して補助を行っており、手当支</p>	

	給施設における産科，産婦人科医師数は減少しているものの，分娩 1000 件当たりの医師数は増加しており，必要なところに効率的な執行ができたもの と考える。
その他	令和 4 年度：72,996 千円

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 9（医療分）】 女性医師等就労環境整備事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 58,062 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	医療機関	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	女性医師の復職支援や離職防止策を強化することにより、将来的な医師不足の解消を図ることができる。	
	アウトカム指標： 県内地域医療に携わる女性医師数 1,460人（H30）→ 1,601人（R2）：現時点未確定 ※厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計（隔年実施）」による	
事業の内容（当初計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・女性医師等短時間正規雇用導入支援事業 女性医師等の離職防止・復職支援のため、短時間正規雇用制度を医療機関が導入し、短時間正規雇用の勤務形態により女性医師等を雇用。 ・ベビーシッター等活用支援事業 ベビーシッターやファミリーサポートセンター等を活用した女性医師等に対し、その経費の一部を助成（保育所除く）する。 ・宿直等代替職員活用支援事業 育児・介護中の女性医師等の宿直・休日勤務を免除し、当該医師の代わりに非常勤勤務医師を宿直勤務させる。 ・復職研修支援事業 育児のために離職し、再就業に不安を抱える女性医師等を対象として、指導医のもとで復職研修受入を行う。 ・保育サポーターバンク事業 女性医師等の育児による離職防止のため、急な呼び出し時の預かり等医師特有のニーズに対応可能な保育サポーターを確保し、派遣する。 	
アウトプット指標（当初の目標値）	<ul style="list-style-type: none"> ・女性医師短時間正規雇用導入支援事業：申請医療機関数 28 機関 ・ベビーシッター等活用支援事業：申請医療機関数 1 機関 ・宿直代替職員活用支援事業：申請医療機関数 25 機関 ・復職研修支援事業：申請医療機関数 2 機関 ・保育サポーターバンク事業：1 機関 	
アウトプット指標（達成値）	<ul style="list-style-type: none"> ・女性医師短時間正規雇用導入支援事業： 23 機関 ・ベビーシッター等活用支援事業： 0 機関 ・宿直代替職員活用支援事業： 20 機関 ・保育サポーターバンク事業：1 機関 	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標： 県内地域医療に携わる女性医師数 観察できなかった 観察できた （理由）現時点未確定のため （代替的指標） 事業実施機関数 延べ42 医療機関（R3） → 延べ44 医療機関（R4）	
	（1）事業の有効性	

	<p>ア 女性医師短時間正規雇用制度を導入している医療機関が一定数あり、当初の見込みから対象となる医師数が減少したものの、出産、育児等で休職、退職せざるを得なかった女性医師等を医療の現場に繋ぎ止める一定の効果が認められる。</p> <p>イ 保育サポーターが女性医師等に代わって子供の保育園等の送迎や子供の預かりをすることで、女性医師等が早退等せず業務を継続することができ、子育て環境の向上に繋がっていると認められる。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>ア 事業を希望する全ての病院に対して補助を行っており、必要なところに効率的な執行ができたものとする。</p> <p>イ 事業の使用を希望する医師と保育サポーターとのマッチングが成立し、効率的に医師の就労支援を行うことができたものとする。</p>
その他	令和4年度：58,062 千円

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 10（医療分）】 小児救急医療確保対策事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 177,194 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	医療機関	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニ ーズ	休日・夜間の病院への軽症小児患者が集中すること等から、小児科医等 の負担が増大しており、適切な小児救急医療体制の確保を図ることが困難 な状況がある。	
	アウトカム指標： 県内小児科医師数（小児人口10万人対） 101.2人（H30）→ 全国平均値108.6人以上 ※厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査（隔年実施）」による	
事業の内容（当初計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休日・夜間の当番日に小児科医が当直し、受入体制を確保すること に対する補助 ・ 24時間体制で小児救急患者を受け入れる医療機関に補助 	
アウトプット指標（当初の目 標値）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小児救急医療支援事業：補助者数3市の維持 ・ 小児救急医療拠点病院運営事業：4機関の維持 	
アウトプット指標（達成値）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小児救急医療支援事業：補助者数4市 ・ 小児救急医療拠点病院運営事業：4機関 	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標： 県内小児科医師数（小児人口10万人対） 102.7人（R2） 観察できなかった 観察できた （理由）R4年度は調査実施年ではないため。 （代替的指標）幼児死亡率（人口動態統計年報）※人口千対 0.36（R3）→0.25（R4） 小児死亡率（人口動態統計年報）※人口千対 0.15（R3）→0.15（R4） ○幼児死亡率は減少、小児死亡率は前年度率を維持しており、事業に一 定程度効果があったものと見られる。	
	（1）事業の有効性 小児二次救急医療体制を整備した医療機関に対し、運営費の支援を行 ったことにより、重症小児救急患者の受入体制の確保につながった。 （2）事業の効率性 小児二次救急医療体制を整備した医療機関に対し、運営費の支援を行 ったことにより、重症小児救急患者の受入体制を安定的に確保するこ とができたものとする。	
その他	令和4年度：177,194 千円	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 11（医療分）】 小児救急医療電話相談事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 25,256 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	広島県	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	救急搬送人員に占める軽症患者の割合（18歳未満）が多く、小児科医の負担が増しており、適切な小児救急医療体制の確保を図る必要がある。	
	アウトカム指標： 救急搬送人員に占める軽症患者の割合（18歳未満） 68.3%（R1）→ 68.3%以下（R4見込み）	
事業の内容（当初計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・小児救急電話相談協議会の運営及び環境整備 ・小児救急電話相談事業の委託，システム保守 	
アウトプット指標（当初の目標値）	小児救急医療電話相談件数 21,000件（R4見込）	
アウトプット指標（達成値）	小児救急医療電話相談件数 22,821件（R4実績）	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標：66.2%（R3） 救急搬送人員に占める軽症患者の割合（18歳未満） 観察できなかった 観察できた ○アウトカム指標である68.3%以下を維持できている。	
	（1）事業の有効性 保護者の不安軽減，不要な受診を抑制することにより，小児科医の負担軽減が図られ，適切な小児救急医療体制の確保につながった。 （2）事業の効率性 小児救急医療電話相談事業を実施することにより，救急搬送人員に占める軽症患者の割合（18歳未満）は指標以下を維持できているが，引き続き制度周知や対応者の質向上などに取り組む必要がある。	
その他	令和4年度：25,256千円	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 12（医療分）】 広島県医師育成奨学金貸付金事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 199,400 千円
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	広島県	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護 ニーズ	<p>県内では、若手医師の減少、医師の地域・診療科偏在、医療需要増加による医師不足が懸念されており、地域医療体制の維持を図るために人材育成を行う必要がある。</p> <p>アウトカム指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内医療施設従事医師数（人口10万人対） 258.6人（H30）→264.6人以上（R4） ・過疎地域の医療施設従事医師数（人口10万人対） 195.1人（H30）→206.1人以上（R4） <p>※厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計（隔年実施）」による</p>	
事業の内容（当初計画）	<p>医学部学生等に奨学金を貸与し、返済を免じる代わりに、一定期間以上を医師が不足する過疎地域（又は特定診療科）に勤務する条件を課すことで、地域医療に従事する医師を確保し、地域偏在等の解消を図る。</p>	
アウトプット指標（当初の目標値）	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修医確保（マッチング）数：181人 ・地域卒卒業医師のキャリア形成プログラムの策定数及び履行率： 27診療科（要件履行に係る任意猶予期間の者を除いた履行率：100%） ・貸与学生数（地域枠：114名、一般募集：14名） 	
アウトプット指標（達成値）	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修医確保数（マッチング）数：178人 ・地域卒卒業医師のキャリア形成プログラムの策定数及び履行率： 28診療科（要件履行に係る任意猶予期間の者を除いた履行率：100%） ・貸与学生数（地域枠：115名、一般枠：14名） 	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標：</p> <p>①県内医療施設従事医師数（人口10万人対） ②過疎地域の医療施設従事医師数（人口10万人対） <u>観察できなかった</u></p> <p>観察できた → 指標：</p> <p>① 258.6人（H30）→267.6人（R2） ② 195.1人（H30）→200.0人（R2） ①，②共に増加がみられた</p> <p>※ R4医師数についてR5年12月現在国未公表のため検証不可 R5年度中に公表予定 （代替的指標）ふるさとドクターネット広島登録者数 2,969人（R3）→3,174人（R4） （達成状況）登録者数は増加しており、本県の医療情報に関心がある医師や医学生等の獲得につながっている。</p> <p>（1）事業の有効性 本県出身等の医学生に対して、勤務条件を付した奨学金貸与を行うことで、将来、地域医療に従事する医師を確保し、医師不足の解消を図る直接的</p>	

	<p>な取組・制度であり、令和３年度では、地域卒卒業医師（臨床研修修了者）のうち半数近く（30名）が過疎地域での勤務を行っており、今後も、育成した医師が、順次、県内各地で活躍することが期待される。</p> <p>アウトプット指標の初期臨床研修医のマッチング数が目標未達であった原因としては、広島大学病院のマッチ率が低水準となっており、大学病院は専門的かつ高度な症例が多く、幅広い診療能力を身につける場として選ばれにくくなっていることが推察される。</p> <p>大学病院においても、他病院と同様に基礎的な診療能力を習得できること、また県内連携病院でも幅広い研修が可能であることについて、ふるさとドクターネットを活用し、情報発信していく。</p> <p>アウトカム指標の目標値に順調に近づいており、過疎地域と都市部等との医師の地域偏在は、数値上でも改善の方向で確実に前進しており、引き続き、奨学金制度による医師育成の取組を進めていく。</p> <p>（２）事業の効率性</p> <p>地域医療に従事する人材確保の取組として、対象を特定しつつ育成・支援を合わせて展開することができ、個々人に応じたきめ細やかな対応が可能であることから、効率的な取組につながっている。</p>
その他	令和４年度：199,400 千円

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 13（医療分）】 広島大学医学部寄附講座運営事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 40,000 千円
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	広島大学	
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護 ニーズ	<p>地域医療構想に基づく病床機能の分化・連携を進めるための地域の受け皿として、居宅等で必要な医療が受けられる環境構築や、高齢化や過疎化の進展等による在宅医療ニーズの高まりに対応するため、地域における医療提供・連携体制の確保と、それを担う人材育成を進めていく必要がある。</p> <p>アウトカム指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内医療施設従事医師数（人口10万人対） 258.6人（H30）→ 264.6人以上（R4） ・ 過疎地域の医療施設従事医師数（人口10万人対） 195.1人（H30）→ 206.1人以上（R4） <p>※厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計（隔年実施）」による</p>	
事業の内容（当初計画）	<p>住み慣れた地域での在宅生活が維持され、必要な医療が受けられる体制構築と人材育成を推進するため、広島大学医学部に寄附講座を設置し、医療過疎地において特に求められる「総合医」の知識・技能を学ぶ機会を提供し、在宅医療等の医療ニーズに対応する医師の育成と資質向上・定着促進を図るとともに、診療応援を通じた在宅医療を担う医療機関への支援の実施や、患者家族を支える関係機関のネットワーク化を図る。</p>	
アウトプット指標（当初の目標値）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修医確保数（マッチング数：181人） ・ 広島大学医学部地域医療システム学講座の開講（R4.4～R5.3） 	
アウトプット指標（達成値）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修医確保数 マッチング数 169人（R4） ・ 広島大学医学部地域医療システム学講座の開講（R4.4～R5.3） 	
事業の有効性・効率性	<p>①県内医療施設従事医師数（人口10万人対） ②過疎地域の医療施設従事医師数（人口10万人対） 観察できなかった 観察できた → 指標：</p> <p>① 258.6人（H30）→ 267.6人（R2） ② 195.1人（H30）→ 200.1人（R2） ①，②共に増加がみられた ※ R4医師数についてR5年12月現在国未公表のため検証不可 R5年度中に公表予定 ②（代替的指標）ふるさとドクターネット広島登録者数 2,969人（R3）→3,174人（R4） （達成状況）登録者数は増加しており、本県の医療情報に関心がある医師や医学生等の獲得につながっている。</p> <p>（1）事業の有効性 広島大学医学部に寄附講座を設置し、医療過疎地において特に求められる「総合医」の知識・技能を学ぶ機会を提供し、在宅医療等の医療ニーズに対応する医師の育成と資質向上・定着促進等を図る取組であり、令和3年</p>	

	<p>度においては18名が新たに入学し、地域医療実習などを通じて地域医療マインドを学んでいるところであり、今後も、育成した医師が、順次、県内各地で活躍することが期待される。</p> <p>アウトプット指標の初期臨床研修医のマッチング数が目標未達であった原因としては、広島大学病院のマッチ率が低水準となっており、大学病院は専門的かつ高度な症例が多く、幅広い診療能力を身につける場として選ばれにくくなっていることが推察される。</p> <p>大学病院においても、他病院と同様に基礎的な診療能力を習得できること、また県内連携病院でも幅広い研修が可能であることについて、ふるさとドクターネットを活用し、情報発信していく。</p> <p>アウトカム指標の目標値に順調に近づいており、過疎地域と都市部等との医師の地域偏在は、数値上でも改善の方向で確実に前進しており、引き続き、本寄附講座による医師育成の取組を進めていく。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>地域医療に従事する人材確保の取組として、対象を特定しつつ育成・支援を合わせて展開することができ、個々人に応じたきめ細やかな対応が可能であることから、効率的な取組につながっている。</p>
その他	令和4年度：40,000千円

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 14（医療分）】 包括的過疎地域医師育成・活躍支援システム整備事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 8,694 千円
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方独立行政法人広島市立病院機構（安佐市民病院） ・ 地域医療連携推進法人備北メディカルネットワーク（三次中央病院 外） ・ 福山市（福山市民病院） ・ JA 尾道総合病院 	
事業の期間	令和 4 年 4 月 1 日 ～ 令和 5 年 3 月 31 日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護 ニーズ	医師が都市部に集中する地域偏在を解消し、過疎地域においても安心して 必要な医療が受けられる医療提供体制の確保が必要。	
	アウトカム指標： 過疎地域の医療施設従事医師数（人口 10 万人対） 195.1 人（H30）→ 206.1 人以上（R4） ※厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計（隔年実施）」による	
事業の内容（当初計画）	中核的なへき地医療拠点病院等を中心とした広域的ネットワークを形成 し、過疎地域において勤務する医師への研鑽支援等による定着促進や医療提 供体制の確保を図る。 ・ 医師の研修研鑽支援（研修機会提供，診療相談，代診医等派遣調整 等） ・ 支援環境・体制の整備（関係者会議の開催 等）	
アウトプット指標（当初 の目標値）	研鑽支援等への参加及び協力医師数（延数）900 人以上	
アウトプット指標（達成 値）	研鑽支援等への参加及び協力医師数（延数）2,703 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 過疎地域の医療施設従事医師数（人口 10 万人対） 観察できなかった 観察できた → 指標： 195.1 人（H30）→ 200.0 人（R2） 4.9 人の増加がみられた。 ※ R4 医師数について R5 年 12 月現在国未公表のため検証不可 R5 年度中に公表予定 （代替的指標）ふるさとドクターネット広島登録者数 2,969 人（R 3）→3,174 人（R 4） （達成状況）登録者数は増加しており，本県の医療情報に関心がある医師や 医学生等の獲得につながっている。	
	（1）事業の有効性 中核的へき地医療拠点病院を中心とした広域的ネットワーク体制の下で 研修機会等の提供がなされるとともに，当事者意見を踏まえた実施内容の 検討・実施により，効果的な事業実施が図られた。 アウトカム指標の目標値に順調に近づいており，過疎地域と都市部等と の医師の地域偏在は，数値上でも改善の方向で確実に前進しており，引き続	

	<p>き，過疎地域における医療提供体制の維持増進に向けた仕組みづくりへの支援等を進める。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>広域的ネットワークによる地域の関係機関が連携・協力した体制で進められたことから，地域ぐるみによる事業の円滑化及び効率化が図られた。</p>
その他	令和4年度：8,694 千円

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 15（医療分）】 県東部小児二次救急医療体制確保事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 10,000 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	尾三、福山・府中	
事業の実施主体	岡山大学	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニ ーズ	<p>小児科医師不足により県東部地域の小児二次救急医療提供体制の維持が困難となる恐れがあることから、寄付講座を設置することにより、地域的偏在の解消を図り、小児二次救急医療提供体制の確保を図る必要がある。</p> <p>アウトカム指標： 福山・府中圏域の小児科医師数（小児人口10万人対） 68.8人（H28）→95.6人（R4） ※厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査（隔年実施）」による</p>	
事業の内容（当初計画）	小児科医師不足による県東部地域の小児二次救急医療提供体制の維持を図るため、岡山大学医学部に寄付講座を設置し、講座の教員が、拠点となる医療機関において地域医療研究を行いながら、診療現場に参画することで、小児二次救急医療提供体制を確保する。	
アウトプット指標（当初の目 標値）	岡山大学医学部寄附講座の設置（R4.4～R5.3）	
アウトプット指標（達成値）	岡山大学医学部寄附講座の設置（R4.4～R5.3）	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標： 福山・府中圏域の小児科医師数（小児人口10万人対） 観察できなかった 観察できた 68.8人（H28）→81.0人（R2） 12.2人の増加がみられた。 ※ R4医師数についてR5年12月現在国未公表のため検証不可 R5年度中に公表予定 （代替的指標）ふるさとドクターネット広島登録者数 2,969人（R3）→3,174人（R4） （達成状況）登録者数は増加しており、本県の医療情報に関心がある医師や医学生等の獲得につながっている。</p>	
	<p>（1）事業の有効性 岡山大学内に寄附講座を設置し、講座の医師が福山・府中圏域の診療現場への参画を行うことにより当該圏域の小児二次救急医療提供体制の確保につながった。</p> <p>（2）事業の効率性 寄附講座の医師が診療参画をしながら、当該地域医療の研究を行うことにより、より小児二次救急医療体制の確保に向けた対応が図られた。</p>	
その他	令和4年度：10,000 千円	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 16（医療分）】 総合診療専門医確保・育成事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 811 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	広島県	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者の増加が見込まれる中、幅広い領域の疾患を総合的に診ることができ、患者が地域で生活するために必要な医療を提供することのできる総合診療医の確保が必要	
	アウトカム指標： 総合診療専門研修プログラム 専攻医師数 5名（令和4年度）	
事業の内容（当初計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・研修医、医学部生に総合診療医のやりがい等を伝えるセミナーの開催 ・県内指導体制の充実に向けた指導医同士の意見交換会の開催や研修プログラム実施医療機関の指導環境の充実に向けた支援 	
アウトプット指標（当初の目標値）	・セミナー参加者数 50名	
アウトプット指標（達成値）	・セミナー参加者数 41名	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標： 観察できなかった <input checked="" type="checkbox"/> 観察できた → 総合診療専門研修プログラム専攻医師数 10名（R5）	
	（1）事業の有効性 研修医、医学部生対し、県内総合診療医のロールモデルの紹介や意見交換等を行うセミナーを実施することにより、若手医師が総合診療に興味をもつきっかけづくりに取り組んでおり、総合診療専門医プログラムの選択につながっている。 また、指導医同士の意見交換会の実施、指導機関への支援により指導体制の質の向上に取り組んでいる。	
	（2）事業の効率性 セミナー等の実施により、若手医師や指導医といった現場ニーズを把握しながら、総合診療医の確保につながる取組を実施できている。	
その他	令和4年度：811千円	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 17（医療分）】 看護職員の資質向上支援事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 7,548 千円
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	広島県	
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護 ニーズ	<p>患者ニーズの多様化やチーム医療の推進、在宅医療への転換等に伴い、高度な専門知識と技術を持った看護師が必要とされている。</p> <p>アウトカム指標： 特定行為研修修了者数（総数） 54人（R2）→72人（R3）→150人（R7見込み） 認定看護師数 567人（R3）→前年より増（R7まで毎年度）</p>	
事業の内容（当初計画）	看護職員の資質向上を図るため、県内の病院等に対して、特定行為研修受講及び認定看護師教育機関への派遣に対する支援を行うとともに、特定行為研修制度の普及を促進する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	<ul style="list-style-type: none"> ・特定行為研修機関派遣支援 受講料助成18人、代替職員人件費助成6人 ・認定看護師教育機関派遣支援 受講料助成10人（うち5人は感染管理分野）、代替職員人件費助成2人 	
アウトプット指標（達成値）	<ul style="list-style-type: none"> ・特定行為研修機関派遣支援 受講料助成18人、代替職員人件費助成6人 ・認定看護師教育機関派遣支援 受講料助成（3人）、代替職員人件費助成（1人） <p>※（）認定B課程のため特定行為再掲数</p>	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標： 特定行為研修修了者数、認定看護師数 観察できなかった <u>観察できた</u> → 特定行為研修修了者数 75人（R4）R3+3増 認定看護師数 576人（R4.12）R3+9増</p> <p>（1）事業の有効性 新型コロナの影響により、医療機関からの研修受講が困難な中、アウトプット指標は下回っているものの、着実に研修修了者は増加している。専門的な知識を活かし、自ら質の高い看護を実践するとともに、周囲の看護職員の指導・相談等に対応している認定看護師へのキャリアアップを支援することにより、看護人材の離職防止・定着促進が図られている。</p> <p>（2）事業の効率性 本事業があることで、医療機関からの派遣を行うという意見も聞かれており、事業継続は必須である。今後の有効な活用を促進するため、新型コロナの影響を考慮しつつ、特定行為研修・認定看護師研修制度や研修派遣事業についてオンラインによる説明会を計画する。</p>	

その他	令和4年度：7,548千円
-----	---------------

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 18 (医療分)】 ナースセンター事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 36,603 千円
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	広島県	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護 ニーズ	今後増加が見込まれる医療ニーズに対応するには、潜在看護職員の再就業を促進する必要がある。	
	アウトカム指標： ナースセンターにおける再就業者数 843 人 (※広島県ナースセンター「無料職業紹介事業」実績)	
事業の内容 (当初計画)	<p>① 離職者支援事業</p> <p>届出制度に伴う情報把握や支援体制の強化のための事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナースセンターサテライト福山の運営 ・県内市町へのナースセンター相談員による出張就業相談・再就業セミナー ・就業相談会 ・早期離職者に対するカフェの開催 ・ナースセンター情報管理システムによる個別カルテの管理及び届出者への研修等情報提供 <p>② 復職支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護技術に関する事前研修の実施 ・病院及び訪問看護 ST での実践研修の実施 ・シミュレーター技術研修 ・中小医療機関における再就業定着促進の支援 <p>③ 看護職員確保対策調査事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護職員の働く職場環境に関する実態調査 ・看護職員離職者実態調査 <p>④ 無料職業紹介相談事業 (※財源：その他 (C) 16,459 千円、県一般財源のみ)</p>	
アウトプット指標 (当初 の目標値)	<p>① 県ナースセンター無料職業紹介再就業者数：843 人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町への出張就業相談及びセミナー (広島市 3 会場 4 回、他市町は希望により各 1 会場 1～2 回) ・早期離職者対象カフェ (カフェ：7 市 8 か所×2 回実施、ミニカフェ：広島市×4 回、他希望市町) ・就業相談会 (広島市会場、福山市会場) ・情報管理システムへの情報の蓄積 <p>② 事前研修 3 回開催、テーマ別研修</p>	
アウトプット指標 (達成 値)	<p>① ・県ナースセンター無料職業紹介再就業者数：1,505 人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町への出張就業相談及びセミナー (出張就業相談：広島市 3 会場 14 回及び 7 市 5 町 11 回、セミナー：8 市 9 回) ・早期離職者対象カフェ (子育て中のナースカフェ：7 市 8 か所計 16 回実施、お休みナースカフェ：広島市 7 回、5 市 5 回) ・就業相談会 (広島会場 2 回、福山会場 2 回) ・情報管理システムへの情報の蓄積 <p>② 事前研修 (3 日間コース×2 回、1 日コース×6 回)</p>	

事業の有効性・効率性	<p>事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：</p> <p>医療施設従事看護職員数</p> <p>観察できなかった</p> <p>観察できた → ナースセンターにおける再就業者数：1,505 人（R4）</p> <p>（１）事業の有効性</p> <p>離職者に対するカフェや市町での出張就業相談を実施し，再就業者増加に取り組んだ結果，ナースバンク登録者の再就業者数は 1,505 人となった。 （前年度比 1,161 人減，新型コロナウイルス関連の臨時就業者の減）</p> <p>（２）事業の効率性</p> <p>（公社）広島県看護協会と連携・協力して，各種の事業を看護職員の実態に合わせて効率的に実施することができた。</p>
その他	令和 4 年度：36,603 千円

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 19（医療分）】 看護師等養成所運営費補助金	【総事業費 （計画期間の総額）】 151,199 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	広島県	
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニ ーズ	<p>医療・介護需要の増加が見込まれる中、看護教育の充実を図ることにより、看護職員を安定的に確保していく必要がある。</p> <p>アウトカム指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療施設従事看護職員数 42,904 人（H28）→ 45,276 人（R5） ※保健師助産師看護師法（第 33 条）に基づく業務従事者届（隔年実施）による ・補助対象施設の県内就業率 91.1%（H29）→ 90%以上 	
事業の内容（当初計画）	看護教育の充実を図るため、看護師等養成所に対し運営費を補助する。	
アウトプット指標（当初の目 標値）	看護師等養成所運営費の補助（県内 18 課程）	
アウトプット指標（達成値）	看護師等養成所運営費の補助（県内 18 課程）	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：</p> <p>①医療施設従事看護職員数 ②補助対象施設の県内就業率 観察できなかった → 指標②：90.7%（R04） H30 の県内就業率 90.7 と比較し、増減は見られなかった。 観察できた → 指標①：44,944 人（R4 暫定値） H30 年 12 月末現在の医療施設従事看護職員数 44,184 人から 760 人の増となっている。</p> <p>（1）事業の有効性 看護師等養成所の運営費に対し補助を行うことで、看護職員の確保及び資質向上に寄与した。</p> <p>（2）事業の効率性 補助対象の看護師等養成所は高い県内就業率を保持しており、効率的な看護職員確保につながっている。</p>	
その他	令和4年度：151,199 千円	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 20（医療分）】 看護職員キャリア支援事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 46,867 千円
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	広島県、医療機関	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護 ニーズ	<p>新人看護職員は、養成所で学んだ知識と臨床の場で求められる高い実践能力とのギャップによりリアリティショックの問題に悩みがちであり、適切なフォローがなされないと、知識や技術の問題を抱えたまま早期離職につながりやすい。</p> <p>新人期以降も含めた看護職員の看護教育とキャリア形成を総合的に促進し、看護の質の向上と早期離職防止を図る必要がある。</p> <p>アウトカム指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療施設従事看護職員数 ※厚生労働省「衛生行政報告例（隔年調査）」による 44,184 人（H30）→ 45,276 人（R5） ・離職率 9.9%（H29）→ 9.4%（R5） 	
事業の内容（当初計画）	<p>① 新人看護職員研修及び他施設からの受入研修実施病院への補助</p> <p>② 教育指導者研修の実施（対象：研修責任者、教育担当者、実地指導者）</p> <p>③ 集合研修の実施（対象：小規模病院の新人及び採用2～3年目の看護職員）</p> <p>④ 看護職員キャリア支援ワーキンググループの開催</p>	
アウトプット指標（当初の目標値）	<p>① 新人看護職員研修及び他施設からの受入研修実施病院への補助（80施設）</p> <p>② 教育指導者研修の実施（研修責任者1回：50人、教育担当者2回：90人、実地指導者2回：90人、シミュレーター指導者育成2回：20人実施）</p> <p>③ 集合研修の実施（新人ナース研修14回：410人・フォローアップ5回：220人 新人助産師研修6回：120人）※研修は最大キャパを記載、9割以上目標</p> <p>④ 看護職員キャリア支援ワーキンググループの開催（年1回）</p>	
アウトプット指標（達成値）	<p>① 新人看護職員研修及び他施設からの受入研修実施病院への補助（実施74、受入5施設）</p> <p>② 教育指導者研修の実施（研修責任者1回：47施設、教育担当者2回：70施設、実地指導者2回：80施設）</p> <p>③ 集合研修の実施（新人ナース研修7回：429人、フォローアップ4回：198人、新人助産師研修6回：113人）※延べ人数</p> <p>④ 看護職員キャリア支援ワーキンググループの開催（年1回）</p>	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標：</p> <p>①医療施設従事看護職員数</p> <p>②離職率</p> <p>観察できなかった 観察できた → ①44,944 人（R4 暫定値） H30 年 12 月末現在の医療施設従事看護職員数 44,184 人から 760 人の増となっている。 → ②9.9%（R4 年度調査）</p>	
	<p>（1）事業の有効性 看護職員養成の充実・強化により、看護実践能力の高い看護職員を養成することができ、新人期の研修体制の整備や中堅職員、看護管理者も含めた総合的なキャリア形成に向けた支援・研修を実施することで、離職防止となり、医療施設従事看護職員数の減少に歯止めをかけることにつながった。</p> <p>（2）事業の効率性 （公社）広島県看護協会、各医療機関の看護管理者等と連携・協力して、各種の事業を看護職員の実態に合わせて効率的に実施することができた。</p>	

	<p>アウトプット指標については、若干下回っているが、これについては、新型コロナウイルスの影響により、医療機関からの研修受講や研修受入が減少したことが要因として考えられる。新型コロナ5類移行後、研修受講数や受入数が回復してきている。</p>
その他	令和4年度：46,867 千円

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 21（医療分）】 院内保育所支援事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 93,091 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	広島県	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>医療・介護需要の増加が見込まれる中、看護職員を安定的に確保していく必要がある。</p> <p>アウトカム指標： 医療施設従事看護職員数 44,184 人（H30）→ 45,276 人（R5） ※厚生労働省「衛生行政報告例（隔年調査）」による ・離職率 9.9%（H29）→9.4%（R5）</p>	
事業の内容（当初計画）	看護職員の離職防止及び潜在看護職員の再就業促進のため、院内保育所の運営費及び新築等の費用を補助する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	院内保育所運営費補助 44 施設	
アウトプット指標（達成値）	院内保育所運営費補助 46 施設	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標：</p> <p>①医療施設従事看護職員数 ②離職率 観察できなかった <u>観察できた</u> →①44,944 人（R4 暫定値） H30 年 12 月末現在の医療施設従事看護職員数 44,184 人から 760 人の増となっている。 →②9.9%（R4 年度調査）</p>	
	<p>（1）事業の有効性 院内保育所の運営費に対し補助を行うことで、看護職員の離職防止及び潜在看護職員の再就業促進につながった。</p> <p>（2）事業の効率性 保育士数、園児数に応じた補助や、24 時間保育や休日保育等、医療機関の働き方の特性に合わせた加算を行うことにより、効率的な支援を実施している。</p>	
その他	令和4年度：93,091 千円	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 22（医療分）】 看護学校教育環境整備事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 11,151 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	広島県	
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニ ーズ	<p>医療・介護需要の増加が見込まれる中、社会人向け看護学校入学説明会を開催し、地域の医療を担う看護職員を新たに確保していく必要がある。また、福山市は県境に位置し、他県に就業する者が比較的多いことから、就職セミナーの開催等により、看護職員を安定的に確保していく必要がある。</p> <p>アウトカム指標： 医療施設従事看護職員数 42,904 人（H28）→ 45,276 人（R5） ※保健師助産師看護師法（第 33 条）に基づく業務従事者届（隔年実施）による</p>	
事業の内容（当初計画）	社会人向け入学説明会，看護学生向け就職セミナー	
アウトプット指標（当初の目 標値）	入学説明会開催（2回），就職セミナー開催（1回）	
アウトプット指標（達成値）	セミナー開催：新型コロナウイルスの影響によりオンライン開催	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標： 医療施設従事看護職員数 観察できなかった <u>観察できた</u> → 指標：44,944 人（R4 暫定値） H30 年 12 月末現在の医療施設従事看護職員数 44,184 人から 760 人の増となっている。</p>	
	<p>（1）事業の有効性 新型コロナウイルス禍の開催であったが、地域における看護師養成所の情報を提供することで、看護職員の安定的な確保につながる環境を整えることができた。</p> <p>（2）事業の効率性 新型コロナウイルスの影響があったが、オンライン開催とすることで、効率的に最低限の情報を提供することができた。</p>	
その他	令和4年度：11,151 千円	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 23（医療分）】 医療勤務環境改善支援センター事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 9,811 千円
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	広島県	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護 ニーズ	<p>労務管理面のみならず、ワーク・ライフ・バランスなどの幅広い視点を視野に入れた医療機関の勤務環境の改善は、医療の質の向上、医療従事者の離職防止・定着など経営安定化の観点からも喫緊の課題となっている。</p> <p>アウトカム指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内医療施設従事医師数（人口10万人対） 258.6人（H30）→264.6人以上（R4） ※医師法（第6条第3項）及び歯科医師法（第6条第3項）に基づく三師届（隔年実施）による ・医療施設従事看護職員数 44,184人（H30）→45,276人（R5） ※保健師助産師看護師法（第33条）に基づく業務従事者届（隔年実施）による 	
事業の内容（当初計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・センターの運営 講習会の案内、医業経営アドバイザーの派遣調整、勤務環境改善事例の提供及び関係機関とのハブ機能 ・セミナーの開催 勤務環境改善に係る取組事例の講演、計画づくり演習等 ・医業経営アドバイザーの派遣 勤務環境改善事例や計画策定済病院の取組状況の紹介、補助金・診療報酬加算など、計画策定のアドバイス ・上記の取組を通じた医師の働き方改革の推進支援 	
アウトプット指標（当初の目標値）	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナー参加医療機関数（累計） 300 病院 ・訪問支援医療機関数（累計） 54 機関 	
アウトプット指標（達成値）	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナー参加医療機関数（累計） 403 病院 ・訪問支援医療機関数（累計） 45 機関 	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標：</p> <p>①県内医療施設従事医師数（人口10万人対） ②医療施設従事看護職員数</p> <p>観察できなかった → ①データ公表前のため、確認できなかった。 観察できた → ②指標：44,944人（R4暫定値） H30年12月末現在の医療施設従事看護職員数44,184人から760人の増となっている。</p> <p>（1）事業の有効性</p> <p>セミナーの開催、四半期ごとにニュースレターを作成し全病院に送付することにより、勤務環境改善の必要性について周知を図っている。また、医療機関への専門アドバイザーによる訪問支援が11件、電話による相談支援が</p>	

	<p>14 件あったことから、勤務環境改善の取組に係る一定の機運醸成が図られている。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>他機関主催研修会でも講演等を行うことにより、効率的に勤務環境改善計画について周知を図れた。</p>
その他	令和4年度：9,811 千円

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 24 (医療分)】 看護師宿舎施設整備事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 167,552 千円
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	広島県	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護 ニーズ	<p>医療・介護需要の増加が見込まれる中、看護師宿舎の個室整備により、看護職員の勤務環境を整え離職防止を図る必要がある。</p> <p>アウトカム指標： 医療施設従事看護職員数 44,184 人 (H30) → 45,276 人 (R5) ※保健師助産師看護師法（第 33 条）に基づく業務従事者届（隔年実施）による 離職率 9.8% (H30) → 9.8% (R3) → 9.4% (R5)</p>	
事業の内容（当初計画）	看護職員の離職防止のため、看護師宿舎の個室整備費用を補助する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	看護師宿舎施設整備費の補助（県内 1 医療施設）	
アウトプット指標（達成値）	看護師宿舎施設整備費の補助（県内 1 医療施設）	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：</p> <p>①医療施設従事看護職員数 ②離職率 観察できなかった → 指標②：9.9% (R04) H30 の離職率 9.8 と比較し、0.1 ポイントの増となった。 観察できた → 指標①：44,944 人 (R4 暫定値) H30 年 12 月末現在の医療施設従事看護職員数 44,184 人から 760 人の増となっている。</p> <p>（１）事業の有効性 看護師宿舎施設の整備に対し補助することで、看護職員の確保に寄与した。</p> <p>（２）事業の効率性 補助対象の医療施設については離職率防止に繋がっており、効率的な看護師確保に繋がっている。</p>	
その他	令和 4 年度：79,020 千円	

事業の区分	6. 勤務医の労働時間短縮に向けた体制の整備に関する事業																						
事業名	【No. 25（医療分）】 地域医療勤務環境改善体制整備事業			【総事業費 （計画期間の総額）】 118,804 千円																			
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	広島，尾三，福山・府中，備北																						
事業の実施主体	広島県																						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 □継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了																						
背景にある医療・介護 ニーズ	令和6年4月からの医師に対する時間外労働の上限規制適用開始に向け，医師 の労働時間短縮を進める必要がある。																						
	アウトカム指標： 本事業の対象医療機関のうち，時間外労働時間年間 960 時間超の医師の在籍す る医療機関数の減少（特例水準指定医療機関を除く） R3.4.1 4件 → R6.4.1 0件																						
事業の内容（当初計画）	医師の労働時間短縮に向け効果的な取組を総合的に実施するために必要な 費用を支援する。																						
アウトプット指標(当初 の目標値)	事業を利用した医療機関の累計数 R3.5 機関 → R5.13 機関 <table><tr><td></td><td>R 2</td><td>R 3</td><td>R 4</td><td>R 5</td><td>R 6</td></tr><tr><td>件数</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>4</td><td>0</td></tr><tr><td>累計数</td><td>2</td><td>5</td><td>9</td><td>13</td><td>13</td></tr></table>						R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	件数	2	3	4	4	0	累計数	2	5	9	13	13
	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6																		
件数	2	3	4	4	0																		
累計数	2	5	9	13	13																		
アウトプット指標(達成 値)	事業実施医療機関における月の時間外・休日労働時間が 80 時間超の医師数 令和元年度 8 人 → 令和4年度 4 人																						
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 事業を利用した医療機関数の 80 時間超の医師数 <div>観察できた</div> → 指標：3 人 令和3年度の 4 人から 1 名の減となった。																						
	<p>（1）事業の有効性</p> <p>事業実施の 3 医療機関のうち 1 医療機関において月の時間外・休日労働時 間が 80 時間超の医師数が減少しており、「勤務医の負担の軽減及び処遇の改 善に資する計画」に基づき取組を進め、労働時間短縮に向けた体制の整備を 継続した。</p> <p>（2）事業の効率性</p> <p>当該事業の取組結果を踏まえ、広島県勤務環境改善支援センターの助 言・支援を組み合わせることにより、勤務医の労働環境の改善をより効率 的に進めることとしている。</p>																						
その他	令和4年度：112,814 千円																						

3-2. 事業の実施 状況（介護分）

令和4年度広島県計画に規定した事業（介護分）について、令和4年度終了時における事業の実施状況を記載。

事業の区分	3. 介護施設等の整備に関する事業		
事業名	【No.1（介護分）】 介護施設等整備事業	【総事業費】 471,291 千円	
事業の対象となる区域	県内全域		
事業の実施主体	市町		
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了		
背景にある医療・介護ニーズ	<p>介護施設等の整備を支援することで、高齢者ができる限り住み慣れた地域で安心して生活できる基盤づくりを推進する。</p> <p>令和4年度においては、第8期介護保険支援計画等に位置付けている地域密着型サービス施設等の整備を行う。</p> <p>アウトカム指標： 地域密着型サービス整備量 R4：22,920 人</p>		
事業の内容 （当初計画）	①地域密着型サービス施設等の整備に対する助成を行う。		
	整備予定施設等		
	②介護施設等の開設・設置に必要な準備経費に対して支援を行う。		
	整備予定施設等		
	大規模修繕に併せて行う介護ロボット・ICT導入 8 か所		
	③既存の特別養護老人ホーム等のユニット化改修		
	整備予定施設等		
	介護施設等における看取り環境整備 1 か所		
	共生型サービス事業所の整備 1 か所		
	④新型コロナウイルス感染拡大防止対策に対する支援		
	整備予定施設等		
	簡易陰圧装置設置経費 20 か所 31 台		
	ゾーニング環境等の整備 7 か所		
	多床室の個室化に要する改修 1 か所		
	⑤介護職員の宿舎施設整備に対する支援		
	整備予定施設等		
アウトプット指標（当初の目標値）	<p>地域包括ケアシステムの構築に向けて、第8期介護保険支援計画等において予定している地域密着型サービス施設等の整備を行う。</p> <p>【サービス事業量】</p> <p>○地域密着型サービス等整備等助成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型特別養護老人ホーム 58 人 ・認知症高齢者グループホーム 8 か所 ・小規模多機能型居宅介護事業所 2 か所 ・看護小規模多機能型居宅介護事業所 4 か所 		

	<div>・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護1 か所</div> <div>○施設開設準備経費等支援事業<ul style="list-style-type: none">・ 特別養護老人ホーム166 人・ 地域密着型特別養護老人ホーム58 人・ 認知症高齢者グループホーム210 人・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所3 か所・ 小規模多機能型居宅介護事業所37 人・ 看護小規模多機能型居宅介護事業所31 人・ 介護医療院へ転換37 床・ 大規模修繕に併せて行う介護ロボット・ICT導入45 か所・ 介護予防拠点における防災意識啓発の取組142 か所</div> <div>○既存の特別養護老人ホーム等のユニット化改修<ul style="list-style-type: none">・ 介護施設等における看取り環境整備2 か所・ 共生型サービス事業所の整備1 か所</div> <div>○新型コロナウイルス感染拡大防止対策支援事業<ul style="list-style-type: none">・ 簡易陰圧装置設置経費・換気設備設置経費20 か所31 台・ ゾーニング環境等の整備10 か所・ 多床室の個室化に要する改修6 人</div> <div>○介護職員の宿舎施設整備に対する支援<ul style="list-style-type: none">・ 宿舎整備1 か所</div>																														
アウトプット指標（達成値）	<div>【令和4年度分】</div> <div>○施設開設準備経費等支援事業<ul style="list-style-type: none">・ 介護ロボット・ICTの導入支援事業8 か所</div> <div>○既存の特別養護老人ホーム等のユニット化改修支援事業<ul style="list-style-type: none">・ 看取り環境整備推進事業1 か所・ 共生型サービス事業所の整備1 か所</div> <div>○新型コロナウイルス感染拡大防止対策支援事業<ul style="list-style-type: none">・ 簡易陰圧装置設置経費20 か所・ ゾーニング環境整備7 か所・ 多床室の個室化改修1 か所</div>																														
事業の有効性・効率性	<div>事業終了後1年以内のアウトカム指標： 地域密着型サービス利用数，施設サービス定員数</div> <div><div>・ 観察できなかった</div><div>・ 観察できた→ 指標：</div></div> <table><tr><td></td><td>R 元年度 利用実績</td><td>R4 年度 利用数＊</td></tr><tr><td>定期巡回・随時対応型訪問介護看護（人）</td><td>704</td><td>1,805</td></tr><tr><td>夜間対応型訪問介護（人）</td><td>113</td><td>228</td></tr><tr><td>地域密着型通所介護（回）</td><td>792,027</td><td>—</td></tr><tr><td>認知症対応型通所介護（回）</td><td>116,049</td><td>—</td></tr><tr><td>小規模多機能型居宅介護（人）</td><td>3,837</td><td>5,615</td></tr><tr><td>認知症対応型共同生活介護（人）</td><td>5,663</td><td>7,572</td></tr><tr><td>地域密着型特定施設入居者生活介護（人）</td><td>28</td><td>34</td></tr><tr><td>地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（人）</td><td>1,630</td><td>2,159</td></tr><tr><td>R4.4 月 定員数（人）</td><td>—</td><td>1,682</td></tr></table>		R 元年度 利用実績	R4 年度 利用数＊	定期巡回・随時対応型訪問介護看護（人）	704	1,805	夜間対応型訪問介護（人）	113	228	地域密着型通所介護（回）	792,027	—	認知症対応型通所介護（回）	116,049	—	小規模多機能型居宅介護（人）	3,837	5,615	認知症対応型共同生活介護（人）	5,663	7,572	地域密着型特定施設入居者生活介護（人）	28	34	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（人）	1,630	2,159	R4.4 月 定員数（人）	—	1,682
	R 元年度 利用実績	R4 年度 利用数＊																													
定期巡回・随時対応型訪問介護看護（人）	704	1,805																													
夜間対応型訪問介護（人）	113	228																													
地域密着型通所介護（回）	792,027	—																													
認知症対応型通所介護（回）	116,049	—																													
小規模多機能型居宅介護（人）	3,837	5,615																													
認知症対応型共同生活介護（人）	5,663	7,572																													
地域密着型特定施設入居者生活介護（人）	28	34																													
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（人）	1,630	2,159																													
R4.4 月 定員数（人）	—	1,682																													

	看護小規模多機能型居宅介護（人）	429	1,012
		R2年度 定員数	R5年4月 定員数
	介護老人福祉施設（広域型）（人）	11,689	12,214
	介護老人保健施設（人）	8,928	8,642
	介護療養型医療施設（人）	1,031	439
	介護医療院（人）	1,621	2,269
	*介護予防，短期利用除く（EMITAS-G 調べ）		
その他	<p>（１）事業の有効性 地域密着型サービスの整備については令和４年度内の完了が困難になるなど遅れはあったが，繰越しをするなどし、概ね計画に沿った整備が進んだ。</p> <p>（２）事業の効率性 市町の第８期介護保険事業計画に沿った計画的な整備を推進することができる。</p>		
	令和４年度：333,638 千円		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 1（介護分）】 福祉・介護職のイメージ改善・理解促進事業	【総事業費】 17,002 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	【広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会】 ・社会福祉法人広島県社会福祉協議会 ・一般社団法人広島県介護福祉士会 ・公益社団法人広島市老人福祉施設連盟	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	○全国の学生・社会人を対象とした調査によると、福祉・介護職場は、「体力的にきつい」（49.8%）、「精神的にきつい」（41.8%）、「給与水準が低い」（31.2%）などのマイナスイメージが他産業に比べ全体的に高い。 ○県内事業所等の就業環境改善や人材確保策に係る取組などにより、採用率は上昇傾向にあるが、離職率については、全産業計と比べて高い水準となっており、依然として離職率の高い職種というイメージが固定している。	
	アウトカム指標： ・介護職員の離職者のうち3年未満職員の割合 59%以下（R4） ・介護職員数 55,850人以上（R4）	
事業の内容（当初計画）	○福祉・介護イベントの開催 福祉・介護に関わる人たちの本音を伝え、色々な年代の人が福祉・介護を職業の選択肢のひとつとして考えるきっかけづくりを目的としたイベント（介護の学校、福祉・介護職場の魅力自慢コンテスト、ひろしまケアコンテスト、介護のお仕事魅力発信イベント）を開催する。 ○小中学校に向けた啓発活動 ・ポスター募集 ・理解促進のための小・中学校訪問 ○高校・大学出前講座 新卒予定者を対象とした就職セミナーを開催し、進路の選択肢の一つとして福祉・介護への道を考えるきっかけの提供による介護人材の確保につなげる。 ○介護事業所・養成施設体験理解促進 小中高生、一般を対象に体験学習を実施	
アウトプット指標（当初の目標値）	○福祉・介護イベントの開催 参加者 5,600 人 ○小中学校に向けた啓発活動 小・中学校訪問（51校 5,540人） ○高校・大学出前講座 理解促進説明会（44校 3,667人） ○介護事業所・養成施設体験理解促進（395人）	
アウトプット指標（達成値）	○福祉・介護イベントの開催 参加者 236 人 ○小中学校に向けた啓発活動 小・中学校訪問（89校 10,047人） ○高校・大学出前講座（28校 2,972人） ○介護事業所・養成施設体験理解促進（160人）	
	・介護職員の離職者のうち3年未満の割合	

事業の有効性・効率性	<p>観察できた→ 指標：57.1% (R4)</p> <p>・介護職員数</p> <p>観察できた→51,558 人 (R3)</p>
	<p>(1) 事業の有効性</p> <p>福祉・介護職の魅力ややりがい等について、イメージアップを図るとともに、進学・就職の際の選択肢のひとつとしていただけるよう、小・中・高校生を中心に、一定数の方に情報発信することができた。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>新型コロナウイルスの影響により一部の事業は中止せざるを得ない状況となったが、学校訪問・出前講座については、リピーターや口コミの拡大もあり、前年度の実績を上回る実施回数と参加者を得ることができ、効率よく事業を実施できた。</p>
その他	令和4年度：11,888 千円

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 2（介護分）】 福祉・介護人材のマッチング・基盤整備事業 （協議会設置等）	【総事業費】 5,116 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	【広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会】 ・社会福祉法人広島県社会福祉協議会	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>○令和5年度には2,877人の介護職員の受給ギャップが生じると推計されており、必要となる介護職員の不足を着実に解消していく必要がある。</p> <p>○県域での協議・連携組織として「広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会」を設置し、人材確保・育成・定着に向けた取組を推進している。</p> <p>○市町域での人材確保・育成は、個々の施設・事業所による求人や広報啓発の取組が大半で、地域の関係団体による協議や連携の組織的な取組は進んでいない。</p>	
	<p>アウトカム指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の離職者のうち3年未満職員の割合 59%以下（R4） ・介護職員数 55,850人以上（R4） 	
事業の内容（当初計画）	<p>○「広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会」を構成する関係機関・団体との連携により2部会（職場改善・資質向上部会、人材マッチング・イメージ改善・理解促進部会）を開催し、福祉・介護分野の安定的な確保・育成・定着に係る事業を展開する。</p> <p>○各地域の実情に応じた細やかな福祉・介護人材の確保・育成・定着につなげるよう市町域での協議会・連携組織の支援を行う。</p>	
アウトプット指標（当初の目標値）	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会（年2回）、部会（年2回） ・市町域での協議会・連携組織の支援（地域会議3回、全体会議1回） 	
アウトプット指標（達成値）	<p>○市町域での協議会・連携組織の設置（新規構築なし）</p> <p>○本協議会（2回）、部会（各3～6回）</p>	
事業の有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の離職者のうち3年未満の割合 観察できた→ 指標：57.1%（R4） ・介護職員数 観察できた→51,588人（R3） 	
	<p>（1）事業の有効性</p> <p>各市町（地域）に福祉・介護人材確保・育成・定着を検討する場が設けられることにより、地域の実情に応じた取り組みを行うことができた。</p> <p>（2）事業の効率性</p> <p>県内全体及び各地域において関係団体で連携し、効果的な事業の取り組みができた。</p>	
その他	令和4年度：5,116 千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 2（介護分）】 福祉・介護人材のマッチング・基盤整備事業 （人材マッチング）	【総事業費】 29,676 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	【広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会】 ・公益財団法人介護労働安定センター広島支部 ・社会福祉法人広島県社会福祉協議会 ・一般社団法人広島県医療福祉人材協会	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	○令和5年度には 2,877 人の介護職員の受給ギャップが生じると推計されており、必要となる介護職員の不足を着実に解消していく必要がある。 ○「技能実習制度」や「特定技能制度」等を活用し外国人介護人材を登用しようとする事業者が増加傾向にある。	
	アウトカム指標： ・介護職員の離職者のうち3年未満職員の割合 59%以下（R4） ・介護職員数 55,850 人以上（R4）	
事業の内容（当初計画）	○介護職場復帰を希望する介護福祉士の再就職支援 かつて介護職場を経験していた介護福祉士の掘り起しを行うとともに、再就職を促進させるためのセミナーを開催する。 ○介護の周辺業務を担う介護助手等の人材を確保するため、職場体験及び入門研修を実施し、介護施設等とマッチングを行う。 ○県内の外国人介護従事者及び指導者に対し、資質向上のための研修を実施する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	○介護職場復帰を希望する介護福祉士の再就職支援 2 回 ○入門研修受講者数 100 人 ○外国人介護人材確保・定着支援セミナー 3 地域 ○外国人介護従事者に対する資質向上研修オンライン開催 1 回	
アウトプット指標（達成値）	○介護職場復帰を希望する介護福祉士の再就職支援 2 回（34 人） ○入門研修受講者数 51 人 ○外国人介護人材確保・定着支援セミナー 3 地域（253 人） ○外国人介護従事者に対する資質向上研修オンライン開催 2 回（91 人）	
事業の有効性・効率性	・介護職員の離職者のうち3年未満の割合 観察できた→ 指標：57.1%（R4） ・介護職員数 観察できた→51,588 人（R3）	
	（1）事業の有効性 地域でマッチングの場の提供を行うとともに、求職者（再就職者）に対し、広く周知し、一定の参加者を集めることができた。 （2）事業の効率性 都市部だけでなく、中山間地域を中心としたマッチングの場の提供が図られ効率よく事業が実施できた。	
その他	令和4年度：19,502 千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 3（介護分）】 福祉・介護人材の資質向上支援事業	【総事業費】 24,499 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	【広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会】 ・社会福祉法人広島県社会福祉協議会 ・一般社団法人広島県シルバーサービス振興会 ・一般社団法人広島県介護福祉士会 ・広島県訪問介護事業連絡協議会 ・広島市 ・福山市	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	○ 県内の介護事業所には無資格従事者が9.3%存在しているが、実際の介護現場では、基礎技術や知識が求められており、事業所内で指導を受けながら介護業務に従事している傾向がある。基礎知識や技術が身につけていないことへの不安や、職員により指導が異なる等の要因により、就労意欲が低下し早期離職につながるケースもあることから、初任者に介護技術、指導者に指導方法・マネジメント等の一定のスキルを習得させる研修を実施し、職場への定着を図る。 ○ 令和2年度の介護労働実態調査によると、介護職員としての経験年数が少ない職員の離職率が高い傾向にあるため（3年未満離職率：58.4%）、介護の基礎知識や技術を身につけさせることでモチベーションアップを図り、就労意欲の向上につなげる必要がある。 ○ 介護職員の離職率は、事業所が小規模となるほど高い傾向があることから、事業所内で人材育成ができる職員やそのマネジメントが可能な管理者の育成、階層別研修といった小規模事業所への対策が不可欠である。	
	アウトカム指標： ・介護職員の離職者のうち3年未満職員の割合 59%以下（R4） ・介護職員数 55,850人以上（R4）	
事業の内容（当初計画）	○県標準マニュアルによる介護技術向上研修 新任介護職員（無資格者）の介護技術とリーダー職員の指導力の向上を図るため、県内標準化マニュアル（H25作成）を活用した研修を開催 ○小規模事業所に係る認知症高齢者の虐待防止研修及び相談会事業 認知症介護、虐待防止等に関する知識の習得及び認知症利用者への対応等について相談できる窓口の提供 ○介護職員新任基礎研修事業 介護従事者に必要な基礎知識・技術の修得及び小規模事業所の職員間のネットワーク構築を目的とした研修 ○中堅職員等研修会実施事業 小規模事業所の次期リーダー等としての実践的スキル向上、メンタルヘルスマネジメント、事例別介護技術等の習得及び小規模事業所の中堅・管理職員間のネットワークの構築を目的とした研修	

	<p>○新任訪問介護職員養成研修事業 有識者等による訪問介護に特化した職員研修内容の検討訪問介護事業所の制度・サービスの理解等を目的とした研修</p> <p>○小規模事業所介護人材育成事業 多種多様な介護サービスについて、研修実施が困難な小規模事業所において、小規模事業所に即した個別の課題に関する研修</p>
アウトプット指標（当初の目標値）	<p>○県標準マニュアルによる介護技術向上研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新任介護職員 18 回（270 人） ・ リーダー職員 18 回（270 人） <p>○認知症高齢者の虐待防止研修及び相談会事業（参加者 250 人）</p> <p>○介護職員新任基礎研修事業（参加者 600 人）</p> <p>○中堅職員等研修会実施事業（参加者 560 人）</p> <p>○新任訪問介護職員養成研修事業（参加者 120 人）</p> <p>○小規模事業所介護人材育成事業（広島市：参加者 2,000 人，福山市：参加者 1,000 人，広島市・福山市以外参加者 3,000 人）</p>
アウトプット指標（達成値）	<p>○県標準マニュアルによる介護技術向上研修（参加者 481 人）</p> <p>○認知症高齢者の虐待防止研修及び相談会事業（参加者 335 人）</p> <p>○介護職員新任基礎研修事業（参加者 185 人）</p> <p>○中堅職員等研修会実施事業（参加者 177 人）</p> <p>○新任訪問介護職員養成研修事業（参加者 61 人）</p> <p>○小規模事業所介護人材育成事業（参加者 2,983 人） 内訳：広島市 409 人，福山市 350 人，その他 2,224 人</p>
事業の有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護職員の離職者のうち 3 年未満の割合 観察できた→ 指標：57.1%（R4） ・ 介護職員数 観察できた→51,558 人（R3）
	<p>（１）事業の有効性 オンラインも活用しながら介護技術の資質の向上及び統一化を図ることができ、福祉・介護人材の定着を推進した。</p> <p>（２）事業の効率性 各地域で、質の高い統一された福祉・介護サービスの提供がされ、従事者自身のモチベーションアップにつながっている。</p>
その他	令和４年度：22,770 千円

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 4（介護分）】 喀痰吸引等特定行為の実施体制強化事業	【総事業費】 2,972 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	<ul style="list-style-type: none"> ・広島県老人福祉施設連盟 ・公益財団法人広島市老人福祉施設連盟 ・深安地区医師会 	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>○ 特定行為は研修等の要件を満たして可能となるが、平成28年度に県内の介護施設・障害者施設5箇所において、要件を満たさずに特定行為をしていたことが報じられた。集団指導等で制度の再周知を図ったところ、自主申告や内部通報等により約20件（H29年1～6月）の不適切事案が判明し、是正指導を行った。</p> <p>○ また、経営上、看護職員の配置できない施設や、看護職員不在の時間帯において、手続きをしないまま経過措置者にやむを得ず特定行為をさせていたといった実態も散見された。</p> <p>○ 特定行為研修は、登録研修機関（県内52／約1,632機関）のいずれかでしか受けることができず、そのうち半数以上は事実上、自施設のための職員を対象としている。このため各地域で受講しやすい研修の開催が必要である。</p> <p>○ 介護事業所の種別のうち、要介護度3以上の利用者が入所する特別養護老人ホームや老人保健施設は、医療依存度の高い高齢者の受け皿としての役割を担っており、まずはこれらの施設を中心として特定行為を行える介護職員等を拡充していく必要がある。</p> <p>○ 特に、認定特定行為業務従事者の主戦力（全体の51.7%）となっている経過措置者のほとんどは、標準配置の看護師が少ない特別養護老人ホームに勤務している。</p> <p>アウトカム指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の離職者のうち3年未満職員の割合59%以下（R4） ・介護職員数 55,850人以上（R4） 	
事業の内容（当初計画）	<p>○指導看護師研修支援事業 特定行為を適切に実施することができる介護職員等を養成するため、実地研修の指導者となる看護師を養成するための研修会を開催</p> <p>○フォローアップ研修 指導看護師に対し、施行規則等の改正に伴う最新の情報提供等による学び直し（資質向上）研修の開催</p>	
アウトプット指標（当初の目標値）	<p>○指導看護師研修支援事業（受講者70人）</p> <p>○フォローアップ研修（受講者80人）</p>	
アウトプット指標（達成値）	<p>○指導看護師研修支援事業（受講者24人）</p> <p>○フォローアップ研修（受講者29人）</p>	
事業の有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の離職者のうち3年未満の割合 観察できた→ 指標：57.1%（R4） ・介護職員数 観察できた→51,558人（R3） 	
	（1）事業の有効性	

	<p>新型コロナ感染症の影響により一部の事業を実施できなかったが、少数ながらも一定の受講ニーズに対して指導看護師の育成により特定行為を実施できる介護職員の定着を推進した。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>各地域における質の高い統一された福祉・介護サービスの提供につながっている。</p>
その他	令和4年度：1,817 千円

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 5（介護分）】 ケアマネジメント機能強化事業	【総事業費】 22,207 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	広島県，一般社団法人広島県介護支援専門員協会	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者の状況に応じた適切なケアマネジメントを提供するため，地域包括ケアを担う専門職として介護支援専門員の育成と，資質向上を図る。	
	アウトカム指標：介護が必要になっても，安心して暮らし続けられると思う者の割合：R元年 55.6%→R5年 64%	
事業の内容（当初計画）	<p>○法定研修を担う，講師・ファシリテーター及び実習指導者を養成する。</p> <p>○施設特有の課題解決に向けた研修を開催。</p> <p>○有識者・研修実施機関・県で構成する研修向上委員会を設置し，法定研修や任意研修の評価・分析を行う。</p> <p>○地域ブロック単位での多職種連携を促進するため，関係機関による事例検討会を開催する。</p> <p>○多職種の先進事例を学ぶシンポジウムを開催する。</p>	
アウトプット指標（当初の目標値）	<p>○講師・ファシリテーター養成研修 1回</p> <p>○講師・ファシリテーターフォローアップ研修 1回</p> <p>○実習指導者養成研修 2回</p> <p>○地域共生社会における介護支援専門員資質向上研修 3回</p> <p>○研修向上委員会 3回，ワーキング 12回</p> <p>○地域ブロック単位での事例検討会 29ブロック×1回</p> <p>○先進事例を学ぶシンポジウムの開催 1回</p>	
アウトプット指標（達成値）	<p>○講師・ファシリテーター養成研修 1回</p> <p>○講師・ファシリテーターフォローアップ研修 1回</p> <p>○実習指導者養成研修 1回</p> <p>○地域共生社会における介護支援専門員資質向上研修 3回</p> <p>○研修向上委員会 2回，ワーキング 10回</p> <p>○地域ブロック単位での事例検討会 21ブロック</p> <p>○先進事例を学ぶシンポジウムの開催 1回</p>	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標：</p> <p>要支援・要介護認定率</p> <p>観察できなかった</p> <p><u>観察できた</u> → 指標：19.4%（令和2年3月末）</p>	
	<p>（1）事業の有効性</p> <p>実習指導者等を養成するとともに，地域組織を活用して多職種との連携を促進した。</p> <p>（2）事業の効率性</p> <p>介護支援専門員の資質向上を図ることにより，自立支援を目指した適正なケアプランが提供でき，効率的な高齢者の重症化予防につながった。</p>	

その他	令和4年度：21,258千円
-----	----------------

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 6（介護分）】 薬剤師の在宅チーム医療連携事業	【総事業費】 4,540 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	公益社団法人広島県薬剤師会	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	増加する在宅医療のニーズに対応するため、在宅医療に参画し、多職種連携ができる薬剤師を増やすことで、薬剤師による在宅医療の量と質の向上を図る。	
	アウトカム指標：在宅医療の質の向上のための多職種連携研修を修了した薬剤師 90 名（R4 年度）	
事業の内容（当初計画）	○多職種連携推進の課題調査 薬局と介護職等との連携に関する課題の調査・検討 ○多職種連携チーム研修 地域の薬局と介護職等を対象とした研修	
アウトプット指標（当初の目標値）	課題調査の実施，研修開催	
アウトプット指標（達成値）	○在宅医療に参画している薬剤師の直面する課題に応じた研修 修了者 30 名 ○多職種連携充実・強化 薬局が在宅医療に参画するきっかけとして、ケアマネジャーが挙げられたため、ケアマネジャーと薬剤師を対象に各地域で合同研修会を開催した。全地域 318 人（薬剤師 298 人、ケアマネジャー20 人）、廿日市市 32 人（薬剤師 9 人、ケアマネジャー23 人）、尾道市 41 人（薬剤師 14 人、ケアマネジャー27 人）、福山市 34 人（薬剤師 12 人、ケアマネジャー22 人）、合計 425 人参加した。	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： ①より高度な在宅医療に参画できる在宅支援薬剤師養成人数 ②多職種連携開始・強化に向けたチーム研修を契機とした多職種連携の充実・強化 観察できなかった 観察できた → 指標：職種連携研修を修了した薬剤師数	
	（1）事業の有効性 地域包括ケアシステムの構築において重要となる人材確保を行うことができた。	
	（2）事業の効率性 専門的な知識を有する団体と連携・協力することにより、事業を効率的に実施できた。	
その他	令和4年度：4,540 千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 7（介護分）】 在宅歯科医療推進のための歯科医師・歯科衛生士の資質向上事業	【総事業費】 11,993 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	一般社団法人広島県歯科医師会 一般社団法人広島県歯科衛生士会 国立大学法人広島大学	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	在宅の認知症高齢者や重度障害者が増加しているため、在宅歯科医療体制を確保する必要がある。	
	アウトカム指標： 在宅療養支援歯科診療所 239 施設（R3）⇒346 施設（R5）	
事業の内容（当初計画）	地域包括ケアシステムの構築に向け、住み慣れた地域で必要な医療・介護サービスが受けられるよう、在宅歯科医療提供体制等の更なる充実を目指し、それらを担うことのできる専門性を持った歯科医師・歯科衛生士を養成する。 ○認知症患者等の歯科保健医療サービス提供困難者に対応できるスペシャルニーズ歯科診療医等を養成するための研修を実施 ○認知症患者等の口腔機能向上のため、口腔ケアや食支援を行うことができる歯科医師等を養成するための研修を実施 ○訪問歯科衛生士の実態調査及び訪問歯科診療に対応できる歯科衛生士を確保・育成するための研修プログラムの検討を実施 ○在宅及び施設における口腔健康管理実践者養成プログラムの構築及び展開を実施	
アウトプット指標（当初の目標値）	○スペシャルニーズ歯科診療医等養成講座（全8回） ○歯科保健医療サービス提供困難者相談医養成研修会（全4回） ○訪問歯科衛生士の実態調査及び検討会（県内就業の歯科衛生士1,200名対象、検討会2回） ○口腔健康管理実践者養成プログラム（全2回）	
アウトプット指標（達成値）	○スペシャルニーズ歯科診療医等養成講座（全8回）14人 ○歯科保健医療サービス提供困難者相談医養成研修会（全4回）14人 ○摂食嚥下機能訓練研修会（全2回）22人 ○訪問歯科衛生士の実態調査及び検討会（回収率55.6%、検討会2回） ○口腔健康管理実践者養成プログラム（全1回）81人	
事業の有効性・効率性	在宅歯科診療ができる歯科医療機関 観察できなかった 観察できた →指標：241 施設（令和4年度末）	
	（1）事業の有効性 在宅の認知症高齢者等に対応できる歯科医師・歯科衛生士を養成する研修を実施したことにより、在宅歯科医療提供体制の強化が図られた。	

	<p>(2) 事業の効率性</p> <p>関係団体と連携し、専門的な研修を実施することで、効率的に歯科医師・歯科衛生士の資質の向上を図ることができた。</p>
その他	令和4年度：9,683 千円

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業																																											
事業名	【No. 8 (介護分)】 認知症医療・介護研修事業	【総事業費】 22,690 千円																																										
事業の対象となる区域	県内全域																																											
事業の実施主体	広島県、広島市																																											
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了																																											
背景にある医療・介護ニーズ	認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる「共生社会」の実現を図る。																																											
	アウトカム指標：医療や介護が必要となっても、安心して暮らし続けられると思う者の割合 R2年度 55.6%→R5年度 64%																																											
事業の内容（当初計画）	○医療従事者対象 ① 認知症サポート医フォローアップ研修 ② 病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修 ③ かかりつけ医認知症対応力向上研修 ④ 歯科医師認知症対応力向上研修 ⑤ 薬剤師認知症対応力向上研修 ⑥ 看護師認知症対応力向上研修 ⑦ 病院勤務以外の看護師等認知症対応力向上研修 ○介護従事者対象 ① 認知症介護指導者フォローアップ研修 ② 認知症介護基礎研修 ③ 認知症対応型サービス事業管理者研修 ④ 小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 ⑤ 認知症対応型サービス事業開設者研修 ○市町対象 ① 認知症初期集中支援チーム員研修 ② 認知症地域支援推進員研修																																											
アウトプット指標（当初の目標値）	認知症介護基礎研修修了者数（累計） 現状（目標設定時（R元年度末））：1,741人→R5年度：3,100人																																											
アウトプット指標（達成値）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th><th>R4</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認知症サポート医フォローアップ研修</td><td>65人受講</td><td></td></tr> <tr> <td>病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修</td><td>43人受講</td><td></td></tr> <tr> <td>かかりつけ医認知症対応力向上研修</td><td>16人受講</td><td></td></tr> <tr> <td>歯科医師認知症対応力向上研修</td><td>23人受講</td><td></td></tr> <tr> <td>薬剤師認知症対応力向上研修</td><td>99人受講</td><td></td></tr> <tr> <td>看護職員認知症対応力向上研修</td><td>100人受講</td><td></td></tr> <tr> <td>病院勤務以外の看護師等認知症対応力向上研修</td><td>176人受講</td><td></td></tr> <tr> <td>認知症介護指導者フォローアップ研修</td><td>2人受講</td><td></td></tr> <tr> <td>認知症介護基礎研修</td><td>2,001人受講</td><td>R4末累計 4,997人</td></tr> <tr> <td>認知症対応型サービス事業管理者研修</td><td>163人受講</td><td></td></tr> <tr> <td>小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修</td><td>70人受講</td><td></td></tr> <tr> <td>認知症対応型サービス事業開設者研修</td><td>24人受講</td><td></td></tr> <tr> <td>認知症初期集中支援チーム員研修</td><td>26人受講</td><td>全市町に設置</td></tr> </tbody> </table>		区 分	R4	備考	認知症サポート医フォローアップ研修	65人受講		病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修	43人受講		かかりつけ医認知症対応力向上研修	16人受講		歯科医師認知症対応力向上研修	23人受講		薬剤師認知症対応力向上研修	99人受講		看護職員認知症対応力向上研修	100人受講		病院勤務以外の看護師等認知症対応力向上研修	176人受講		認知症介護指導者フォローアップ研修	2人受講		認知症介護基礎研修	2,001人受講	R4末累計 4,997人	認知症対応型サービス事業管理者研修	163人受講		小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修	70人受講		認知症対応型サービス事業開設者研修	24人受講		認知症初期集中支援チーム員研修	26人受講	全市町に設置
区 分	R4	備考																																										
認知症サポート医フォローアップ研修	65人受講																																											
病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修	43人受講																																											
かかりつけ医認知症対応力向上研修	16人受講																																											
歯科医師認知症対応力向上研修	23人受講																																											
薬剤師認知症対応力向上研修	99人受講																																											
看護職員認知症対応力向上研修	100人受講																																											
病院勤務以外の看護師等認知症対応力向上研修	176人受講																																											
認知症介護指導者フォローアップ研修	2人受講																																											
認知症介護基礎研修	2,001人受講	R4末累計 4,997人																																										
認知症対応型サービス事業管理者研修	163人受講																																											
小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修	70人受講																																											
認知症対応型サービス事業開設者研修	24人受講																																											
認知症初期集中支援チーム員研修	26人受講	全市町に設置																																										

	認知症地域支援推進員研修	65 人受講	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：</p> <p>観察できなかった</p> <p>→医療や介護が必要になっても、安心して暮らし続けられると思う者の割合 R 3 年度 51.1%（実績）→R 4 年度 50.2%（実績）</p> <p>（１）事業の有効性 認知症に対して適切に対応できる医療・介護関係者の育成及び質の向上等により、認知症高齢者の在宅を基本とした生活の継続を図ることができた。</p> <p>（２）事業の効率性 関係団体等と協力して、効率的な事業実施を図ることができた。</p> <p>※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、実施回数を減らした研修があった。</p>		
その他	令和 4 年度：17,191 千円		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 8 (介護分)】 認知症医療・介護研修事業	【総事業費】 1,049 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	広島県、広島市	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる「共生社会」の実現を図る。	
	アウトカム指標：医療や介護が必要となっても、安心して暮らし続けられると思う者の割合 R2年度 55.6%→R5年度 64%	
事業の内容（当初計画）	チームオレンジの整備・活動を推進するために市町が配置するコーディネーターやチームメンバー等に対して、必要な知識や技術を習得させるための研修を実施する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	チームオレンジ設置市町数 現状（目標設定時（R3年度末））：3→R5年度：23（全市町）	
アウトプット指標（達成値）		
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標：	
	<div>観察できなかった</div> →医療や介護が必要になっても、安心して暮らし続けられると思う者の割合 R3年度 51.1%（実績）→R4年度 50.2%（実績）	
	（1）事業の有効性 認知症に対して適切に対応できる医療・介護関係者の育成及び質の向上等により、認知症高齢者の在宅を基本とした生活の継続を図ることができた。	
	（2）事業の効率性 関係団体等と協力して、効率的な事業実施を図ることができた。	
その他	令和4年度：800 千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 9（介護分）】 認知症地域連携促進事業	【総事業費】 1,206 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	広島県、広島県医師会	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>認知症状に応じた適切な医療・介護サービスの提供や、症状の変化等への早期対応につなげる地域支援体制（認知症地域連携パス）の構築等を進めるため、医療・介護関係機関が患者情報を共有する連携ツール（ひろしまオレンジパスポート）の県内普及を図る。</p> <p>アウトカム指標：医療や介護が必要となっても、安心して暮らし続けられると思う者の割合 R2年度 55.6%→R5年度 64%</p>	
事業の内容（当初計画）	<p>認知症施策推進大綱の「3. 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援（1）早期発見・早期対応、医療体制の整備」に掲げる、医療機関、関係施設等で適切な治療やリハビリテーションが実施されるとともに、医療機関や介護施設等での対応が固定化されないよう取組む瞬間型の仕組みの構築を推進するため、市町、医療・介護関係団体の理解と協力を得ながら、認知症地域連携パスの計画的な利用地域拡大及び運用円滑化を図る。</p> <p>○連携ツールの導入・利用拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入説明会・研修会、関係者会議等 ・利用環境の改善（連携パスシステムの改修等） <p>○連携ツールの普及・啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用促進、周知活動の実施 	
アウトプット指標（当初の目標値）	オレンジパスポートの発行医療機関数 現状（目標設定時（R元年度末））：37 機関→R5年度：42 機関	
アウトプット指標（達成値）	連携パスの利用医療機関数：R4末 39 機関	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標：</p> <p>○<u>観察できなかった</u></p> <p>→医療や介護が必要になっても、安心して暮らし続けられると思う者の割合 R3年度 51.1%（実績）→R4年度 50.2%（実績）</p> <p>（1）事業の有効性 医療・介護関係者の間の患者情報の共有により、適切な医療・介護サービスの提供を図ることができた。</p> <p>（2）事業の効率性 関係団体等と協力して、効率的な事業実施を図ることができた。</p>	
その他	令和4年度：462 千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 10 (介護分)】 広島県地域包括ケアシステム強化推進事業	【総事業費】 99,344 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	広島県, 広島県地域包括ケア推進センター	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢化の進展等により, 医療, 介護, 予防, 住まい, 生活支援などのサービスを包括的に提供する地域包括システムを更に強化していくことが求められる。	
	アウトカム指標: 医療や介護が必要になっても, 安心して暮らし続けられると思う者の割合 現状値R2年度55.6%→R3年度51.1% (R5年度目標値64%)	
事業の内容 (当初計画)	<p>①介護予防の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通いの場の立上げ支援 ※ 市町, 地域包括支援センター等へアドバイザーを派遣し, 通いの場の立ち上げ支援を行うことによりセンター職員の資質向上を図る。 ・市町, 地域包括支援センターが実施する交流フォーラムの支援 ・地域リハビリ連携促進 (専門職派遣, リハ職研修, 広域支援センター等研修) ※ 市町, 地域包括支援センターを支援する専門職の養成を行うことでセンター職員の資質向上を図る。 ・介護予防普及展開事業 (専門職派遣, 研修) ※ 市町, 地域包括支援センターが実施する自立支援型ケアマネジメントについて, 専門職派遣, 研修等の支援を行うことで資質向上を図る。 <p>②生活支援体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー派遣 ・コーディネーター養成・育成・ワーキング会議 ・情報交換会の開催 <p>③自立支援型ケアマネジメントの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援多職種ネットワーク推進会議の開催 ※ 地域包括支援センター職員及び多職種の資質向上に向けた研修教材の企画検討及び作成 <p>④医療介護連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ACP普及促進 (専門職を対象とした研修) ・在宅医療多職種ノウハウ連携研修 ・医療機関等の医療機能に関する調査 <p>⑤地域包括ケアシステムの質向上を図るための分析調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民の地域包括ケアに係る安心感調査・市町支援・不安解消施策の実施 ※ 市町, 地域包括支援センターの持っている課題の分析及び地 	

	域診断による助言等の支援 ⑥専門相談，普及啓発 ・地域包括ケア推進に関する相談・認知症介護相談・高齢者虐待相談・弁護士等派遣・高齢者虐待防止研修 ※ 市町，地域包括支援センターからの個別事案等の相談，弁護士等専門職の派遣，研修の実施することで資質向上を図る。 ⑦移動支援勉強会（市町職員、地域包括支援センター職員等） ⑧介護相談員資質向上等研修 ※ 市町が介護相談員の資質向上を目的とする研修を実施することにより，介護サービスにおける実態及び課題を把握，多職種間で課題を共有し課題解決の検討等を行うことで医療・介護連携の推進を図る。 ⑨介護サービス基盤安定化に向けた市町支援 ・市町，地域包括支援センターへのアドバイザー派遣・市町セミナー・意見交換会 ※ 介護需要や労働力の縮小に対する喫緊の課題を抱えている市町に対して，基盤安定化に向けた分析，検討の支援を行い，その支援事例を用いて市町，地域包括支援センター職員に対しセミナーを実施															
アウトプット指標（当初の目標値）	研修会等の開催，専門職の派遣等															
アウトプット指標（達成値）	<table><tr><th>区分</th><th>R4</th><th>備考</th></tr><tr><td>介護予防活動普及展開（アドバイザー派遣）</td><td>8 市町</td><td></td></tr><tr><td>自立支援型ケアマネジメント研修（基礎・個別・司会者養成・マニュアル活用）</td><td>延べ367 名参加</td><td>6 回開催</td></tr><tr><td>生活支援コーディネーター養成・育成研修、情報交換会等</td><td>述べ153 名参加</td><td>4 回開催</td></tr><tr><td>認知症介護相談</td><td>76 件</td><td></td></tr></table>	区分	R4	備考	介護予防活動普及展開（アドバイザー派遣）	8 市町		自立支援型ケアマネジメント研修（基礎・個別・司会者養成・マニュアル活用）	延べ367 名参加	6 回開催	生活支援コーディネーター養成・育成研修、情報交換会等	述べ153 名参加	4 回開催	認知症介護相談	76 件	
区分	R4	備考														
介護予防活動普及展開（アドバイザー派遣）	8 市町															
自立支援型ケアマネジメント研修（基礎・個別・司会者養成・マニュアル活用）	延べ367 名参加	6 回開催														
生活支援コーディネーター養成・育成研修、情報交換会等	述べ153 名参加	4 回開催														
認知症介護相談	76 件															
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： <div>観察できなかった</div> →医療や介護が必要になっても，安心して暮らし続けられると思う者の割合 R 3 年度 51.1%（実績）→R 4 年度 50.2%（実績） （1）事業の有効性 地域包括ケアシステムを強化するために，必要となる事業項目について，県及び推進センターが一体となって，市町を支援することができた。 （2）事業の効率性 県，推進センターの役割分担により，市町及び関係職に対し，地域包括ケアシステム強化のためのマネジメント及び専門的支援に効果的に取り組むことができた。															
その他	令和 4 年度：77,725 千円															

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 12（介護分）】 要介護高齢者の在宅リハビリ支援事業	【総事業費】 10,040 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	広島県慢性期医療協会	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>本県の健康寿命は、男性が全国 19 位（72.71 年）、女性が同 43 位（74.59 年）と低位であることから、県の健康・医療・介護に関する基本的な計画の総括目標を「健康寿命の延伸」とし、健康寿命と一定の相関関係が認められる「要支援 1・2、要介護 1 の認定を受けた高齢者割合の低減」を注視目標としており、県の健康増進計画である「健康ひろしま 21」では、これまでの生活習慣病対策を継続しつつ、重点的取組の一つとして介護予防の推進を図っていくこととしている。</p> <p>医療保険や介護保険によるリハビリは回数と時間の制限があるため、効果的なリハビリを行うためには、家族等の身近な人間により、リハビリを継続的に実施することが求められており、専門職が家族等による在宅リハビリについて適切な助言や指導を行うことが必要である。</p> <p>このため、家族が高齢者に適切にリハビリや栄養改善を支援できるよう、リハビリ職・管理栄養士等の資質向上により、適切に指導できる体制の構築を目指す。</p>	
事業の内容（当初計画）	<p>医師や理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士等の専門職が連携し、家族による在宅リハビリや栄養改善を効果的に支援する体制を構築するため、令和3年度に作成した、要介護高齢者の基本動作、生活動作、口腔・栄養ケアに関して、家族がリハビリを実践するためのスマートフォンアプリケーションを活用して、実際の専門職による指導とアプリを活用した指導をミックスさせ、より効率的な形の指導方法を検討する。</p> <p>また、身体機能及び生活機能、口腔、栄養のリハビリに関してより効果的な連携にあり方を検討する。</p> <p>上記については、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等による多職種リハビリテーションチームにより検討を行い、アプリケーションの見直し、改善を行う。</p> <p>見直し、改善を行った在宅リハビリや栄養改善の指導方法等について、地域で在宅リハビリや栄養改善に携わる専門職で共有し、リハビリ職・管理栄養士等の資質向上を図るとともに、関係者が連携して効果的な支援が行える体制の構築について検討する。</p>	
アウトプット指標（当初の目標値）	・アプリの見直し、改善	
アウトプット指標（達成値）	<p>① 2 施設（通所リハビリ）から計 4 名の方にご協力いただき、6 週間の介入における前後の変化を確認し、その結果からアプリケーションの有用性検証のための介入プログラムの運用可能性が判断できた。</p> <p>② 調査完了。今後解析し、本研究における対象や方法の選定における資料とする。</p> <p>アプリケーションの周知用フライヤーと広報・アプリケーションのフォロー</p>	

	用の動画を作成。動画については協会の Youtube チャンネルにて投稿予定。
事業の有効性・効率性	<p>(1) 事業の有効性 リハビリマニュアル，口腔ケア・栄養管理等のマニュアル，指導者用教材（リハビリ，口腔ケア・栄養管理等）を作成・配布し，啓発を行うことにより，家族が継続的に適切なリハビリや栄養改善を行うことにつながった。</p> <p>(2) 事業の効率性 介護保険による訪問リハビリに加えて，家族による適切なリハビリを行うことで，ADL（日常生活動作）の改善が大きくなることにより，要支援 1・2，要介護 1 の認定を受けた高齢者割合の低減」に寄与し，「健康寿命の延伸」につながった。</p>
その他	令和 4 年度：10,040 千円

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 12 (介護分)】 訪問看護の機能強化事業	【総事業費】 6,541 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	広島県看護協会，広島県訪問看護ステーション協議会	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる訪問看護体制を構築する必要がある。 アウトカム指標：訪問看護サービスの空白地域数 0/125 日常生活圏域	
事業の内容（当初計画）	<p>○訪問看護サービスの質の向上を図るため、訪問看護の機能強化事業検討委員会を開催するほか、訪問看護師の養成研修・専門研修，看護師相互交流派遣研修を実施する。</p> <p>○訪問看護人材の不足解消を図るため、プラチナナース（定年退職前後の看護職）を対象に訪問看護に対する就業意欲を高める研修会を開催する。</p> <p>○訪問看護空白地域の供給体制を確保するため、訪問看護提供体制に係る専門部会を開催する。</p> <p>○訪問看護サービスの技術面・経営面でのスキルアップを図るため、管理者向けマネジメント強化研修のほか、専門・認定看護師による相談会を開催する。</p>	
アウトプット指標（当初の目標値）	<p>○訪問看護師の養成研修・専門研修 44 人</p> <p>○看護師相互交流派遣研修 39 人</p> <p>○プラチナナース研修 30 人</p> <p>○管理者向けマネジメント強化研修 324 人</p> <p>○専門・認定看護師による相談会 100 人</p> <p>○圏域課題の解決に向けた看護技術研修 100 人</p>	
アウトプット指標（達成値）	<p>○訪問看護師の養成研修・専門研修 45 人</p> <p>○医療介護連携研修 40 人</p> <p>○プラチナナース研修 24 人</p> <p>○管理者向けマネジメント強化研修 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止</p> <p>○圏域課題の解決に向けた看護技術研修 157 人</p> <p>○専門・認定看護師による相談会 4 事業所</p>	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標： 訪問看護サービスの空白地域数 観察できなかった 観察できた → 指標：訪問看護サービスの空白地域数 0/125 日常生活圏域（R4 年度）</p> <p>（1）事業の有効性 対象を明確にした多様な研修の実施により，医療看護連携等のスキルアップや管理者のマネジメント力の強化が図られた。</p> <p>（2）事業の効率性 全県を対象にした取組を計画的に実施することで，訪問看護サー</p>	

	ビスの質の向上や訪問看護ステーションの経営基盤の強化について、効率的に事業を実施できた。
その他	令和4年度：5,220千円

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 13（介護分）】 権利擁護人材の担い手養成・確保事業	【総事業費】 20,549 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	広島県社会福祉協議会、広島市、福山市、三次市	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	急速な高齢化の中でも世帯は核家族化し、高齢者世帯のひとり世帯が増加している。そのような状況下で認知症高齢者等の権利擁護に寄与する市民後見人のニーズが増加すると見込まれる。	
	アウトカム指標：医療や介護が必要となっても、安心して暮らし続けられると思う者の割合 R2年度 55.6%→R5年度 64%	
事業の内容（当初計画）	<p>○成年後見制度利用促進事業</p> <p>《広島県社会福祉協議会》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援員のスキルアップ研修の実施（2回） ・課題解決のための関係連絡会議の実施（3回） ・法人後見未実施の市町社協への訪問協議等（4市町社協） <p>○市民後見人養成事業</p> <p>《広島市》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民後見人候補者の養成研修の実施 ・家庭裁判所から市民後見人として選任されるまでのフォローアップ研修の実施（4回） ・市民後見制度の普及啓発講演会の開催（1回） <p>《福山市》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民後見人候補者の養成研修の実施 ・家庭裁判所から市民後見人として選任されるまでのフォローアップ研修の実施（2回） ・市民後見制度の普及啓発講演会の開催（1回） <p>《三次市》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭裁判所から市民後見人として選任されるまでのフォローアップ研修の実施（3回） ・市民後見制度の普及啓発講演会の開催（1回） 	
アウトプット指標（当初の目標値）	<p>○生活支援員のスキルアップ研修受講者数（400人）</p> <p>○市民後見人候補者の養成数（57人）</p>	
アウトプット指標（達成値）	<p>○生活支援員等養成等研修（441人）</p> <p>○市民後見人候補者の養成数（7人）</p>	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標：</p> <p><u>観察できなかった</u></p> <p>→医療や介護が必要になっても、安心して暮らし続けられると思う者の割合</p> <p>R3年度 51.1%（実績）→R4年度 50.2%（実績）</p>	

	<p>（１）事業の有効性</p> <p>市民後見人及び生活支援員等を養成することにより，地域で認知症高齢者の権利擁護や生活支援を実施できるようにし，認知症入院患者の退院後の地域生活を支える体制を整えた。</p> <p>（２）事業の効率性</p> <p>市民後見人候補者の養成は達成値を下回っているものの、これまでの養成者へのフォローアップ研修や後見人選任に向けたきめ細やかな支援を行っており、効率的な事を実施した。</p>
その他	令和４年度：17,135 千円

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 14 (介護分)】 看護教員・指導者育成事業	【総事業費】 13,225 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	広島県	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	今後増加が見込まれる医療ニーズに対応するには、質の高い看護職員の養成を維持していくことが必要である。	
	アウトカム指標：医療施設従事看護職員数の増加 H30実績 44,184人 ⇒ R7目標 47,007人	
事業の内容（当初計画）	<p>病院以外の訪問看護ステーション、老人保健施設、保健所等においても実習指導者を養成するなど、医療と介護の双方に携われるスキルを持った人材の確保・養成を図る。</p> <p>○看護教員養成講習会の開催 看護教育の充実向上のため、看護職員養成に携わる者に対し、必要な知識・技術を修得させる。</p> <p>○専任教員・実習指導者継続研修 県内看護教員の養成能力の向上や実習指導者の指導力向上を目的とした研修会を実施する。</p> <p>○実習指導者養成講習会の開催 看護学生の実習受入病院の指導者に必要な知識・技術を修得させる。</p> <p>○特定分野実習指導者講習会の開催 看護基礎教育における施設等での臨地実習の指導者に必要な知識・技術を修得させる。</p>	
アウトプット指標（当初の目標値）	<p>○看護教員養成講習会 1回（20人）</p> <p>○専任教員・実習指導者継続研修 ・一人前教員研修（20人）、熟達教員研修（70人）各2回 ・トピックス研修 2回（70人）</p> <p>○実習指導者養成講習会 1回（20人）</p> <p>○特定分野実習指導者講習会 1回（20人）</p>	
アウトプット指標（達成値）	<p>○看護教員養成講習会 1回（20人）</p> <p>○専任教員・実習指導者継続研修 ・成長段階別研修 2段階×各2回 ・トピックス研修 2回 } 192人</p> <p>○実習指導者養成講習会 1回（40人）</p> <p>○特定分野実習指導者講習会 1回（20人）</p>	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標： 医療施設従事看護職員数の増加</p> <p><u>観察できなかった</u> →45,255人（R2）※隔年調査（R2年度実施） 観察できた</p>	
	<p>（1）事業の有効性</p> <p>看護教員・病院等実習施設における指導者の育成の充実・強化として、各講習会において予定の教育内容を実施することにより、看護実践能力の高い看護職員の養成につながっている。</p>	

	(2) 事業の効率性 (公社)広島県看護協会・県立広島大学と連携・協力して、各種の事業を看護職員の実態に合わせて効率的に実施することができた。
その他	令和4年度：10,618千円

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 15（介護分）】 介護施設等に対する防災リーダー養成等の支援事業	【総事業費】 2,035 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	広島県、一般社団法人福祉防災コミュニティ協会	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	介護施設等は、自力避難が困難な方が多く利用されていることから、利用者の安全を確保するため、災害に備えた十分な対策を講じる必要がある。また、令和3年度より、BCP策定が義務付けられている。（3年の経過措置）	
	アウトカム指標：対象とした施設の研修実施数及びBCP策定数	
事業の内容（当初計画）	・各種防災関係計画との連携、初動を含めた防災対策及び防災リーダー養成を目的にBCP策定研修を行う。	
アウトプット指標（当初の目標値）	・今年度は養護老人ホーム、軽費老人ホーム、老人保健施設を対象とし、来年度も計画的に対象を拡大する。	
アウトプット指標（達成値）	・研修参加者数（R4年度前期：94名 後期：65名） ・自信をもって災害対応業務にあたることのできる人の割合（研修前37% → 研修後62%）	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標：研修受講施設数 観察できなかった 観察できた → 前期：79施設 後期：58施設参加	
	<p>（1）事業の有効性</p> <p>令和3年度よりBCP策定が義務付けられている（3年間の経過措置あり）中で、施設内の人員のみでBCPを策定するのは困難である。策定のポイントなどの研修を実施することで、介護施設等において要となる防災リーダー役の養成につながっている。</p> <p>（2）事業の効率性</p> <p>研修においては、他施設とのグループワークなども通じて、それぞれの施設の実態に合わせて研修を実施することができた。</p>	
その他	令和4年度：1,580 千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 16 (介護分)】 ワークライフバランス推進事業	【総事業費】 5,370 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	広島県	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	今後増加が見込まれる医療・介護ニーズに対応するには、看護職員の離職防止・定着を図る必要がある。	
	アウトカム指標：医療施設従事看護職員数の増加 R2実績 45,255人 ⇒ R4目標 45,887人	
事業の内容（当初計画）	<p>○相談対応，アドバイザー派遣，管理者等に対する相談・研修を実施し，看護職員等が職場と生活の調和（ワークライフバランス）を実現させ，健康で働き続けられる職場づくりを支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就業に関する相談窓口の設置 ・アドバイザー派遣 ・研修会の実施 	
アウトプット指標（当初の目標値）	<p>○ナースセンター相談窓口（常設） ○産業カウンセラー相談 2回／月（広島） 1回／月（福山） ○希望施設に対してアドバイザー派遣の実施 4施設</p>	
アウトプット指標（達成値）	<p>○ナースセンター相談窓口（常設） ○産業カウンセラー相談 3回／月 ○希望施設に対してアドバイザー派遣 4施設</p>	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標： 医療施設従事看護職員数の増加 観察できなかった 観察できた：44,944人（R4暫定値）</p>	
	<p>（1）事業の有効性 就業に関する相談や施設に対するアドバイザー派遣，研修会の実施により，健康で働き続けられる職場づくりを支援し，離職防止・定着を図ることで，看護職員数の維持・確保に有効である。</p> <p>（2）事業の効率性 （公社）広島県看護協会，各医療機関の看護管理者等と連携・協力して，各種の事業を看護職員の実態に合わせて効率的に実施することができた。</p>	
その他	令和4年度：5,273 千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 17 (介護分)】 福祉・介護の職場改善事業 (認証事業)	【総事業費】 11,321 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	【広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会】 ・社会福祉法人広島県社会福祉協議会	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>○県内事業所等の就業環境改善や人材確保策に係る取組などにより、採用率は上昇傾向にあるが、離職率については、全産業計と比べて高い水準となっており、依然として、離職率の高い職種というイメージが固定している。</p> <p>○職員に対する仕事の満足度調査では、約半数の職員が、「仕事の内容・やりがい」に満足と答えているが、技能形成やキャリアアップに関する項目の満足度は低い。</p> <p>また、働く上での悩みや不満等に関しては、人手不足、賃金などの回答が多い。</p> <p>○福祉介護職場は全国の学生・社会人を対象とした調査によると「体力的にきつい」(49.8%)、「精神的にきつい」(41.8%)、「給与水準が低い」(31.2%)などのマイナスイメージが他産業に比べ全体的に高く、敬遠されている。選ばれる職場となるよう就業環境の改善を行うと同時に就職者への「見える化」に取り組むことが必要である。</p> <p>○令和4年度介護労働実態調査によると、介護従事者は、「人手が足りない」(53.8%)、「有給休暇が取りにくい」(26.8%)など労働条件について働く上での悩み、不安、不満をかかえている。</p>	
	<p>アウトカム指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の離職者のうち3年未満職員の割合 59%以下 (R4) ・介護職員数 55,850人以上 (R4) 	
事業の内容 (当初計画)	<p>○優良事業所の認証</p> <p>優良法人の認証制度 (2段階) を設け、制度のPRを行うことにより、「見える化」をさらに図る。</p>	
アウトプット指標 (当初の目標値)	<p>○優良事業所の認証及びコンサルティングの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認証 546 法人 (累計) ・コンサル 38 法人 	
アウトプット指標 (達成値)	<p>○優良事業所の認証及びコンサルティングの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別コンサル 38 法人 ・認証法人 343 法人 (累計) 	
事業の有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の離職者のうち3年未満の割合 観察できた→ 指標：57.1% (R4) ・介護職員数 観察できた→51,588人 (R3) 	
	<p>(1) 事業の有効性</p> <p>福祉・介護職場の環境改善への取組を見える化し、資質向上研修を通じたスキルアップを図ることにより、従事者のモチベーションアップにつながるとともに、人材の確保・定着に係る取り組みを行うことができた。</p> <p>(2) 事業の効率性</p>	

	関係団体等と連携を図り事業周知を行うとともに、効果的な職場環境改善に取り組むことができた。
その他	令和4年度：10,121 千円

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 17 (介護分)】 福祉・介護の職場改善事業 (人材マネジメント)	【総事業費】 1,738 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	【広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会】 ・社会福祉法人広島県社会福祉協議会	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>○県内事業所等の就業環境改善や人材確保策に係る取組などにより、採用率は上昇傾向にあるが、離職率については、全産業計と比べて高い水準となっており、依然として、離職率の高い職種というイメージが固定している。</p> <p>○職員に対する仕事の満足度調査では、約半数の職員が、「仕事の内容・やりがい」に満足と答えているが、技能形成やキャリアアップに関する項目の満足度は低い。</p> <p>また、働く上での悩みや不満等に関しては、人手不足、賃金などの回答が多い。</p> <p>○令和4年度介護労働実態調査によると、介護従事者は、「人手が足りない」(53.8%)、「有給休暇が取りにくい」(26.8%)など労働条件について働く上での悩み、不安、不満をかかえている。</p>	
	<p>アウトカム指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の離職者のうち3年未満職員の割合 59%以下 (R4) ・介護職員数 55,850人以上 (R4) 	
事業の内容 (当初計画)	○人材マネジメントスキル向上 労務管理等の人材マネジメントスキル向上を目的とした研修を開催	
アウトプット指標 (当初の目標値)	○人材マネジメントスキル向上研修 6回 (600人)	
アウトプット指標 (達成値)	○人材マネジメントスキル向上研修 4回 (743人)	
事業の有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の離職者のうち3年未満の割合 観察できた→ 指標：57.1% (R4) ・介護職員数 観察できた→51,588人 (R3) 	
	<p>(1) 事業の有効性</p> <p>福祉・介護職場の環境改善への取組を見える化し、資質向上研修を通じたスキルアップを図ることにより、従事者のモチベーションアップにつながるとともに、人材の確保・定着に係る取り組みを行うことができた。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>関係団体等と連携を図り事業周知を行うとともに、効果的な職場環境改善に取り組むことができた。</p>	
その他	令和4年度：1,738 千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 19 (介護分)】 福祉系高校修学資金貸付事業, 介護分野就職 支援金貸付事業	【総事業費】 29,310 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	広島県社会福祉協議会	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>○令和5年度には2,877人の介護職員の受給ギャップが生じると推計されており、介護人材を着実に確保していくために、幅広く新たな介護人材を確保し介護職への定着の支援する必要がある。</p> <p>アウトカム指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の離職者のうち3年未満職員の割合 59%以下 (R4) ・介護職員数 55,850人以上 (R4) 	
事業の内容 (当初計画)	<p>○福祉系高校修学資金貸付事業 福祉系高校の学生に対する修学資金の貸付</p> <p>○介護分野就職支援金貸付事業 他業種で働いていた者等が介護分野における介護職として就職する際の必要経費に係る支援金の貸付</p>	
アウトプット指標 (当初の目標値)	<p>○福祉系高校修学資金貸付人数 18人</p> <p>○介護分野就職支援金貸付人数 60人</p>	
アウトプット指標 (達成値)	<p>○福祉系高校修学資金貸付人数 4人</p> <p>○介護分野就職支援金貸付人数 40人</p>	
事業の有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の離職者のうち3年未満の割合 観察できた→ 指標：57.1% (R4) ・介護職員数 観察できた→51,588人 (R3) <p>(1) 事業の有効性</p> <p>福祉・介護職場の環境改善への取組を見える化し、資質向上研修を通じたスキルアップを図ることにより、従事者のモチベーションアップにつながるとともに、人材の確保・定着に係る取り組みを行うことができた。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>関係団体等と連携を図り事業周知を行うとともに、効果的な職場環境改善に取り組むことができた。</p>	
その他	令和4年度：9,350 千円	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 19 (介護分)】 新型コロナウイルス流行下における介護サービス事業所等のサービス提供体制確保事業	【総事業費】 1,107,447 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体		
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が、住み慣れた地域で、自立した日常生活を続けられるよう、介護サービス等を提供する支援体制の構築を図る。	
	アウトカム指標：新型コロナウイルス感染者等が発生した場合でも介護サービスを継続する事業所数 264事業所・施設等	
事業の内容（当初計画）	<p>○緊急時介護人材確保・職場環境復旧等支援事業</p> <p>新型コロナウイルス感染症が発生又は濃厚接触者に対応した介護サービス事業所・施設等に対して、通常の介護サービスの提供では想定されないかかり増し費用を助成する。</p> <p>○緊急時介護人材応援派遣に係るコーディネート事業</p> <p>介護サービス事業所・施設等の関係団体に委託し、応援可能な職員登録を行う等、緊急時に備えた応援体制を構築する。</p>	
アウトプット指標（当初の目標値）	補助実施事業所・施設等数 264事業所・施設等	
アウトプット指標（達成値）	補助実施事業所・施設等数 447事業所・施設等	
事業の有効性・効率性	<p>新型コロナウイルス感染者等が発生した場合でも介護サービスを継続する事業所数</p> <p>観察できた→447事業所・施設等</p>	
	<p>（１）事業の有効性</p> <p>新型コロナウイルス感染による一時的な職員不足や感染対策のための衛生用品購入、施設等の環境の復旧・改善等に伴うかかり増し経費を支援し、社会において必要不可欠な介護サービスの提供体制を確保するとともに、高齢者の施設内療養の支援により医療提供体制の破綻回避に貢献した。</p> <p>（２）事業の効率性</p> <p>政令市・中核市と業務を分担して効率的な審査・補助金交付に努めるとともに、関係団体等と連携を図りながら事業周知を行うなど効果的な事業実施に取り組むことができた。</p>	
その他	令和4年度：1,099,766 千円	

令和 3 年度広島県計画に関する 事後評価

**令和 5 年 1 2 月
広島県**

1. 事後評価のプロセス

(1) 「事後評価の方法」の実行の有無

事後評価の実施にあたって、都道府県計画に記載した「事後評価の方法」に記載した事項について、記載どおりの手続きを行ったかどうかを記載。

☒ 行った

(実施状況)

- ・令和4年10月20日 広島県医療介護総合確保推進委員会から意見聴取
- ・令和4年11月30日 広島県医療介護総合確保推進委員会から意見聴取
- ・令和5年12月28日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取中

☐ 行わなかった

(行わなかった場合、その理由)

(2) 審議会等で指摘された主な内容

事後評価の方法に記載した審議会等の意見を聞いた際に指摘された主な内容を記載するとともに、内容の末尾に審議会等名とその開催日時を記載すること。なお、主な内容については、審議会等の議事概要の添付も可とする。

審議会等で指摘された主な内容

2. 目標の達成状況

令和3年度広島県計画に規定する目標を再掲し、令和4年度終了時における目標の達成状況について記載。

■広島県全体

1. 目標

広島県においては、それぞれの医療介護総合確保区域において、限りある医療・介護資源を効果的に活用して、急性期医療から在宅医療・介護まで一連のサービスが適切に提供されるよう、効率的かつ質の高い医療提供体制と地域包括ケア体制の構築を図り、高齢者が地域において、安心して生活できるよう以下を目標に設定する。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標、 地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

限られた医療・介護資源を活用した地域にふさわしいバランスのとれた医療・介護提供体制を構築するには、医療機能別の需要に応じた病床数を確保する必要があることから、「広島県地域医療構想」を踏まえ、病床機能の転換等医療機関の自主的な取組を促進する。

また、患者の状態に合わせた在宅医療への移行を円滑に進めるため、ICTを活用した地域医療情報ネットワークの構築を図る。

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R2)	目標値 (R7)
高度急性期	3,944 床	2,989 床
急性期	12,348 床	9,118 床
回復期	5,854 床	9,747 床
慢性期	8,423 床	6,760 床以上

② 居宅等における医療の提供に関する目標

在宅医療に取り組む医師を確保することにより、地域包括ケアシステムを強化する。

【定量的な目標値】

- ・地域包括ケアシステムが構築されている日常生活圏域数
R1：125 圏域→R2：125 圏域

③ 介護施設等の整備に関する目標

介護施設等の整備を支援することで、高齢者ができる限り住み慣れた地域で安心して生活できる基盤づくりを推進する。

令和3年度においては、第8期介護保険事業支援計画等に位置付けている地域密着型サービス施設等の整備を行う。

【定量的な目標値】

- ・地域密着型サービス延利用者数 H29：19,848 人→R3：23,735 人

④ 医療従事者の確保に関する目標

公益財団法人広島県地域保健医療推進機構を中心に、大学、医師会、県、市町等が一体となって医療従事者の確保を推進する。

【定量的な目標値】

- ・ 県内医療施設従事医師数（人口 10 万人対） H30：258.6 人→R4：264.6 人以上
- ・ 過疎地域の医療施設従事医師数（人口 10 万人対）
H30：195.1 人→R4：206.1 人以上
- ・ 県内小児科医師数（小児人口 10 万人対）
H30：101.2 人→全国平均値（参考値：108.6 人（H30））まで増加
- ・ 県内地域医療に携わる女性医師数 H30：1,460 人→R4：1,537 人以上
- ・ 手当支給施設の産科・産婦人科医師数 H30：278 人→現状値を維持
- ・ 分娩 1000 件当たりの分娩取扱医療機関勤務産婦人科医師数
H30：14.24 人→現状値を維持
- ・ 医療施設従事看護職員数 H30：43,634 人→R5：45,276 人
- ・ 救急搬送人員に占める軽症患者の割合（18 歳未満）
H30：67.8%→R4：67.4%以下

⑤ 介護従事者の確保に関する目標

令和 7 年には、4,512 人の介護職員の受給ギャップが生じると推計されており、必要となる介護職員の不足を解消するため、介護・看護従事者及び介護支援専門員等のスキルアップを図ることにより、介護従事者等のモチベーションを向上させるなど、人材の育成・定着を促進する。

【定量的な目標値】

- ・ 介護職員の離職者のうち 3 年未満職員の割合 H28：64.6%→R3：63.0%以下
- ・ 認知症入院患者の入院後 1 年時点の退院率 H26：67.9%→R2：71.3%

⑥ 勤務医の労働時間短縮に向けた体制の整備に関する目標

令和 6 年 4 月からの医師に対する時間外労働の上限規制の適用開始までの間に、地域での医療提供体制を確保しつつ、医師の労働時間短縮を推進する。

【目標値】

- ・ 事業実施医療機関の月の時間外・休日労働時間が 80 時間超の医師数の対前年度比減少

2. 計画期間

令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日

□広島県全体（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、未実施（令和 4 年度以降の実施）
- ・ 地域医療情報ネットワークがある医療介護総合確保区域を「7 区域（全区域）」のまま維持した。

- ・ 地域医療情報ネットワークについて、平成30年度と比較して、情報開示施設が6施設増、情報閲覧施設が40施設増となり、全体で795施設の加入となった。

② 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・ 全ての日常生活圏域（125圏域）で構築されている地域包括ケア体制について、質の向上が図られた。

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・ 地域密着型サービス延利用者数が、令和元年度中に20,142人に増加した。（前年度比17人の増）（令和元年度）
 - ・ 地域密着型サービス延利用者数 H29：19,848人→R2：23,735人

④ 医療従事者の確保に関する目標

- ・ 県内医療施設従事医師数（人口10万人対）は258.6人（H30）から267.6人（R2）に増加した。また、過疎地域の医療施設従事医師数（人口10万人対）は、195.1人（H30）から200.0人（R2）に増加した。（R4.4時点）

⑤ 介護従事者の確保に関する目標

- ・ 介護職員の離職者のうち3年未満職員の割合は、令和3年度は59.3%となり、減少傾向にある。（H28：64.6%→R3：59.3%）また、離職率についても減少傾向にある（R28：16.7%→R3：13.7%）。
- ・ 介護職員数は、47,102人（H27）から51,503人（R元）に増加した。
- ・ 認知症患者の入院後1年時点の退院率は、79.2%（R元）である。

⑥ 勤務医の労働時間短縮に向けた体制の整備に関する目標

- ・ 事業実施医療機関における月の時間外・休日労働時間が80時間超の医師数
令和元年度8人 → 令和2年度11人
※各医療機関において、最も多かった月における人数を合算

2) 見解

「広島県地域医療構想」を踏まえ、引き続き、患者の状態に合わせた在宅医療への移行を円滑に進めるため、ICTを活用した地域医療情報ネットワークの構築を図るとともに、住み慣れた地域での生活が継続できるよう、地域密着型サービスを中心とした介護施設等の整備や、医療・介護人材の確保・育成・定着を促進する。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■広島（目標と計画期間）

1. 目標

広島区域では、在宅医療提供体制の整備や在宅医療に関する人材育成が課題となっていることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

- ① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標、
地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R2)	目標値 (R7)
高度急性期	2,316 床	1,585 床
急性期	5,070 床	4,242 床
回復期	2,386 床	4,506 床
慢性期	3,226 床	2,730 床以上

- ③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・認知症グループホーム 整備数 1 か所 (H27 加速化分)
- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護 整備数 2 か所 (H27 加速化分)
- ・特別養護老人ホーム (改築 185 床) 整備数 3 か所 (H29 積立分)
- ・特別養護老人ホーム併設ショートステイ用居室 (10 床) 整備数 1 か所 (H29 積立分)
- ・介護医療院への転換整備 (72 床) 整備数 1 か所 (R 3 積立分)
- ・大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数 12 か所 (H27 加速化分)
- ・看取り環境整備 整備数 3 か所 (R 2 積立分)
- ・共生型サービス事業所整備 整備数 1 か所 (R 3 積立分)
- ・多床室の個室化改修 整備数 1 か所 (R 3 積立分)
- ・簡易陰圧装置設置 整備数 2 か所 (R 2 積立分)
- ・ゾーニング環境整備 整備数 5 か所 (R 2 積立分)
- ・介護職員の宿舎整備 整備数 2 か所 (H27 加速化分)

2. 計画期間

令和3年4月1日～令和4年3月31日

□広島 (達成状況)

【継続中】

1) 目標の達成状況

- ① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・回復期病床への転換に係る事業については、未実施。(令和4年度以降の実施)

- ③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・認知症グループホーム 整備数 1 か所 (H27 加速化分・H28 積立分)
- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護 整備数 2 か所 (H27 加速化分)
- ・特別養護老人ホーム (改築 185 床) 整備数 3 か所 (H29 積立分)
- ・特別養護老人ホーム併設ショートステイ用居室 (10 床) 整備数 1 か所 (H29 積立分)
- ・介護医療院への転換整備 (72 床) 整備数 1 か所 (R 3 積立分)
- ・大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数 12 か所 (H27 加速化分)
- ・看取り環境整備 整備数 4 か所 (H27 加速化分・R 3 積立分)
- ・共生型サービス事業所整備 整備数 1 か所 (R 3 積立分)
- ・多床室の個室化改修 整備数 1 か所 (R 3 積立分)
- ・簡易陰圧装置設置 整備数 2 か所 (H28・R 2 積立分)

- ・ゾーニング環境整備
- ・介護職員の宿舎整備

整備数 3 か所（R 2 積立分）
整備数 1 か所（H27 加速化分）

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和 4 年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和 4 年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■広島西（目標と計画期間）

1. 目標

広島西区域では、「地域包括支援センター」やケアマネジャーを中心とした介護・福祉関係者と一体となった支援を行い、退院から日常の療養・急変時の対応が包括的・継続的に行われ、患者が望む場所での看取りができる体制整備が課題となっていることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

- ① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標、
地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和 7 年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R2)	目標値 (R7)
高度急性期	270 床	156 床
急性期	535 床	410 床
回復期	209 床	515 床
慢性期	997 床	478 床以上

- ③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・認知症グループホーム 整備数 1 か所（H28 積立分）
- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数 2 か所（H28 積立分）
- ・介護医療院への転換整備（102 床） 整備数 2 か所（R 2・R 3 積立分）

2. 計画期間

令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日

□広島西（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

- ① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・回復期病床への転換に係る事業については、未実施。（令和 4 年度以降の実施）

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・ 認知症グループホーム 整備数 1 か所 (H28 積立分)
- ・ 看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数 2 か所 (H28 積立分)
- ・ 介護医療院への転換整備 (102 床) 整備数 2 か所 (H30・R 2・R 3 積立分)

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和 4 年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和 4 年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■ 呉 (目標と計画期間)

1. 目標

呉区域では、救急医療をはじめとした医療提供体制の維持・確保や、病院等における看護師等の医療従事者の確保に苦慮していることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標、地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域医療構想で記載する令和 7 年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R2)	目標値 (R7)
高度急性期	311 床	287 床
急性期	1,516 床	858 床
回復期	547 床	894 床
慢性期	807 床	751 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 簡易陰圧装置設置 整備数 3 か所 (R 2 積立分)

2. 計画期間

令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日

□ 呉 (達成状況)

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、未実施。(令和 4 年度以降の実施)

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・簡易陰圧装置設置 整備数 3 か所 (R 2 積立分)

2) 見解

病院等における看護師等の医療従事者の確保が一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和 4 年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和 4 年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■広島中央（目標と計画期間）

1. 目標

広島中央区域では、医療を必要とする高齢者の大幅な増加が見込まれる中、急性期治療後、在宅で必要な医療が受けられるよう、医療・介護を担う人材の育成や、在宅医療連携の仕組みづくりの整備が必要であるという課題が存在していることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標、地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和 7 年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R2)	目標値 (R7)
高度急性期	14 床	122 床
急性期	950 床	672 床
回復期	563 床	678 床
慢性期	861 床	669 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・認知症グループホーム 整備数 2 か所 (H27 加速分・H28 積立分)
- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数 2 か所 (H27 加速分・H28 積立分)
- ・介護医療院への転換整備 (31 床) 整備数 1 か所 (R 3 積立分)
- ・介護予防拠点における防災意識啓発の取組支援 整備数 30 か所 (R 2 積立分)
- ・大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数 1 か所 (H27 加速化分)
- ・簡易陰圧装置設置 整備数 3 か所 (R 2 積立分)
- ・介護職員の宿舍整備 整備数 3 か所 (H27 加速化分)

2. 計画期間

令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日

□広島中央（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- 回復期病床への転換に係る事業については、未実施。（令和4年度以降の実施）

③ 介護施設等の整備に関する目標

- 看取り環境整備 整備数1か所（令和2年度実施）
- 認知症グループホーム 整備数2か所（H27加速化分・H28積立分）
- 看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数2か所（H27加速化分・H28積立分）
- 介護医療院への転換整備（31床） 整備数1か所（R3積立分）
- 介護予防拠点における防災意識啓発の取組支援 整備数30か所（R2積立分）
- 大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数1か所（H27加速化分）
- 簡易陰圧装置設置 整備数3か所（R2積立分）
- 介護職員の宿舍整備 整備数3か所（H27加速化分）

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■尾三（目標と計画期間）

1. 目標

尾三区域では、救急医療をはじめとした医療提供体制を充実させるとともに、在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院、在宅療養支援歯科診療所で、必要に応じて他の病院、診療所、薬局、訪問看護ステーション等と連携を図り、24時間の往診、訪問看護等を提供する体制を引き続き確保するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標、地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

【定量的な目標値】

- 地域医療構想で記載する令和7年度に必要な医療機能ごとの病床数

区分	現状値（R2）	目標値（R7）
高度急性期	353 床	242 床
急性期	1,466 床	905 床
回復期	662 床	991 床
慢性期	798 床	726 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- 小規模多機能型居宅介護事業所 整備数1か所（H27加速化分）

- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数 1 か所（H27 加速化分）
- ・特別養護老人ホーム（改築 78 床） 整備数 1 か所（H29 積立分）
- ・特別養護老人ホーム併設ショートステイ用居室（8 床） 整備数 1 か所（H29 積立分）
- ・介護医療院への転換整備（39 床） 整備数 1 か所（H30 積立分）
- ・大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT 導入支援 整備数 2 か所（H27 加速化分）

2. 計画期間

令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日

□尾三（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・回復期病床への転換に係る事業については、未実施（令和 4 年度以降の実施）

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・小規模多機能型居宅介護事業所 整備数 1 か所（H27 加速化分・H28 積立分）
- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数 1 か所（H27 加速化分・H28 積立分）
- ・特別養護老人ホーム（改築 78 床） 整備数 1 か所（H29 積立分）
- ・特別養護老人ホーム併設ショートステイ用居室（8 床） 整備数 1 か所（H29 積立分）
- ・介護医療院への転換整備（39 床） 整備数 1 か所（H30 積立分）
- ・大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT 導入支援 整備数 2 か所（H27 加速化分）

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和 4 年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和 4 年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■福山・府中（目標と計画期間）

1. 目標

福山・府中区域では、診療所の訪問診療及び往診について、人口 10 万人当たりの実施件数が少なく、全国及び広島県平均と大きく隔たりがあるなど、在宅医療の充実が課題となっており、また、看護師の確保も課題となっていることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標， 地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和 7 年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値（R2）	目標値（R7）
高度急性期	646 床	524 床
急性期	2,209 床	1,691 床

回復期	1,291 床	1,840 床
慢性期	1,028 床	976 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 整備数 1 か所 (H27 加速化分)
- ・ 介護医療院への転換整備 (103 床) 整備数 2 か所 (R 2・R 3 積立分)
- ・ 大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT 導入支援 整備数 3 か所 (H27 加速化分)
- ・ 既存の特養等のユニット化改修 整備数 1 か所 (H28 積立分)
- ・ プライバシー改修 整備数 1 か所 (R 3 積立分)
- ・ 看取り環境整備 整備数 1 か所 (R 2 積立分)
- ・ 簡易陰圧装置設置 整備数 2 か所 (R 2 積立分)
- ・ 介護職員の宿舎整備 整備数 1 か所 (R 2 積立分)

④ 医療従事者の確保に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 福山・府中圏域の小児科医師数 (小児人口 10 万人対) H28 : 68.8 人→R4 : 95.6 人

2. 計画期間

令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日

□福山・府中 (達成状況)

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、未実施 (令和 4 年度以降の実施)

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・ 介護ロボット・ICT 導入支援 整備数 1 か所 (令和 2 年度実施)
- ・ 看取り環境整備 整備数 1 か所 (令和 2 年度実施)
- ・ 多床室のプライバシー保護改修 整備数 1 か所 (令和 2 年度実施)
- ・ 介護職員の宿舎整備 整備数 3 か所 (令和 2 年度実施)
- ・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 整備数 1 か所 (H27 加速化分)
- ・ 介護医療院への転換整備 (103 床) 整備数 2 か所 (H30・R 2・R 3 積立分)
- ・ 大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT 導入支援 整備数 2 か所 (H27 加速化分)
- ・ プライバシー改修 整備数 1 か所 (R 3 積立分)
- ・ 看取り環境整備 整備数 1 か所 (R 2 積立分)
- ・ 簡易陰圧装置設置 整備数 2 か所 (R 2 積立分)

④ 医療従事者の確保に関する目標

- ・ 看護学校における教育環境の整備 (1看護専門学校) を実施した。

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■備北（目標と計画期間）

1. 目標

備北区域では、高齢化率が県内において最も高く、今後も医療を必要とする高齢者の増加が見込まれる中で、在宅医療提供体制の確立が求められていることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

- ① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標、
地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R2)	目標値 (R7)
高度急性期	34 床	73 床
急性期	602 床	340 床
回復期	196 床	323 床
慢性期	706 床	430 床以上

- ③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・小規模多機能型居宅介護事業所 整備数1か所（H27 加速化分）
- ・特別養護老人ホーム（改築 60 床） 整備数1か所（H29 積立分）
- ・大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数2か所（H27 加速化分）

2. 計画期間

令和3年4月1日～令和4年3月31日

□備北（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

- ① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・回復期病床への転換に係る事業については、未実施。（令和4年度以降の実施）

- ③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・小規模多機能型居宅介護事業所 整備数1か所（H27 積立分・加速化分）
- ・特別養護老人ホーム（改築 60 床） 整備数1か所（H29 積立分）
- ・大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数2か所（H27 加速化分）

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

3-1. 事業の実施状況（医療分）

令和3年度広島県計画に規定した事業（医療分）について、令和4年度終了時における事業の実施状況を記載。

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【No. 4（医療分）】 ひろしまDMステーション構築事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 10,172 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	広島大学	
事業の期間	令和3年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>県内の中山間地域など糖尿病診療拠点・中核病院が存在しない地域（以下「不在地域」という。）においては、糖尿病専門医や糖尿病療養指導のための医療スタッフがおらず、地域医療連携やチーム医療体制を構築することが困難な場合がある。このような不在地域への「人」の派遣や「人に代わる手段・ツール」の導入により、糖尿病診療を補完し療養指導を向上させ、県全域の糖尿病医療を均一化して糖尿病の重症化や合併症の発症を予防する必要がある。</p> <p>アウトカム指標： 新規人工透析患者数（人口10万人） 広島県 41.1（H27）⇒37.0（R3）⇒35.6（R5） 糖尿病による死亡率 広島県 全国15位（H29）⇒14位以内（R3）⇒10位以内（R5）</p>	
事業の内容（当初計画）	<p>不在地域において、IoTにより収集した詳細な患者情報を、かかりつけ医（非専門医）と広島大学内の「ひろしまDMステーション」との間で共有するための、ICTを活用した医療情報ネットワークシステムを構築する。</p> <p>その上で「ひろしまDMステーション」の専属医療スタッフから個々の患者に対して、生活習慣改善（管理栄養士による食事療法・理学療法士による運動療法）のための電話指導を実施する（遠隔医療）。また、不在地域のかかりつけ医に対して専属医療スタッフを定期的に派遣し、現地の医療スタッフへの具体的な療養指導方法の助言や協議を行う（デリバリー医療）。</p> <p>蓄積した患者情報と生活習慣介入の指導内容を「ひろしまDMステーション」において人口知能（AI）に学習させ、将来的に、AIが作成した患者個別の生活習慣改善プログラムを不在地域のかかりつけ医や医療スタッフへフィードバックすることによって、地域における“自給自足”・完結型の糖尿病医療体制を確立することを目指す。</p>	
アウトプット指標（当初の目標値）	<p>・IoTやICTを活用した遠隔医療による医療連携への参加 令和3年度：5施設</p>	

	<p>令和４年度：施設数を拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者個別の生活習慣改善プログラムを作成可能な AI の開発
アウトプット指標（達成値）	<ul style="list-style-type: none"> ・令和４年度 遠隔医療・デリバリー医療の対象施設：6施設（糖尿病患者数 38 名） ・患者個別の生活習慣改善プログラムを作成可能な AI の開発：開発中。
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後１年以内のアウトカム指標：</p> <p>①新規人工透析患者数</p> <p>②糖尿病による死亡率</p> <p>観察できなかった</p> <p>観察できた</p> <p>①新規人工透析患者数（人口 10 万人）</p> <p>令和３年度：33.8</p> <p>②糖尿病による死亡率</p> <p>令和４年度：14.1（全国 22 位）</p> <p>（１）事業の有効性</p> <p>糖尿病医療過疎地域の 5 市町の 5 医療機関へ専属医療スタッフが定期的な訪問と電話による遠隔指導を試験的に実施。IoT や ICT を活用した医療情報ネットワークシステムを用い、生活習慣の遠隔指導を試験的に導入し、6 か月間の介入を実施。その結果を踏まえ、システムを改訂中であり、令和４年度以降に遠隔指導を実施する地域や医療機関を拡大する予定。令和３年度の実績において、新規人工透析患者数は目標を達成しているが、糖尿病による死亡率は目標を達成できておらず、原因としては、糖尿病総患者数の増加や高齢化が考えられ、本事業における遠隔医療・デリバリー医療の拡充により、高齢の糖尿病患者への生活習慣改善のための指導を充実させ、令和５年度までの目標達成を目指す。</p> <p>（２）事業の効率性</p> <p>令和３年度の実施内容は、患者個別の生活習慣改善プログラムを作成可能な AI の開発に資するものであり、効率的な事業展開が行われている。</p>
その他	<p>令和３年度：9,848 千円</p> <p>令和４年度：324 千円</p>

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【No. 5 (医療分)】 心不全患者包括ケアネットワーク連携支援事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 7,328 千円
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	広島大学病院心不全センター，地域心臓いきいきセンター（安佐市民病院，広島総合病院，中国労災病院，東広島医療センター，尾道総合病院，福山市民病院，三次地区医療センター）	
事業の期間	令和3年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護 ニーズ	在宅支援体制に，新たに回復期を担う病院を加え，急性期病院から在宅支援施設まで有機的かつ効率的に連携できる体制を構築することで，増加が見込まれる心不全患者が退院後も安心して在宅療養を行える環境を整備し，生活の質を向上させる。	
	アウトカム指標： ・虚血性心疾患退院患者平均在院日数 6.0 日 (H26)→5.8 日 (R5) ・在宅等生活の場に復帰した患者の割合 95.5% (H26)→96.6% (R5)	
事業の内容（当初計画）	・各圏域の地域心臓いきいきセンター（急性期病院）と回復期を担う病院との連携体制の構築 ・在宅支援施設に対するフォローアップ支援の実施（症例検討会や研修会の実施）	
アウトプット指標（当初の目標値）	・回復期を担う連携病院数 0 施設 (R3) → 16 施設（2 施設×8 圏域）(R4) → 24 施設（3 施設×8 圏域）(R5) ・心臓リハビリテーション指導士の認定者数 準備 (R3) → 8 名（1 名×8 圏域）(R4) → 16 名（2 名×8 圏域）(R5) ・心不全療養指導士の認定者数 準備 (R3) → 24 名（3 名×8 圏域）(R4) → 32 名（4 名×8 圏域）(R5)	
アウトプット指標（達成値）	・回復期を担う連携病院数 21 施設 (R3) ・心臓リハビリテーション指導士の認定者数 100 名 (R3) ・心不全療養指導士の認定者数 52 名 (R3)	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： <u>観察できなかった</u> （理由）R3 年度は調査実施年ではないため。 （代替指標）心疾患死亡率の全国順位 （達成状況）R2 年度調査では全国順位 22 位に対し，R3 年度調査では 21 位と上昇しており，事業に一定程度効果があったものと見られる。 観察できた	
	（1）事業の有効性 在宅支援体制に新たに回復期を担う連携病院を加えることにより，今後増加が見込まれる心不全患者の急性期病院から在宅支援施設まで有機的かつ効率的に連携できる体制の整備に繋がっている。	

	<p>在宅支援施設に対するフォローアップ支援（症例検討会や研修会の実施）により，急性期病院～在宅支援施設の連携強化，支援内容の質の向上に繋がっている。</p> <p>直近年度の数値（H29）において，虚血性心疾患退院患者平均在院日数は目標を達成できる見込みがあるが，在宅等生活の場に復帰した患者の割合は前回数値よりやや低下していることから，事業の継続により，令和5年度までの目標達成を目指す。</p> <p>（2）事業の効率性</p> <p>事業実施は，広島大学病院心不全センターを中心に，各圏域の地域心臓いきいきセンターとともに心不全患者の在宅支援体制整備に取り組んでおり，効率的かつ効果的な事業展開が行われている。</p>
その他	<p>令和3年度：5,229 千円</p> <p>令和4年度：1,236 千円</p>

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 17（医療分）】 看護師等養成所運営費補助金	【総事業費 （計画期間の総額）】 244,166 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	広島県	
事業の期間	令和3年4月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニ ーズ	<p>医療・介護需要の増加が見込まれる中、看護教育の充実を図ることにより、看護職員を安定的に確保していく必要がある。</p> <p>アウトカム指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療施設従事看護職員数 42,904 人（H28）→ 45,276 人（R5） ※厚生労働省「衛生行政報告例（隔年調査）」による 補助対象施設の県内就業率 91.1%（H29）→ 90%以上 	
事業の内容（当初計画）	看護教育の充実を図るため、看護師等養成所に対し運営費を補助する。	
アウトプット指標（当初の目 標値）	看護師等養成所運営費の補助（県内 19 課程）	
アウトプット指標（達成値）	看護師等養成所運営費の補助（県内 18 課程）	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：</p> <p>①医療施設従事看護職員数 ②補助対象施設の県内就業率 観察できなかった → 指標②：90.7%（R4） H30 の県内就業率 90.7 と比較し、増減は見られなかった。 観察できた → 指標①：44,944 人（R4 暫定値） H30 年 12 月末現在の医療施設従事看護職員数 44,184 人から 760 人の増となっている。</p> <p>（1）事業の有効性 看護師等養成所の運営費に対し補助を行うことで、看護職員の確保及び資質向上に寄与した。</p> <p>（2）事業の効率性 補助対象の看護師等養成所は高い県内就業率を保っており、効率的な看護職員確保につながっている。</p>	
その他	令和3年度：122,235 千円 令和4年度：83,996 千円	

令和 2 年度広島県計画に関する 事後評価

**令和 5 年 1 2 月
広島県**

1. 事後評価のプロセス

(1) 「事後評価の方法」の実行の有無

事後評価の実施にあたって、都道府県計画に記載した「事後評価の方法」に記載した事項について、記載どおりの手続きを行ったかどうかを記載。

☒ 行った

(実施状況)

- ・令和3年11月30日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和4年10月20日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和4年11月30日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和5年12月28日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取中

☐ 行わなかった

(行わなかった場合、その理由)

(2) 審議会等で指摘された主な内容

事後評価の方法に記載した審議会等の意見を聞いた際に指摘された主な内容を記載するとともに、内容の末尾に審議会等名とその開催日時を記載すること。なお、主な内容については、審議会等の議事概要の添付も可とする。

審議会等で指摘された主な内容

2. 目標の達成状況

令和2年度広島県計画に規定する目標を再掲し、令和4年度終了時における目標の達成状況について記載。

■広島県全体（目標）

1. 目標

広島県においては、それぞれの医療介護総合確保区域において、限りある医療・介護資源を効果的に活用して、急性期医療から在宅医療・介護まで一連のサービスが適切に提供されるよう、効率的かつ質の高い医療提供体制と地域包括ケア体制の構築を図り、高齢者が地域において、安心して生活できるよう以下を目標に設定する。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

限られた医療・介護資源を活用した地域にふさわしいバランスのとれた医療・介護提供体制を構築するには、医療機能別の需要に応じた病床数を確保する必要があることから、「広島県地域医療構想」を踏まえ、病床機能の転換等医療機関の自主的な取組を促進する。

また、患者の状態に合わせた在宅医療への移行を円滑に進めるため、ICTを活用した地域医療情報ネットワークの構築を図る。

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R1)	目標値 (R7)
高度急性期	4,287 床	2,989 床
急性期	12,165 床	9,118 床
回復期	5,546 床	9,747 床
慢性期	9,417 床	6,760 床以上

② 居宅等における医療の提供に関する目標

在宅医療に取り組む医師を確保することにより、地域包括ケアシステムを強化する。

【定量的な目標値】

- ・地域包括ケアシステムが構築されている日常生活圏域数
R1：125 圏域→R2：125 圏域

③ 介護施設等の整備に関する目標

介護施設等の整備を支援することで、高齢者ができる限り住み慣れた地域で安心して生活できる基盤づくりを推進する。

令和2年度においては、第7期介護保険事業支援計画等に位置付けている地域密着型サービス施設等の整備を行う。

県で、消毒液・マスク・ガウン・手袋等を一括購入し、不足する介護施設等へ配布。併せて高齢障害者や施設従事者向けへの広報・啓発を行う。

【定量的な目標値】

- ・地域密着型サービス延利用者数 H29：19,848 人→R2：23,735 人

④ 医療従事者の確保に関する目標

公益財団法人広島県地域保健医療推進機構を中心に、大学、医師会、県、市町等が一体となって医療従事者の確保を推進する。

【定量的な目標値】

- ・ 県内医療施設従事医師数（人口 10 万人対） H28：254.6 人→R4：264.6 人以上
- ・ 過疎地域の医療施設従事医師数（人口 10 万人対）
H28：190.5 人→R4：203.4 人以上
- ・ 県内小児科医師数（小児人口 10 万人対）
H30：101.2 人→全国平均値（参考値：108.6 人（H30））まで増加
- ・ 県内地域医療に携わる女性医師数 H30：1,460 人→R2：1,610 人以上
- ・ 手当支給施設の産科・産婦人科医師数 H30：278 人→現状値を維持
- ・ 分娩 1000 件当たりの分娩取扱医療機関勤務産婦人科医師数
H30：14.24 人→現状値を維持
- ・ 医療施設従事看護職員数 H28：42,904 人→R5：45,276 人
- ・ 救急搬送人員に占める軽症患者の割合（18 歳未満）
H30：67.8%→R2：67.4%以下

⑤ 介護従事者の確保に関する目標

令和 7 年には、約 6,950 人の介護職員の受給ギャップが生じると推計されており、必要となる介護職員の不足を解消するため、介護・看護従事者及び介護支援専門員等のスキルアップを図ることにより、介護従事者等のモチベーションを向上させるなど、人材の育成・定着を促進する。

【定量的な目標値】

- ・ 介護職員の離職者のうち 3 年未満職員の割合 H28：64.6%→R2：59.3%以下
- ・ 介護職員数 H27：47,102 人→R2：52,386 人以上
- ・ 認知症入院患者の入院後 1 年時点の退院率 H26：67.9%→R2：71.3%

2. 計画期間

令和 2 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□広島県全体（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、未実施。（令和 4 年度以降の実施）
- ・ 地域医療情報ネットワークがある医療介護総合確保区域を「7 区域（全区域）」のまま維持した。
- ・ 地域医療情報ネットワークについて、平成30年度と比較して、情報開示施設が 6 施設増、情報閲覧施設が 36 施設増となり、全体で 791 施設の加入となった。

② 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・ 全ての日常生活圏域（125 圏域）で構築されている地域包括ケア体制について、

質の向上が図られた。

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・ 地域密着型サービス延利用者数が、令和元年度中に20,142人に増加した。（前年度比17人の増）（令和元年度）
 - ・ 地域密着型サービス延利用者数 H29：19,848人→R3：28,500人

④ 医療従事者の確保に関する目標

- ・ 県内医療施設従事医師数（人口10万人対）は258.6人（H30）から267.6人（R2）に増加した。また、過疎地域の医療施設従事医師数（人口10万人対）は、195.1人（H30）から200.0人（R2）に増加した。（R4.4時点）

⑤ 介護従事者の確保に関する目標

- ・ 介護職員の離職者のうち3年未満職員の割合は、令和3年度は59.3%となり、減少傾向にある。（H28：64.6%→R3：59.3%）また、離職率についても減少傾向にある（R28：16.7%→R3：13.7%）。
- ・ 介護職員数は、47,102人（H27）から51,503人（R元）に増加した。
- ・ 認知症患者の入院後1年時点の退院率は、79.2%（R元）である。

⑥ 勤務医の労働時間短縮に向けた体制の整備に関する目標

- ・ 事業実施医療機関における月の時間外・休日労働時間が80時間超の医師数
令和元年度8人 → 令和2年度11人
※各医療機関において、最も多かった月における人数を合算

2) 見解

「広島県地域医療構想」を踏まえ、引き続き、患者の状態に合わせた在宅医療への移行を円滑に進めるため、ICTを活用した地域医療情報ネットワークの構築を図るとともに、住み慣れた地域での生活が継続できるよう、地域密着型サービスを中心とした介護施設等の整備や、医療・介護人材の確保・育成・定着を促進する。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■広島（目標と計画期間）

1. 目標

広島区域では、在宅医療提供体制の整備や在宅医療に関する人材育成が課題となっていることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値（R1）	目標値（R7）
高度急性期	2,498床	1,585床

急性期	4,951 床	4,242 床
回復期	2,402 床	4,506 床
慢性期	3,477 床	2,730 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・小規模多機能型居宅介護事業所 整備数 1 か所
- ・特別養護老人ホーム（改築 130 床） 整備数 3 か所
- ・特別養護老人ホーム併設ショートステイ用居室（10 床） 整備数 1 か所
- ・定期借地権一時金支援（小規模多機能型居宅介護事業所） 整備数 1 か所
- ・介護医療院への転換整備（120 床） 整備数 2 か所
- ・看取り環境整備 整備数 2 か所
- ・大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT 導入支援 整備数 3 か所
- ・介護職員の宿舎整備 整備数 1 か所
- ・簡易陰圧装置・換気設備設置 整備数 24 台

2. 計画期間

令和 2 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□広島（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・回復期病床への転換に係る事業については、未実施。（令和 4 年度以降の実施）

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・介護ロボット・ICT 導入支援 整備数 2 か所（令和 2 年度実施）
- ・看取り環境整備 整備数 2 か所（令和 2 年度実施）
- ・簡易陰圧装置・換気設備設置 整備数 1 か所（令和 2 年度実施）
- ・介護職員の宿舎整備 整備数 1 か所（令和 2 年度実施）
- ・簡易陰圧装置設置 整備数 2 か所（R 3 年度実施）
- ・ゾーニング環境整備 整備数 3 か所（R 3 年度実施）

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和 4 年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和 4 年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■広島西（目標と計画期間）

1. 目標

広島西区域では、「地域包括支援センター」やケアマネジャーを中心とした介護・福祉関係者と一体となった支援を行い、退院から日常の療養・急変時の対応が包括的・継続的に行われ、患者が望む場所での看取りができる体制整備が課題となっていることか

ら、この課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R1)	目標値 (R7)
高度急性期	270 床	156 床
急性期	504 床	410 床
回復期	247 床	515 床
慢性期	1,080 床	478 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・小規模多機能型居宅介護事業所 整備数 1 か所
- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数 1 か所
- ・特別養護老人ホーム（改築 80 床） 整備数 1 か所
- ・特別養護老人ホーム併設ショートステイ用居室（改築 20 床） 整備数 1 か所
- ・介護医療院への転換整備（60 床） 整備数 1 か所

2. 計画期間

令和2年4月1日～令和5年3月31日

□広島西（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・回復期病床への転換に係る事業については、未実施。（令和4年度以降の実施）

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・介護医療院への転換整備（102 床） 整備数 2 か所（R3 年度実施）

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■呉（目標と計画期間）

1. 目標

呉区域では、救急医療をはじめとした医療提供体制の維持・確保や、病院等における看護師等の医療従事者の確保に苦慮していることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R1)	目標値 (R7)
高度急性期	260 床	287 床
急性期	1,557 床	858 床
回復期	421 床	894 床
慢性期	1,039 床	751 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域密着型特別養護老人ホーム 整備数 29 床
- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数 1 か所

2. 計画期間

令和2年4月1日～令和5年3月31日

□呉（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・回復期病床への転換に係る事業については、未実施。（令和4年度以降の実施）

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・簡易陰圧装置設置 整備数3か所（R3年度実施）

2) 見解

病院等における看護師等の医療従事者の確保が一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■広島中央（目標と計画期間）

1. 目標

広島中央区域では、医療を必要とする高齢者の大幅な増加が見込まれる中、急性期治療後、在宅で必要な医療が受けられるよう、医療・介護を担う人材の育成や、在宅医療連携の仕組みづくりの整備が必要であるという課題が存在していることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R1)	目標値 (R7)
高度急性期	14 床	122 床
急性期	961 床	672 床
回復期	545 床	678 床
慢性期	895 床	669 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数 1 か所
- ・看取り環境整備 整備数 1 か所
- ・介護職員の宿舎整備 整備数 3 か所
- ・介護予防拠点における防災意識啓発の取組支援 整備数 30 か所

2. 計画期間

令和2年4月1日～令和5年3月31日

□広島中央（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・回復期病床への転換に係る事業については、未実施。（令和4年度以降の実施）

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・看取り環境整備 整備数 1 か所（令和2年度実施）
- ・介護予防拠点における防災意識啓発の取組支援 整備数 30 か所（R3年度実施）
- ・簡易陰圧装置設置 整備数 3 か所（R3年度実施）

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■尾三（目標と計画期間）

1. 目標

尾三区域では、救急医療をはじめとした医療提供体制を充実させるとともに、在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院、在宅療養支援歯科診療所で、必要に応じて他の病院、診療所、薬局、訪問看護ステーション等と連携を図り、24時間の往診、訪問看護等を提供する体制を引き続き確保するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R1)	目標値 (R7)
----	----------	----------

高度急性期	353 床	242 床
急性期	1,529 床	905 床
回復期	673 床	991 床
慢性期	989 床	726 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 整備数 1 か所
- ・ 看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数 1 か所

2. 計画期間

令和 2 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□尾三（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、未実施。（令和 4 年度以降の実施）

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・ 未実施

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和 4 年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和 4 年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■福山・府中（目標と計画期間）

1. 目標

福山・府中区域では、診療所の訪問診療及び往診について、人口 10 万人当たりの実施件数が少なく、全国及び広島県平均と大きく隔たりがあるなど、在宅医療の充実が課題となっており、また、看護師の確保も課題となっていることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域医療構想で記載する令和 7 年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R1)	目標値 (R7)
高度急性期	858 床	524 床
急性期	2,059 床	1,691 床
回復期	1,081 床	1,840 床
慢性期	1,118 床	976 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- | | | |
|----------------------------|-----|------|
| ・地域密着型特別養護老人ホーム | 整備数 | 3 床 |
| ・特別養護老人ホーム | 整備数 | 15 床 |
| ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護 | 整備数 | 2 か所 |
| ・介護医療院への転換整備（93 床） | 整備数 | 1 か所 |
| ・看取り環境整備 | 整備数 | 1 か所 |
| ・大規模修繕に伴う介護ロボット・I C T 導入支援 | 整備数 | 1 か所 |
| ・介護職員の宿舎整備 | 整備数 | 3 か所 |

④ 医療従事者の確保に関する目標

【定量的な目標値】

- ・福山・府中圏域の小児科医師数（小児人口 10 万人対）H28：68.8 人→R4：95.6 人

2. 計画期間

令和 2 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□福山・府中（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・回復期病床への転換に係る事業については、未実施。（令和 4 年度以降の実施）

③ 介護施設等の整備に関する目標

- | | |
|---------------------|---------------------|
| ・介護ロボット・I C T 導入支援 | 整備数 1 か所（令和 2 年度実施） |
| ・看取り環境整備 | 整備数 1 か所（令和 2 年度実施） |
| ・多床室のプライバシー保護改修 | 整備数 1 か所（令和 2 年度実施） |
| ・介護職員の宿舎整備 | 整備数 3 か所（令和 2 年度実施） |
| ・介護医療院への転換整備（103 床） | 整備数 2 か所（R 3 年度実施） |
| ・看取り環境整備 | 整備数 1 か所（R 3 年度実施） |
| ・簡易陰圧装置設置 | 整備数 2 か所（R 3 年度実施） |

④ 医療従事者の確保に関する目標

- ・看護学校における教育環境の整備（1看護専門学校）を実施した。

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和 4 年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和 4 年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■備北（目標と計画期間）

1. 目標

備北区域では、高齢化率が県内において最も高く、今後も医療を必要とする高齢者の

増加が見込まれる中で、在宅医療提供体制の確立が求められていることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域医療構想で記載する令和 7 年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値 (R1)	目標値 (R7)
高度急性期	34 床	73 床
急性期	604 床	340 床
回復期	177 床	323 床
慢性期	819 床	430 床以上

2. 計画期間

令和 2 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□備北（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、未実施。（令和 4 年度以降の実施）

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和 4 年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和 4 年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

3-1. 事業の実施状況（医療分）

令和2年度広島県計画に規定した事業（医療分）について、令和4年度終了時における事業の実施状況を記載。

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業																
事業名	【No. 1（医療分）】 病床機能分化・連携促進基盤整備事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 829,289 千円															
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域																
事業の実施主体	病院及び有床診療所																
事業の期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了																
背景にある医療・介護 ニーズ	<p>地域医療構想の実現に向けて、医療機関における病床機能分化の自主的な取組を推進する必要がある。</p> <p>アウトカム指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年に必要となる医療機能ごとの病床数（暫定推計値） <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>現状値 (R1)</th><th>必要病床数 (R7)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高度急性期</td><td>4,287 床</td><td>2,989 床</td></tr> <tr> <td>急性期</td><td>12,165 床</td><td>9,118 床</td></tr> <tr> <td>回復期</td><td>5,546 床</td><td>9,747 床</td></tr> <tr> <td>慢性期</td><td>9,417 床</td><td>6,760 床以上</td></tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度基金を活用して整備を行う不足している病床機能毎（高度急性期・急性期・回復期・慢性期）の病床数 地域における医療施設の最適配置の実現と連携のために、地域医療構想調整会議をさらに活性化する必要がある。 		区分	現状値 (R1)	必要病床数 (R7)	高度急性期	4,287 床	2,989 床	急性期	12,165 床	9,118 床	回復期	5,546 床	9,747 床	慢性期	9,417 床	6,760 床以上
区分	現状値 (R1)	必要病床数 (R7)															
高度急性期	4,287 床	2,989 床															
急性期	12,165 床	9,118 床															
回復期	5,546 床	9,747 床															
慢性期	9,417 床	6,760 床以上															
事業の内容（当初計画）	<ul style="list-style-type: none"> 回復期病床への転換に係る施設・設備整備や、医療機能の事業縮小、複数の医療機関間の連携による病床再編事業に対して補助を行う。 県内の医療施設相互の議論に資するデータの整理や、病床機能報告を活用した病床機能の現状把握、医療需要の将来推計や目指すべき方向性などについて分析及び提案を実施する。 																
アウトプット指標（当初 の目標値）	対象医療機関数 6 施設 対象二次保健医療圏 7 圏域																
アウトプット指標（達成 値）	対象医療機関数 5 施設																
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年に必要となる医療機能ごとの病床数（暫定推計値） <p>観察できなかった 観察できた → 指標：</p>																

	<table><tr><th>区分</th><th>令和 2 年度 病床機能報告数</th><th>令和 4 年度 病床機能報告数</th></tr><tr><td>高度急性期</td><td>3, 944 床</td><td>4, 464 床</td></tr><tr><td>急性期</td><td>12, 348 床</td><td>10, 875 床</td></tr><tr><td>回復期</td><td>5, 854 床</td><td>6, 342 床</td></tr><tr><td>慢性期</td><td>8, 423 床</td><td>7, 738 床</td></tr></table>	区分	令和 2 年度 病床機能報告数	令和 4 年度 病床機能報告数	高度急性期	3, 944 床	4, 464 床	急性期	12, 348 床	10, 875 床	回復期	5, 854 床	6, 342 床	慢性期	8, 423 床	7, 738 床
区分	令和 2 年度 病床機能報告数	令和 4 年度 病床機能報告数														
高度急性期	3, 944 床	4, 464 床														
急性期	12, 348 床	10, 875 床														
回復期	5, 854 床	6, 342 床														
慢性期	8, 423 床	7, 738 床														
	<p>(1) 事業の有効性</p> <p>病床の機能分化・連携を促進するため、不足が見込まれる「回復期病床」への転換等に際して必要となる施設・設備整備費に対して補助を行うことにより、医療機関における病床転換の取組を支援することができた。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>補助金を活用する医療機関においては、地域医療構想調整会議での協議を経て実施することとしており、地域の実情に応じた効率的な事業の実施に取り組んでいる。</p>															
その他	令和 4 年度：97, 359 千円 (令和 5 年度以降予定：731, 930 千円)															

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【No.6（医療分）】 在宅歯科診療設備整備事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 2,169 千円
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	全区域	
事業の実施主体	ナタリーデンタルクリニック 他 12 歯科医療機関	
事業の期間	令和 2 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護 ニーズ	高齢者人口の増加に伴い、在宅の認知症高齢者等が増加することが予想され、在宅歯科診療のための専門的な機能を有した歯科医療機関を増加させる必要がある。	
	アウトカム指標： 在宅歯科診療ができる歯科医療機関 248 施設（H28 年度末）→ 323 施設（R5 年度末）	
事業の内容（当初計画）	在宅療養者への口腔ケア及び在宅介護者への歯科口腔保健の知識や技術の指導を実施するために必要となる医療機器等の設備整備に対して補助する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	整備医療機関数 13 施設	
アウトプット指標（達成値）	整備歯科医療機関数 12 施設	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 訪問口腔衛生指導を実施している診療所・病院数 観察できなかった 観察できた → 指標： 255 施設（令和 4 年度）	
	<p>（１）事業の有効性</p> <p>在宅歯科診療を実施する歯科診療所の医療機器等を整備したことにより、在宅歯科診療の機能強化が図られた。</p> <p>（２）事業の効率性</p> <p>補助を実施した歯科診療所は、積極的に在宅歯科診療を実施している歯科診療所であり、これらの診療所の医療機器等を整備等することは、限られた医療資源の効率的な活用方法であると考ええる。</p>	
その他	令和 2 年度：1,216 千円 令和 4 年度：118 千円 令和 5 年度以降予定：835 千円	

3－2．事業の実施 状況（介護分）

令和２年度広島県計画に規定した事業（介護分）について、令和４年度終了時における事業の実施状況を記載。

事業の区分	５．介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 16（介護分）】 福祉・介護の職場改善事業	【総事業費】 17,012 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	【広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会】 ・社会福祉法人広島県社会福祉協議会	
事業の期間	令和２年４月１日～令和５年３月３１日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>○県内事業所等の就業環境改善や人材確保策に係る取組などにより、採用率は上昇傾向にあるが、離職率については、全産業計と比べて高い水準となっており、依然として、離職率の高い職種というイメージが固定している。</p> <p>○職員に対する仕事の満足度調査では、約半数の職員が、「仕事の内容・やりがい」に満足と答えているが、技能形成やキャリアアップに関する項目の満足度は低い。</p> <p>また、働く上での悩みや不満等に関しては、人手不足、賃金などの回答が多い。</p> <p>○福祉介護職場は全国の学生・社会人を対象とした調査によると「体力的にきつい」（49.8%）、「精神的にきつい」（41.8%）、「給与水準が低い」（31.2%）などのマイナスイメージが他産業に比べ全体的に高く、敬遠されている。選ばれる職場となるよう就業環境の改善を行うと同時に就職者への「見える化」に取り組むことが必要である。</p> <p>○平成３０年度介護労働安定センターの調査（Ｒ元. 8. 20）によると、介護従事者は、「人手が足りない」（54.2%）、「仕事内容の割に賃金が低い」（39.1%）「有給休暇が取りにくい」（31.5%）など労働条件について働く上での悩み、不安、不満をかかえている。</p> <p>○「技能実習制度」や「特定技能制度」等を活用し外国人介護人材を登用しようとする事業者が増加傾向にある。</p> <p>アウトカム指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の離職者のうち３年未満職員の割合 59.3%以下（R2） ・介護職員数 52,386 人以上（R2） 	
事業の内容（当初計画）	<p>○自己点検ツール実施システムの運営 職場環境の問題点を客観的に認識できる「職場環境自己点検ツール」を運営</p> <p>○自己点検ツール活用フォローアップ研修の開催（点検後） 自己点検を実施していない介護事業所へ個別訪問し、自己点検</p>	

	<p>ツールの取組を促すとともに、点検後の事業所に対して、個々の課題解決策を教授する研修を開催</p> <p>○人材マネジメントスキル向上 育成方法、労務管理等の人材マネジメントスキル向上を目的とした研修を開催</p> <p>○優良事業所の認証及びコンサルティングの実施 自己点検ツールによる課題抽出を踏まえ、社会保険労務士、中小企業診断士など専門家によるコンサルティングを実施 また、令和元年度から認証制度を２段階とし、新たに優良事業者を対象とした上位認証を設け、「見える化」をさらに図る。</p> <p>○外国人介護人材を受入れている事業所の実態調査を実施し、受入れノウハウ等の共有ツールを作成する。</p>
アウトプット指標（当初の目標値）	<p>○人材マネジメントスキル向上研修 ８回（1,000人）</p> <p>○優良事業所の認証及びコンサルティングの実施 ・認証 300 法人（累計） ・コンサル 47 法人</p>
アウトプット指標（達成値）	<p>○人材マネジメントスキル向上研修 ４回（743人）</p> <p>○優良事業所の認証及びコンサルティングの実施 ・個別コンサル 38 法人 ・認証法人 343 法人（累計）</p>
事業の有効性・効率性	<p>・介護職員の離職者のうち３年未満の割合 観察できた→ 指標：57.1%（R4）</p> <p>・介護職員数 観察できた→51,588人（R3）</p>
	<p>（１）事業の有効性 福祉・介護職場の環境改善への取組を見える化し、資質向上研修を通じたスキルアップを図ることにより、従事者のモチベーションアップにつながるとともに、人材の確保・定着に係る取り組みを行うことができた。</p> <p>（２）事業の効率性 関係団体等と連携を図り事業周知を行うとともに、効果的な職場環境改善に取り組むことができた。</p>
その他	<p>令和２年度：9,232 千円 令和４年度：2,088 千円</p>

令和元年度広島県計画に関する 事後評価

**令和 5 年 1 2 月
広島県**

1. 事後評価のプロセス

(1) 「事後評価の方法」の実行の有無

事後評価の実施にあたって、都道府県計画に記載した「事後評価の方法」に記載した事項について、記載どおりの手続きを行ったかどうかを記載。

☒ 行った

(実施状況)

- ・令和2年10月29日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和3年1月22日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和3年11月30日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和4年10月20日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員会から意見聴取
- ・令和4年11月30日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員会から意見聴取
- ・令和5年12月28日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員会から意見聴取中

☐ 行わなかった

(行わなかった場合、その理由)

(2) 審議会等で指摘された主な内容

事後評価の方法に記載した審議会等の意見を聞いた際に指摘された主な内容を記載するとともに、内容の末尾に審議会等名とその開催日時を記載すること。なお、主な内容については、審議会等の議事概要の添付も可とする。

審議会等で指摘された主な内容

2. 目標の達成状況

令和元年度広島県計画に規定する目標を再掲し、令和4年度終了時における目標の達成状況について記載。

■広島県全体（目標）

1. 目標

広島県においては、それぞれの医療介護総合確保区域において、限りある医療・介護資源を効果的に活用して、急性期医療から在宅医療・介護まで一連のサービスが適切に提供されるよう、効率的かつ質の高い医療提供体制と地域包括ケア体制の構築を図り、高齢者が地域において、安心して生活できるよう以下を目標に設定する。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

限られた医療・介護資源を活用した地域にふさわしいバランスのとれた医療・介護提供体制を構築するには、医療機能別の需要に応じた病床数を確保する必要があることから、「広島県地域医療構想」を踏まえ、病床機能の転換等医療機関の自主的な取組を促進する。

また、患者の状態に合わせた在宅医療への移行を円滑に進めるため、ICTを活用した地域医療情報ネットワークの構築を図る。

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値（H30）	目標値（R7）
高度急性期	4,290 床	2,989 床
急性期	13,249 床	9,118 床
回復期	4,952 床	9,747 床
慢性期	9,767 床	6,760 床以上

- ・ICTを活用した医療情報ネットワークの構築

H30：1,229 機関→R2：2,800 機関

② 居宅等における医療の提供に関する目標

在宅医療に取り組む医師を確保することにより、地域包括ケアシステムを強化する。

【定量的な目標値】

- ・地域包括ケアシステムが構築されている日常生活圏域数

H30：125 圏域→R2：125 圏域

③ 介護施設等の整備に関する目標

介護施設等の整備を支援することで、高齢者ができる限り住み慣れた地域で安心して生活できる基盤づくりを推進する。

令和元年度においては、第7期介護保険事業支援計画等に位置付けている地域密着型サービス施設等の整備を行う。

【定量的な目標値】

- ・地域密着型サービス延利用者数 H29：19,848 人→R2：23,735 人

④ 医療従事者の確保に関する目標

公益財団法人広島県地域保健医療推進機構を中心に、大学、医師会、県、市町等が一体となって医療従事者の確保を推進する。

【定量的な目標値】

- ・ 県内医療施設従事医師数（人口 10 万人対） H28：254.6 人→R4：264.6 人以上
- ・ 過疎地域の医療施設従事医師数（人口 10 万人対）
H28：190.5 人→R4：203.4 人以上
- ・ 県内小児科医師数（小児人口千人対）
H28：1.0 人→H30：全国平均値（参考値：1.0 人（H28））を維持
- ・ 県内地域医療に携わる女性医師数 H28：1,409 人→H30：1,494 人以上
- ・ 手当支給施設の産科・産婦人科医師数 H28：278 人→H30：現状値を維持
- ・ 分娩 1000 件当たりの分娩取扱医療機関勤務産婦人科医師数
H28：15.93 人→H30：現状値を維持
- ・ 医療施設従事看護職員数 H28：42,904 人→R5：45,276 人
- ・ 救急搬送人員に占める軽症患者の割合（18 歳未満）
H29：66.7%→H30：66.2%以下

⑤ 介護従事者の確保に関する目標

令和 7 年には、約 6,950 人の介護職員の受給ギャップが生じると推計されており、必要となる介護職員の不足を解消するため、介護・看護従事者及び介護支援専門員等のスキルアップを図ることにより、介護従事者等のモチベーションを向上させるなど、人材の育成・定着を促進する。

【定量的な目標値】

- ・ 介護職員の離職者のうち 3 年未満職員の割合 H28：64.6%→R2：59.3%以下
- ・ 介護職員数 H27：47,102 人→H30：49,830 人以上
- ・ 要介護認定率 H28：19.3%→R2：19.1%
- ・ 認知症入院患者の入院後 1 年時点の退院率 H26：67.9%→H30：71.3%

2. 計画期間

平成 31 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□広島県全体（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、5 施設が回復期（236 床）に転換した。（令和元年度）
- ・ 地域医療情報ネットワークがある医療介護総合確保区域を「7 区域（全区域）」のまま維持した。
- ・ 地域医療情報ネットワークについて、情報開示施設が 4 施設増、情報閲覧施設が 2 施設増となり、全体で 755 施設の加入となった。

② 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・ 全ての日常生活圏域（125 圏域）で構築されている地域包括ケア体制について、質

の向上が図られた。

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・ 地域密着型サービス延利用者数が、令和元年度中に20,142人に増加した。（前年度比17人の増）（令和元年度）
 - ・ 地域密着型サービス延利用者数 H29：19,848人→R3：28,500人

④ 医療従事者の確保に関する目標

- ・ 県内医療施設従事医師数（人口10万人対）は258.6人（H30）から267.6人（R2）に増加した。また、過疎地域の医療施設従事医師数（人口10万人対）は、195.1人（H30）から200.0人（R2）に増加した。（R4.4時点）

⑤ 介護従事者の確保に関する目標

- ・ 介護職員の離職者のうち3年未満職員の割合は、令和3年度は59.3%となり、減少傾向にある。（H28：64.6%→R3：59.3%）また、離職率についても減少傾向にある（R28：16.7%→R3：13.7%）。
- ・ 介護職員数は、47,102人（H27）から51,503人（R元）に増加した。
- ・ 認知症患者の入院後1年時点の退院率は、79.2%（R元）である。

2) 見解

「広島県地域医療構想」を踏まえ、引き続き、患者の状態に合わせた在宅医療への移行を円滑に進めるため、ICTを活用した地域医療情報ネットワークの構築を図るとともに、住み慣れた地域での生活が継続できるよう、地域密着型サービスを中心とした介護施設等の整備や、医療・介護人材の確保・育成・定着を促進する。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■広島（目標と計画期間）

1. 目標

広島区域では、在宅医療提供体制の整備や在宅医療に関する人材育成が課題となっていることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値（H30）	目標値（R7）
高度急性期	2,505床	1,585床
急性期	5,580床	4,242床
回復期	1,894床	4,506床
慢性期	3,806床	2,730床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所 整備数 1 か所
- ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 整備数 1 か所
- ・ 認知症対応型デイサービスセンター 整備数 1 か所

2. 計画期間

平成 31 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□広島（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、2 病院が急性期及び慢性期から回復期（146床）に転換した。（令和元年度）

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 整備数 1 施設（R 元年度実施）
- ・ 小規模多機能型居宅介護 整備数 2 施設（R 元年度実施）
- ・ 看護小規模多機能型居宅介護 整備数 2 施設（R 元年度実施）
- ・ 介護医療院への転換（35 床） 整備数 1 施設（R 元年度実施）
- ・ 特別養護老人ホーム（30 床増床） 整備数 1 施設（R 元年度実施）
- ・ 介護医療院への転換（48 床） 整備数 1 施設（R 2 年度実施）

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和 4 年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和 4 年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■広島西（目標と計画期間）

1. 目標

広島西区域では、「地域包括支援センター」やケアマネジャーを中心とした介護・福祉関係者と一体となった支援を行い、退院から日常の療養・急変時の対応が包括的・継続的に行われ、患者が望む場所での看取りができる体制整備が課題となっていることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域医療構想で記載する令和 7 年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値（H30）	目標値（R7）
高度急性期	260 床	156 床
急性期	606 床	410 床
回復期	209 床	515 床
慢性期	1,075 床	478 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 認知症対応型デイサービスセンター 整備数 1 か所
- ・ 認知症高齢者グループホーム 整備数 1 か所

2. 計画期間

平成 31 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□広島西（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、未実施。（令和 4 年度以降の実施）

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・ 介護医療院への転換（35 床） 整備数 1 施設（R 元年度実施）

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和 4 年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和 4 年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■呉（目標と計画期間）

1. 目標

呉区域では、救急医療をはじめとした医療提供体制の維持・確保や、病院等における看護師等の医療従事者の確保に苦慮していることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域医療構想で記載する令和 7 年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値（H30）	目標値（R7）
高度急性期	695 床	287 床
急性期	1,162 床	858 床
回復期	422 床	894 床
慢性期	1,024 床	751 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 認知症高齢者グループホーム 整備数 3 か所
- ・ 看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数 1 か所

2. 計画期間

平成 31 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□呉（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、1 病院が急性期から回復期（34床）に転換した。（令和元年度）

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・ 認知症高齢者グループホーム 整備数 3 施設（R 元年度実施）
- ・ 介護医療院への転換（115 床） 整備数 3 施設（R 元年度実施）

2) 見解

病院等における看護師等の医療従事者の確保が一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和 4 年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和 4 年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■広島中央（目標と計画期間）

■広島中央

1. 目標

広島中央区域では、医療を必要とする高齢者の大幅な増加が見込まれる中、急性期治療後、在宅で必要な医療が受けられるよう、医療・介護を担う人材の育成や、在宅医療連携の仕組みづくりの整備が必要であるという課題が存在していることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域医療構想で記載する令和 7 年度に必要な医療機能ごとの病床数

区分	現状値（H30）	目標値（R7）
高度急性期	14 床	122 床
急性期	1,021 床	672 床
回復期	541 床	678 床
慢性期	945 床	669 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数 2 か所

2. 計画期間

平成 31 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□広島中央（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- 回復期病床への転換に係る事業については、1病院が急性期から回復期（4床）に転換した。（令和元年度）

③ 介護施設等の整備に関する目標

未実施

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■尾三（目標と計画期間）

1. 目標

尾三区域では、救急医療をはじめとした医療提供体制を充実させるとともに、在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院、在宅療養支援歯科診療所で、必要に応じて他の病院、診療所、薬局、訪問看護ステーション等と連携を図り、24時間の往診、訪問看護等を提供する体制を引き続き確保するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- 地域医療構想で記載する令和7年度に必要な医療機能ごとの病床数

区分	現状値（H30）	目標値（R7）
高度急性期	353 床	242 床
急性期	1,626 床	905 床
回復期	576 床	991 床
慢性期	1,030 床	726 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- 地域密着型特別養護老人ホーム 整備数 29 床
- 地域密着型特別養護老人ホーム併設ショートステイ 整備数 20 床

2. 計画期間

平成31年4月1日～令和5年3月31日

□尾三（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- 回復期病床への転換に係る事業については、未実施。（令和2年度以降の実施）

③ 介護施設等の整備に関する目標

- 看護小規模多機能型居宅介護 整備数 1 施設（R 元年度実施）
- 地域密着型特別養護老人ホーム併設ショートステイ 整備数 1 施設（R 元年度実施）
- 介護医療院への転換（41 床） 整備数 1 施設（R 元年度実施）

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■福山・府中（目標と計画期間）

1. 目標

福山・府中区域では、診療所の訪問診療及び往診について、人口 10 万人当たりの実施件数が少なく、全国及び広島県平均と大きく隔たりがあるなど、在宅医療の充実が課題となっており、また、看護師の確保も課題となっていることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- 地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値（H30）	目標値（R7）
高度急性期	429 床	524 床
急性期	2,633 床	1,691 床
回復期	1,133 床	1,840 床
慢性期	1,052 床	976 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- 地域密着型特別養護老人ホーム 整備数 29 床
- 認知症対応型デイサービスセンター 整備数 1 か所
- 認知症高齢者グループホーム 整備数 4 か所

④ 医療従事者の確保に関する目標

【定量的な目標値】

- 福山・府中圏域の小児科医師数（小児人口 10 万人対）H28：68.8 人→H34：95.6 人

2. 計画期間

平成 31 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□福山・府中（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、1病院が慢性期から回復期（52床）に転換した。（令和元年度）

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・ 認知症対応型デイサービスセンター 整備数1施設（R元年度実施）
- ・ 認知症高齢者グループホーム 整備数5施設（R元年度実施）
- ・ 介護医療院への転換（50床） 整備数1施設（R元年度実施）

④ 医療従事者の確保に関する目標

- ・ 看護学校における教育環境の整備（1看護専門学校）を実施した。

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■備北（目標と計画期間）

1. 目標

備北区域では、高齢化率が県内において最も高く、今後も医療を必要とする高齢者の増加が見込まれる中で、在宅医療提供体制の確立が求められていることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

区分	現状値（H30）	目標値（R7）
高度急性期	34 床	73 床
急性期	621 床	340 床
回復期	177 床	323 床
慢性期	835 床	430 床以上

2. 計画期間

平成31年4月1日～令和5年3月31日

□備北（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、未実施。（令和4年度以降の実施）

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

3-1. 事業の実施状況（医療分）

令和元年度広島県計画に規定した事業（医療分）について、令和4年度終了時における事業の実施状況を記載。

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【No.1（医療分）】 在宅歯科診療設備整備事業	【総事業費】 9,780 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	イチマ歯科医院 他 23 施設	
事業の期間	令和元年 11 月 19 日～令和 5 年 3 月 31 日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者人口の増加に伴い、在宅の認知症高齢者等が増加することが予想され、在宅歯科診療のための専門的な機能を有した歯科医療機関を増加させる必要がある。	
	アウトカム指標： 在宅歯科診療ができる歯科医療機関 279 施設（R 元年度末）→ 346 施設（R5 年度末）	
事業の内容（当初計画）	在宅療養者への口腔ケア及び在宅介護者への歯科口腔保健の知識や技術の指導を実施するために必要となる医療機器等の設備整備に対して補助する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	整備医療機関数 25 施設	
アウトプット指標（達成値）	整備歯科医療機関数 12 施設	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 訪問口腔衛生指導を実施している診療所・病院数 234 施設（R2 年度末）→ 255 施設（令和 4 年度）	
	<p>（1）事業の有効性</p> <p>診療報酬上の施設基準要件である過去 1 年間の歯科訪問診療の算定実績や、適切な研修を受講した歯科医師・歯科衛生士の数が十分でない歯科医療機関も多く、令和 5 年度最終目標値に対して努力を要する結果となったが、在宅歯科診療に係る医療機器等の整備により、整備医療機関数を増加させ、また、専門的な機能を有した歯科医療機関を増加させることができた。</p> <p>（2）事業の効率性</p> <p>設備整備に当たっては、各医療機関において入札等を実施することにより、コストの低下を図っている。</p>	
その他	令和元年度 3,473 千円 令和 3 年度 5,459 千円 令和 4 年度 848 千円	

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【No. (医療分)】 歯科衛生士修学支援事業	【総事業費】 (計画期間の総額) 5,223 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	広島県歯科医師会	
事業の期間	令和元年 11 月 19 日～令和 5 年 3 月 31 日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>在宅療養支援歯科診療所の施設基準では、歯科衛生士の配置が 1 つの要件となっており、在宅歯科医療提供体制の構築における歯科衛生士の役割は非常に重要である。</p> <p>しかし、中山間地域等においては、就業歯科衛生士数が少ない地域も多くあり、地域偏在が生じている。</p> <p>アウトカム指標： 在宅歯科診療ができる歯科医療機関 279 施設 (R 元年度末) → 346 施設 (R5 年度末)</p>	
事業の内容 (当初計画)	修学支援金を歯科衛生士養成校の学生に貸与し、返済を免除する代わりに、一定期間は中山間地域等の就業歯科衛生士が不足している市町の歯科診療所に勤務する条件を課すことで、就業歯科衛生士の地域偏在の解消を図る。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	貸与学生数 30 名	
アウトプット指標 (達成値)	貸与学生数 4 名	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 在宅歯科診療ができる歯科医療機関 234 施設 (R2 年度末) → 239 施設 (R3 年度末)</p> <p>(1) 事業の有効性 診療報酬上の施設基準要件である過去 1 年間の歯科訪問診療の算定実績や、適切な研修を受講した歯科医師・歯科衛生士の数が十分でない歯科医療機関も多く、令和 5 年度最終目標値に対して努力を要する結果となったが、歯科衛生士の地域偏在を解消することにより、在宅歯科医療提供体制の強化することができた。</p> <p>(2) 事業の効率性 広島県内でも特に就業歯科衛生士が不足している中山間地域に重点を置いて免除の条件を付すことにより、効率的な就業歯科衛生士の地域偏在の解消に繋がっている。</p>	
その他	令和元年度 3,444 千円 令和 3 年度 64 千円 令和 4 年度 1,715 千円	

平成 29 年度広島県計画に関する 事後評価

**令和 5 年 1 2 月
広島県**

1. 事後評価のプロセス

(1) 「事後評価の方法」の実行の有無

事後評価の実施にあたって、都道府県計画に記載した「事後評価の方法」に記載した事項について、記載どおりの手続きを行ったかどうかを記載。

☒ 行った

(実施状況)

- ・平成 29 年 9 月 22 日 新たな財政支援制度検討委員会委員から意見聴取
- ・令和 2 年 1 月 24 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和 2 年 10 月 29 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和 3 年 1 月 22 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和 3 年 11 月 30 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和 4 年 10 月 20 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和 4 年 11 月 30 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和 5 年 12 月 28 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取中

☐ 行わなかった

(行わなかった場合、その理由)

(2) 審議会等で指摘された主な内容

事後評価の方法に記載した審議会等の意見を聞いた際に指摘された主な内容を記載するとともに、内容の末尾に審議会等名とその開催日時を記載すること。なお、主な内容については、審議会等の議事概要の添付も可とする。

審議会等で指摘された主な内容

2. 目標の達成状況

平成29年度広島県計画に規定する目標を再掲し、令和4年度終了時における目標の達成状況について記載。

■広島県全体（目標）

1. 目標

広島県においては、それぞれの医療介護総合確保区域において、限りある医療・介護資源を効果的に活用して、急性期医療から在宅医療・介護まで一連のサービスが適切に提供されるよう、効率的かつ質の高い医療提供体制と地域包括ケア体制の構築を図り、高齢者が地域において、安心して生活できるよう以下を目標に設定する。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

広島県においては、回復期病床の将来の必要量が現状に比べ不足する見込みであることから、「広島県地域医療構想」を踏まえ、急性期病床等から回復期病床への自主的な転換を促進する。

また、患者の状態に合わせた在宅医療への移行を円滑に進めるため、ICTを活用した地域医療情報ネットワークの構築を図る。

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数
- | | |
|-------|-----------|
| 高度急性期 | 2,989 床 |
| 急性期 | 9,118 床 |
| 回復期 | 9,747 床 |
| 慢性期 | 6,760 床以上 |

② 居宅等における医療の提供に関する目標

地域完結型の在宅医療提供体制が整備されるよう、医療・介護の連携を推進する。

【定量的な目標値】

- ・地域包括ケアシステムが構築されている日常生活圏域数
- H28：98 圏域 → H29：125 圏域

③ 介護施設等の整備に関する目標

介護施設等の整備を支援することで、高齢者ができる限り住み慣れた地域で安心して生活できる基盤づくりを推進する。

平成29年度においては、第6期介護保険支援計画等に位置付けている地域密着型サービス施設等の整備を行う。

【定量的な目標値】

- ・地域密着型サービス延利用者数 H29：21,746 人

④ 医療従事者の確保に関する目標

公益財団法人広島県地域保健医療推進機構を中心に、大学、医師会、県、市町等が一体となって医療従事者の確保を推進する。

【定量的な目標値】

- ・県内医療施設従事医師数（人口10万人対） H30：264.6人以上

⑤ 介護従事者の確保に関する目標

ア 取組方針

介護人材の需給推計に基づく需給ギャップ解消を図るための取組を促進する。

平成 29 年度においては、「魅力ある職場宣言」の実施、魅力ある職場づくりのための自己点検ツールの実施、市町等地域の介護人材確保推進組織の設置と地域巡回型合同求人面談会等の開催、ターゲットを絞った情報提供や就職セミナー、テレビによる啓発や施設体験等による就業への誘導、小規模事業所への支援、キャリアアップ支援など総合的な施策を実施する。

イ 推進体制

平成 24 年度から行政、事業者団体、養成施設団体、職能団体及び各種支援機関等で組織した「広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会」を設立し、関係者が自ら計画・実施・検証を行い、取組の強化を図っており、平成 29 年度においては、この協議会の取組をさらに継続しつつ、県内の各地域（11 地域以上）に取組を拡充するため、地域版の協議会を設け、取組の促進を図る。

ウ 基盤整備

「広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会」は県域での広域啓発や事業者支援の仕組みづくりを進めてきたが、介護人材の需給推計等により、今後は介護人材確保対策を地域の関係者が一体となって取り組む機運の醸成や、各地域が主体となった介護人材確保対策の企画・実施に取り組む。

エ 参入促進

地元の社協、行政、ハローワーク、施設等の関係機関・団体が連携し、介護人材確保の問題を地域自身の課題と捉えて、地域の実情に応じた積極的な介護人材確保策を図り、事業所が地元の求職者を雇用する機会づくりや、介護職に興味・関心がある者や学生・女性・中高齢者等に対して介護職の魅力を PR する場づくりに取り組む。

「介護予防・日常生活支援総合事業」の円滑な実施に向けて、高齢者世代自らも地域の担い手となれるよう、住民主体による生活支援に係る取組の促進を図る。

オ 資質の向上

介護サービスの提供に必要な介護人材が不足することから、就業者が安心して働き続けられるよう、キャリアアップ等の人材育成に向けた取組を支援する。

県内には、医療資源や介護サービス資源が限られている中山間地域や、資源は充実しているものの、今後の高齢化により急激な介護需要が見込まれる都市部など、様々な地域の実情を踏まえた地域包括ケアシステムを構築するため、地域ケア会議の推進、医療介護連携の中核となる介護支援専門員の資質向上及び介護支援専門員を実践的に指導できる主任介護支援専門員のスキルアップ（医療的知識の向上等）を図る。

地域リハビリテーションなど介護予防の取組も重要であることから、生活支援の視点から専門領域を活かしたりハビリテーション専門職の指導者の養成に取り組む。

カ 労働環境・処遇の改善

施設・事業所自らが、人材確保・定着に向けた改革・発展できる仕組みづくりが必要であることから、小規模事業所における求職活動や資質向上、看護職員の勤務環境改善の取組を支援する。

【定量的な目標値】

- ・福祉・介護人材の確保 H29：2,681人
- ・福祉・介護サービス人材の離職率 H29：15.6%
- ・要支援・要介護認定率 H29：20.0%以下
- ・認知症患者の入院後1年時点の退院率 H29：59.8%
- ・医療介護連携パス（認知症地域連携パス）運用地域 H29：22地域

2. 計画期間

平成29年4月1日～令和5年3月31日

□広島県全体（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・回復期病床への転換に係る事業については、5施設が回復期（236床）に転換した。（令和元年度）
- ・地域医療情報ネットワークがある医療介護総合確保区域を「7区域（全区域）」のまま維持した。

② 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・地域包括ケア体制が全ての日常生活圏域（125圏域）で構築された。

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・地域密着型サービス延利用者数が、平成28年度中に18,800人に増加した。（前年度比6,324人の増）（平成29年度）
- ・地域密着型サービス延利用者数が、令和元年度中に20,142人に増加した。（前年度比17人の増）（令和元年度）
- ・地域密着型サービス延利用者数 H29：19,848人→R3：28,500人

④ 医療従事者の確保に関する目標

- ・県内医療施設従事医師数（人口10万人対）は258.6人（H30）から267.6人（R2）に増加した。また、過疎地域の医療施設従事医師数（人口10万人対）は、195.1人（H30）から200.0人（R2）に増加した。（R4.4時点）

⑤ 介護従事者の確保に関する目標

- ・福祉・介護サービス人材の離職率について、令和3年度は13.7%となり、減少傾向にある。（H27：16.5% H28：16.7% H29：16.2% H30：15.4% R元：15.4%、R2：11.8%、R3：13.7%）
- ・認知症患者の入院後1年時点の退院率は、79.2%（R元）である。

2) 見解

「広島県地域医療構想」を踏まえ、引き続き、患者の状態に合わせた在宅医療への移行を円滑に進めるため、ICTを活用した地域医療情報ネットワークの構築を図る

とともに、住み慣れた地域での生活が継続できるよう、地域密着型サービスを中心とした介護施設等の整備や、医療・介護人材の確保・育成・定着を促進する。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■広島（目標と計画期間）

1. 目標

広島区域では、在宅医療提供体制の整備や在宅医療に関する人材育成が課題となっていることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数
- 高度急性期 1,584 床
- 急性期 4,241 床
- 回復期 4,505 床
- 慢性期 2,730 床以上

② 居宅等における医療の提供に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域包括ケアシステムが構築されている日常生活圏域数
- H28：40 圏域 → H29：56 圏域

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・特別養護老人ホーム整備数 610 床
- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所整備数 2 カ所
- ・小規模多機能型居宅介護事業所整備数 6 カ所
- ・認知症対応型デイサービスセンター整備数 2 カ所
- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所整備数 4 カ所

2. 計画期間

平成29年4月1日～令和5年3月31日

□広島（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・回復期病床への転換に係る事業については、2病院が急性期及び慢性期から回復期（146床）に転換した。（令和元年度）

② 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・地域包括ケア体制が全ての日常生活圏域（56圏域）で構築されている地域包括ケア体制について、質の向上が図られた。

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・ 看護小規模多機能型居宅介護 整備数 2 施設 (H29年度実施)
- ・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 整備数 1 施設 (H29 年度実施)
- ・ 特別養護老人ホーム 整備数 590 床 9 施設 (H29 年度実施)
- ・ 特別養護老人ホーム (80 床増床) 整備数 1 施設 (内: 令和元年度分 50 床)
- ・ 小規模多機能型居宅介護 整備数 1 施設 (R 2 年度実施)
- ・ 特別養護老人ホーム (改築 185 床) 整備数 3 か所 (R 3 年度実施)
- ・ 特別養護老人ホーム併設ショートステイ用居室 (10 床) 整備数 1 か所 (R 3 年度実施)

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和 4 年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和 4 年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■広島西 (目標と計画期間)

1. 目標

広島西区域では、「地域包括支援センター」やケアマネジャーを中心とした介護・福祉関係者と一体となった支援を行い、退院から日常の療養・急変時の対応が包括的・継続的に行われ、患者が望む場所での看取りができる体制整備が課題となっていることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域医療構想で記載する令和 7 年度に必要な医療機能ごとの病床数
- | | |
|-------|---------|
| 高度急性期 | 156 床 |
| 急性期 | 410 床 |
| 回復期 | 515 床 |
| 慢性期 | 478 床以上 |

② 居宅等における医療の提供に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域包括ケアシステムが構築されている日常生活圏域数
H28: 8 圏域 → H29: 8 圏域 (目標達成済)

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 介護療養型医療施設の転換整備数 1 か所

2. 計画期間

平成 29 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□広島西 (達成状況)

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、未実施。（令和4年度以降の実施）

② 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・ 地域包括ケア体制が全ての日常生活圏域（8圏域）で構築されている地域包括ケア体制について、質の向上が図られた。

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・ 対象事業者の公募を行ったが応募がなく、整備に至らなかった。（平成29年度）
- ・ 認知症対応型デイサービスセンター 整備数1施設（令和元年度）
- ・ 特別養護老人ホーム 整備数100床1施設（R2年度実施）

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■ 呉（目標と計画期間）

1. 目標

呉区域では、救急医療をはじめとした医療提供体制の維持・確保や、病院等における看護師等の医療従事者の確保に苦慮していることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

高度急性期	287 床
急性期	858 床
回復期	894 床
慢性期	751 床以上

② 居宅等における医療の提供に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域包括ケアシステムが構築されている日常生活圏域数
H28：10 圏域 → H29：12 圏域

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 特別養護老人ホーム整備数 20 床
- ・ 地域密着型特別養護老人ホーム整備数 58 床

2. 計画期間

□呉（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、1 病院が急性期から回復期（34床）に転換した。（令和元年度）

② 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・ 地域包括ケア体制が全ての日常生活圏域（12圏域）で構築されている地域包括ケア体制について、質の向上が図られた。

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・ 特別養護老人ホーム（1カ所）を整備した。（平成 29 年度）

2) 見解

病院等における看護師等の医療従事者の確保が一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和 4 年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和 4 年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■広島中央（目標と計画期間）

1. 目標

広島中央区域では、医療を必要とする高齢者の大幅な増加が見込まれる中、急性期治療後、在宅で必要な医療が受けられるよう、医療・介護を担う人材の育成や、在宅医療連携の仕組みづくりの整備が必要であるという課題が存在していることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域医療構想で記載する令和 7 年度に必要となる医療機能ごとの病床数
高度急性期 122 床
急性期 672 床
回復期 678 床
慢性期 669 床以上

② 居宅等における医療の提供に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域包括ケアシステムが構築されている日常生活圏域数
H28：9 圏域 → H29：12 圏域

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 定期巡回・随時対応型居宅介護事業所整備数 2 カ所
- ・ 看護小規模多機能型居宅介護事業所整備数 2 カ所

2. 計画期間

平成 29 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□広島中央（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、1 病院が急性期から回復期（4 床）に転換した。（令和元年度）

② 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・ 地域包括ケア体制が全ての日常生活圏域（12 圏域）で構築されている地域包括ケア体制について、質の向上が図られた。

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・ 定期巡回・随時対応型居宅介護 整備数 1 施設（H29 年度実施）
- ・ 看護小規模多機能型居宅介護 整備数 2 施設（H29 年度実施）
- ・ 介護医療院への転換 整備数 45 床 1 か所（R 元年度実施）

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和 4 年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和 4 年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■尾三（目標と計画期間）

1. 目標

尾三区域では、救急医療をはじめとした医療提供体制を充実させるとともに、在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院、在宅療養支援歯科診療所で、必要に応じて他の病院、診療所、薬局、訪問看護ステーション等と連携を図り、24 時間の往診、訪問看護等を提供する体制を引き続き確保するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域医療構想で記載する令和 7 年度に必要となる医療機能ごとの病床数

高度急性期	242 床
急性期	905 床
回復期	991 床
慢性期	726 床以上

② 居宅等における医療の提供に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域包括ケアシステムが構築されている日常生活圏域数
H28：11 圏域 → H29：11 圏域（目標達成済）

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域密着型特別養護老人ホーム整備数 29 床
- ・定期巡回・随時対応型居宅介護事業所整備数 3 か所
- ・小規模多機能型居宅介護事業所整備数 2 か所
- ・認知症高齢者グループホーム整備数 1 か所

2. 計画期間

平成 29 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□尾三（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・回復期病床への転換に係る事業については、未実施。（令和 4 年度以降の実施）

② 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・地域包括ケア体制が全ての日常生活圏域（11 圏域）で構築されている地域包括ケア体制について、質の向上が図られた。

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・小規模多機能型居宅介護 整備数 2 施設（H29 年度実施）
- ・認知症高齢者グループホーム 整備数 1 施設（H29 年度実施）
- ・特別養護老人ホーム（改築 78 床） 整備数 1 か所（R3 年度実施）
- ・特別養護老人ホーム併設ショートステイ用居室（8 床） 整備数 1 か所（R3 年度実施）

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和 4 年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和 4 年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■福山・府中

1. 目標

福山・府中区域では、診療所の訪問診療及び往診について、人口 10 万人当たりの実施件数が少なく、全国及び広島県平均と大きく隔たりがあるなど、在宅医療の充実が課題となっており、また、看護師の確保も課題となっていることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和 7 年度に必要となる医療機能ごとの病床数
高度急性期 524 床

急性期	1,691 床
回復期	1,840 床
慢性期	976 床以上

② 居宅等における医療の提供に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域包括ケアシステムが構築されている日常生活圏域数
H28：11 圏域 → H29：14 圏域

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域密着型特別養護老人ホーム整備数 29 床
- ・定期巡回・随時対応型居宅介護事業所整備数 1 カ所
- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所 1 カ所

④ 医療従事者の確保に関する目標

【定量的な目標値】

- ・看護学校における教育環境の整備 2 看護専門学校

2. 計画期間

平成 29 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□福山・府中（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・回復期病床への転換に係る事業については、1 病院が慢性期から回復期（52 床）に転換した。（令和元年度）

② 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・地域包括ケア体制が全ての日常生活圏域（14 圏域）で構築されている地域包括ケア体制について、質の向上が図られた。

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・地域密着型特別養護老人ホーム 整備数 29 床 1 施設（H29 年度実施）
- ・地域密着型特別養護老人ホーム 整備数 3 床 1 施設（R2 年度実施）
- ・型特別養護老人ホーム 整備数 9 床 1 施設（R2 年度実施）
- ・定期巡回・随時対応型居宅介護 整備数 1 施設（R2 年度実施）

④ 医療従事者の確保に関する目標

- ・看護学校における教育環境の整備（1 看護専門学校）を実施した。

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和 4 年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。

☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■備北

1. 目標

備北区域では、高齢化率が県内において最も高く、今後も医療を必要とする高齢者の増加が見込まれる中で、在宅医療提供体制の確立が求められていることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数
高度急性期 73 床
急性期 340 床
回復期 323 床
慢性期 430 床以上

② 居宅等における医療の提供に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域包括ケアシステムが構築されている日常生活圏域数
H28：9 圏域 → H29：12 圏域

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・小規模多機能型居宅介護事業所整備数 1 か所

2. 計画期間

平成29年4月1日～令和5年3月31日

□備北（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・回復期病床への転換に係る事業については、未実施。（令和4年度以降の実施）

② 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・地域包括ケア体制が全ての日常生活圏域（12圏域）で構築されている地域包括ケア体制について、質の向上が図られた。

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・調整に時間を要し、整備に至らなかった。（平成29年度）
- ・特別養護老人ホーム（改築60床） 整備数1か所（R3年度実施）

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。

☐ 令和４年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

3-1. 事業の実施状況（医療分）

平成29年度広島県計画に規定した事業（医療分）について、令和4年度終了時における事業の実施状況を記載。

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業																
事業名	【No. 1（医療分）】 病床機能分化・連携促進基盤整備事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 879,782 千円															
事業の対象となる区域	全区域																
事業の実施主体	病院及び有床診療所																
事業の期間	平成28年4月1日～令和7年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了																
背景にある医療・介護ニーズ	<p>地域医療構想の実現に向けて、医療機関における病床機能分化の自主的な取組を推進する必要がある。</p> <p>アウトカム指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年に必要となる医療機能ごとの病床数（暫定推計値） <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>現状（H29）</th><th>必要病床数（R7）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高度急性期</td><td>4,815 床</td><td>2,989 床</td></tr> <tr> <td>急性期</td><td>12,939 床</td><td>9,118 床</td></tr> <tr> <td>回復期</td><td>4,265 床</td><td>9,747 床</td></tr> <tr> <td>慢性期</td><td>9,128 床</td><td>6,760 床以上</td></tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度基金を活用して整備を行う不足している病床機能毎（高度急性期・急性期・回復期・慢性期）の病床数 		区分	現状（H29）	必要病床数（R7）	高度急性期	4,815 床	2,989 床	急性期	12,939 床	9,118 床	回復期	4,265 床	9,747 床	慢性期	9,128 床	6,760 床以上
区分	現状（H29）	必要病床数（R7）															
高度急性期	4,815 床	2,989 床															
急性期	12,939 床	9,118 床															
回復期	4,265 床	9,747 床															
慢性期	9,128 床	6,760 床以上															
事業の内容（当初計画）	回復期病床への転換に係る施設・設備整備に対して補助を行う。																
アウトプット指標（当初の目標値）	対象医療機関数 9 施設																
アウトプット指標（達成値）	対象医療機関数 5 施設																
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年に必要となる医療機能ごとの病床数（暫定推計値） <p>観察できなかった 観察できた → 指標：</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>平成30年度 病床機能報告数</th><th>令和4年度 病床機能報告数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高度急性期</td><td>4,290 床</td><td>4,464 床</td></tr> <tr> <td>急性期</td><td>13,249 床</td><td>10,875 床</td></tr> <tr> <td>回復期</td><td>4,952 床</td><td>6,342 床</td></tr> <tr> <td>慢性期</td><td>9,767 床</td><td>7,738 床</td></tr> </tbody> </table> <p>（1）事業の有効性</p> <p>病床の機能分化・連携を促進するため、不足が見込まれる「回復期病床」への転換等の際に必要となる施設・設備整備費に対して補助を行うことにより、医療機関における病床転換の取組を支援することができた。</p>		区分	平成30年度 病床機能報告数	令和4年度 病床機能報告数	高度急性期	4,290 床	4,464 床	急性期	13,249 床	10,875 床	回復期	4,952 床	6,342 床	慢性期	9,767 床	7,738 床
区分	平成30年度 病床機能報告数	令和4年度 病床機能報告数															
高度急性期	4,290 床	4,464 床															
急性期	13,249 床	10,875 床															
回復期	4,952 床	6,342 床															
慢性期	9,767 床	7,738 床															

	<p>(2) 事業の効率性</p> <p>補助金を活用する医療機関においては、見積合わせや一般競争入札を行うなどし、効率的な事業の実施に取り組んでいる。</p>
その他	<p>令和4年度：134,700 千円</p> <p>(令和4年度以降 745,082 千円)</p>

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設及び設備の整備に関する事業	
事業名	ひろしま医療情報ネットワーク(HM ネット)増強	【総事業費 (計画期間の総額)】 123,524 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	広島県医師会	
事業の期間	平成 26 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	地域医療構想に基づいた病床機能の分化・連携を進めるとともに、在宅医療への移行を円滑に進める必要がある。	
	アウトカム指標： ・ICTを活用した医療情報ネットワークの構築 730 施設(H27) → 6,000 施設(H32)	
事業の内容(当初計画)	① HMネット参加施設を増加させるための周知や参加募集を行う。 HMネットに参加するために必要となる初期整備を行う。	
アウトプット指標(当初の目標値)	地域医療ネットワーク(HM ネット)参加施設数の増加 ・情報開示施設：34 施設 ・情報閲覧施設：1,800 施設(医科・診療所・歯科・薬局)	
アウトプット指標(達成値)	HMネット参加医療機関数 〔令和 4 年度〕開示病院 41 施設 情報閲覧施設：738 施設	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： ICTを活用した医療情報ネットワークの構築 (開示病院・参照医療機関数) 観察できなかった 観察できた ・情報開示施設：40 施設(R3) → 41 施設(R4) : 1 施設増 ・情報閲覧施設：755 施設(R3) → 738 施設(R4) : 17 施設減	
	(1) 事業の有効性 HMネットに参加する際に必要な初期整備と、県医師会の専任スタッフによる初期設定サポートにより、医療機関がシステムを導入しやすい環境を整備し、ICTを活用した医療情報連携ネットワークの構築に効果を上げている。また、電子お薬手帳の機能追加により、薬局を含めた連携が進んでいる。 (2) 事業の効率性 運営主体の県医師会と県とが協働してネットワーク構築に取り組み、単純な数の増加だけでなく、地域の面的な連携や自治体の医療介護連携等への活用など、地域モデルの構築とその横展開を進め、効率的な周知・啓発を図っている。	
その他	平成 29 年度 74,577 千円 令和 4 年度 48,947 千円	

3-1. 事業の実施状況（介護分）

平成29年度広島県計画に規定した事業（介護分）について、令和4年度終了時における事業の実施状況を記載。

事業の区分	3. 介護施設等の整備に関する事業		
事業名	【No.1（介護分）】 介護施設等整備事業	【総事業費】 1,773,464 千円	
事業の対象となる区域	県内全域		
事業の実施主体	市町		
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了		
背景にある医療・介護ニーズ	介護施設等の整備を支援することで、高齢者ができる限り住み慣れた地域で安心して生活できる基盤づくりを推進する。		
	アウトカム指標： 地域密着型サービス等の利用者数，利用回数，定員数		
		R 元年度 実績	R 7 年度 利用見込数
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護（人）	704	1,197
	夜間対応型訪問介護（人）	113	101
	地域密着型通所介護（回）	792,027	897,338
	認知症対応型通所介護（回）	116,049	127,181
	小規模多機能型居宅介護（人）	3,837	4,421
	認知症対応型共同生活介護（人）	5,663	6,606
	地域密着型特定施設入居者生活介護（人）	28	29
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（人）	1,630	1,877
	看護小規模多機能型居宅介護（人）	429	764
		R 2 年度 定員数	R 5 年度 必要定員数
	介護老人福祉施設（広域型）（人）	11,689	12,553
	介護老人保健施設（人）	8,928	8,710
	介護療養型医療施設（人）	1,031	54
	介護医療院（人）	1,621	2,778
事業の内容（当初計画）	令和 3 年度においては、第 8 期介護保険支援計画等に位置付けている地域密着型サービス施設等の整備を行う。 また、介護施設等における新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点から、感染拡大防止対策支援事業を行う。併せて高齢障害者や施設従事者向けへの広報・啓発を行う。		
アウトプット指標(当初の目標値)	・対象介護施設等の新設，増床 ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策のための簡易陰圧装置設置，ゾーニング，個室化 ・介護職員の宿舍施設整備		

アウトプット指標(達成値)	<p>【令和4年度分】</p> <p>○施設開設準備経費等支援事業</p> <p>・介護ロボット・ICTの導入支援事業 8か所</p> <p>○既存の特別養護老人ホーム等のユニット化改修支援事業</p> <p>・看取り環境整備推進事業 1か所</p> <p>・共生型サービス事業所の整備 1か所</p> <p>○新型コロナウイルス感染拡大防止対策支援事業</p> <p>・簡易陰圧装置設置経費 20か所</p> <p>・ゾーニング環境整備 7か所</p> <p>・多床室の個室化改修 1か所</p>																																																
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標：</p> <p>地域密着型サービス利用数，施設サービス定員数</p> <p>・観察できなかった</p> <p>・観察できた → 指標：</p> <table><tr><td></td><td>R元年度 利用実績</td><td>R4年度 利用数＊</td></tr><tr><td>定期巡回・随時対応型訪問介護看護（人）</td><td>704</td><td>1,805</td></tr><tr><td>夜間対応型訪問介護（人）</td><td>113</td><td>228</td></tr><tr><td>地域密着型通所介護（回）</td><td>792,027</td><td>—</td></tr><tr><td>認知症対応型通所介護（回）</td><td>116,049</td><td>—</td></tr><tr><td>小規模多機能型居宅介護（人）</td><td>3,837</td><td>5,615</td></tr><tr><td>認知症対応型共同生活介護（人）</td><td>5,663</td><td>7,572</td></tr><tr><td>地域密着型特定施設入居者生活介護（人）</td><td>28</td><td>34</td></tr><tr><td>地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（人）</td><td>1,630</td><td>2,159</td></tr><tr><td>R4.4月 定員数（人）</td><td>—</td><td>1,682</td></tr><tr><td>看護小規模多機能型居宅介護（人）</td><td>429</td><td>1,012</td></tr><tr><td></td><td>R2年度 定員数</td><td>R5年4月 定員数</td></tr><tr><td>介護老人福祉施設（広域型）（人）</td><td>11,689</td><td>12,214</td></tr><tr><td>介護老人保健施設（人）</td><td>8,928</td><td>8,642</td></tr><tr><td>介護療養型医療施設（人）</td><td>1,031</td><td>439</td></tr><tr><td>介護医療院（人）</td><td>1,621</td><td>2,269</td></tr></table> <p>＊介護予防，短期利用除く（EMITAS-G調べ）</p> <p>（１）事業の有効性</p> <p>地域密着型サービス（認知症 GH，看護小規模多機能）については，市町の事業者公募が不調に終わり，令和3年度中の事業実施が困難になるなど整備が進まないサービスがあったが，施設サービスについては計画に沿った整備が進んだ。</p> <p>（２）事業の効率性</p> <p>市町の第8期介護保険事業計画に沿った計画的な整備を推進することができる。</p>		R元年度 利用実績	R4年度 利用数＊	定期巡回・随時対応型訪問介護看護（人）	704	1,805	夜間対応型訪問介護（人）	113	228	地域密着型通所介護（回）	792,027	—	認知症対応型通所介護（回）	116,049	—	小規模多機能型居宅介護（人）	3,837	5,615	認知症対応型共同生活介護（人）	5,663	7,572	地域密着型特定施設入居者生活介護（人）	28	34	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（人）	1,630	2,159	R4.4月 定員数（人）	—	1,682	看護小規模多機能型居宅介護（人）	429	1,012		R2年度 定員数	R5年4月 定員数	介護老人福祉施設（広域型）（人）	11,689	12,214	介護老人保健施設（人）	8,928	8,642	介護療養型医療施設（人）	1,031	439	介護医療院（人）	1,621	2,269
	R元年度 利用実績	R4年度 利用数＊																																															
定期巡回・随時対応型訪問介護看護（人）	704	1,805																																															
夜間対応型訪問介護（人）	113	228																																															
地域密着型通所介護（回）	792,027	—																																															
認知症対応型通所介護（回）	116,049	—																																															
小規模多機能型居宅介護（人）	3,837	5,615																																															
認知症対応型共同生活介護（人）	5,663	7,572																																															
地域密着型特定施設入居者生活介護（人）	28	34																																															
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（人）	1,630	2,159																																															
R4.4月 定員数（人）	—	1,682																																															
看護小規模多機能型居宅介護（人）	429	1,012																																															
	R2年度 定員数	R5年4月 定員数																																															
介護老人福祉施設（広域型）（人）	11,689	12,214																																															
介護老人保健施設（人）	8,928	8,642																																															
介護療養型医療施設（人）	1,031	439																																															
介護医療院（人）	1,621	2,269																																															
その他	<p>平成29年度 725,508千円</p> <p>令和元年度 55,741千円</p> <p>令和2年度 113,002千円</p> <p>令和3年度 286,099千円</p> <p>令和4年度 379,319千円</p>																																																



平成 28 年度広島県計画に関する 事後評価

**令和 5 年 1 2 月
広島県**

1. 事後評価のプロセス

(1) 「事後評価の方法」の実行の有無

事後評価の実施にあたって、都道府県計画に記載した「事後評価の方法」に記載した事項について、記載どおりの手続きを行ったかどうかを記載。

☒ 行った

(実施状況)

- ・平成 29 年 9 月 22 日 新たな財政支援制度検討委員会委員から意見聴取
- ・令和 2 年 1 月 24 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和 2 年 10 月 29 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和 3 年 1 月 22 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和 3 年 11 月 30 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和 4 年 10 月 20 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和 4 年 11 月 30 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和 5 年 12 月 28 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取中

☐ 行わなかった

(行わなかった場合、その理由)

(2) 審議会等で指摘された主な内容

事後評価の方法に記載した審議会等の意見を聞いた際に指摘された主な内容を記載するとともに、内容の末尾に審議会等名とその開催日時を記載すること。なお、主な内容については、審議会等の議事概要の添付も可とする。

審議会等で指摘された主な内容

2. 目標の達成状況

平成28年度広島県計画に規定する目標を再掲し、令和4年度終了時における目標の達成状況について記載。

■広島県全体（目標と計画期間）

1. 目標

広島県においては、それぞれの医療介護総合確保区域において、限りある医療・介護資源を効果的に活用して、急性期医療から在宅医療・介護まで一連のサービスが適切に提供されるよう、効率的かつ質の高い医療提供体制と地域包括ケア体制の構築を図り、高齢者が地域において、安心して生活できるよう以下を目標に設定する。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

広島県においては、回復期病床の将来の必要量が現状に比べ不足する見込みであることから、「広島県地域医療構想」を踏まえ、急性期病床等から回復期病床への自主的な転換を促進する。

また、患者の状態に合わせた在宅医療への移行を円滑に進めるため、ICTを活用した地域医療情報ネットワークの構築を図る。

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

高度急性期	2,989 床
急性期	9,118 床
回復期	9,747 床
慢性期	6,760 床以上

② 居宅等における医療の提供に関する目標

地域完結型の在宅医療提供体制が整備されるよう、医療・介護の連携を推進する。

【定量的な目標値】

- ・地域包括ケアシステムが構築されている日常生活圏域数 H29：125 圏域

③ 介護施設等の整備に関する目標

介護施設等の整備を支援することで、高齢者ができる限り住み慣れた地域で安心して生活できる基盤づくりを推進する。

平成28年度においては、第6期介護保険支援計画等に位置付けている地域密着型サービス施設等の整備を行う。

【定量的な目標値】

- ・地域密着型サービス延利用者数 H29：21,746 人

④ 医療従事者の確保に関する目標

公益財団法人広島県地域保健医療推進機構を中心に、大学、医師会、県、市町等が一体となって医療従事者の確保を推進する。

【定量的な目標値】

- ・ 県内医療施設従事医師数（人口 10 万人対） H28：264.6 人
- ・ 過疎地域の医療施設従事医師数（人口 10 万人対） H28：200.6 人

⑤ 介護従事者の確保に関する目標

ア 取組方針

介護人材の需給推計に基づく需給ギャップ解消を図るための取組を促進する。

平成 28 年度においては、「魅力ある職場宣言」の実施、魅力ある職場づくりのための自己点検ツールの実施、市町等地域の介護人材確保推進組織の設置と地域巡回型合同求人面談会等の開催、ターゲットを絞った情報提供や就職セミナー、テレビによる啓発や施設体験等による就業への誘導、小規模事業所への支援、キャリアアップ支援など総合的な施策を実施する。

イ 推進体制

平成 24 年度から行政、事業者団体、養成施設団体、職能団体及び各種支援機関等で組織した「広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会」を設立し、関係者が自ら計画・実施・検証を行い、取組の強化を図っており、平成 28 年度においては、この協議会の取組をさらに継続しつつ、県内の各地域（5 地域以上）に取組を拡充するため、地域版の協議会を設け、取組の促進を図る。

ウ 基盤整備

「広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会」は県域での広域啓発や事業者支援の仕組みづくりを進めてきたが、介護人材の需給推計等により、今後は介護人材確保対策を地域の関係者が一体となって取り組む機運の醸成や、各地域が主体となった介護人材確保対策の企画・実施に取り組む。

エ 参入促進

地元の社協、行政、ハローワーク、施設等の関係機関・団体が連携し、介護人材確保の問題を地域自身の課題と捉えて、地域の実情に応じた積極的な介護人材確保策を図り、事業所が地元の求職者を雇用する機会づくりや、介護職に興味・関心がある者や学生・女性・中高齢者等に対して介護職の魅力を PR する場づくりに取り組む。

「介護予防・日常生活支援総合事業」の円滑な実施に向けて、高齢者世代自らも地域の担い手となれるよう、住民主体による生活支援に係る取組の促進を図る。

オ 資質の向上

介護サービスの提供に必要な介護人材が不足することから、就業者が安心して働き続けられるよう、キャリアアップ等の人材育成に向けた取組を支援する。

県内には、医療資源や介護サービス資源が限られている中山間地域や、資源は充実しているものの、今後の高齢化により急激な介護需要が見込まれる都市部など、様々な地域の実情を踏まえた地域包括ケアシステムを構築するため、地域ケア会議の推進、医療介護連携の中核となる介護支援専門員の資質向上及び介護支援専門員

を実践的に指導できる主任介護支援専門員のスキルアップ（医療的知識の向上等）を図る。

地域リハビリテーションなど介護予防の取組も重要であることから、生活支援の視点から専門領域を活かしたリハビリテーション専門職の指導者の養成に取り組む。

カ 労働環境・処遇の改善

施設・事業所自らが、人材確保・定着に向けた改革・発展できる仕組みづくりが必要であることから、小規模事業所における求職活動や資質向上、看護職員の勤務環境改善の取組を支援する。

【定量的な目標値】

- ・福祉・介護人材の確保 H29：2,422人
- ・福祉・介護サービス人材の離職率 H29：15.6%
- ・要支援・要介護認定率 H29：20.0%以下
- ・認知症患者の入院後1年時点の退院率 H29：59.8%
- ・医療介護連携パス（認知症地域連携パス）運用地域 H29：22地域

2. 計画期間

平成28年4月1日～令和5年3月31日

□広島県全体（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・回復期病床への転換に係る事業については、5施設が回復期（236床）に転換した。（令和元年度）
- ・回復期病床への転換に係る事業については、2施設が回復期（64床）に転換した。（令和2年度）
- ・回復期病床への転換に係る事業については、2施設（106床分（複数年度事業を含む））の活用があった。（令和3年度）
- ・地域医療情報ネットワークがある医療介護総合確保区域を「7区域（全区域）」のまま維持した。

② 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・全ての日常生活圏域（125圏域）で構築されている地域包括ケア体制について、質の向上が図られた。
- ・県内医療施設従事医師数（人口10万人対）は252.1人（H26）から258.6人（H30）に増加した。また、過疎地域の医療施設従事医師数（人口10万人対）は、188.7人（H26）から195.1人（H30）に増加した。（R3.11時点 H30が最新 R2年度の値は12月頃）

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・地域密着型サービス延利用者数が、令和元年度中に20,142人に増加した。（前年度比17人の増）（令和元年度）

- ・地域密着型サービス延利用者数 H29：19,848人→R3：28,500人

④ 医療従事者の確保に関する目標

- ・県内医療施設従事医師数（人口10万人対）は258.6人（H30）から267.6人（R2）に増加した。また、過疎地域の医療施設従事医師数（人口10万人対）は、195.1人（H30）から200.0人（R2）に増加した。（R4.4時点）

⑤ 介護従事者の確保に関する目標

- ・福祉・介護サービス人材の離職率について、令和3年度は13.7%となり、減少傾向にある。（H27：16.5% H28：16.7% H29：16.2% H30：15.4% R元：15.4%, R2：11.8%, R3：13.7%）
- ・認知症患者の入院後1年時点の退院率は、79.2%（R元）である。

2) 見解

「広島県地域医療構想」を踏まえ、引き続き、患者の状態に合わせた在宅医療への移行を円滑に進めるため、ICTを活用した地域医療情報ネットワークの構築を図るとともに、住み慣れた地域での生活が継続できるよう、地域密着型サービスを中心とした介護施設等の整備や、医療・介護人材の確保・育成・定着を促進する。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■広島（目標と計画期間）

1. 目標

広島区域では、在宅医療提供体制の整備や在宅医療に関する人材育成が課題となっていることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

高度急性期	1,584 床
急性期	4,241 床
回復期	4,505 床
慢性期	2,730 床以上

② 居宅等における医療の提供に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域包括ケアシステムが構築されている日常生活圏域数 H29：56 圏域

2. 計画期間

□広島（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、2 病院が急性期及び慢性期から回復期（146床）に転換した。（令和元年度）
- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、1 病院が慢性期等から回復期（48床）に転換した。（令和 2 年度）

② 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・ 地域包括ケア体制が全ての日常生活圏域（56圏域）で構築されている地域包括ケア体制について、質の向上が図られた。

③ 介護施設等の整備に関する目標

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| ・ 小規模多機能型居宅介護 | 整備数 2 施設（H28年度実施） |
| ・ 小規模多機能型居宅介護 | 整備数 2 施設（R 2 年度実施） |
| ・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 | 整備数 3 施設（H28 年度実施） |
| ・ 認知症高齢者グループホーム | 整備数 1 施設（H28 年度実施） |
| ・ 特別養護老人ホーム（140床） | 整備数 3 施設（R 2 年度実施） |
| ・ 定期借地権設定のための一時金の支援事業 | |
| 小規模多機能型居宅介護 | 整備数 1 施設（R 2 年度実施） |
| ・ 簡易陰圧装置設置 | 整備数 11 施設（R 2 年度実施） |
| ・ 換気設備設置 | 整備数 1 施設（R 2 年度実施） |
| ・ 認知症グループホーム | 整備数 1 か所（R 3 年度実施） |

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和 4 年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和 4 年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■広島西（目標と計画期間）

1. 目標

広島西区域では、「地域包括支援センター」やケアマネジャーを中心とした介護・福祉関係者と一体となった支援を行い、退院から日常の療養・急変時の対応が包括的・継続的に行われ、患者が望む場所での看取りができる体制整備が課題となっていることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域医療構想で記載する令和 7 年度に必要となる医療機能ごとの病床数
高度急性期 156 床
急性期 410 床
回復期 515 床
慢性期 478 床以上

② 居宅等における医療の提供に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域包括ケアシステムが構築されている日常生活圏域数 H29 : 8 圏域

2. 計画期間

平成 28 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□広島西（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、未実施。（令和 4 年度以降の実施）

② 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・ 地域包括ケア体制が全ての日常生活圏域（8圏域）で構築されている地域包括ケア体制について、質の向上が図られた。

③ 介護施設等の整備に関する目標

- | | |
|--------------------|--------------------|
| ・ 小規模多機能型居宅介護 | 整備数 1 施設（H28年度実施） |
| ・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 | 整備数 2 施設（H28年度実施） |
| ・ 特別養護老人ホーム（60床） | 整備数 1 施設（H28年度実施） |
| ・ 認知症高齢者グループホーム | 整備数 1 施設（H29年度実施） |
| ・ 認知症高齢者グループホーム | 整備数 1 施設（令和元年度実施） |
| ・ 簡易陰圧装置設置 | 整備数 6 施設（R 2 年度実施） |
| ・ 換気設備設置 | 整備数 1 施設（R 2 年度実施） |
| ・ 認知症グループホーム | 整備数 1 か所（R 3 年度実施） |
| ・ 看護小規模多機能型居宅介護事業所 | 整備数 2 か所（R 3 年度実施） |

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和 4 年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。

☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■呉（目標と計画期間）

1. 目標

呉区域では、救急医療をはじめとした医療提供体制の維持・確保や、病院等における看護師等の医療従事者の確保に苦慮していることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数
高度急性期 287 床
急性期 858 床
回復期 894 床
慢性期 751 床以上

④ 医療従事者の確保に関する目標

【定量的な目標値】

- ・看護学校における教育環境の整備 1 看護専門学校

2. 計画期間

平成28年4月1日～令和5年3月31日

□呉（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・回復期病床への転換に係る事業については、1病院が急性期から回復期（34床）に転換した。（令和元年度）
- ・回復期病床への転換に係る事業については、1病院が急性期から回復期（16床）に転換した。（令和2年度）

④ 医療従事者の確保に関する目標

- ・看護学校における教育環境の整備（1看護専門学校）を実施済み。

2) 見解

病院等における看護師等の医療従事者の確保が一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。

□ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■広島中央

1. 目標

広島中央区域では、医療を必要とする高齢者の大幅な増加が見込まれる中、急性期治療後、在宅に必要な医療が受けられるよう、医療・介護を担う人材の育成や、在宅医療連携の仕組みづくりの整備が必要であるという課題が存在していることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数
高度急性期 122 床
急性期 672 床
回復期 678 床
慢性期 669 床以上

③ 介護施設等の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域包括ケアシステムが構築されている日常生活圏域数 H29：12 圏域

2. 計画期間

平成28年4月1日～令和5年3月31日

□広島中央（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・回復期病床への転換に係る事業については、1病院が急性期から回復期（4床）に転換した。（令和元年度）

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護 整備数1施設（H28年度実施）
- ・認知症高齢者グループホーム 整備数1施設（H28年度実施）
- ・簡易陰圧装置設置 整備数8施設（R2年度実施）
- ・換気設備設置 整備数3施設（R2年度実施）
- ・認知症グループホーム 整備数2か所（R3年度実施）
- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数2か所（R3年度実施）

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■尾三（目標と計画期間）

1. 目標

尾三区域では、救急医療をはじめとした医療提供体制を充実させるとともに、在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院、在宅療養支援歯科診療所で、必要に応じて他の病院、診療所、薬局、訪問看護ステーション等と連携を図り、24時間の往診、訪問看護等を提供する体制を引き続き確保するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数
- | | |
|-------|---------|
| 高度急性期 | 242 床 |
| 急性期 | 905 床 |
| 回復期 | 991 床 |
| 慢性期 | 726 床以上 |

③ 介護施設等の整備に関する目標

介護施設等の整備を支援することで、高齢者ができる限り住み慣れた地域で安心して生活できる基盤づくりを推進する。

平成28年度においては、医療ニーズにも対応できる定期巡回・随時対応型訪問介護看護など、在宅生活を支えるサービス基盤の整備を図る。

【定量的な目標値】

- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所 1カ所→2カ所
- ・複合型サービス事業所（看護小規模多機能型居宅介護事業所）1カ所→3カ所

2. 計画期間

平成28年4月1日～令和5年3月31日

□尾三（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・回復期病床への転換に係る事業については、1施設（52床分）の活用があった。（令和3年度）

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・ 小規模多機能型居宅介護 整備数 1 施設 (H28年度実施)
- ・ 地域密着型特別養護老人ホーム 整備数29床 1 施設 (R元年度実施)
- ・ 地域密着型特別養護老人ホーム併設ショートステイ 整備数20床 1 施設 (令和元年度実施)
- ・ 定期借地権設定のための一時金の支援事業
地域密着型特別養護老人ホーム及び併設されるショートステイ用居室
整備数 1 施設 (R 元年度実施)
- ・ 簡易陰圧装置設置 整備数 3 施設 (R 2 年度実施)
- ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 整備数 1 か所 (R 3 年度実施)
- ・ 看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数 1 か所 (R 3 年度実施)

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和 4 年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和 4 年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■福山・府中（目標と計画期間）

1. 目標

福山・府中区域では、診療所の訪問診療及び往診について、人口 10 万人当たりの実施件数が少なく、全国及び広島県平均と大きく隔たりがあるなど、在宅医療の充実が課題となっており、また、看護師の確保も課題となっていることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域医療構想で記載する令和 7 年度に必要となる医療機能ごとの病床数
高度急性期 524 床
急性期 1,691 床
回復期 1,840 床
慢性期 976 床以上

② 居宅等における医療の提供に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域包括ケアシステムが構築されている日常生活圏域数 H29 : 14 圏域

③ 介護施設等の整備に関する目標

介護施設等の整備を支援することで、高齢者ができる限り住み慣れた地域で安心して生活できる基盤づくりを推進する。

平成 28 年度においては、医療ニーズにも対応できる定期巡回・随時対応型訪問介護看護など、在宅生活を支えるサービス基盤の整備を図る。

【定量的な目標値】

- ・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所 5 カ所→8 カ所
- ・ 複合型サービス事業所（看護小規模多機能型居宅介護事業所）5 カ所→6 カ所

④ 医療従事者の確保に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 看護学校における教育環境の整備 1 看護専門学校

2. 計画期間

平成 28 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□福山・府中（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、1 病院が慢性期から回復期（52床）に転換した。（令和元年度）
- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、1 施設（54床分（複数年度事業））の活用があった。（令和 3 年度）

② 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・ 地域包括ケア体制が全ての日常生活圏域（14圏域）で構築されている地域包括ケア体制について、質の向上が図られた。

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所及び複合型サービス事業所（看護小規模多機能型居宅介護事業所）の整備について、対象事業者の公募を行ったが応募がなく、整備に至らなかった。（平成28年度）
- ・ 地域密着型特別養護老人ホーム 整備数116床 4 施設（H28年度実施）
- ・ 介護老人保健施設（10床増床） 整備数 1 施設（H28年度実施）
- ・ 地域密着型特別養護老人ホーム 整備数 29 床 1 施設（R 元年度実施）
- ・ 特別養護老人ホーム（20 床増床） 整備数 1 施設（R 元年度実施）
- ・ 特別養護老人ホーム（6 床増床） 整備数 1 施設（R 2 年度実施）
- ・ 簡易陰圧装置設置 整備数 12 施設（R 2 年度実施）
- ・ 換気設備設置 整備数 2 施設（R 2 年度実施）

④ 医療従事者の確保に関する目標

- ・ 看護学校における教育環境の整備（1看護専門学校）を実施済み。

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■備北（目標と計画期間）

1. 目標

備北区域では、高齢化率が県内において最も高く、今後も医療を必要とする高齢者の増加が見込まれる中で、在宅医療提供体制の確立が求められていることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数
 - 高度急性期 73 床
 - 急性期 340 床
 - 回復期 323 床
 - 慢性期 430 床以上

② 居宅等における医療の提供に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域包括ケアシステムが構築されている日常生活圏域数 H29：12 圏域

2. 計画期間

平成28年4月1日～令和5年3月31日

□備北（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、未実施。（令和3年度以降の実施）

② 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・ 地域包括ケア体制が全ての日常生活圏域（12圏域）で構築されている地域包括ケア体制について、質の向上が図られた。

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

3-1. 事業の実施状況（医療分）

平成28年度広島県計画に規定した事業（医療分）について、令和4年度終了時における事業の実施状況を記載。

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業																
事業名	【No. 1（医療分）】 病床機能分化・連携促進基盤整備事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 951,808 千円															
事業の対象となる区域	全区域																
事業の実施主体	病院及び有床診療所																
事業の期間	平成28年4月1日～令和7年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了																
背景にある医療・介護ニーズ	<p>地域医療構想の実現に向けて、医療機関における病床機能分化の自主的な取組を推進する必要がある。</p> <p>アウトカム指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年に必要となる医療機能ごとの病床数（暫定推計値） <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>現状（H29）</th><th>必要病床数（R7）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高度急性期</td><td>4,815 床</td><td>2,989 床</td></tr> <tr> <td>急性期</td><td>12,939 床</td><td>9,118 床</td></tr> <tr> <td>回復期</td><td>4,265 床</td><td>9,747 床</td></tr> <tr> <td>慢性期</td><td>9,128 床</td><td>6,760 床以上</td></tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度基金を活用して整備を行う不足している病床機能毎（高度急性期・急性期・回復期・慢性期）の病床数 		区分	現状（H29）	必要病床数（R7）	高度急性期	4,815 床	2,989 床	急性期	12,939 床	9,118 床	回復期	4,265 床	9,747 床	慢性期	9,128 床	6,760 床以上
区分	現状（H29）	必要病床数（R7）															
高度急性期	4,815 床	2,989 床															
急性期	12,939 床	9,118 床															
回復期	4,265 床	9,747 床															
慢性期	9,128 床	6,760 床以上															
事業の内容（当初計画）	回復期病床への転換に係る施設・設備整備に対して補助を行う。																
アウトプット指標（当初の目標値）	対象医療機関数 9 施設																
アウトプット指標（達成値）	対象医療機関数 5 施設																
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年に必要となる医療機能ごとの病床数（暫定推計値） <p>観察できなかった 観察できた → 指標：</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>平成30年度 病床機能報告数</th><th>令和4年度 病床機能報告数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高度急性期</td><td>4,290 床</td><td>4,464 床</td></tr> <tr> <td>急性期</td><td>13,249 床</td><td>10,875 床</td></tr> <tr> <td>回復期</td><td>4,952 床</td><td>6,342 床</td></tr> <tr> <td>慢性期</td><td>9,767 床</td><td>7,738 床</td></tr> </tbody> </table> <p>（1）事業の有効性 病床の機能分化・連携を促進するため、不足が見込まれる「回復</p>		区分	平成30年度 病床機能報告数	令和4年度 病床機能報告数	高度急性期	4,290 床	4,464 床	急性期	13,249 床	10,875 床	回復期	4,952 床	6,342 床	慢性期	9,767 床	7,738 床
区分	平成30年度 病床機能報告数	令和4年度 病床機能報告数															
高度急性期	4,290 床	4,464 床															
急性期	13,249 床	10,875 床															
回復期	4,952 床	6,342 床															
慢性期	9,767 床	7,738 床															

	<p>期病床」への転換等に際して必要となる施設・設備整備費に対して補助を行うことにより、医療機関における病床転換の取組を支援することができた。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>補助金を活用する医療機関においては、見積合わせや一般競争入札を行うなどし、効率的な事業の実施に取り組んでいる。</p>
その他	<p>平成 30 年度：5,910 千円</p> <p>令和 2 年度：53,876 千円</p> <p>令和 3 年度：264,872 千円</p> <p>令和 4 年度：75,140 千円</p> <p>(令和 4 年度以降 552,010 千円)</p>

3-2. 事業の実施状況（介護分）

平成28年度広島県計画に規定した事業（介護分）について、令和4年度終了時における事業の実施状況を記載。

事業の区分	3. 介護施設等の整備に関する事業		
事業名	【No.1（介護分）】 介護施設等整備事業	【総事業費】 2,460,322 千円	
事業の対象となる区域	県内全域		
事業の実施主体	市町		
事業の期間	平成 28 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日 □継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了		
背景にある医療・介護ニーズ	介護施設等の整備を支援することで、高齢者ができる限り住み慣れた地域で安心して生活できる基盤づくりを推進する。		
	アウトカム指標： 地域密着型サービス等の利用者数，利用回数，定員数		
		R 元年度 実績	R 7 年度 利用見込数
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護（人）	704	1,197
	夜間対応型訪問介護（人）	113	101
	地域密着型通所介護（回）	792,027	897,338
	認知症対応型通所介護（回）	116,049	127,181
	小規模多機能型居宅介護（人）	3,837	4,421
	認知症対応型共同生活介護（人）	5,663	6,606
	地域密着型特定施設入居者生活介護（人）	28	29
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（人）	1,630	1,877
	看護小規模多機能型居宅介護（人）	429	764
		R 2 年度 定員数	R 5 年度 必要定員数
	介護老人福祉施設（広域型）（人）	11,689	12,553
	介護老人保健施設（人）	8,928	8,710
	介護療養型医療施設（人）	1,031	54
	介護医療院（人）	1,621	2,778
	事業の内容（当初計画）	令和 3 年度においては，第 8 期介護保険支援計画等に位置付けている地域密着型サービス施設等の整備を行う。 また，介護施設等における新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点から，感染拡大防止対策支援事業を行う。併せて高齢障害者や施設従事者向けへの広報・啓発を行う。	
アウトプット指標(当初の目標値)	・対象介護施設等の新設，増床 ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策のための		

	簡易陰圧装置設置，ゾーニング，個室化 ・介護職員の宿舎施設整備																																															
アウトプット指標(達成値)	【令和４年度分】 ○施設開設準備経費等支援事業 ・介護ロボット・ＩＣＴの導入支援事業　８か所 ○既存の特別養護老人ホーム等のユニット化改修支援事業 ・看取り環境整備推進事業　１か所 ・共生型サービス事業所の整備　　　　　　　　１か所 ○新型コロナウイルス感染拡大防止対策支援事業 ・簡易陰圧装置設置経費　　２０か所 ・ゾーニング環境整備　　７か所 ・多床室の個室化改修　　１か所																																															
事業の有効性・効率性	事業終了後１年以内のアウトカム指標： 地域密着型サービス利用数，施設サービス定員数 ・観察できなかった ・観察できた → 指標：																																															
		R元年度 利用実績	R４年度 利用数＊	定期巡回・随時対応型訪問介護看護（人）	704	1,805	夜間対応型訪問介護（人）	113	228	地域密着型通所介護（回）	792,027	—	認知症対応型通所介護（回）	116,049	—	小規模多機能型居宅介護（人）	3,837	5,615	認知症対応型共同生活介護（人）	5,663	7,572	地域密着型特定施設入居者生活介護（人）	28	34	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（人）	1,630	2,159	R4.4月 定員数（人）	—	1,682	看護小規模多機能型居宅介護（人）	429	1,012		R2年度 定員数	R5年4月 定員数	介護老人福祉施設（広域型）（人）	11,689	12,214	介護老人保健施設（人）	8,928	8,642	介護療養型医療施設（人）	1,031	439	介護医療院（人）	1,621	2,269
		R元年度 利用実績	R４年度 利用数＊																																													
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護（人）	704	1,805																																													
	夜間対応型訪問介護（人）	113	228																																													
	地域密着型通所介護（回）	792,027	—																																													
	認知症対応型通所介護（回）	116,049	—																																													
	小規模多機能型居宅介護（人）	3,837	5,615																																													
	認知症対応型共同生活介護（人）	5,663	7,572																																													
	地域密着型特定施設入居者生活介護（人）	28	34																																													
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（人）	1,630	2,159																																													
	R4.4月 定員数（人）	—	1,682																																													
	看護小規模多機能型居宅介護（人）	429	1,012																																													
		R2年度 定員数	R5年4月 定員数																																													
	介護老人福祉施設（広域型）（人）	11,689	12,214																																													
	介護老人保健施設（人）	8,928	8,642																																													
	介護療養型医療施設（人）	1,031	439																																													
	介護医療院（人）	1,621	2,269																																													
	＊介護予防，短期利用除く（EMITAS-G調べ）																																															
	（１）事業の有効性 地域密着型サービス（認知症 GH，看護小規模多機能）については，市町の事業者公募が不調に終わり，令和３年度中の事業実施が困難になるなど整備が進まないサービスがあったが，施設サービスについては計画に沿った整備が進んだ。																																															
（２）事業の効率性 市町の第８期介護保険事業計画に沿った計画的な整備を推進することができる。																																																
その他	平成 28 年度　1,079,397 千円																																															

	平成 29 年度	11, 178 千円
	令和元年度	397, 636 千円
	令和 2 年度	418, 625 千円
	令和 3 年度	93, 689 千円
	令和 4 年度	419, 261 千円

平成 27 年度広島県計画に関する 事後評価

**令和 5 年 1 2 月
広島県**

1. 事後評価のプロセス

(1) 「事後評価の方法」の実行の有無

事後評価の実施にあたって、都道府県計画に記載した「事後評価の方法」に記載した事項について、記載どおりの手続きを行ったかどうかを記載。

☒ 行った

(実施状況)

- ・平成 28 年 9 月 8 日 新たな財政支援制度検討委員会委員から意見聴取
- ・平成 29 年 9 月 22 日 新たな財政支援制度検討委員会委員から意見聴取
- ・令和 2 年 1 月 24 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和 3 年 1 月 22 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和 3 年 11 月 30 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和 4 年 10 月 20 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和 4 年 11 月 30 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和 5 年 12 月 28 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取中

☐ 行わなかった

(行わなかった場合、その理由)

(2) 審議会等で指摘された主な内容

事後評価の方法に記載した審議会等の意見を聞いた際に指摘された主な内容を記載するとともに、内容の末尾に審議会等名とその開催日時を記載すること。なお、主な内容については、審議会等の議事概要の添付も可とする。

審議会等で指摘された主な内容

2. 目標の達成状況

平成27年度広島県計画に規定する目標を再掲し、令和4年度終了時における目標の達成状況について記載。

■広島県全体（目標と計画期間）

1. 目標

広島県においては、それぞれの医療介護総合確保区域において、限りある医療・介護資源を効果的に活用して、急性期医療から在宅医療・介護まで一連のサービスが適切に提供されるよう、効率的かつ質の高い医療提供体制と地域包括ケア体制の構築を図り、高齢者が地域において、安心して生活できるよう以下を目標に設定する。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

広島県においては、回復期病床の将来の必要量が現状に比べ不足する見込みであることから、地域医療構想策定前ではあるが、急性期病床等から回復期病床への自主的な転換を促進する。

また、患者の状態に合わせた在宅医療への移行を円滑に進めるため、ICTを活用した地域医療情報ネットワークの構築を図る。

【定量的な目標値】

- ・ 回復期病床への転換 244 床
- ・ 地域医療情報ネットワークがある医療介護総合区域 7 区域（全区域）

② 居宅等における医療の提供に関する目標

地域完結型の在宅医療提供体制が整備されるよう、医療・介護の連携を推進する。

【定量的な目標値】

- ・ 地域包括ケア体制が構築されている市町数 H29：全 23 市町（125 日常生活圏域）

③ 介護施設等の整備に関する目標

介護施設等の整備を支援することで、高齢者ができる限り住み慣れた地域で安心して生活できる基盤づくりを推進する。

平成 27 年度においては、医療ニーズにも対応できる定期巡回・随時対応型訪問介護看護など、在宅生活を支えるサービス基盤の整備を図る。

【定量的な目標値】

- ・ 地域密着型サービス延利用者数 H29：21,746 人

④ 医療従事者の確保に関する目標

公益財団法人広島県地域保健医療推進機構を中心に、大学、医師会、県、市町等が一体となって医療従事者の確保を推進する。

【定量的な目標値】

- ・ 県内医療施設従事医師数（人口 10 万人対） H29：264.6 人
- ・ 過疎地域の医療施設従事医師数（人口 10 万人対） H29：200.6 人

⑤ 介護従事者の確保に関する目標

ア 取組方針

介護人材の需給推計に基づく需給ギャップ解消を図るための取組を促進する。
平成 27 年度においては、「魅力ある職場宣言」の実施、魅力ある職場づくりのための自己点検ツールの実施、市町等地域の介護人材確保推進組織の設置と地域巡回型合同求人面談会等の開催、ターゲットを絞った情報提供や就職セミナー、施設体験等による就業への誘導、小規模事業所への支援、キャリアアップ支援など総合的な施策を実施する。

イ 推進体制

平成 24 年度から行政、事業者団体、養成施設団体、職能団体及び各種支援機関等で組織した「広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会」を設立し、関係者が自ら計画・実施・検証を行い、取組の強化を図っており、平成 27 年度においては、この協議会の取組を継続しつつ、県内の各地域（3 地域予定）に取組を拡充するため、地域版の協議会を設け、取組の促進を図る。

ウ 基盤整備

「広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会」は県域での広域啓発や事業者支援の仕組みづくりを進めてきたが、介護人材の需給推計等により、今後は介護人材確保対策を地域の関係者が一体となって取り組む機運の醸成や、各地域が主体となった介護人材確保対策の企画・実施に取り組む。

エ 参入促進

地元の社協、行政、ハローワーク、施設等の関係機関・団体が連携し、介護人材確保の問題を地域自身の課題と捉えて、地域の実情に応じた積極的な介護人材確保策を図り、事業所が地元の求職者を雇用する機会づくりや、介護職に興味・関心がある者や学生・女性等に対して介護職の魅力を PR する場づくりに取り組む。

「介護予防・日常生活支援総合事業」の円滑な実施に向けて、高齢者世代自らも地域の担い手となれるよう、住民主体による生活支援に係る取組の促進を図る。

オ 資質の向上

介護サービスの提供に必要な介護人材が不足することから、就業者が安心して働き続けられるよう、キャリアアップ等の人材育成に向けた取組を支援する。

県内には、医療資源や介護サービス資源が限られている中山間地域や、資源は充実しているものの、今後の高齢化により急激な介護需要が見込まれる都市部など、様々な地域の実情を踏まえた地域包括ケアシステムを構築するため、地域ケア会議の推進、医療介護連携の中核となる介護支援専門員の資質向上及び介護支援専門員を実践的に指導できる主任ケアマネのスキルアップ（医療的知識の向上等）を図る。

地域リハビリテーションなど介護予防の取組も重要であることから、生活支援の視点から専門領域を活かしたりリハビリテーション専門職の指導者の養成に取り組む。

カ 労働環境・処遇の改善

施設・事業所自らが、人材確保・定着に向けた改革・発展できる仕組みづくりが必要であることから、小規模事業所における求職活動や資質向上等の取組を、複数の小規模事業所（ユニット）として支援する。

【定量的な目標値】

- ・ 福祉・介護人材の確保 H29：2,422 人
- ・ 福祉・介護サービス人材の離職率 H29：15.6%
- ・ 要支援・要介護認定率 H29：20.0%以下
- ・ 認知症患者の入院後 1 年時点の退院率 H29：59.8%
- ・ 医療介護連携パス（認知症地域連携パス）運用地域 H29：22 地域

2. 計画期間

平成27年4月1日～令和5年3月31日

□広島県全体（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、4施設が回復期（72床）に転換した。（平成29年度）
- ・ 地域医療情報ネットワークがある医療介護総合確保区域を「7 区域（全区域）」のまま維持した。
- ・ 地域医療情報ネットワークについて、情報開示施設が4施設増、情報閲覧施設が2施設増となり、全体で755施設の加入となった。

② 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・ 全ての日常生活圏域（125圏域）で構築されている地域包括ケア体制について、質の向上が図られた。

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・ 地域密着型サービス延利用者数が、平成28年度中に18,800人に増加した。（前年度比6,324人の増）
- ・ 地域密着型サービス延利用者数が、令和元年度中に20,142人に増加した。（前年度比17人の増）（令和元年度）
- ・ 地域密着型サービス延利用者数 H29：19,848人→R3：28,500人

④ 医療従事者の確保に関する目標

- ・ 県内医療施設従事医師数（人口10万人対）は258.6人（H30）から267.6人（R2）に増加した。また、過疎地域の医療施設従事医師数（人口10万人対）は、195.1人（H30）から200.0人（R2）に増加した。（R4.4時点）

⑤ 介護従事者の確保に関する目標

- ・ 福祉・介護サービス人材の離職率について、令和3年度は13.7%となり、減少傾向にある。（H27：16.5% H28：16.7% H29：16.2% H30：15.4% R元：15.4%，R2：11.8%，R3：13.7%）
- ・ 認知症患者の入院後1年時点の退院率は、79.2%（R元）である。

2) 見解

「広島県地域医療構想」を踏まえ、引き続き、患者の状態に合わせた在宅医療への移行を円滑に進めるため、ICTを活用した地域医療情報ネットワークの構築を図るとともに、住み慣れた地域での生活が継続できるよう、地域密着型サービスを中心とした介護施設等の整備や、医療・介護人材の確保・育成・定着を促進する。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■広島（目標と計画期間）

1. 目標

広島区域では、在宅医療提供体制の整備や在宅医療に関する人材育成が課題となっていることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 区域内における地域医療情報ネットワークの確保・充実

② 居宅等における医療の提供に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域包括ケア体制が構築されている市町数 H29：全8市町

2. 計画期間

平成27年4月1日～令和5年3月31日

□広島（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、2施設が回復期（15床）に転換した。（平成29年度）

② 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・ 地域包括ケア体制が全ての日常生活圏域（56圏域）で構築されている地域包括ケア体制について、質の向上が図られた。

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・ 小規模多機能型居宅介護 整備数1施設（R2年度実施）
- ・ 認知症グループホーム 整備数1か所（R3年度実施）
- ・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 整備数2か所（R3年度実施）
- ・ 大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数12か所（R3年度実施）
- ・ 看取り環境整備 整備数4か所（R3年度実施）
- ・ 介護職員の宿舎整備 整備数1か所（R3年度実施）

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■広島西（目標と計画期間）

1. 目標

広島西区域では、「地域包括支援センター」やケアマネジャーを中心とした介護・福祉関係者と一体となった支援を行い、退院から日常の療養・急変時の対応が包括的・継続的に行われ、患者が望む場所での看取りができる体制整備が課題となっていることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

② 居宅等における医療の提供に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域包括ケア体制が構築されている市町数 H29：全2市

2. 計画期間

平成27年4月1日～令和5年3月31日

□広島西（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

② 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・ 地域包括ケア体制が全ての日常生活圏域（8圏域）で構築されている地域包括ケア体制について、質の向上が図られた。

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■呉（目標と計画期間）

1. 目標

呉区域では、救急医療をはじめとした医療提供体制の維持・確保や、病院等における看護師等の医療従事者の確保に苦慮していることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 医療機関における共同利用機器の整備 2医療機関

④ 医療従事者の確保に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 看護学校における教育環境の整備 1看護専門学校
- ・ 院内保育所の拡張 1医療機関

2. 計画期間

平成 27 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□呉（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、未実施。（平成30年度以降の実施）

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・ 看護小規模多機能型居宅介護 整備数 1 施設（R 2 年度実施）

④ 医療従事者の確保に関する目標

- ・ 看護学校における教育環境の整備（1看護専門学校）を実施した。（平成27年度）

2) 見解

病院等における看護師等の医療従事者の確保が一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和 4 年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和 4 年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■広島中央（目標と計画期間）

1. 目標

広島中央区域では、医療を必要とする高齢者の大幅な増加が見込まれる中、急性期治療後、在宅で必要な医療が受けられるよう、医療・介護を担う人材の育成や、在宅医療連携の仕組みづくりの整備が必要であるという課題が存在していることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

② 居宅等における医療の提供に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域包括ケア体制が構築されている市町数 H29：全 3 市町

2. 計画期間

平成 27 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□広島中央（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

② 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・ 地域包括ケア体制が全ての日常生活圏域（12圏域）で構築されている地域包括ケア体制について、質の向上が図られた。

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■尾三（目標と計画期間）

1. 目標

尾三区域では、救急医療をはじめとした医療提供体制を充実させるとともに、在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院、在宅療養支援歯科診療所で、必要に応じて他の病院、診療所、薬局、訪問看護ステーション等と連携を図り、24時間の往診、訪問看護等を提供する体制を引き続き確保するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 区域内における地域医療情報ネットワークの確保・充実
- ・ 医療機関における共同利用施設・機器の整備 4 医療機関

③ 介護施設等の整備に関する目標

介護施設等の整備を支援することで、高齢者ができる限り住み慣れた地域で安心して生活できる基盤づくりを推進する。

平成 27 年度においては、医療ニーズにも対応できる定期巡回・随時対応型訪問介護看護など、在宅生活を支えるサービス基盤の整備を図る。

【定量的な目標値】

- ・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所 1 カ所→2 カ所
- ・ 複合型サービス事業所（看護小規模多機能型居宅介護事業所）1 カ所→3 カ所

④ 医療従事者の確保に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 看護学校における教育環境の整備 1 看護専門学校

2. 計画期間

平成 27 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□尾三（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、1 病院が回復期（7 床）に転換した。（平成 29 年度）

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・小規模多機能型居宅介護事業所 整備数1か所（R3年度実施）
- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所 整備数1か所（R3年度実施）
- ・大規模修繕に伴う介護ロボット・ICT導入支援 整備数2か所（R3年度実施）

④ 医療従事者の確保に関する目標

- ・看護学校における教育環境の整備（1看護専門学校）を実施した。（平成27年度）

2) 見解

地域におけるICTの活用、地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
- ☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■福山・府中（目標と計画期間）

1. 目標

福山・府中区域では、診療所の訪問診療及び往診について、人口10万人当たりの実施件数が少なく、全国及び広島県平均と大きく隔たりがあるなど、在宅医療の充実が課題となっており、また、看護師の確保も課題となっていることから、これらの課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・区域内における地域医療情報ネットワークの確保・充実

② 居宅等における医療の提供に関する目標

【定量的な目標値】

- ・地域包括ケア体制が構築されている市町数 H29：全3市町

③ 介護施設等の整備に関する目標

介護施設等の整備を支援することで、高齢者ができる限り住み慣れた地域で安心して生活できる基盤づくりを推進する。

平成27年度においては、医療ニーズにも対応できる定期巡回・随時対応型訪問介護看護など、在宅生活を支えるサービス基盤の整備を図る。

【定量的な目標値】

- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所 5カ所→8カ所
- ・複合型サービス事業所（看護小規模多機能型居宅介護事業所）5カ所→6カ所

④ 医療従事者の確保に関する目標

【定量的な目標値】

- ・看護学校における教育環境の整備 1看護専門学校
- ・看護師宿舎の整備 1医療機関

2. 計画期間

平成 27 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□福山・府中（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、1 病院が回復期（50 床）に転換した。（平成29年度）
- ・ 回復期病床への転換に係る事業については、1 病院が慢性期から回復期（52床）に転換した。（令和元年度）

② 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・ 地域包括ケア体制が全ての日常生活圏域（14圏域）で構築されている地域包括ケア体制について、質の向上が図られた。

③ 介護施設等の整備に関する目標

- ・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 整備数 3 施設（H27年度実施）
- ・ 地域密着型特別養護老人ホーム 整備数29床 1 施設【H27加速化分】（H29年度実施）
- ・ 地域密着型別養護老人ホーム 整備数 3 床 1 施設（R 2 年度実施）
- ・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 整備数1か所（R 3 年度実施）
- ・ 大規模修繕に伴う介護ロボット・I C T 導入支援 整備数 2 か所（R 3 年度実施）

2) 見解

地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和 4 年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和 4 年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■備北（目標と計画期間）

1. 目標

備北区域では、高齢化率が県内において最も高く、今後も医療を必要とする高齢者の増加が見込まれる中で、在宅医療提供体制の確立が求められていることから、この課題を解決するため、以下を目標とする。

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 区域内における地域医療情報ネットワークの確保・充実

② 居宅等における医療の提供に関する目標

【定量的な目標値】

- ・ 地域包括ケア体制が構築されている市町数 H29：全 2 市

2. 計画期間

平成 27 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

□備北（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

① 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

- ・ 区域内における地域医療情報ネットワークの確保・充実に取り組んだ。（平成27年度）

② 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・ 地域包括ケア体制が全ての日常生活圏域（12圏域）で構築されている地域包括ケア体制について、質の向上が図られた。

2) 見解

地域における I C T の活用，地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが一定程度進んだ。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和 4 年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和 4 年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

3-1. 事業の実施状況（医療分） ※継続事業分

平成27年度広島県計画に規定した事業（医療分）について、令和4年度終了時における事業の実施状況を記載。

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業																
事業名	【No. 1（医療分）】 病床機能分化・連携促進基盤整備事業	【総事業費 （計画期間の総額）】 593,399 千円															
事業の対象となる区域	全区域																
事業の実施主体	病院及び有床診療所，一般社団法人広島県病院協会																
事業の期間	平成27年4月1日～令和6年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了																
背景にある医療・介護ニーズ	<p>地域医療構想の実現に向けて、医療機関における病床機能分化の自主的な取組を推進する必要がある。</p> <p>アウトカム指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年に必要となる医療機能ごとの病床数（暫定推計値） <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>現状値（H27）</th><th>必要病床数（R7）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高度急性期</td><td>5,024 床</td><td>2,989 床</td></tr> <tr> <td>急性期</td><td>13,001 床</td><td>9,118 床</td></tr> <tr> <td>回復期</td><td>3,768 床</td><td>9,747 床</td></tr> <tr> <td>慢性期</td><td>9,950 床</td><td>6,760 床以上</td></tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度基金を活用して整備を行う不足している病床機能毎（高度急性期・急性期・回復期・慢性期）の病床数 地域における医療施設の最適配置の実現と連携のために、地域医療構想調整会議をさらに活性化する必要がある。 		区分	現状値（H27）	必要病床数（R7）	高度急性期	5,024 床	2,989 床	急性期	13,001 床	9,118 床	回復期	3,768 床	9,747 床	慢性期	9,950 床	6,760 床以上
区分	現状値（H27）	必要病床数（R7）															
高度急性期	5,024 床	2,989 床															
急性期	13,001 床	9,118 床															
回復期	3,768 床	9,747 床															
慢性期	9,950 床	6,760 床以上															
事業の内容（当初計画）	<ul style="list-style-type: none"> 回復期病床への転換に係る施設・設備整備や、医療機能の事業縮小、複数の医療機関間の連携による病床再編事業に対して補助を行う。 県内の医療施設相互の議論に資するデータの整理や、病床機能報告を活用した病床機能の現状把握、定量的基準の導入に当たっての検討などを行う。 																
アウトプット指標（当初の目標値）	<ul style="list-style-type: none"> 対象医療機関数，病床数 回復期の増床 県単位の地域医療構想調整会議の開催 2回／年 県内の二次保健医療圏毎の地域医療構想調整会議開催回数4回／年 																
アウトプット指標（達成値）	<ul style="list-style-type: none"> 対象医療機関数 令和4年度 4病院 72床 県単位の地域医療構想調整会議の開催 3回／年 県内の二次保健医療圏毎の地域医療構想調整会議開催回数3回／年 																

事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： ・令和 7 年に必要となる医療機能ごとの病床数（暫定推計値） 観察できなかった 観察できた → 指標：															
	<table><tr><td>区分</td><td>平成 30 年度 病床機能報告数</td><td>令和 4 年度 病床機能報告数</td></tr><tr><td>高度急性期</td><td>4, 290 床</td><td>4, 464 床</td></tr><tr><td>急性期</td><td>13, 249 床</td><td>10, 875 床</td></tr><tr><td>回復期</td><td>4, 952 床</td><td>6, 342 床</td></tr><tr><td>慢性期</td><td>9, 767 床</td><td>7, 738 床</td></tr></table>	区分	平成 30 年度 病床機能報告数	令和 4 年度 病床機能報告数	高度急性期	4, 290 床	4, 464 床	急性期	13, 249 床	10, 875 床	回復期	4, 952 床	6, 342 床	慢性期	9, 767 床	7, 738 床
	区分	平成 30 年度 病床機能報告数	令和 4 年度 病床機能報告数													
	高度急性期	4, 290 床	4, 464 床													
急性期	13, 249 床	10, 875 床														
回復期	4, 952 床	6, 342 床														
慢性期	9, 767 床	7, 738 床														
・事業終了後の 1 年以内の地域医療構想調整会議開催回数 2 3 回／年（令和 4 年度）																
	<p>（１）事業の有効性</p> <ul style="list-style-type: none">・病床の機能分化・連携を促進するため、不足が見込まれる「回復期病床」への転換等に際して必要となる施設・設備整備費に対して補助を行うことにより、医療機関における病床転換の取組を支援することができた。・病床機能報告を活用したデータや、定量的基準を用いた病床数などを提示し、各圏域の地域医療構想調整会議の活性化を図ることができた。 <p>（２）事業の効率性</p> <ul style="list-style-type: none">・補助金を活用する医療機関においては、見積合わせや一般競争入札を行うなどし、効率的な事業の実施に取り組んでいる。															
その他	平成 27 年度：22, 418 千円 平成 29 年度：145, 748 千円 平成 30 年度：9, 800 千円 令和 2 年度：67, 384 千円 令和 3 年度：159, 293 千円 令和 4 年度：10, 811 千円 （令和 5 年度以降 177, 946 千円）															

3-2. 事業の実施状況（介護分） ※継続事業分

平成27年度広島県計画に規定した事業（介護分）について、令和4年度終了時における事業の実施状況を記載。

事業の区分	3. 介護施設等の整備に関する事業																																														
事業名	【No.1（介護分）】 介護施設等整備事業	【総事業費】 161,458 千円																																													
事業の対象となる区域	県内全域																																														
事業の実施主体	市町																																														
事業の期間	平成 27 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了																																														
背景にある医療・介護ニーズ	<p>介護施設等の整備を支援することで、高齢者ができる限り住み慣れた地域で安心して生活できる基盤づくりを推進する。</p> <p>アウトカム指標： 地域密着型サービス等の利用者数，利用回数，定員数</p> <table> <tr> <th></th><th>R 元年度 実績</th><th>R 7 年度 利用見込数</th></tr> <tr> <td>定期巡回・随時対応型訪問介護看護（人）</td><td>704</td><td>1,197</td></tr> <tr> <td>夜間対応型訪問介護（人）</td><td>113</td><td>101</td></tr> <tr> <td>地域密着型通所介護（回）</td><td>792,027</td><td>897,338</td></tr> <tr> <td>認知症対応型通所介護（回）</td><td>116,049</td><td>127,181</td></tr> <tr> <td>小規模多機能型居宅介護（人）</td><td>3,837</td><td>4,421</td></tr> <tr> <td>認知症対応型共同生活介護（人）</td><td>5,663</td><td>6,606</td></tr> <tr> <td>地域密着型特定施設入居者生活介護（人）</td><td>28</td><td>29</td></tr> <tr> <td>地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（人）</td><td>1,630</td><td>1,877</td></tr> <tr> <td>看護小規模多機能型居宅介護（人）</td><td>429</td><td>764</td></tr> <tr> <th></th><th>R 2 年度 定員数</th><th>R 5 年度 必要定員数</th></tr> <tr> <td>介護老人福祉施設（広域型）（人）</td><td>11,689</td><td>12,553</td></tr> <tr> <td>介護老人保健施設（人）</td><td>8,928</td><td>8,710</td></tr> <tr> <td>介護療養型医療施設（人）</td><td>1,031</td><td>54</td></tr> <tr> <td>介護医療院（人）</td><td>1,621</td><td>2,778</td></tr> </table>			R 元年度 実績	R 7 年度 利用見込数	定期巡回・随時対応型訪問介護看護（人）	704	1,197	夜間対応型訪問介護（人）	113	101	地域密着型通所介護（回）	792,027	897,338	認知症対応型通所介護（回）	116,049	127,181	小規模多機能型居宅介護（人）	3,837	4,421	認知症対応型共同生活介護（人）	5,663	6,606	地域密着型特定施設入居者生活介護（人）	28	29	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（人）	1,630	1,877	看護小規模多機能型居宅介護（人）	429	764		R 2 年度 定員数	R 5 年度 必要定員数	介護老人福祉施設（広域型）（人）	11,689	12,553	介護老人保健施設（人）	8,928	8,710	介護療養型医療施設（人）	1,031	54	介護医療院（人）	1,621	2,778
	R 元年度 実績	R 7 年度 利用見込数																																													
定期巡回・随時対応型訪問介護看護（人）	704	1,197																																													
夜間対応型訪問介護（人）	113	101																																													
地域密着型通所介護（回）	792,027	897,338																																													
認知症対応型通所介護（回）	116,049	127,181																																													
小規模多機能型居宅介護（人）	3,837	4,421																																													
認知症対応型共同生活介護（人）	5,663	6,606																																													
地域密着型特定施設入居者生活介護（人）	28	29																																													
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（人）	1,630	1,877																																													
看護小規模多機能型居宅介護（人）	429	764																																													
	R 2 年度 定員数	R 5 年度 必要定員数																																													
介護老人福祉施設（広域型）（人）	11,689	12,553																																													
介護老人保健施設（人）	8,928	8,710																																													
介護療養型医療施設（人）	1,031	54																																													
介護医療院（人）	1,621	2,778																																													

事業の内容（当初計画）	<p>令和３年度においては、第８期介護保険支援計画等に位置付けている地域密着型サービス施設等の整備を行う。</p> <p>また、介護施設等における新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点から、感染拡大防止対策支援事業を行う。併せて高齢障害者や施設従事者向けへの広報・啓発を行う。</p>																																																	
アウトプット指標（当初の目標値）	<ul style="list-style-type: none"> ・対象介護施設等の新設，増床 ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策のための簡易陰圧装置設置，ゾーニング，個室化 ・介護職員の宿舎施設整備 																																																	
アウトプット指標（達成値）	<p>【令和４年度分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○施設開設準備経費等支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボット・ＩＣＴの導入支援事業　８か所 ○既存の特別養護老人ホーム等のユニット化改修支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・看取り環境整備推進事業　１か所 ・共生型サービス事業所の整備　１か所 ○新型コロナウイルス感染拡大防止対策支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・簡易陰圧装置設置経費　２０か所 ・ゾーニング環境整備　７か所 ・多床室の個室化改修　１か所 																																																	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後１年以内のアウトカム指標：</p> <p>地域密着型サービス利用数，施設サービス定員数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察できなかった ・<u>観察できた</u> → 指標： <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>R元年度 利用実績</th><th>R４年度 利用数＊</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期巡回・随時対応型訪問介護看護（人）</td><td>704</td><td>1,805</td></tr> <tr> <td>夜間対応型訪問介護（人）</td><td>113</td><td>228</td></tr> <tr> <td>地域密着型通所介護（回）</td><td>792,027</td><td>—</td></tr> <tr> <td>認知症対応型通所介護（回）</td><td>116,049</td><td>—</td></tr> <tr> <td>小規模多機能型居宅介護（人）</td><td>3,837</td><td>5,615</td></tr> <tr> <td>認知症対応型共同生活介護（人）</td><td>5,663</td><td>7,572</td></tr> <tr> <td>地域密着型特定施設入居者生活介護（人）</td><td>28</td><td>34</td></tr> <tr> <td>地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（人）</td><td>1,630</td><td>2,159</td></tr> <tr> <td>R4.4月 定員数（人）</td><td>—</td><td>1,682</td></tr> <tr> <td>看護小規模多機能型居宅介護（人）</td><td>429</td><td>1,012</td></tr> <tr> <th></th><th>R2年度 定員数</th><th>R5年4月 定員数</th></tr> <tr> <td>介護老人福祉施設（広域型）（人）</td><td>11,689</td><td>12,214</td></tr> <tr> <td>介護老人保健施設（人）</td><td>8,928</td><td>8,642</td></tr> <tr> <td>介護療養型医療施設（人）</td><td>1,031</td><td>439</td></tr> <tr> <td>介護医療院（人）</td><td>1,621</td><td>2,269</td></tr> </tbody> </table>			R元年度 利用実績	R４年度 利用数＊	定期巡回・随時対応型訪問介護看護（人）	704	1,805	夜間対応型訪問介護（人）	113	228	地域密着型通所介護（回）	792,027	—	認知症対応型通所介護（回）	116,049	—	小規模多機能型居宅介護（人）	3,837	5,615	認知症対応型共同生活介護（人）	5,663	7,572	地域密着型特定施設入居者生活介護（人）	28	34	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（人）	1,630	2,159	R4.4月 定員数（人）	—	1,682	看護小規模多機能型居宅介護（人）	429	1,012		R2年度 定員数	R5年4月 定員数	介護老人福祉施設（広域型）（人）	11,689	12,214	介護老人保健施設（人）	8,928	8,642	介護療養型医療施設（人）	1,031	439	介護医療院（人）	1,621	2,269
	R元年度 利用実績	R４年度 利用数＊																																																
定期巡回・随時対応型訪問介護看護（人）	704	1,805																																																
夜間対応型訪問介護（人）	113	228																																																
地域密着型通所介護（回）	792,027	—																																																
認知症対応型通所介護（回）	116,049	—																																																
小規模多機能型居宅介護（人）	3,837	5,615																																																
認知症対応型共同生活介護（人）	5,663	7,572																																																
地域密着型特定施設入居者生活介護（人）	28	34																																																
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（人）	1,630	2,159																																																
R4.4月 定員数（人）	—	1,682																																																
看護小規模多機能型居宅介護（人）	429	1,012																																																
	R2年度 定員数	R5年4月 定員数																																																
介護老人福祉施設（広域型）（人）	11,689	12,214																																																
介護老人保健施設（人）	8,928	8,642																																																
介護療養型医療施設（人）	1,031	439																																																
介護医療院（人）	1,621	2,269																																																

	<p>(1) 事業の有効性 地域密着型サービス（認知症 GH, 看護小規模多機能）については、市町の事業者公募が不調に終わり、令和 3 年度中の事業実施が困難になるなど整備が進まないサービスがあったが、施設サービスについては計画に沿った整備が進んだ。</p> <p>(2) 事業の効率性 市町の第 8 期介護保険事業計画に沿った計画的な整備を推進することができる。</p>
その他	<p>平成 27 年度 21,381 千円 令和 2 年度 85,664 千円 令和 3 年度 40,312 千円 令和 4 年度 14,101 千円</p>

平成 27 年度補正分（介護分）

事業の区分	3. 介護施設等の整備に関する事業	
事業名	【NO.補3-19, 20, 21, 22 (介護分)】 介護施設等整備事業	【総事業費】 4,313,136 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	民間事業者	
事業の期間	平成28年7月1日～令和5年3月31日 ☑継続 / ☐終了 ※計画変更協議予定	
背景にある医療・介護ニーズ	介護を理由とする離職者が近年毎年約10万人発生しており、受入場所が見つからずに離職する者をゼロにするとともに、自宅で特別養護老人ホームへの入所を待機している高齢者を解消する必要がある。	
	アウトカム指標： ・地域密着型サービス整備量 H32：30,309人 ・施設サービス整備量 H32：24,395人	
事業の内容（当初計画）	①地域密着型サービス等整備助成	
	地域密着型特別養護老人ホーム	412 床
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所	16 カ所
	小規模多機能型居宅介護事業所	18 カ所
	認知症高齢者グループホーム	11 カ所
	看護小規模多機能型居宅介護事業所	9 カ所
	施設内保育施設	2 カ所
	②介護施設等の開設準備経費等支援	
	特別養護老人ホーム	528 床
	地域密着型特別養護老人ホーム	412 床
	介護老人保健施設	19 床
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所	16 カ所
	小規模多機能型居宅介護事業所	162 床
	認知症高齢者グループホーム	137 床
	看護小規模多機能型居宅介護事業所	81 床
	施設内保育施設	2 カ所
	③定期借地権利用による整備支援	
	特別養護老人ホーム	1 カ所
	地域密着型特別養護老人ホーム	2 カ所
	小規模多機能型居宅介護事業所	3 カ所
	認知症高齢者グループホーム	1 カ所
	施設内保育施設	1 カ所
	④介護施設等の合築・併設支援	
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所	15 カ所
アウトプット指標（当初の目標値）	<ul style="list-style-type: none"> ・対象介護施設等の新設，増床 ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策のための簡易陰圧装置設置，ゾーニング，個室化 ・介護職員の宿舎施設整備 	

アウトプット指標（達成値）	【令和４年度分】 ○施設開設準備経費等支援事業 ・介護ロボット・ＩＣＴの導入支援事業 ８か所 ○既存の特別養護老人ホーム等のユニット化改修支援事業 ・看取り環境整備推進事業 １か所 ・共生型サービス事業所の整備 １か所 ○新型コロナウイルス感染拡大防止対策支援事業 ・簡易陰圧装置設置経費 20 か所 ・ゾーニング環境整備 7 か所 ・多床室の個室化改修 1 か所		
事業の有効性・効率性	事業終了後１年以内のアウトカム指標： ・観察できなかった ・観察できた → 指標：		
		R元年度 利用実績	R４年度 利用数＊
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護（人）	704	1,805
	夜間対応型訪問介護（人）	113	228
	地域密着型通所介護（回）	792,027	—
	認知症対応型通所介護（回）	116,049	—
	小規模多機能型居宅介護（人）	3,837	5,615
	認知症対応型共同生活介護（人）	5,663	7,572
	地域密着型特定施設入居者生活介護（人）	28	34
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（人）	1,630	2,159
	R4.4月 定員数（人）	—	1,682
	看護小規模多機能型居宅介護（人）	429	1,012
		R2年度 定員数	R5年4月 定員数
	介護老人福祉施設（広域型）（人）	11,689	12,214
	介護老人保健施設（人）	8,928	8,642
	介護療養型医療施設（人）	1,031	439
	介護医療院（人）	1,621	2,269
	（１）事業の有効性 地域密着型サービス（認知症 GH，看護小規模多機能）については、市町の事業者公募が不調に終わり、令和３年度中の事業実施が困難になるなど整備が進まないサービスがあったが、施設サービスについては計画に沿った整備が進んだ。		
	（２）事業の効率性 市町の第８期介護保険事業計画に沿った計画的な整備を推進することができる。		
その他	平成29年度：153,381千円 令和３年度：392,130千円 令和４年度：814,432千円		

平成27年度補正分（介護分）

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材のすそ野の拡大 (小項目) 地域住民や学校の生徒に対する介護や介護の仕事に対する理解促進	
事業名	【NO.補5-1, 21 (介護分)】 福祉・介護職場の環境改善・理解促進支援事業	【総事業費】 134,286 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	【広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会】 ・社会福祉法人広島県社会福祉協議会 ・公益社団法人広島県介護福祉士会 ・広島市 ・公益社団法人広島市老人福祉施設連盟 ・一般社団法人日本福祉用具供給協会中国支部広島県ブロック	
事業の期間	平成28年7月26日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了 ※計画変更協議予定	
背景にある医療・介護ニーズ	・施設・事業所自らが資質の向上によりレベルアップを図るとともに、優良事業所として「見える化」する必要がある。 ・小中高大学生及び一般の方々に福祉・介護職の魅力ややりがいを通じてイメージアップを図る必要がある。	
	アウトカム指標： 福祉・介護職場の人材確保・育成・定着	
事業の内容（当初計画）	○介護ロボット導入支援事業 県内20カ所において、介護ロボット（体験・研修会）を開催するとともに、県内2カ所において介護ロボットを一堂に集め展示会を開催し、導入啓発を図る。 ※ 令和4年度に執行した平成27年度造成基金分については、複数ある本事業項目のうち、特に「介護ロボット導入支援事業」に充当し事業を実施したため、本事業に係る指標の検証を実施	
アウトプット指標（当初の目標値）	【平成29年度以降】 ○介護ロボット導入支援事業 ・導入啓発及び展示会（2回開催，200人） ※ 令和4年度に執行した平成27年度造成基金分については、複数ある本事業項目のうち、特に「介護ロボット導入支援事業」に充当し事業を実施したため、本事業に係る指標の検証を実施	
アウトプット指標（達成値）	○介護ロボット導入支援事業 研修・展示体験会 開催2箇所（西部・東部）	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標： 福祉・介護職場の人材確保・育成・定着 ・ <u>観察できなかった</u> ・観察できた → 指標： 研修・展示体験会 参加者数等： 西部 31事業所 44人、東部 12事業所 13人	

	計 43 事業所 57 人
	<p>(1) 事業の有効性 就業環境を改善し、施設・事業所の「見える化」やマネジメント手法など人材の確保・育成・定着を図ることができた。</p> <p>(2) 事業の効率性 施設・事業所の課題の抽出・改善を行い、働きやすい環境を整備することで、優良事業所として宣言し、新人職員のマネジメントの向上を行うなど、トータル的に事業を実施することで効率よく人材の確保・育成・定着に結びつけることができた。</p>
その他	平成 28 年度：25,316 千円 平成 29 年度：26,326 千円 平成 30 年度：1,256 千円 令和 1 年度：27,363 千円 令和 2 年度：20,121 千円 令和 4 年度：33,904 千円

平成 26 年度広島県計画に関する 事後評価

**令和 5 年 1 2 月
広島県**

1. 事後評価のプロセス

(1) 「事後評価の方法」の実行の有無

事後評価の実施にあたって、都道府県計画に記載した「事後評価の方法」に記載した事項について、記載どおりの手続きを行ったかどうかを記載。

☒ 行った

(実施状況)

- ・平成 27 年 7 月 30 日 新たな財政支援制度検討委員会委員から意見聴取
- ・平成 28 年 9 月 8 日 新たな財政支援制度検討委員会委員から意見聴取
- ・平成 29 年 9 月 22 日 新たな財政支援制度検討委員会委員から意見聴取
- ・令和 2 年 1 月 24 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和 2 年 10 月 29 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和 3 年 11 月 30 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和 4 年 10 月 20 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和 4 年 11 月 30 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取
- ・令和 5 年 12 月 28 日 広島県医療介護総合確保推進委員会委員から意見聴取中

☐ 行わなかった

(行わなかった場合、その理由)

(2) 審議会等で指摘された主な内容

審議会等で指摘された主な内容

- ・地域医療情報ネットワーク（HMネット）の整備と、そのために必要な医療機関の電子カルテ化は、地域医療構想に沿って進めることとなる病床の機能分化・連携に不可欠な取組である。したがって、今後も円滑に取組を進めるため、平成 27 年度以降の配分に当たって十分に配慮するよう、国へ強く要望する必要がある。
- ・県内各地で実施中の、地域包括ケア体制を構築するための多職種連携等を柱とした事業については、今後とも一貫した取組が不可欠であり、引き続き事業を継続する必要がある。

(平成 27 年 7 月 30 日 新たな財政支援制度検討委員会意見)

2. 目標の達成状況

平成26年度広島県計画に規定する目標を再掲し、令和4年度終了時における目標の達成状況について記載。

■広島県全体

① 広島県の医療と介護の総合的な確保に関する目標

広島県においては、地域におけるICTの活用や地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくり、医師の地域偏在、看護職員の不足など、以下に記載する医療介護総合確保区域の課題を解決し、高齢者が地域において、安心して生活できるようにすることを目標とする。

- ・ 地域医療情報ネットワークがある医療介護総合区域 7区域（全区域）
- ・ 地域包括ケア実施市町数 23市町（全市町）
- ・ 人口10万人対医師数 245.5人（平成24年度）より増

□広島県全体（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

- ・ 地域医療情報ネットワークがある医療介護総合区域を7区域（全区域）確保
- ・ 地域包括ケア実施市町数 23市町（125日常生活圏域／125日常生活圏域）
- ・ 人口10万人対医師数 267.1人（令和2年度）

※ R4医師数についてR5年12月現在国未公表のため検証不可
R5年度中に公表予定

2) 見解

地域包括ケア体制を構築するための多職種連携等を柱とした事業などに取り組んだことにより、地域包括ケアシステムを構築するための仕組みづくりが相当程度進んだものと考える。

3) 目標の継続状況

- ☒ 令和4年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。
☐ 令和4年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■広島

① 広島区域の医療と介護の総合的な確保に関する目標

広島区域では、在宅療養支援診療所・在宅療養支援病院が中心的な役割を担い、病院、歯科診療所、かかりつけ薬局、訪問看護サービスなどの多職種と連携して、24時間往診や訪問看護を提供できる体制の支援やかかりつけ医等の在宅医療の提供者に対する支援体制の構築に努める必要や、医療内容の高度化、専門化、保険制度の改正等により活動分野が増大し、看護師の安定的な確保が困難という課題が存在している。この課題を解決するため、上記の記載事項の実現に向けて精力的に取り組むとともに、以下を目標とする。

- ・ 高齢者ができる限り住み慣れた家庭や地域で療養しながら生活を送れるよう、また、身近な人に囲まれて在宅での最期をむかえることも選択できるよう、支援し

ていく体制が整備されています。

- ・ 未就業医療従事者等の就労促進と、そのためのプログラムの充実を図ります。

② 計画期間

平成 26 年度～令和 4 年度

□広島（達成状況）

【継続中】

● 1 ポツについて

1) 目標の達成状況

高齢者ができる限り住み慣れた家庭や地域で療養しながら生活を送ることができ、身近な人に囲まれて在宅での最期をむかえることも選択できるよう支援していく体制の整備が一定程度進んだ。

2) 見解

在宅医療の充実に向けた関係職種による会議、研修会等を開催したことなどにより、高齢者ができる限り住み慣れた家庭や地域で療養しながら生活を送れるよう、また、身近な人に囲まれて在宅での最期をむかえることも選択できる体制の整備が一定程度進んだものとする。

● 2 ポツについて

1) 目標の達成状況

未就業医療従事者等の就労促進と、そのためのプログラムの充実が一定程度進んだ。

2) 見解

地域医療支援センターを核とした取組を展開したことなどにより、未就業医療従事者等の就労促進と、そのためのプログラムの充実が一定程度進んだものとする。

■広島西（目標と計画期間）

① 広島西区域の医療と介護の総合的な確保に関する目標

広島西区域では、在宅療養患者のQOL（生活の質）を維持していくために、医療と介護の連携が不可欠であり、医師や看護師、歯科医師、薬剤師、理学療法士、さらには介護支援専門員等の多職種の連携をコーディネートする機能を充実させるという課題が存在している。この課題を解決するため、上記の記載事項の実現に向けて精力的に取り組むとともに、以下を目標とする。

- ・ 地域ごとの医療・介護等資源を把握・分析し、在宅医療の推進に向けた連携体制の構築に活かします。

② 計画期間

平成 26 年度～令和 4 年度

□広島西（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

地域ごとの医療・介護等資源を把握・分析する事業（No.25：多職種連携組織である五師士会の充実）を実施する計画としていたが、事業実施主体である廿日市市の単独事業として実施することとなった。

2) 見解

基金事業としての実施は見送ったが、廿日市市の単独事業として、地域ごとの医療・介護等資源を把握・分析し、在宅医療の推進に向けた連携体制の構築に取り組んだ。

■呉（目標と計画期間）

① 呉区域の医療と介護の総合的な確保に関する目標

呉区域では、看護師等養成施設の卒業生の地元定着率が低いことなどから、病院等では看護師等の医療従事者の確保に苦慮している状態も見受けられるという課題が存在している。この課題を解決するため、上記の記載事項の実現に向けて精力的に取り組むとともに、以下を目標とする。

- ・ 女性勤務医及び看護師等の勤務条件の改善等働きやすい環境づくりによる離職防止に努めます。

② 計画期間

平成 26 年度～令和 4 年度

□呉（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

女性勤務医及び看護師等の勤務条件の改善等働きやすい環境づくりによる離職防止に努めた。

2) 見解

院内保育所の運営に対する支援を行ったことなどにより、女性勤務医及び看護師等の勤務条件の改善等働きやすい環境づくりによる離職防止が一定程度図られたものとする。

■広島中央（目標と計画期間）

① 広島中央区域の医療と介護の総合的な確保に関する目標

広島中央区域では、医療を必要とする高齢者の大幅な増加が見込まれる中、急性期治療後、在宅で必要な医療が受けられるよう、医療・介護を担う人材の育成や、在宅医療連携の仕組みづくりの整備が必要であるという課題が存在している。この課題を解決するため、上記の記載事項の実現に向けて精力的に取り組むとともに、以下を目標とする。

- ・ 多職種の専門家がお互いに連携することにより、患者の「生活の質」を確保し、家族の負担を軽減できる環境と機会を提供します。

② 計画期間

平成 26 年度～令和 4 年度

□広島中央（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

多職種 of 専門家がお互いに連携することにより、患者の「生活の質」を確保し、家族の負担を軽減できる環境整備と機会の提供が一定程度進んだ。

2) 見解

多職種連携のための研修会等を開催したことなどにより、専門家同士の連携が図られ、患者の「生活の質」を確保し、家族の負担を軽減できる環境整備と機会の提供が一定程度進んだものとする。

■尾三（目標と計画期間）

① 尾三区域の医療と介護の総合的な確保に関する目標

尾三区域では、在宅療養支援診療所 64 か所（三原市 9 か所、尾道市 52 か所、世羅町 3 か所）、在宅療養支援病院 1 か所（三原市）、在宅療養支援歯科診療所 18 か所（三原市 4 か所、尾道市 14 か所）で、必要に応じて他の病院、診療所、薬局、訪問看護ステーション等と連携を図り、24 時間の往診、訪問看護等を提供していく必要があるという課題が存在している。この課題を解決するため、上記の記載事項の実現に向けて精力的に取り組むとともに、以下を目標とする。

- ・ できるだけ住み慣れた地域で自立した生活が送れるよう、在宅療養支援診療所、在宅療養支援歯科診療所、訪問看護等介護保険サービス事業者等の連携体制の充実を図ります。

② 計画期間

平成 26 年度～令和 4 年度

□尾三（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

できるだけ住み慣れた地域で自立した生活が送れるよう、在宅療養支援診療所、在宅療養支援歯科診療所、訪問看護等介護保険サービス事業者等の連携体制の充実が一定程度進んだ。

2) 見解

地域拠点病院の ICT 化を行ったことで、診療所において CT・MRI の画像情報が閲覧可能となったことなどにより、医療連携が促進されたものとする。

■福山・府中（目標と計画期間）

① 福山・府中区域の医療と介護の総合的な確保に関する目標

福山・府中区域では、診療所の訪問診療及び往診について、人口 10 万人当たりの実施件数が、全国及び広島県平均と大きく隔たりがあるという課題が存在している。この課題を解決するため、上記の記載事項の実現に向けて精力的に取り組むとともに、

以下を目標とする。

- ・ 在宅医療に係る関係機関の相互連携により、在宅療養者のニーズに対応した医療や介護が包括的に提供される体制が、各市町（日常生活圏域）において確保されています。

② 計画期間

平成 26 年度～令和 4 年度

□福山・府中（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

在宅医療に係る関係機関の相互連携により、在宅療養者のニーズに対応した医療や介護が包括的に提供される体制が、各市町（日常生活圏域）において一定程度確保された。

2) 見解

多職種連携協議会の開催や、准看護師の資格を有する介護士の確保などにより、在宅療養者のニーズに対応した医療や介護が包括的に提供される体制が、各市町（日常生活圏域）において一定程度確保されたものとする。

■備北（目標と計画期間）

① 備北区域の医療と介護の総合的な確保に関する目標

備北区域では、小児科や産科・婦人科など特定の診療科を専門とする医師が少なく、かつ市街地に集中しており、へき地医療等を担っている医師・歯科医師の高齢化、後継者不足による無医・無歯科地区の拡大が懸念されるという課題が存在している。この課題を解決するため、上記の記載事項の実現に向けて精力的に取り組むとともに、以下を目標とする。

- ・ 各医療機関などが主体的に、医師会、歯科医師会及び公的病院等関係機関の協力を得て医療従事者の確保に努める

② 計画期間

平成 26 年度～令和 4 年度

□備北（達成状況）

【継続中】

1) 目標の達成状況

医師を育てるための卒前卒後に渡る継続教育と、医師が安心して地域医療に専念できる体制整備（No.44：包括的過疎地域医師育成・活躍支援システム整備事業）を平成 27 年度に実施した。

2) 見解

中核的へき地医療拠点病院を中心とした広域的ネットワークが形成されたことにより、効果的な事業実施がなされるとともに、次年度以降の取組へつながる体制が構築された。

3-1. 事業の実施状況（医療分） ※継続事業分

平成26年度広島県計画に規定した事業（医療分）について、令和4年度終了時における事業の実施状況を記載。

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設及び設備の整備に関する事業	
事業名	ひろしま医療情報ネットワーク(HM ネット)増強	【総事業費 (計画期間の総額)】 357,039 千円
事業の対象となる区域	全区域	
事業の実施主体	広島県医師会	
事業の期間	平成26年4月1日～令和5年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	地域医療構想に基づいた病床機能の分化・連携を進めるとともに、在宅医療への移行を円滑に進める必要がある。	
	アウトカム指標： R3年度：開示病院 40 機関 ⇒ R4年度：開示病院 52 機関	
事業の内容（当初計画）	HMネット参加医療機関の初期整備費用等を補助する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	HMネット参加医療機関数 〔令和4年度〕開示病院 52 機関	
アウトプット指標（達成値）	HMネット参加医療機関数 〔令和4年度〕開示病院 41 機関	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標： ICTを活用した医療情報ネットワークの構築 （開示病院・参照医療機関数） 観察できなかった 観察できた <ul style="list-style-type: none"> ・情報開示施設：40 施設(R3)→ 41 施設(R4) : 1 施設増 ・情報閲覧施設：755 施設(R3)→ 738 施設(R4) : 17 施設減 	
	(1) 事業の有効性 HMネットに参加する際に必要な初期整備と、県医師会の専任スタッフによる初期設定サポートにより、医療機関がシステムを導入しやすい環境を整備し、ICTを活用した医療情報連携ネットワークの構築に効果を上げている。また、電子お薬手帳の機能追加により、薬局を含めた連携が進んでいる。 (2) 事業の効率性 運営主体の県医師会と県とが協働してネットワーク構築に取り組み、単純な数の増加だけでなく、地域の面的な連携や自治体の医療介護連携等への活用など、地域モデルの構築とその横展開を進め、効率的な周知・啓発を図っている。	

その他	平成 26 年度	172,498 千円
	平成 27 年度	182,470 千円
	平成 28 年度	0 千円
	平成 29 年度	0 千円
	平成 30 年度	0 千円
	令和元年度	0 千円
	令和 2 年度	0 千円
	令和 3 年度	0 千円
	令和 4 年度	2,071 千円